

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第35集

諏訪木遺跡Ⅳ

2020

埼玉県熊谷市教育委員会

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書 第35集

す わ の き い せ き

諏訪木遺跡Ⅳ

2020

埼玉県熊谷市教育委員会



第4・5号住居跡 全景（上が北）



第64・67号溝跡（南から）



第5号方形周溝墓 遺物検出状況



第42号溝跡 遺物検出状況



第4号方形周溝墓 出土遺物



第5号方形周溝墓 出土遺物



第14号溝跡 出土遺物（土鍋、古河公方系土師質土器（かわらけ））



第2号井戸跡 出土遺物

序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と地形が変化に富んでいる上、我が国及び関東を代表する2大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、市内には地下に埋蔵されている多くの遺跡が所在します。そして、これらの遺跡内では各種開発が行われ、遺跡を保護保存できない場合が多数あります。その場合には、発掘調査という記録保存を行い、後世に伝えるべく方策を採っています。

本書は、平成28・29年度に実施された市内幹線道路整備工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

熊谷市教育委員会
教育長 野原 晃

例 言

- 1 本書は、市内遺跡「諏訪木遺跡」の発掘調査報告書である
諏訪木遺跡 埼玉県熊谷市上之2954番4（埼玉県遺跡番号59-016）
- 2 本調査は、既存幹線道路の改良及び新設道路工事に伴う事前の記録保存目的の発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、発掘調査の概要のとおりである。
- 4 発掘調査は、平成28・29年度の2か年実施し、平成28年度が平成28年4月11日～6月30日（1次）、11月20日～平成29年3月17日（2次）、平成29年度が平成29年7月3日～9月15日（3次）、9月20日～11月17日（4次）、11月27日～平成30年3月16日（5次）である。
整理・報告書作成期間は平成30・令和元年度の2か年実施し、平成30年度が平成30年4月2日～平成31年3月27日、令和元年度が平成31年4月1日～令和2年3月13日である。
- 5 発掘調査の担当は、各年度とも腰塚 博隆が担当した。また、整理・報告書作成事業は、図面、遺物実測を島村 範久、武部 喜充が担当し、腰塚がそれらをまとめた。
- 6 本書の執筆は、腰塚が担当した。
- 7 写真撮影は、発掘調査を腰塚が、遺物を、島村が行った。
- 8 基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
- 9 出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。

（敬称略）



上武大学 清水 康守、埼玉県教育局生涯学習文化財課（現、文化資源課）、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、国土交通省国土地理院、川越市教育委員会、行田市教育委員会

凡例

- 本文中、遺構の略記号は、次のとおりである。
SD…溝跡 SI…住居跡 SB…掘立柱建物跡 SK…土坑 SZ…方形周溝墓
NR…河川跡 SE…井戸跡 SX…性格不明遺構 P…ピット
- 土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。
S…川原石 P…土器 W…木材 B…竹
- 遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
平面図…1/60
- 遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。
- 遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。
- 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
縄文土器・土師器・須恵器・須恵系土師質土器・ロクロ土師器・灰釉陶器・陶磁器・石器…1/4
瓦…1/4・1/5 縄文土器（破片・底部）…1/3 土製品・鉄製品…1/2
- 遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、表現方法は、以下のとおりである。
須恵器のうち還元焼成の断面：黒塗り、酸化焼成の断面：白抜き、灰釉陶器の断面：網線

上記以外の土師器等土器・土製品・鉄製品・石器断面：白抜き 墨書：黒塗り

スス（煤）、墨痕、内面黒色処理： 赤彩、古代陶器断面： 施釉、漆：

底部調整 回転ヘラ削り  回転糸切り 

石器の磨面範囲  敲打範囲 

- 遺物拓影は、原則として、左右あるものは向かって左に外面、右に内面、左のみのものは外面を示した。
- 遺物観察表の凡例は、次のとおりである。
法量の単位は、cm、gである。また、推定値は括弧付けで示した。
胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号土錘で示した。
A…白色粒子 B…黒色粒子 C…赤色粒子 D…褐色粒子 E…赤褐色粒子 F…白色針状物質
G…長石 H…石英 I…白雲母 J…黒雲母 K…角閃石 L…片岩 M…砂粒 N…礫
焼成は、次のように区分した。
A…良好 B…普通 C…不良
- 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。
- 土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行）に照らし最も近似した色相を示した。

目 次

口絵

序

例 言

凡 例

目 次

I 発掘調査の概要	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 発掘調査、整理・報告書作成の経過	1
(3) 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	2
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺跡の概要	11
(1) 諏訪木遺跡について	11
(2) 調査の方法	11
(3) 検出された遺構と遺物	11

IV 遺構と遺物	24
1 住居跡	24
2 掘立柱建物跡	39
3 方形周溝墓	41
4 河川跡	71
5 溝跡	86
6 土坑	165
7 井戸跡	174
8 ビット	181
9 性格不明遺構	197
10 遺構外出土遺物	200
V 調査のまとめ	209

挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形図	3
第2図 周辺遺跡分布図	4
第3図 諏訪木遺跡調査地点位置図	7
第4図 調査地区周辺発掘調査実績	8
第5図 調査区全測図	9
第6図 調査区配置図	12
第7図 全測図割図(1)	13
第8図 全測図割図(2)	14
第9図 全測図割図(3)	15
第10図 全測図割図(4)	16
第11図 全測図割図(5)	17
第12図 全測図割図(6)	18
第13図 全測図割図(7)	19
第14図 全測図割図(8)	20
第15図 全測図割図(9)	21
第16図 全測図割図(10)	22
第17図 全測図割図(11)	23
第18図 第1号住居跡出土遺物	24
第19図 第1号住居跡	24
第20図 第2号住居跡	25
第21図 第3号住居跡	26
第22図 第3号住居跡出土遺物(1)	27

第23図 第3号住居跡出土遺物(2)	28
第24図 第4・5号住居跡(1)	30
第25図 第4・5号住居跡(2)	31
第26図 第4号住居跡出土遺物	31
第27図 第5号住居跡出土遺物	31
第28図 第6号住居跡	32
第29図 第6号住居跡出土遺物	33
第30図 第7号住居跡	34
第31図 第7号住居跡出土遺物	35
第32図 第8号住居跡	35
第33図 第8号住居跡出土遺物	36
第34図 第9号住居跡	39
第35図 第9号住居跡出土遺物	39
第36図 第1号掘立柱建物跡	40
第37図 第2号掘立柱建物跡	40
第38図 掘立柱建物跡出土遺物	41
第39図 第1号方形周溝墓	42
第40図 第1号方形周溝墓出土遺物	43
第41図 第2号方形周溝墓	44
第42図 第2号方形周溝墓出土遺物	45
第43図 第3号方形周溝墓	46
第44図 第3号方形周溝墓出土遺物	47

第45 図 第4号方形周溝墓	48	第86 図 第20号溝跡	100
第46 図 第4号方形周溝墓出土遺物(1)	49	第87 図 第21・22号溝跡	102
第47 図 第4号方形周溝墓出土遺物(2)	50	第88 図 第23・24号溝跡	103
第48 図 第4号方形周溝墓出土遺物(3)	51	第89 図 第25～27号溝跡	105
第49 図 第4号方形周溝墓出土遺物(4)	52	第90 図 第28号溝跡	106
第50 図 第4号方形周溝墓出土遺物(5)	53	第91 図 第29号溝跡	107
第51 図 第4号方形周溝墓出土遺物(6)	54	第92 図 第30号溝跡	108
第52 図 第4号方形周溝墓出土遺物(7)	55	第93 図 第31号溝跡	109
第53 図 第5号方形周溝墓	62	第94 図 第32号溝跡	110
第54 図 第5号方形周溝墓出土遺物(1)	63	第95 図 第33～35号溝跡	111
第55 図 第5号方形周溝墓出土遺物(2)	64	第96 図 第36～38号溝跡	112
第56 図 第6号方形周溝墓	65	第97 図 第39～41号溝跡	114
第57 図 第6号方形周溝墓出土遺物	66	第98 図 第42・43号溝跡	116
第58 図 第7号方形周溝墓	67	第99 図 第44号溝跡	117
第59 図 第7号方形周溝墓出土遺物	68	第100 図 第45～47号溝跡	118
第60 図 第8号方形周溝墓	69	第101 図 第48号溝跡	119
第61 図 第8号方形周溝墓出土遺物	70	第102 図 第49号溝跡	120
第62 図 第1号河川跡	72	第103 図 第50・51号溝跡	121
第63 図 第2号河川跡	73	第104 図 第52～58号溝跡	123
第64 図 第2号河川跡出土遺物(1)	75	第105 図 第59・60号溝跡	125
第65 図 第2号河川跡出土遺物(2)	76	第106 図 第61号溝跡	126
第66 図 第2号河川跡出土遺物(3)	77	第107 図 第62・63号溝跡	127
第67 図 第2号河川跡出土遺物(4)	78	第108 図 第65・66号溝跡	128
第68 図 第2号河川跡出土遺物(5)	79	第109 図 第64・67号溝跡	129
第69 図 第3号河川跡出土遺物	85	第110 図 第68号溝跡	130
第70 図 第3号河川跡	85	第111 図 第69～71号溝跡	131
第71 図 第1号溝跡	86	第112 図 第72～75号溝跡	132
第72 図 第2号溝跡	86	第113 図 第7・12～17号溝跡出土遺物	133
第73 図 第3号溝跡	87	第114 図 第17～21号溝跡出土遺物	134
第74 図 第4号溝跡	88	第115 図 第22～24号溝跡出土遺物	135
第75 図 第5号溝跡	89	第116 図 第25～29号溝跡出土遺物	136
第76 図 第6～8号溝跡	90	第117 図 第29・30・32号溝跡出土遺物	137
第77 図 第9号溝跡	91	第118 図 第32・37号溝跡出土遺物	138
第78 図 第10号溝跡	92	第119 図 第43・44・49～51・57・60号溝跡出土遺物	139
第79 図 第11・12号溝跡	93	第120 図 第60～62・68号溝跡出土遺物	140
第80 図 第13号溝跡	94	第121 図 第42号溝跡出土遺物(1)	149
第81 図 第14号溝跡	95	第122 図 第42号溝跡出土遺物(2)	150
第82 図 第15号溝跡	96	第123 図 第42号溝跡出土遺物(3)	151
第83 図 第16号溝跡	97	第124 図 第42号溝跡出土遺物(4)	152
第84 図 第17号溝跡	98	第125 図 第42号溝跡出土遺物(5)	153
第85 図 第18・19号溝跡	99		

第126図	第42号溝跡出土遺物(6)	154
第127図	第42号溝跡かわらけ集中地点 出土遺物(1)	158
第128図	第42号溝跡かわらけ集中地点 出土遺物(2)	159
第129図	第42号溝跡かわらけ集中地点 出土遺物(3)	160
第130図	第42号溝跡かわらけ集中地点 出土遺物(4)	161
第131図	第1～9・13号土坑	167
第132図	第10～12・14～19号土坑	168
第133図	第20～29号土坑	169
第134図	第30～41号土坑	170
第135図	第42～46号土坑	171
第136図	土坑出土遺物(1)	172
第137図	土坑出土遺物(2)	173
第138図	第1～7号井戸跡	175
第139図	第8～13号井戸跡	176
第140図	井戸跡出土遺物(1)	179
第141図	井戸跡出土遺物(2)	180
第142図	第1～47号ピット	188

第143図	第48～91号ピット	189
第144図	第92～134号ピット	190
第145図	第135～211号ピット	191
第146図	第212～262号ピット	192
第147図	第263～299号ピット	193
第148図	第300～344号ピット	194
第149図	第345～395号ピット	195
第150図	第396～428号ピット	196
第151図	ピット出土遺物	196
第152図	第1号性格不明遺構	198
第153図	第2～5号性格不明遺構	199
第154図	性格不明遺構出土遺物	200
第155図	A区遺構外出土遺物	201
第156図	B区遺構外出土遺物(1)	202
第157図	B区遺構外出土遺物(2)	203
第158図	C区遺構外出土遺物	204
第159図	D区遺構外出土遺物	205
第160図	E・F区遺構外出土遺物	206
第161図	調査地周辺の住居跡及び方形周溝墓の分布	209
第162図	第42号溝跡出土土師質土器 (かわらけ)分類図	212

目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	第1号住居跡出土遺物観察表	24
第3表	第3号住居跡出土遺物観察表	28
第4表	第4・5号住居跡出土遺物観察表	31
第5表	第6号住居跡出土遺物観察表	33
第6表	第7号住居跡出土遺物観察表	34
第7表	第8号住居跡出土遺物観察表	37
第8表	第9号住居跡出土遺物観察表	39
第9表	掘立柱建物跡出土遺物	41
第10表	第1号方形周溝墓出土遺物観察表	43
第11表	第2号方形周溝墓出土遺物観察表	45
第12表	第3号方形周溝墓出土遺物観察表	47
第13表	第4号方形周溝墓出土遺物観察表	56
第14表	第5号方形周溝墓出土遺物観察表	64
第15表	第6号方形周溝墓出土遺物観察表	66
第16表	第7号方形周溝墓出土遺物観察表	66
第17表	第8号方形周溝墓出土遺物観察表	71
第18表	第2号河川跡出土遺物観察表	80

第19表	第3号河川跡出土遺物観察表	85
第20表	溝跡出土遺物観察表	141
第21表	第42号溝跡出土遺物観察表	154
第22表	第42号溝跡かわらけ集中地点 出土遺物観察表	161
第23表	土坑一覧表	166
第24表	土坑出土遺物観察表	171
第25表	井戸跡出土遺物観察表	181
第26表	ピット一覧表	182
第27表	ピット出土遺物観察表	197
第28表	性格不明遺構一覧表	197
第29表	性格不明遺構出土遺物観察表	198
第30表	A区遺構外出土遺物観察表	201
第31表	B区遺構外出土遺物観察表	203
第32表	C区遺構外出土遺物観察表	207
第33表	D区遺構外出土遺物観察表	207
第34表	E・F区遺構外出土遺物観察表	208
第35表	第42号溝跡出土土師質土器 (かわらけ)分類表	212

図 版 目 次

- 図版 1 A区 全景 (左が北西)
B C区 全景 (左が北西)
- 図版 2 D区 全景 (上が北西)
F区 全景 (上が北西)
- 図版 3 第1号住居跡 (南から)
第2号住居跡 (南から)
第3号住居跡 (上が北)
第4号住居跡 第5号住居跡 (上が北)
第4号住居跡 遺物検出状況
第6号住居跡 (上が北西)
第6号住居跡 遺物検出状況
第7号住居跡 (南から)
- 図版 4 第8号住居跡 (北から)
第9号住居跡 (北から)
第1号掘立柱建物跡
第2号掘立柱建物跡
第1号方形周溝墓南周溝東端出土遺物
(北西から)
第2号方形周溝墓 (上が北東)
第4号方形周溝墓 (上が東)
- 図版 5 第4号方形周溝墓 (西から)
第4号方形周溝墓 遺物検出状況
- 図版 6 第5号方形周溝墓 (左が北)
第5号方形周溝墓北西周溝北端出土遺物
(北から)
第6号方形周溝墓 (南から)
第7号方形周溝墓南周溝西端出土遺物
(西から)
第8号方形周溝墓 (上が北)
第8号方形周溝墓西周溝南端出土遺物
(東から)
第2号河川跡 土層断面
- 図版 7 第2号河川跡 土層断面
第2号河川跡 木杭・矢板検出状況
第2号河川跡 木杭・矢板検出状況
第3号河川跡 (東から)
第6号溝跡 (南から)
第9号溝跡 (南から)
第11・12号溝跡 (南から)
第13号溝跡 (北から)
- 第14号溝跡 (南から)
第15号溝跡 (南から)
第16号溝跡 (南から)
- 図版 8 第18・19号溝跡 (北から)
第21・22号溝跡 (東から)
第24号溝跡 (南から)
第29号溝跡 (東から)
第29号溝跡 遺物検出状況
第29号溝跡 遺物検出状況
第30号溝跡 (東から)
第32号溝跡 (北から)
- 図版 9 第40・41号溝跡 (南から)
第42号溝跡 (南から)
第42号溝跡 (西から)
第42号溝跡 遺物検出状況
第42号溝跡 遺物検出状況
- 図版 10 第49号溝跡 (南から)
第51号溝跡 (東から)
第58号溝跡 (西から)
第59号溝跡 (南から)
第60号溝跡 (東から)
第61号溝跡 (東から)
第62号溝跡 (東から)
第64号溝跡 (南から)
第67号溝跡 (南から)
第68号溝跡 (西から)
- 図版 11 第64・67号溝跡 (南から)
第1号井戸跡 (南から)
第3号井戸跡 (南から)
第4号井戸跡 (南東から)
第5号井戸跡 (南から)
第6号井戸跡 (南から)
第8号井戸跡 (南から)
第9号井戸跡 (西から)
第10号井戸跡 (南東から)
第11号井戸跡 (南から)
- 図版 12 第5号土坑 (西から)
第12号土坑 (南から)
第22号土坑 (南西から)
第23号土坑 (南から)

- 第35号土坑（上が北）
 第1号性格不明遺構（北から）
 第18図1・2
 第22図1
 第22図3
 第22図4
 図版13 第22図5
 第22図6・8～13・15～20
 第22図14
 第22図22～25・27
 第22図28
 第22図29
 第23図30・31
 第26図1
 第26図2
 第27図1～5・7
 第27図6
 図版14 第29図1
 第29図2
 第29図3
 第29図6
 第29図7
 第29図8
 第31図1・3
 第31図2
 第33図1
 第33図2
 第33図3～12・14～16
 第33図13
 図版15 第33図17～30
 第33図31～44
 第33図50
 第33図52
 第33図56・57
 第33図58
 第35図1
 第35図2
 第35図3
 第35図4
 第38図1-1・2-1～2-3
 図版16 第40図1
 第40図2
- 第42図1～4
 第42図8
 第42図9
 第44図1～3
 第46図2
 第46図4
 第46図8
 第46図10
 第46図13
 図版17 第46図15
 第46・47図17・27・28・43
 第47図97
 第47図105
 第47図106
 第48図109
 第48図112
 第48図114
 第48図115
 図版18 第48図123
 第48図124
 第49図126
 第49図127
 第49図128
 第49図129
 第49図130
 第49図131
 図版19 第50図133
 第50図134
 第50図135
 第51図158
 第51図193
 第52図197
 第52図206
 第52図211・213
 第52図212
 第52図214
 第52図215
 図版20 第54図1
 第54図2
 第54図3
 第55図4～8
 第55図9

第 55 図 10
第 55 図 11
第 55 図 13
第 55 図 14
第 57 図 1
図版21 第 59 図 1
第 59 図 2
第 61 図 1
第 61 図 2 下：底部穿孔
第 61 図 3
第 61 図 4
図版22 第 61 図 6
第 64 図 1
第 64 図 7
第 65 図 58
第 65 図 60
第 65 図 62
第 65 図 63
第 65 図 64
第 65 図 80
第 65 図 84
第 65 図 85
第 65 図 86
第 66 図 91
第 66 図 92
第 66 図 93
図版23 第 66 図 99
第 66 図 100(赤外線加工)
第 66 図 101
第 65 図 87(赤外線加工)
第 65 図 88(赤外線加工)
第 65 図 89(赤外線加工)
第 65 図 90(赤外線加工)
第 66 図 102(赤外線加工)
第 66 図 103(赤外線加工)
第 66 図 104(赤外線加工)
第 66 図 105
第 66 図 108
第 66 図 110
第 66 図 111
第 66 図 112
図版24 第 66 図 113・114

第 67 図 115
第 2 号河川跡 種子(桃)
第 68 図 125
第 68 図 126
第 68 図 127
第 68 図 128
第 69 図 1
第 69 図 3
第 69 図 4
第 69 図 5

図版25 第 113 図 14-3
第 113 図 14-4
第 113 図 14-5
第 113 図 14-6
第 113 図 14-7
第 113 図 14-8
第 113 図 14-9
第 113 図 14-12
第 113 図 15-1
第 113 図 15-3
第 113 図 17-7
第 113 図 17-8
第 113 図 17-4
第 113 図 17-9
第 113 図 17-12
第 113 図 17-14
第 114 図 17-15

図版26 第 114 図 18-16
第 114 図 19-1
第 114 図 19-14
第 114 図 21-6
第 115 図 24-20
第 115 図 24-21
第 115 図 24-22
第 115 図 24-23
第 115 図 24-24・25
第 115 図 24-26 凸臍部分
第 116 図 29-1 上部：初痕
第 116 図 29-2
第 116 図 29-3
第 116 図 29-4
第 116 図 29-5

- 第 116 図 29-6
 第 116 図 29-7
 第 116 図 29-8
 第 116 図 29-9
 第 116 図 29-10
 図版27 第 117 図 29-11
 第 117 図 29-13
 第 117 図 29-16
 第 117 図 29-23
 第 117 図 29-24
 第 117 図 32-5
 第 117 図 32-7
 第 117 図 32-8
 第 118 図 32-9
 第 118 図 32-10・12・13・14・15
 第 118 図 32-16
 第 118 図 32-17
 第 118 図 32-22 ~ 46
 第 118 図 32-48
 第 118 図 32-47
 第 32 号溝跡 種子
 第 33 号溝跡 種子
 第 118 図 37-1
 第 118 図 37-2
 第 118 図 37-3
 図版28 第 119 図 43-1・2・44-2・43-3
 第 119 図 44-3
 第 119 図 49-3
 第 119 図 49-7
 第 119 図 49-8
 第 119 図 60-1
 第 119 図 60-3・4
 第 60 号溝跡 種子 01
 第 60 号溝跡 種子 02
 第 120 図 60-8・12~15・19・22・23
 25~28・33・37・41・42・45~48
 第 119 図 60-5
 第 119 図 60-6・7
 第 120 図 61-5
 第 120 図 62-1
 第 120 図 68-1
 第 120 図 68-2
 第 120 図 68-3
 第 68 号溝跡 種子
 図版29 第 121 図 1
 第 121 図 4
 第 121 図 9
 第 121 図 11
 第 121 図 17
 第 121 図 22
 第 121 図 28
 第 121 図 30
 第 121 図 31
 第 121 図 33
 第 121 図 36
 第 121 図 37
 第 122 図 45
 第 122 図 49
 第 122 図 51
 第 122 図 57
 第 122 図 58
 第 122 図 59
 第 122 図 63
 第 122 図 64
 第 122 図 65・68
 第 122 図 69
 第 122 図 70
 図版30 第 122 図 71
 第 122 図 72
 第 122 図 73
 第 123 図 74
 第 123 図 77
 第 123 図 78
 第 123 図 81
 第 123 図 82
 図版31 第 123 図 83
 第 123 図 84
 第 123 図 85
 第 123 図 86
 第 123 図 87
 第 123 図 88
 第 124 図 89・90
 第 124 図 92・94
 図版32 第 124 図 95

第 124 图 96
第 124 图 97 · 99
第 124 图 98
第 124 图 100
第 124 图 101
第 124 图 102
第 124 图 103
第 124 图 105
第 124 图 108
图版33 第 125 图 110
第 125 图 112
第 125 图 115
第 125 图 118
第 125 图 119
第 125 图 121
第 126 图 122
第 126 图 123
第 127 图 6
第 127 图 7
第 127 图 8
第 127 图 9
第 127 图 21
第 127 图 30
图版34 第 127 图 39
第 128 图 41
第 128 图 44
第 128 图 47
第 128 图 53
第 128 图 59
第 128 图 64
第 128 图 67
第 128 图 78
第 129 图 81
第 129 图 83
第 129 图 84
第 129 图 85
第 129 图 87
第 129 图 88
第 129 图 89
第 129 图 91 · 92
第 129 图 96
第 130 图 102 · 105

图版35 第 130 图 103
第 130 图 108
第 136 图 5-1
第 136 图 12-1
第 136 图 12-2
第 136 图 12-3
第 136 图 12-4
第 136 图 12-6
第 136 图 16-2
第 136 图 16-3
图版36 第 137 图 16-4
第 137 图 16-5
第 137 图 16-6
第 137 图 20-1
第 137 图 20-3
第 137 图 22-1
第 137 图 24-1
第 137 图 24-2
第 137 图 28-1
第 137 图 35-3
第 137 图 35-4
第 137 图 35-5
图版37 第 140 图 2-2
第 140 图 3-1
第 140 图 3-3
第 140 图 4-1
第 140 图 5-1 · 2
第 140 图 5-3
第 140 图 8-1
第 140 图 9-2
第 140 图 11-1
第 140 图 11-4
第 140 图 11-5
第 140 图 12-1
第 141 图 12-2
图版38 第 141 图 12-3
第 151 图 118-1
第 151 图 135-1
第 151 图 214-1
第 151 图 302-3
第 154 图 1-1
第 154 图 1-3

- 第 154 图 1-5
第 154 图 1-6
图版39 第 154 图 2-2
第 155 图 2
第 155 图 10
第 155 图 11
第 155 图 15
第 155 图 18
第 155 图 19
第 155 图 20
第 156 图 4
第 156 图 18
第 157 图 30
第 157 图 31
第 157 图 33
第 157 图 34 右：茶筌痕
第 157 图 36
第 157 图 39
第 157 图 40
第 157 图 42
第 157 图 43
第 157 图 44
第 157 图 46
第 157 图 47
图版40 第 158 图 1
第 158 图 9
第 158 图 10 ~ 12
第 158 图 14
第 159 图 1
第 159 图 12
第 159 图 13
第 159 图 14
第 159 图 18
第 159 图 20
第 159 图 21
第 159 图 26
第 159 图 27
第 159 图 28
第 160 图 F-1
第 160 图 E-3

I 発掘調査の概要

(1) 調査に至る経過

平成28年4月7日付けで、熊谷市長から埼玉県教育委員会あてに、幹線道路整備に伴い、文化財保護法第94条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出があった。

これを受けて、熊谷市教育委員会は、当該地における過去の試掘結果の確認や、複数箇所の特レンチによる試掘調査を実施した。その結果、現地表面下40～60cmの深度から弥生時代や古墳時代の遺構と共に、古墳時代の土器などの埋蔵文化財の所在が確認された。

当該地に埋蔵文化財が存在する旨を市に回答するとともに、その保存に関する協議を重ねたが、工事は道路構造令に準拠した道路の整備であり、計画どおり整備をする方針となったため、記録保存のための発掘調査の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成28年度が、平成28年4月8日付け熊教社埋第135号で、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、平成28年4月11日から開始した。

平成29年度が、平成29年6月12日付け熊教社埋第76号で、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、平成29年7月3日から開始した。

なお、埼玉県教育委員会から熊谷市教育委員会あてに、平成28年6月24日付け教生文第4-34号で発掘調査実施の指示通知があった。

(2) 発掘調査、整理・報告書作成の経過

発掘調査は、平成28、29年度の2か年実施し、平成28年度が平成28年4月11日～6月30日（1次）、11月20日～平成29年3月17日（2次）、平成29年度が平成29年7月3日～9月15日（3次）、9月20日～11月17日（4次）、11月27日～平成30年3月16日（5次）にかけて行われた。調査面積は、平成28年度で2,756㎡、平成29年度2,627.42㎡であった。

まず、遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行った。表土を剥ぎ終わったのち、遺構確認作業を行った。その際、溝跡、土坑などが確認され、順次遺構の調査に着手した。

そして、平成30年3月16日、調査のすべてを終了した。

整理作業は、調査終了後、平成30年4月から始めた。まず、遺物の洗浄・注記・復元を行い、順次、遺物の実測、拓本採りを行った。平成31年4月からは遺構の図面整理作業を行い、遺構・遺物図面のトレース、遺構・遺物の図版組を行い、令和元年12月には、原稿執筆、割付等の作業をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、翌年3月下旬に本報告書を刊行した。

(3) 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

発掘調査は平成28、29年度に、整理・報告書作成は平成29、30年度に実施し、いずれも熊谷市教育委員会が主体者となって実施した。

主体者 熊谷市教育委員会

ア 発掘調査

(平成 28、29 年度)

教育長

教育次長

社会教育課長

社会教育課担当副参事

社会教育課副課長兼文化財保護係長

社会教育課業務主幹 (文化財保護係)

文化財保護係主査

主査

主査

主査

主任

主任

主任

事務員

事務員

事務員

主事

主事

主事

事務嘱託

野原 晃

米澤ひろみ (平成 28 年度)

正田 知久 (平成 29 年度)

山崎 実 (平成 28 年度)

鶴田 敏夫 (平成 29 年度)

森田 安彦 (平成 28 年度)

吉野 健 (平成 29 年度)

吉野 健 (平成 28 年度)

新井 端 (平成 29 年度)

宮前 彰生 (平成 29 年度)

松田 哲

星 祥子 (平成 29 年度)

小島 洋一

藏持 俊輔

山下 祐樹

腰塚 博隆

金子 正之

武部 喜充 (平成 28 年度)

島村 範久 (平成 28 年度)

大野美知子 (平成 28 年度)

武部 喜充 (平成 29 年度)

島村 範久 (平成 29 年度)

大野美知子 (平成 29 年度)

山崎 和子

イ 整理・報告書作成

(平成 30・令和元年度)

教育長

教育次長

社会教育課長

社会教育課担当副参事

社会教育課業務主幹 (文化財保護係)

文化財保護係長

主査

主査

主査

主任

主任

主任

主事

主事

主事

野原 晃

小林 教子

鶴田 敏男

吉野 健

宮前 彰生

松田 哲

星 祥子

小島 洋一

藏持 俊輔

山下 祐樹

腰塚 博隆

新井 端

武部 喜充

島村 範久

大野美知子

II 遺跡の立地と環境

諏訪木遺跡は、熊谷市に所在し、JR 高崎線熊谷駅の北東約 2 km、荒川から北へ約 2.2 km、利根川から南へ約 10.0 km に位置する。

諏訪木遺跡の所在する上之地区は、熊谷市の中央東部にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地上にある。櫛挽台地は寄居町末野付近を扇頂に、荒川の兩岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地のうち、荒川左岸側が浸食されてきたものである。そして、妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている洪積扇状地の新荒川扇状地（市西部）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、その荒川左岸の新荒川扇状地の、標高約 2.4 m 前後に立地し、調査箇所は微高地と低地にまたがっており、周囲は水田が広がり、近年では住宅地としての開発が目立つ場所である。遺跡を覆っていた土は、関東造盆地運動による地盤の沈下、及び微高地ではあるが、荒川の度重なる河川氾濫の影響がわずかに認められ、およそ 60～80 m の厚さをもっていた。

次に、本遺跡を中心に櫛挽台地及び妻沼低地における歴史環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、縄文時代であるが、熊谷市東部では極めて少なく、早期段階では本市に隣接する深谷市東方城跡において尖頭器が検出されているのみである。前期になると、低地に出現し始め、中期も特に後半段階の加曾利 E 式期の遺跡が爆発的に出現するが、依然として台地直下の低地上に集中している。後期になると徐々に低地への進出が顕著になり、西城切通遺跡（地図未掲載）など、櫛引台地から離れた低地上にも遺跡が確認できるようになる。今回報告する諏訪木遺跡も前期遺跡が確認できた遺跡となる。晩期では遺跡数が減少し、諏訪木遺跡は後期に続いて集落が確認できた唯一の事例である。調査において、遺構に伴って、大量の遺物が出土し、集落跡の存在が明らかとなっている。

弥生時代に入ると、初期段階である前期末から中期前半において本遺跡に隣接する藤之宮遺跡で土器片が検出されている。遺構として確認できた遺跡は櫛引台地直下の低地に集中しているが、集落ではなく、再葬墓である。横間栗遺跡では前期末から中期前半の再葬墓が 13 基確認され、このほかにも、飯塚遺跡、飯塚南遺跡や深谷市の上敷免遺跡などでも再葬墓が確認されている。中期中頃になるとこれま



第 1 図 埼玉県の地形図

第1表 周辺遺跡一覧表

1	諏訪木遺跡 (縄文後・晩, 弥生中・後, 古墳, 奈良・平安, 中・近世)	24	女塚遺跡 (古墳後, 奈良・平安, 中世)	47	野府集落遺跡 (奈良・平安)	70	北西宮遺跡 (奈良・平安)
2	前中西遺跡 (弥生中・後, 古墳, 奈良・平安, 中・近世)	25	古城遺跡 (古墳, 奈良・平安)	48	一本木遺跡 (古墳前・後, 奈良・平安, 中・近世)	71	塚本遺跡 (古墳, 奈良・平安)
3	藤之宮遺跡 (弥生中, 古墳, 奈良・平安)	26	中条遺跡 (古墳, 奈良・平安, 中世)	49	上戸ヶ谷遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	72	西園遺跡 (奈良・平安)
4	畑田氏遺跡 (平安末~中世)	27	中条氏遺跡 (中世)	50	奈良氏遺跡 (平安末~中世)	73	藤原遺跡 (奈良・平安)
5	赤戸遺跡 (弥生中, 古墳後, 平安, 中・近世)	28	北條教遺跡 (古墳後, 奈良・平安, 中世)	51	北澤下遺跡 (古墳前・後, 奈良・平安)	74	北方遺跡 (奈良・平安)
6	久下氏遺跡 (中世)	29	九嶋塚遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	52	寺東遺跡 (縄文後~晩)	75	宮前遺跡 (奈良・平安)
7	志田氏遺跡 (中世)	30	八幡塚遺跡 (古墳後, 奈良)	53	稲荷東遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	76	西園寺遺跡 (奈良・平安)
8	高田氏遺跡 (中世)	31	東城遺跡 (平安)	54	玉井陣屋跡 (平安末~中世)	77	宮前遺跡 (奈良・平安)
9	池上遺跡 (弥生中, 古墳, 平安)	32	長安寺遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	55	藤ヶ谷遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	78	野村遺跡 (奈良・平安)
10	古宮遺跡 (縄文・弥生中, 古墳前, 奈良・平安, 中・近世)	33	西城遺跡 (平安)	56	赤野下遺跡 (古墳後)	79	伊井遺跡 (奈良・平安)
11	上河原遺跡 (奈良・平安, 中・近世)	34	西城切通遺跡 (縄文後・晩)	57	稲荷木上遺跡 (古墳後)	80	畑原遺跡 (奈良・平安)
12	野の真遺跡 (古墳後)	35	鶴森遺跡 (弥生後, 古墳後, 奈良・平安)	58	下河原中遺跡 (奈良・平安)	81	北島遺跡 (奈良・平安)
13	畑田遺跡 (古墳後)	36	森谷遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	59	本代遺跡 (古墳後, 近世)	行 田 市	
14	中条集落遺跡 (古墳前・中, 奈良・平安)	37	藤ヶ谷集落遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	60	下河原上遺跡 (近世)	82	小敷田遺跡 (行田市) (弥生中, 古墳, 奈良・平安)
15	阿土氏遺跡 (中世)	38	茨城跡 (平安)	61	天神原遺跡 (古墳中, 後, 中世)	古 城 跡	
16	八幡山遺跡 (古墳)	39	塚原ヶ谷戸遺跡 (縄文後)	62	川原渡集落跡 (中世)	A	上之古墳跡 (古墳後~末)
17	畑上遺跡 (古墳後)	40	山ヶ谷戸遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	63	御城跡	B	肥後古墳跡 (古墳後~末)
18	藤野氏遺跡 (中世)	41	宮前遺跡 (奈良・平安)	64	高松遺跡 (縄文・古墳後, 平安, 中・近世)	C	中条古墳跡 (古墳中晩~後)
19	塚原跡 (中世)	42	赤野ヶ谷集落遺跡 (縄文後, 奈良)	65	不二ノ原遺跡 (奈良・平安)	D	奈良古墳跡 (古墳中晩~末)
20	畑上遺跡 (奈良・平安, 中・近世)	43	機原遺跡 (古墳前, 平安)	66	宮前遺跡 (古墳後, 平安)	E	玉井古墳跡 (古墳後)
21	野中島遺跡 (奈良・平安, 近世)	44	東遺跡 (古墳後)	67	畑遺跡 (古墳後, 奈良・平安, 中・近世)	F	畑田古墳跡 (古墳後)
22	北島遺跡 (弥生中, 古墳, 奈良・平安, 中世)	45	西園遺跡 (古墳後)	68	古西園遺跡 (縄文・中, 古墳, 平安, 近世)	G	石田古墳跡 (古墳後)
23	中条中島遺跡 (古墳後, 奈良・平安)	46	中条地遺跡 (縄文・中, 古墳前・後, 奈良・平安)	69	村岡遺跡	H	村岡古墳跡 (古墳後)

での状況は一変して、集落跡の展開が増す。東日本でも最古の段階の環濠集落と考えられる池上遺跡や、その墓域される方形周溝墓が検出された行田市の小敷田遺跡などがあり、集落としての展開が本格的に始まる。中期後半は前中西遺跡、諏訪木遺跡、北島遺跡で集落が営まれており、前中西、諏訪木、藤之宮遺跡では方形周溝墓も検出されている。北島遺跡では、大規模な集落展開と墓域の形成のほかに、特筆すべきこととして、水田に引き込む水路や堰が造営されていたことが挙げられる。このことは当時、本格的な水田経営が行われていたことを物語っており、注目すべき遺跡として挙げられる。後期になると初頭については藤之宮遺跡で土器片が若干検出されているが、遺構は確認されていない。遺構が確認された事例は前中西遺跡、北島遺跡以外に周辺での確認事例はない。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・別府条里遺跡・一本木遺跡・中耕地遺跡・北島遺跡弥藤吾新田遺跡等がある。横間栗遺跡では住居跡が3軒、北島遺跡では21軒検出されており、北島遺跡さらに弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降と推定される。北島遺跡・中条遺跡内の権現山遺跡・常光院東遺跡等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甕を模倣した土師器小壺が、権現山遺跡では出現期の甕をもつ住居

跡が検出されている。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認されていて、遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また、古墳に目を向けると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防に横塚山古墳が存在する。そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりではなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地及び新荒川扇状地上では、樋の上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が150軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは14軒以上に上る。また現在では同遺跡の一部となっている上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居が50軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡等でも後期の集落が検出されている。一方、妻沼低地の自然堤防上では、一本木前遺跡・飯塚南遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。一本木前遺跡では後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が450軒以上検出されており、当該期の祭祀跡も発見され、折り重なるように土師器杯等が出土し、それとともに白玉も出土している。

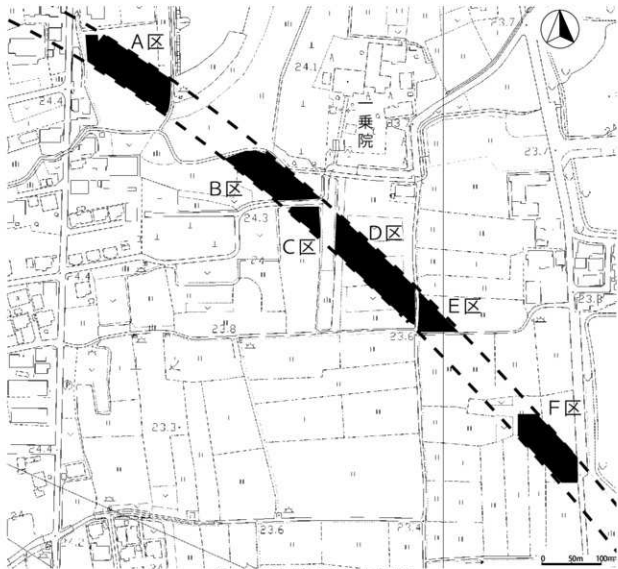
古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするもの奈良・平安時代へと継続されていく。このころの中心的集落遺跡は妻沼低地の北島遺跡にみられる。300軒以上もの住居跡が検出されている大規模集落である。7世紀から9世紀を中心に12世紀、さらには中世にまで及ぶ集落であり、北島遺跡は地域の中核となる典型的律令集落であろうと推定される。

さらには、7世紀末から8世紀初頭頃の出挙木簡を出土した小敷田遺跡、整然と配された9世紀代の掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡も存在する。また、隣接する諏訪木遺跡では、古墳時代後期から平安時代にかけての祭祀が行われた河川跡が検出され、玉類、被熱した銅鏡、さらには畜串・人形等の木製祭祀具を使った水辺の祭祀が行われていたことが確認されたほか、平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡群、多数の灰軸陶器や緑軸陶器が検出されるなど官衙の様相が看取でき、西別府祭祀遺跡と同様に注目すべき遺跡である。

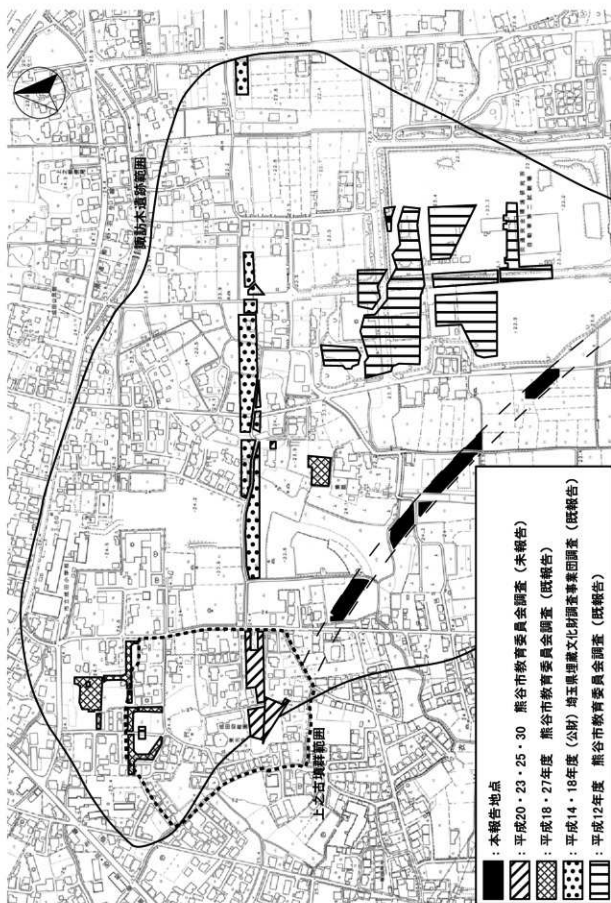
そして、集落以外の遺跡では、櫛挽台地北東端には本遺跡に隣接して深谷市幡羅官衙遺跡が所在する。この幡羅官衙遺跡は東西500m、南北400mの範囲をもつ幡羅郡家跡であり、これまでに郡庁を除く正倉院、館、厨家、曹司、道路等の施設が検出され、7世紀後半に小規模な倉庫などの掘立柱建物が建てられ、7世紀末には主要な施設が整えられていったようである。そして、8世紀末には正倉の掘立柱建物から礎石建物への建て替えや敷地の拡張などが行われ、9世紀前半～中葉には二重溝と土塁による区画施設が造られ郡家の様相も大きく変化する。また、この幡羅官衙遺跡の周辺には、西別府廃寺、西別府祭祀遺跡が所在し、郡家との関連で注目されおり、平成30年2月にはこの内の、幡羅官衙遺跡と西別府祭祀遺跡が国史跡に指定されている。西別府廃寺は、郡司が創建に関わったとされる県内でも古い8世紀初頭創建の寺院であり、基壇建物跡、寺域を区画する溝跡、瓦溜り状遺構などが検出され、多数出土している軒丸瓦や軒平瓦などから9世紀後半まで存続していたと考えられている。西別府祭祀遺跡は、7世紀後半から11世紀前半まで湧泉で行われた水辺の祭祀跡であり、石製模造品をはじめ、墨書土器等の土器が多数検出されており、祭祀具や場所を時代とともに変えて祭祀が継続的に行われていたと考えられる。また、この西別府祭祀遺跡の北西の妻沼低地上の本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡では、河川跡の縁辺部で7世紀前半の土器と共伴する石製模造品が出土し、集落内の祭祀跡においても、石製模造品が出土しており、水利にかかわる再生を祈願した水の祭祀と理解され、西別府祭祀遺跡へと続く

祭祀の前段階の時期のものとして注目される。奈良・平安時代の集落遺跡としては、広瀬地区には本遺跡のほか在家遺跡・龍原裏遺跡・拾六間後遺跡・飯塚南遺跡・新ヶ谷戸遺跡・横塚遺跡・北島遺跡等がある。特に北島遺跡は7世紀から12世紀の大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等など、興味深い発見がされている。一本木前遺跡の11世紀初頭の住居跡からは、瑞花鶯鶯八椽鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。

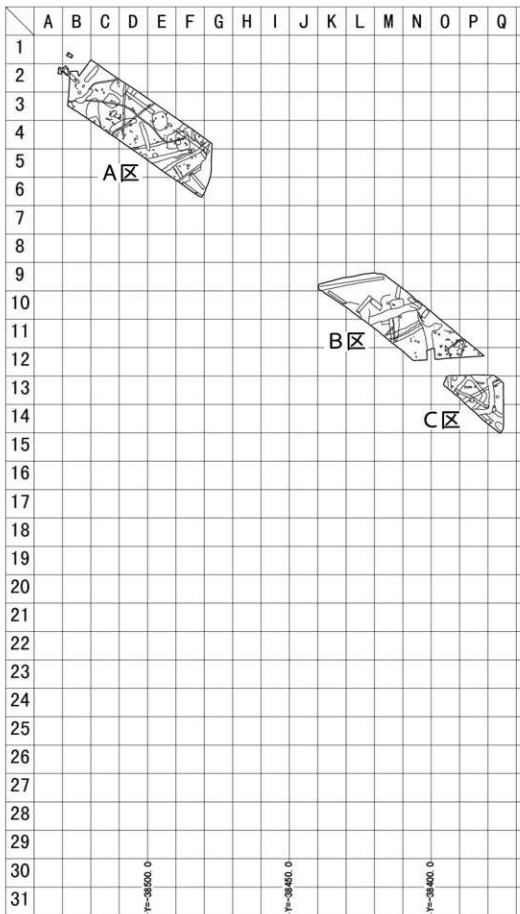
平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷等であるが、各館跡も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の北西に位置する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀をよく残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって、渡辺半山が記した『訪蹕録』に残る「黒沢屋敷」の記載と調査結果が合致した貴重な例である。その北側に所在する樋の上遺跡でも、15～16世紀の土壌・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられる。なお、中世以降の歴史実態はまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。

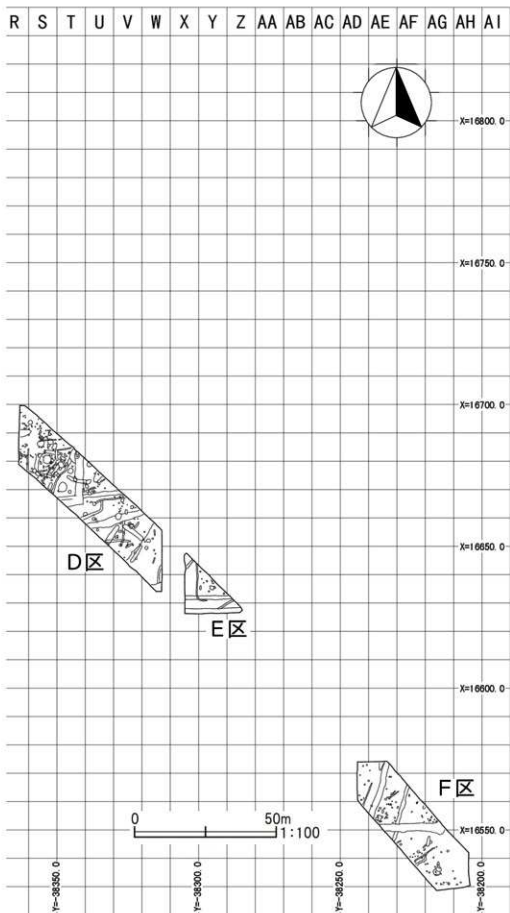


第3図 諏訪木遺跡調査地点位置図



第4図 調査地区周辺免掘調査実績





第5図 調査区全測図

Ⅲ 遺跡の概要

(1) 諏訪木遺跡について

諏訪木遺跡は、市の東部に位置し、規模としては78万㎡で、縄文から江戸時代に至るまでの複合遺跡ある。遺跡の所在する上之地区周辺はこれまで数十年にわたり、発掘調査を実施しており、同地区においては、市による区画整理事業が進行中で、隣接する前中西遺跡、藤の宮遺跡と合わせて、毎年、区画整理地内における各遺跡で発掘調査を実施している。

(2) 調査の方法

発掘調査の方法は、1辺10mのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をA-1として東へA・B・C、南へ1・2・3とし、Aラインは北から南へA-1・A-2・A-3・・・と呼称した。Bライン以西もAラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

なお、座標は、周辺の過去の発掘調査地点との照会を容易にするため、世界測地系による国家方眼座標に基づく基準点測量による。

重機による表土剥ぎを実施し、その後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。原則として、遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごと一括して慎重に取り上げた。遺構は、写真撮影した後、実測を行った。そして、最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

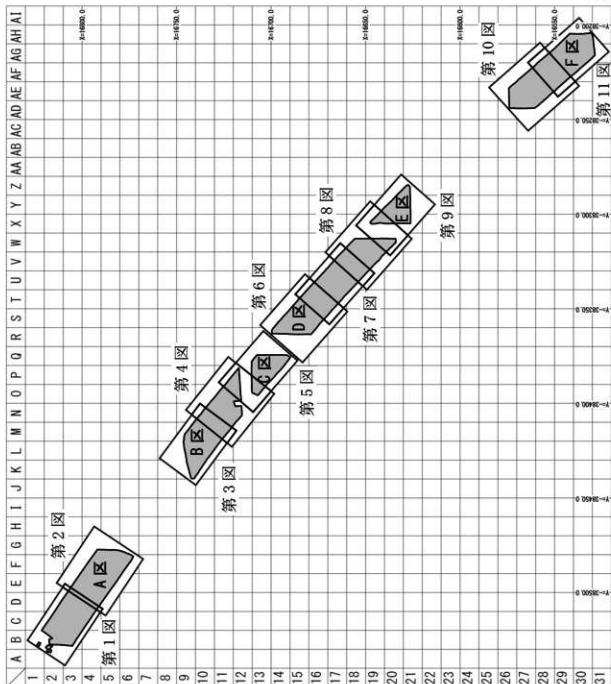
(3) 検出された遺構と遺物

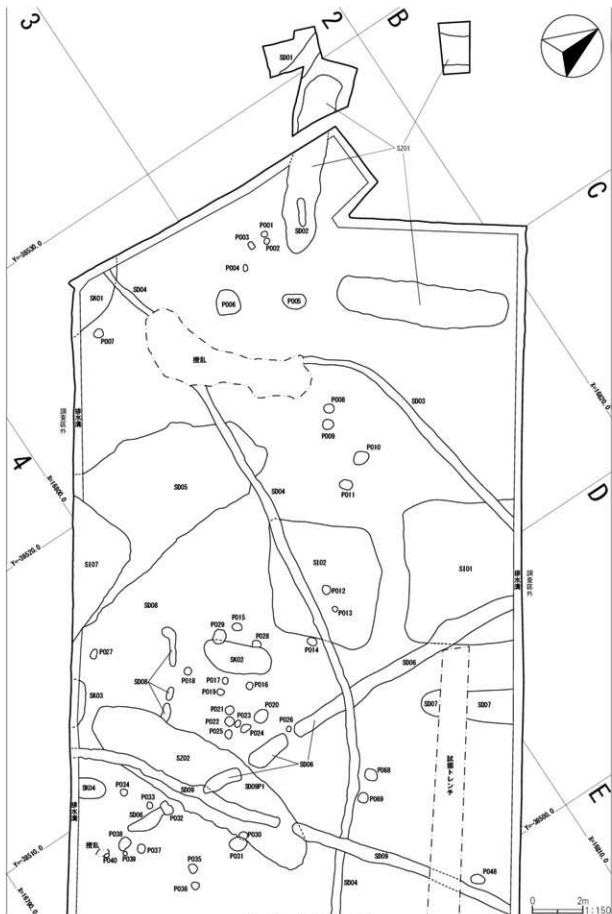
本調査によって検出された遺構は、住居跡9軒、掘立柱建物跡2軒、方形周溝墓8基、河川跡3条、溝跡75条、土坑46基、井戸跡13基、ビット428基である。

住居跡はA区からB区までの間のみの検出であり、掘立柱建物跡はC、D区、方形周溝墓については、AからD区の微高地に展開している。河川跡はA区、B区、E区に確認され、溝跡は全区内で検出されている。

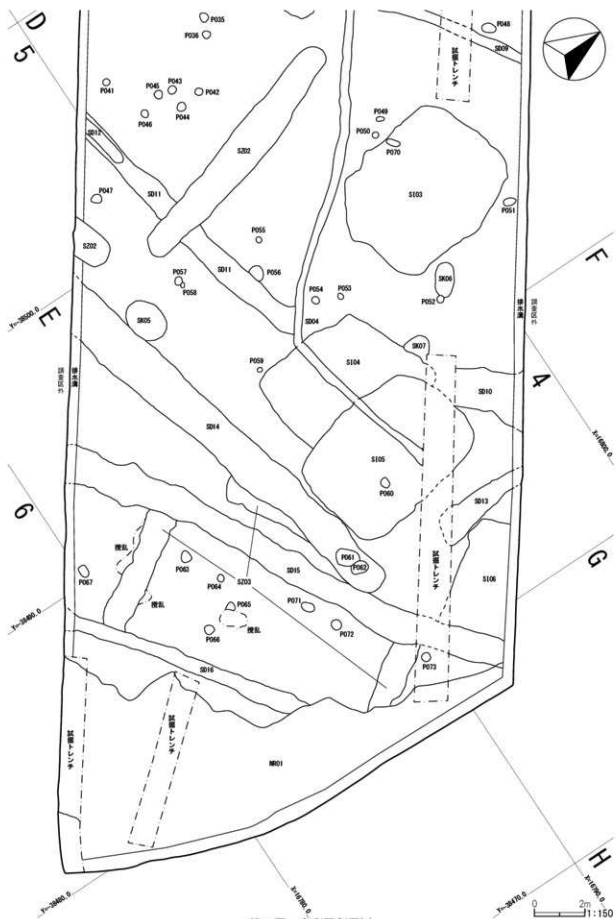
遺物については、弥生時代中期から古墳時代前期の弥生土器、土師器坏、高坏、甕、壺が主体的で、一部区域では、中近世の土師質土器（かわらけ）、陶磁器類が集中して検出している。

検出した遺物量はコンテナ（大きさ：縦34cm、横54cm、深さ15cm）にして58箱であった。以下、調査の詳細を述べる。

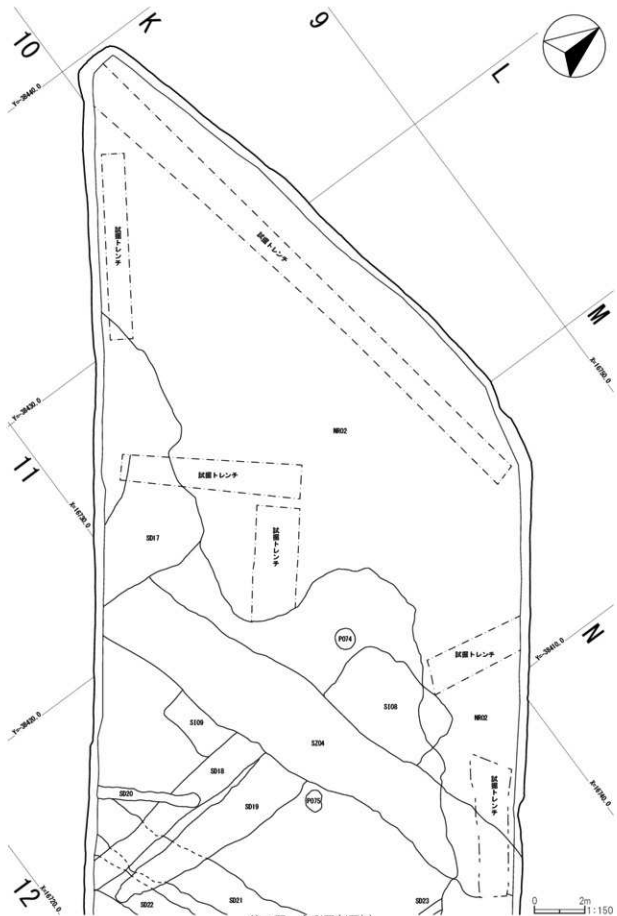




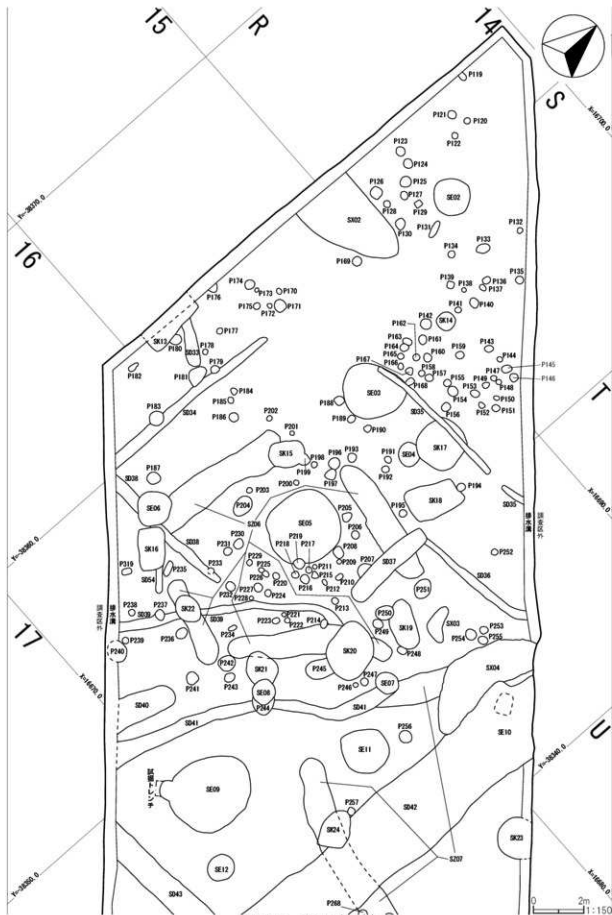
第7図 全測図割図(1)



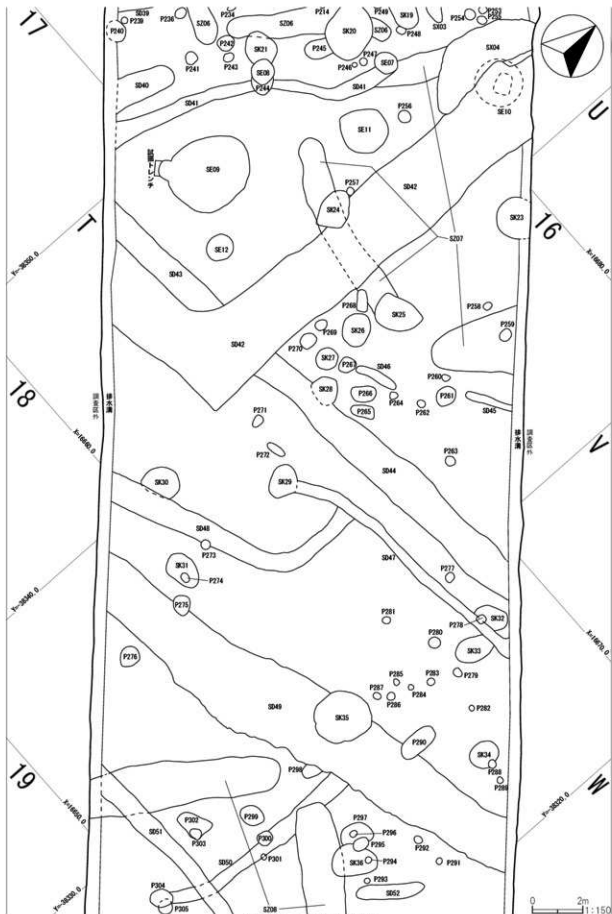
第8図 全測図割図(2)



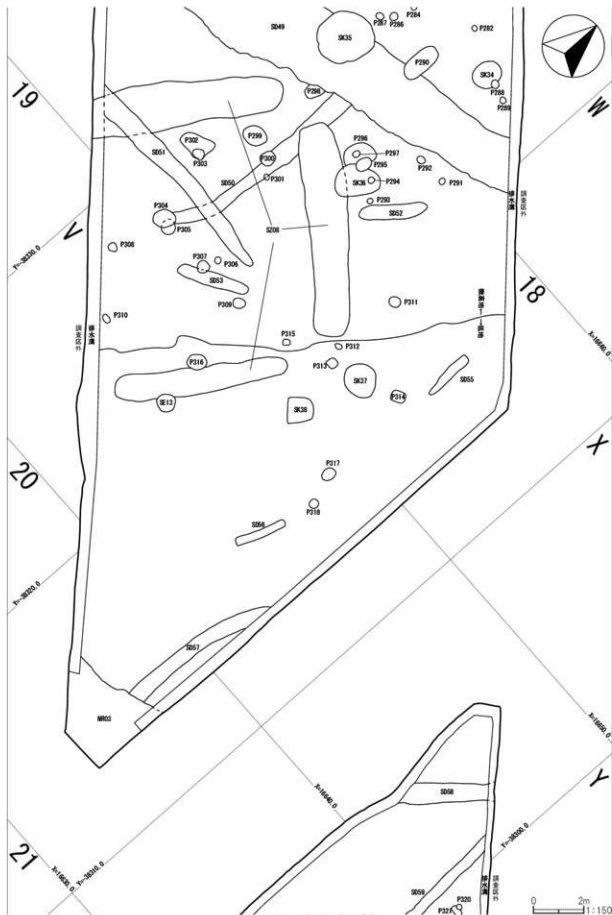
第9図 全測図割図(3)



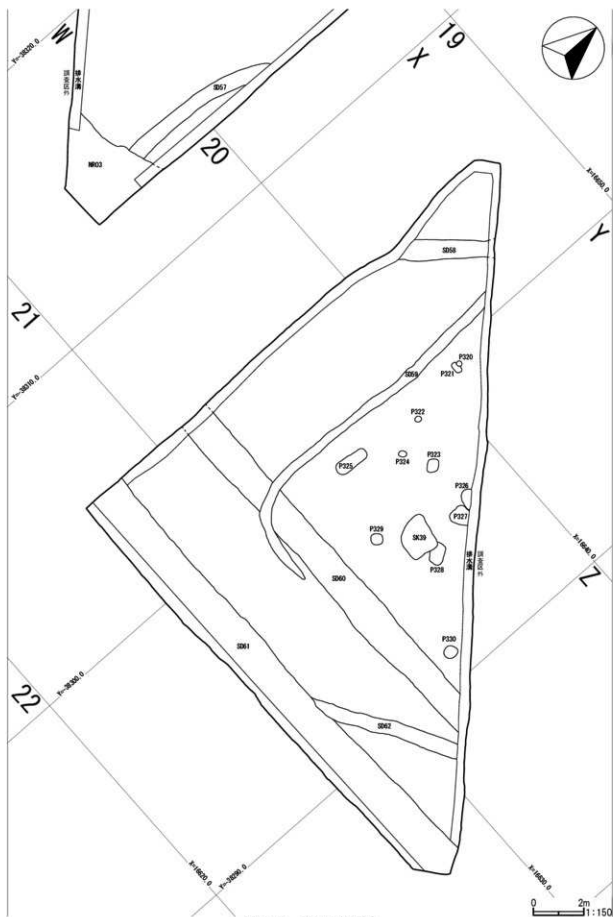
第 12 图 全测图割图(6)

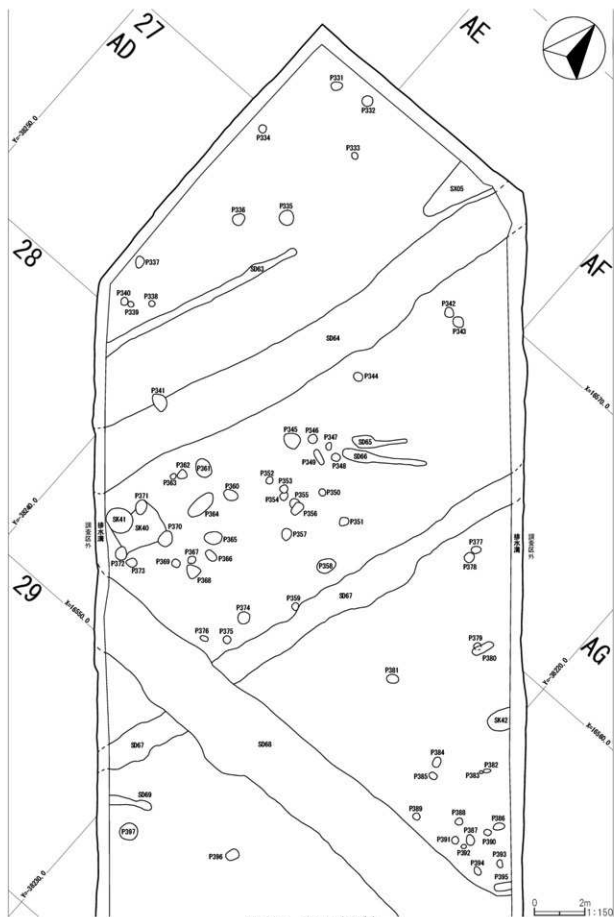


第13图 全测图割图(7)

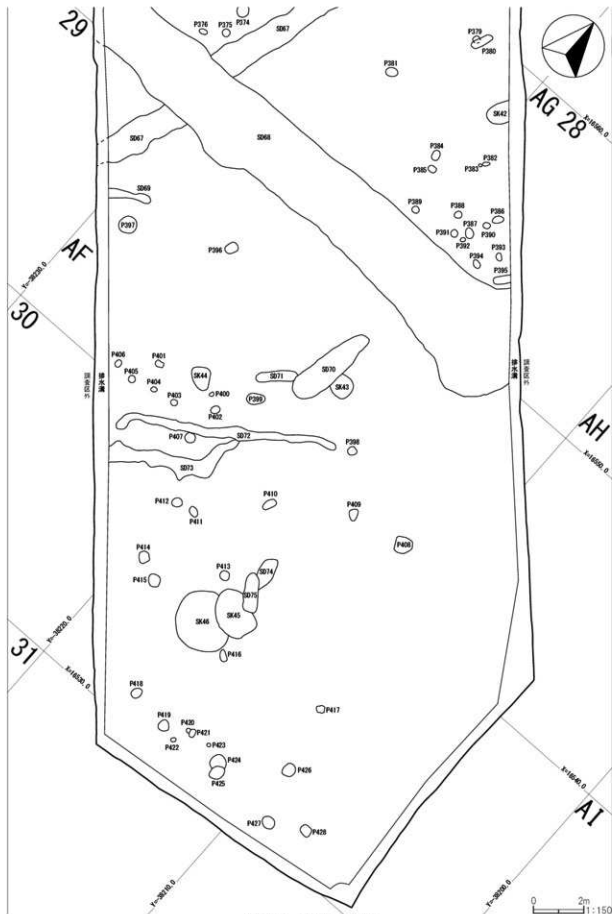


第 14 图 全测图割图(8)





第 16 图 全测图分割图(10)



第 17 图 全测图分割(11)

IV 遺構と遺物

1 住居跡

第1号住居跡（第18、19図）

A区に位置し、C・D-2・3グリッドから検出した。第3、6号溝跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、一部が調査区外であるが隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で4.25 m、短軸で5.65 m、深さは0.14 mを測り、主軸方向は、N-34° - Eを指す。床面は、わずかな凹凸があり、北側へと傾斜する。断面は、残存状態が悪いがほぼ平坦に堆積していた。炉跡は検出されなかった。

柱穴と土坑状の落ち込みがそれぞれ1基ずつ確認された。

出土遺物は、弥生土器甕の破片が数点検出されたが、多くは細片だったが、楕圓をもつ甕胴部片のみ図化できた。

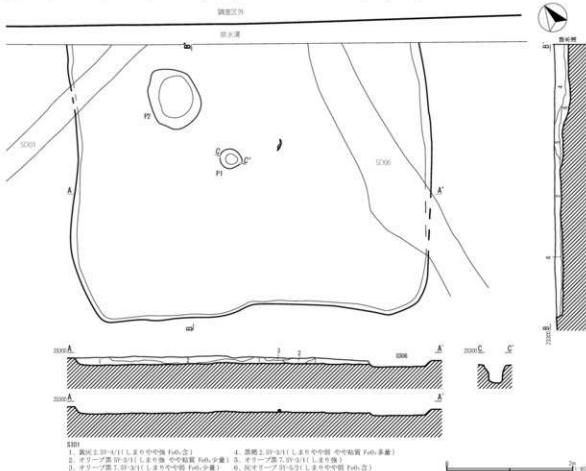
時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第18図 第1号住居跡出土遺物

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表（第18図）

No.	器種	口径	器高	底径	粘土	色澤	構成	残存率	下注、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	-	-	-	ABGK	外面：におい-橙 7.5YR 6/4 内面：におい-黄橙 10YR 6/4	B	破片	楕圓片断	
2	弥生土器 甕	-	-	-	ABJM	におい-黄橙 10YR 5/3	B	破片	楕圓片断	



第19図 第1号住居跡

第2号住居跡（第20図）

A区に位置し、C・D-3グリッドから検出した。第4号溝跡、第12、13号ピットと重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、北西隅が欠ける隅丸方形である。

規模は、検出長軸で4.51 m、短軸で4.33 m、深さは0.11 mを測り、主軸方向は、 $N-50^{\circ}-W$ を指す。床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。

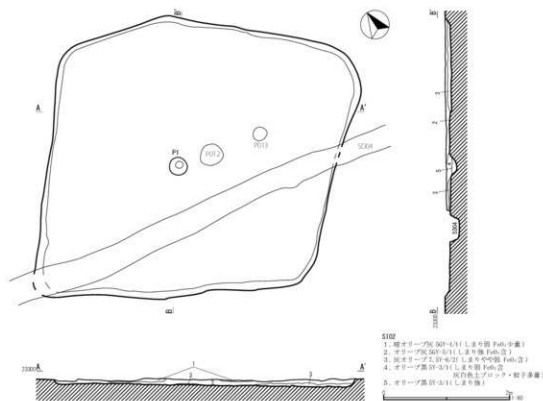
断面は、残存状態が悪いため2層ほどしか確認できないが、ほぼ平坦に堆積していた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は1基のみ確認されたが、断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、弥生土器壺の破片が数点検出されたが、図化できるものは検出されなかった。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第20図 第2号住居跡

第3号住居跡（第21～23図）

A区に位置し、E-3・4グリッドから検出した。第70号ピットと重複しており、そのピットに切られていた。

平面プランは、ややいびつな隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で6.14 m、短軸で5.15 m、深さは0.50 mを測り、主軸方向は、 $N-14^{\circ}-W$ を指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、北に向かってわずかに傾斜する。断面は、南から、ほぼ平坦に

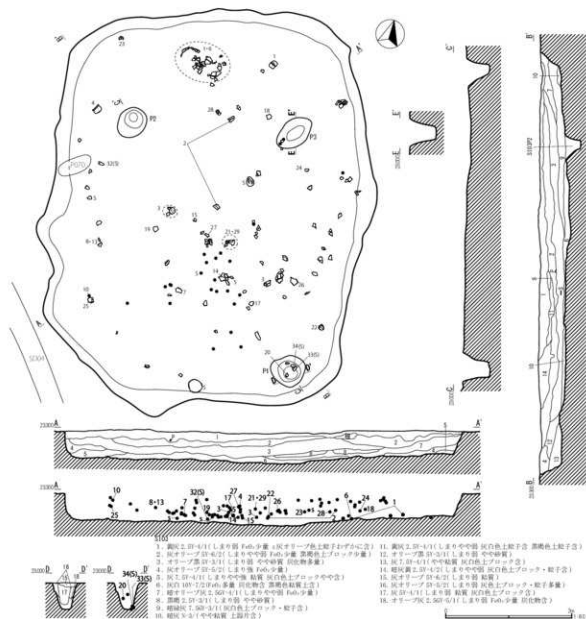
堆積していた。

炉跡は、検出されなかった。

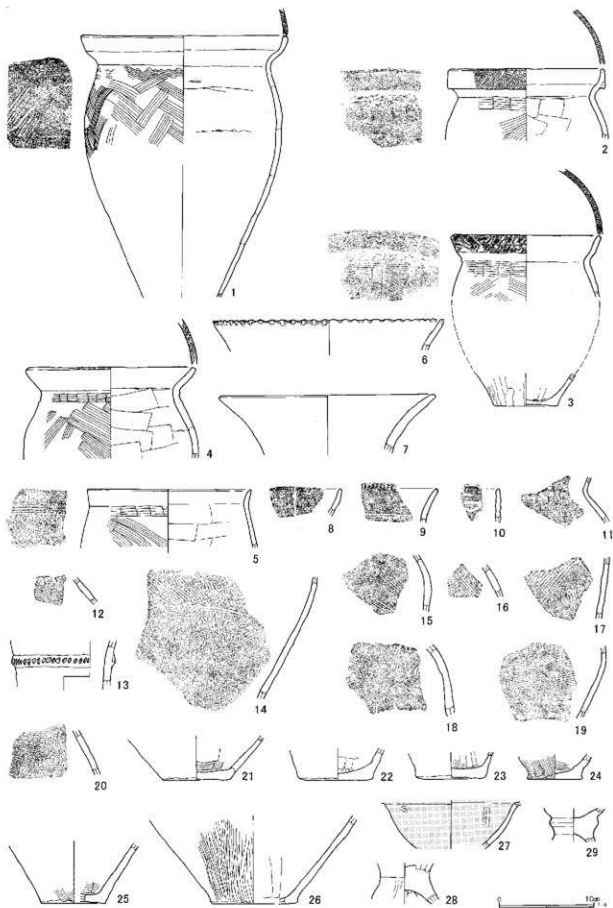
柱穴は3基確認されが、第1号ピットは幅18cm程度の直径をもつ柱痕を確認できたが、それ以外のピットからはいずれも断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、住居内の床面いたるところに点在しているが、割合から南東側に検出エリアが偏っており、弥生土器甕・壺・鉢・高坏、磨製石織（製作過程）などが検出された。

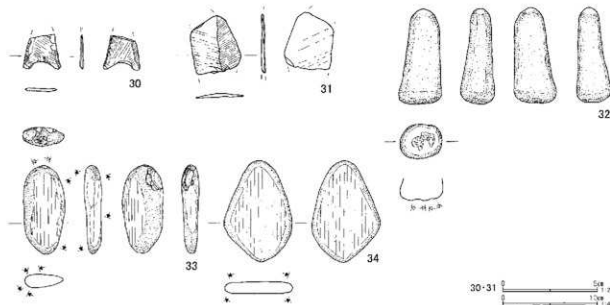
時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。



第21図 第3号住居跡



第 22 图 第 3 号住居跡出土物(1)



第23図 第3号住居跡出土遺物(2)

第3表 第3号住居跡出土遺物観察表(1) (第22, 23図)

No.	品種	口径	高さ	底径	底厚	胎土	色澤	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	赤土土器 器	(21.4)	(27.7)			ABCGR	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：にんい黄緑 10YR 7/2	B	口縁～胴部 60%	外面：口縁部 LR 単面縄文、胴部縞織成状文 (5本一単位)、胴部縞織成状文 内面：ヘラナデ	受口状口縁
2	赤土土器 器	16.0	7.3			ABCJM	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：黒灰 10YR 4/1	A	口縁～胴部上平 40%	外面：口縁部・胴部 LR 単面縄文、胴部縞織成状文 (5本一単位)、胴部縞織成状文 内面：ヘラナデ	複合口縁
3	赤土土器 器	(15.2)	(18.0)	6.8		ABM	外面：黒灰 7.5YR 4/1 内面：黒灰 7.5YR 3/1	A	口縁～胴部・底部 30%	外面：口縁部 LR 単面縄文、口縁部 LR 単面縄文地に縞織成状文 (2本一単位)、胴部縞織成状文 (5～7本一単位)、胴部上平縞織成状文、胴部下平ヘラミナデ 内面：ヘラナデ	
4	赤土土器 器	17.2	(9.6)			ABJ	外面：黒灰 7.5YR 4/1 内面：にんい黄緑 10YR 7/2	A	口縁～胴上部 30%	外面：口縁部 LR 単面縄文、胴部縞織成状文 (4本一単位)、胴部縞織成状文 内面：ヘラナデ	
5	赤土土器 器	(7.1)	(6.1)			ABK	灰白 10YR 8/1	B	口縁～胴部 10%	外面：胴部縞織成状文 (4本一単位)、胴部縞織成状文 内面：ヘラナデ	
6	赤土土器 器	(24.1)	(3.1)			ABM	にんい黄緑 10YR 5/3	B	口縁部片	外面：口縁部外側から棒状工具による連続押捺	
7	赤土土器 器	(22.2)	(6.2)			AHDM	外面：浅黄 7.5YR 8/3 内面：灰黄緑 10YR 6/2	B	口縁～胴部 10%	外面：摩耗のため調整痕不明、口縁部ラッパ痕に似る	
8	赤土土器 器					ABKM	外面：灰黄緑 10YR 4/2 内面：黒灰 10YR 3/1	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 単面縄文	
9	赤土土器 器					AJ	黒灰 7.5YR 3/1	B	口縁部片	外面：口縁部ヘラ状工具で連続押捺 (斜目)、縞織成状文	
10	赤土土器 鉢					ABRM	外面：にんい黄 7.5YR 7/4 内面：灰黄緑 10YR 6/2	B	口縁部片	外面：LR 単面縄文地にヘラ縞浅線	
11	赤土土器 器					ABRM	にんい黄 7.5YR 7/3	B	胴部～胴上部片	外面：縞織成状文及び流状文 (4本一単位)	
12	赤土土器 器					AGM	にんい黄 7.5YR 7/3	B	胴部～胴上部片	外面：胴部縞織成状文及び流状文 (4本一単位)	
13	赤土土器 器	(5.2)				ADM	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：灰黄緑 10YR 4/2	B	胴部 20%	外面：胴部ヘラ状工具による斜目を施した幅 12mm の隆起を 1 箇所有す	
14	赤土土器 器					ADKM	外面：にんい黄 7.5YR 7/4 内面：にんい黄緑 10YR 7/2	B	胴部片	外面：横波筋間に RL 単面縄文を光順	
15	赤土土器 器					ABJ	外面：灰黄 7.5YR 5/2 内面：灰白 10YR 4/2	B	胴部片	外面：縞織成状文 (5本一単位)	
16	赤土土器 器					AJM	灰 5Y 4/1	B	胴部片	外面：縞織成状文 (4本一単位)	
17	赤土土器 器					ABCJLN	灰白 10YR 7/1	B	胴部片	外面：縞織成状文	
18	赤土土器 器					ABJK	外面：にんい黄 7.5YR 6/3 内面：にんい黄緑 10YR 7/2	B	胴部片	外面：縞織成状文、縞織成状文 (4本一単位)	
19	赤土土器 器					EM	外面：灰黄緑 10YR 4/2 内面：黒灰 10YR 3/1	B	胴中部～下部片	外面：縞織成状文 (5本一単位) 内面：緑灰色ヘラミナデ	
20	赤土土器 器					ABGHJK	外面：黒 10YR 2/1 内面：黒灰 7.5YR 3/2	B	胴部片	外面：縞織成状文	
21	赤土土器 器	(4.6)	(7.0)			ABDEGHJLMN	にんい黄 7.5YR 7/4	B	底部 70%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
22	赤土土器 器	(3.5)	7.8			ABCGR	外面：にんい黄緑 10YR 7/2 内面：灰白 10YR 7/1	B	底部 100%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
23	赤土土器 器	(2.8)	6.4			ABDJK	にんい黄緑 10YR 7/2	B	底部 70%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	

第3表 第3号住居跡出土土物観察表(2) (第22、23図)

No.	品種	口徑	高さ	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特長等	備考	
24	弥生土器 甕	-	(2.7)	5.6	ABJM	外面：黒褐 10YR 3/1 内面：にぶい物 7.5YR 6/4	B	底部 70%	内外面：ハケ目		
25	弥生土器 甕	-	(6.3)	(6.7)	BDHJM	外面：灰褐 7.5YR 6/2 内面：にぶい物 10YR 7/2	B	胴下部～底部 30%	内外面：ハケ目		
26	弥生土器 甕	-	(9.3)	(9.2)	AJ	外面：黒褐 10YR 5/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	胴部下～底部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ		
27	弥生土器 鉢	-	(5.0)	-	AGJM	外面：明赤褐 2.5YR 5/6 内面：黒 7.5YR 4/4	B	鉢部片	内外面：ヘラミガキ	内外面赤彩	
28	弥生土器 高杯	-	(4.3)	-	ABFGK	にぶい物 10YR 7/4	B	接合部片	外面：ヘラミガキ 内面：胴部ヘラナデ		
29	弥生土器 高杯	-	(3.6)	-	ABHK	明赤褐 2.5YR 5/8	B	接合部片	外面：接合部に幅 10mmの隆帯を1表出らす		
30	石器 磨製石鏃	最大長 11.8	最大幅 2.0	最大厚 0.2	重さ 0.7 g				先端欠損	明瞭な研磨痕、穿孔無い凹縁無形式、未製品ナ	粘板石
31	石器 磨製石鏃	最大長 3.1	最大幅 2.6	最大厚 0.2	重さ 2.3 g				両端欠損	未製品で明瞭な研磨痕	粘板石
32	石器 磨製石	最大長 10.0	最大幅 4.4	最大厚 3.6	重さ 180 g				完形	細長く、一端に鋭打痕	砂岩
33	石器 石筴丁	最大長 9.3	最大幅 4.3	最大厚 1.8	重さ 105.5 g				完形	4面研磨、片側面に両側から研削して鋭角な刃部状	粘板石
34	石器 磨石	最大長 10.7	最大幅 7.2	最大厚 1.2	重さ 134.9 g				完形	扁平な礫を素材とし、磨面は表裏2面	砂岩

第4号住居跡 (第24、26図)

A区に位置し、E・F-4グリッドから検出した。第5号住居跡、第4号溝跡、第7号土坑と重複しており、第5号住居跡、第4号溝跡に切られ、第7号土坑を切っていた。

平面プランは、第5号住居跡に切られているため、全容は不明だが、いびつな隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で3.28 m、短軸で5.29 m、深さは0.41 mを測り、主軸方向は、N-19°-Wを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。断面は、ほぼ平坦に堆積していた。

また、床面からは噴砂も確認でき、幅0.03 m、長さ2.97 mで、第5号住居跡へと続く。

炉跡は住居のほぼ中央から検出された。掘り方は楕円形で、長軸0.80 m、短軸0.56 m、深さ0.08 mを測る。石材などの検出はないが、住居を放棄する際に取り去ったものと推定される。

柱穴は1基のみ確認されが、断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、特徴的なものが、北壁隅から検出した床面に埋め込まれた弥生土器甕である。貯蔵用として用いた可能性が考えられる。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。

第5号住居跡 (第24、25、27図)

A区に位置し、E・F-4、F-5リッドから検出した。第4号住居跡、第4号溝跡、第60ピットと重複しており、第4号住居跡を切り、それ以外の第4号溝跡、第60ピットに切られていた。

平面プランは、一部が消滅していたが、隅丸方形である。

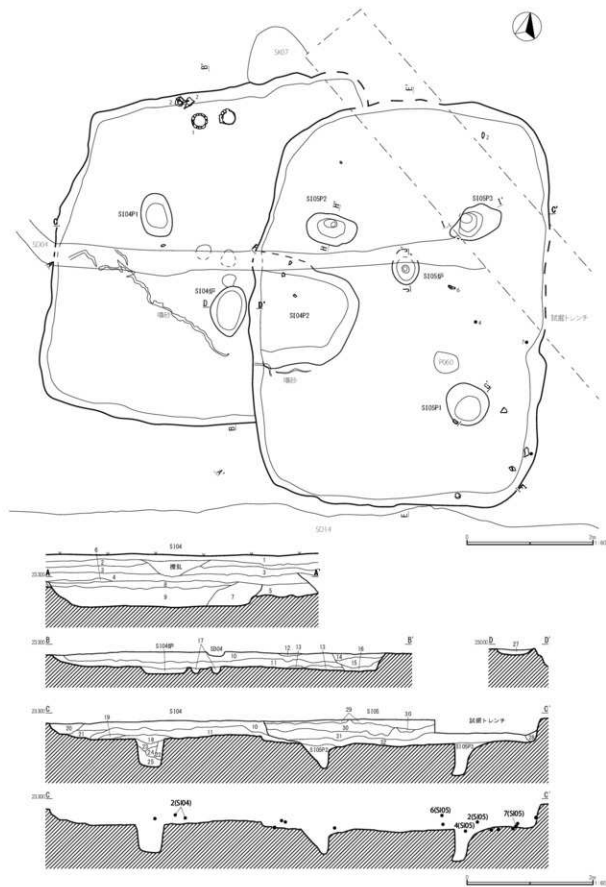
規模は、検出長軸で6.51 m、短軸で4.62 m、深さは0.43 m測り、主軸方向は、N-12°-Wを指す。

床面は、わずかな凹凸があるもののほぼ水平で、西側の土坑状の落ち込みへとわずかに傾斜する。断面は南東から埋まり、ほぼ平坦に堆積していた。

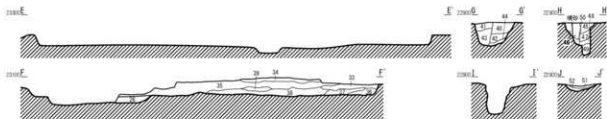
また、床面からは噴砂が確認でき、第4号住居跡から続く。

炉跡は住居のほぼ中央から検出された。断面観察から焼土や、赤土などの使用痕が確認できた。なお、石材などの検出はなかった。

柱穴が等間隔に3基確認された。うち第1、2号ピットからは断面観察から柱痕が検出された。また、西側には長軸1.73 m、深さ0.13 mの土坑状の落ち込みが確認できた。

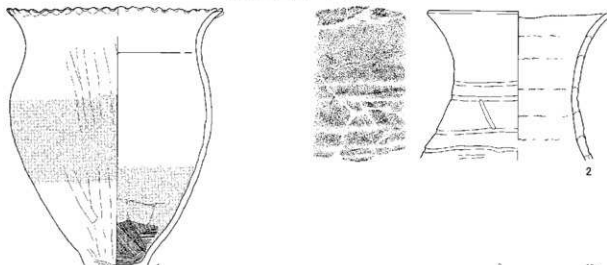


第 24 図 第 4・5 号住居跡(1)



- 5104**
1. 自然地上
 2. 灰白土(1)しまりや中砂 中や中粒 今や中粒質 Fph.少量 火山灰砂子多量
 3. オリーブ灰土(2)しまりや中砂 Fph.少量
 4. 緑オリーブ灰土(3)しまりや中砂 Fph.少量
 5. 赤土(4)しまりや中砂 Fph.少量 土器(少量)
 6. オリーブ灰土(5)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 7. オリーブ灰土(6)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック少量
 8. オリーブ灰土(7)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 9. 緑土(8)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 10. 赤土(9)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 11. オリーブ灰土(10)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 12. 赤土(11)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 13. 緑土(12)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 14. オリーブ灰土(13)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 15. 灰白土(14)しまりや中砂 粘質 一部シロト質
 16. オリーブ灰土(15)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 17. 赤土(16)しまりや中砂 粘質 一部白褐色土粘質ブロック(少量)
 18. 灰白土(17)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 19. 灰白土(18)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 20. オリーブ灰土(19)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 21. オリーブ灰土(20)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 22. 灰白土(21)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 23. オリーブ灰土(22)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 24. 灰白土(23)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 25. 灰白土(24)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 26. オリーブ灰土(25)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
 27. 灰白土(26)しまりや中砂 粘質 Fph.少量
- 5105**
28. 灰土(1)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 29. 赤土(2)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 30. 赤土(3)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 31. 赤土(4)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 32. 赤土(5)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 33. 赤土(6)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 34. 赤土(7)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 35. オリーブ灰土(8)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 36. 赤土(9)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 37. 赤土(10)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 38. 赤土(11)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 39. 赤土(12)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 40. 赤土(13)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 41. 赤土(14)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 42. 赤土(15)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 43. 赤土(16)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 44. 赤土(17)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 45. 赤土(18)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 46. 赤土(19)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 47. 赤土(20)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 48. 赤土(21)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 49. 赤土(22)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 50. 赤土(23)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 51. 赤土(24)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 52. 赤土(25)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 53. 赤土(26)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 54. 赤土(27)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 55. 赤土(28)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 56. 赤土(29)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 57. 赤土(30)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 58. 赤土(31)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 59. 赤土(32)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 60. 赤土(33)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 61. 赤土(34)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 62. 赤土(35)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 63. 赤土(36)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 64. 赤土(37)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 65. 赤土(38)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 66. 赤土(39)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 67. 赤土(40)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 68. 赤土(41)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 69. 赤土(42)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 70. 赤土(43)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 71. 赤土(44)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 72. 赤土(45)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 73. 赤土(46)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 74. 赤土(47)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 75. 赤土(48)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 76. 赤土(49)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 77. 赤土(50)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 78. 赤土(51)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 79. 赤土(52)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 80. 赤土(53)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 81. 赤土(54)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 82. 赤土(55)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 83. 赤土(56)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 84. 赤土(57)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 85. 赤土(58)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 86. 赤土(59)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 87. 赤土(60)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 88. 赤土(61)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 89. 赤土(62)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 90. 赤土(63)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 91. 赤土(64)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 92. 赤土(65)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 93. 赤土(66)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 94. 赤土(67)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 95. 赤土(68)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 96. 赤土(69)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 97. 赤土(70)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 98. 赤土(71)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 99. 赤土(72)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 100. 赤土(73)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 101. 赤土(74)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 102. 赤土(75)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 103. 赤土(76)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 104. 赤土(77)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 105. 赤土(78)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 106. 赤土(79)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 107. 赤土(80)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 108. 赤土(81)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 109. 赤土(82)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 110. 赤土(83)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 111. 赤土(84)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 112. 赤土(85)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 113. 赤土(86)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 114. 赤土(87)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 115. 赤土(88)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 116. 赤土(89)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 117. 赤土(90)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 118. 赤土(91)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 119. 赤土(92)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 120. 赤土(93)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 121. 赤土(94)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 122. 赤土(95)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 123. 赤土(96)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 124. 赤土(97)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 125. 赤土(98)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 126. 赤土(99)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)
 127. 赤土(100)しまりや中砂 粘質 Fph.少量 灰白土上ブロック(少量)

第25図 第4・5号住居跡



第26図 第4号住居跡出土遺物



第27図 第5号住居跡出土遺物

第4表 第4・5号住居跡出土遺物観察表 (第26、27図)

遺物名	No.	品種	口径	高さ	底径	粘土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
S04	1	赤土土器	22.6	27.8	6.4	ABDHM	和7.5YR 4/3	B	ほぼ完全 80%	口縁部・口縁部内部による装飾の押捺、胴部へラナラ、内面へラナラ、ハヤ目	内面・胴部中央で帯状に集積したスス付着
S04	2	赤土土器	19.2	(15.6)	-	EM	にぶ・黄褐色 10YR 6/4	B	口縁部・胴部 30%	内面：太い刃部が突出 外面：輪郭が不明	内面下平スス付着
S05	1	赤土土器	-	-	-	ADM	にぶ・黄褐色 10YR 7/2	A	口縁部片	外面：口縁部部へラ状工具による刻目	

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
S105	2	弥生土器 甕	-	-	-	AM	外面：にぶい黒褐色 10YR 7/3 内面：にぶい黒褐色 10YR 7/2	A	胴部部片	外面：横位の収縮間に1条の波状文	
S105	3	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：灰黄褐色 10YR 6/2 内面：にぶい黒褐色 10YR 7/3	B	胴部部片	外面：横位の平行波線が9条以上通る	
S105	4	弥生土器 甕	-	-	-	IM	灰褐色 7.5YR 4/2	A	胴部片	外面：横位波位刻文	
S105	5	弥生土器 甕	(1.8)	(6.6)	-	AM	灰白 10YR 8/2	A	底部 30%	外面：底部布目文	
S105	6	弥生土器 甕	(4.5)	(7.0)	-	DGM	灰白 7.5YR 8/2	A	底部 40%	外面：下部波位刻文 内面：ヘラナデ	
S105	7	弥生土器 高杯	(2.3)	8.6	-	DGM	外面：灰白 10YR 7/1 内面：明赤褐色 2.5YR 5/6	A	胴部 23%	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ、衝刺直線	

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高杯が検出された。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。

第6号住居跡 (第28、29図)

A区に位置し、F・G-4グリッドから検出した。第15号溝跡と重複しており、第15号溝跡に切られていた。

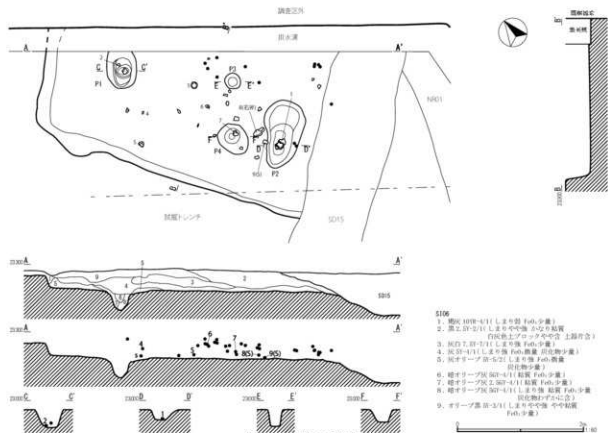
平面プランは、大半が、全容は不明だが、隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で4.67m、短軸で1.96m、深さは0.39mを測り、主軸方向は、N-43°-Wを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。断面は、第15号溝跡に大きく切られているため、一部のみの検出であるが、ほぼ平坦に堆積していた。

炉跡は検出されなかったが、東脇に貯蔵穴と推定される土坑があり、中からは、弥生土器壺・甕などが検出された。

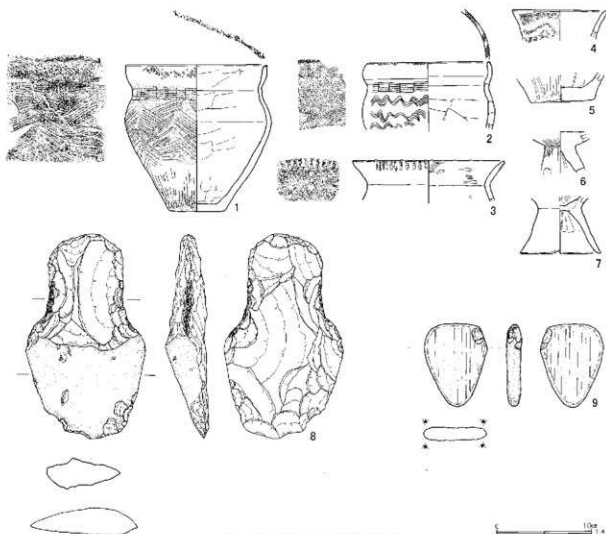
柱穴は3基のみ確認されが、いずれからも断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。



- S106
1. 胴部 10YR-4/1 (しまり型) Fa0,少量
 2. 胴部 10YR-2/1 (しまりややゆゆ) 小やゆゆ
白灰土にアコクヤやゆゆ 土器片を含む
 3. 胴部 7.5YR-7/1 (しまり型) Fa0,少量
 4. 胴部 4YR-1/1 (しまり型) Fa0,少量 灰化跡(少量)
 5. 胴部 7.5YR-5/2 (しまり型) Fa0,少量
灰化跡(少量)
 6. 胴部 7.5YR-4/1 (粗型) Fa0,少量
 7. 胴部 7.5YR-2/2 (粗型) Fa0,少量
 8. 胴部 7.5YR-2/2 (粗型) Fa0,少量
灰化跡(少量)
 9. オープン型 10YR-2/1 (しまりやゆゆ) やゆゆ
Fa0,少量

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏、石器が検出され、石器では石錐が特徴的である。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。



第29図 第6号住居跡出土遺物

第5表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

No.	品種	口径	器高	底径	胴土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器壺	(15.0)	15.5	6.0	ABGJ	外面：にじい・黄緑 10YR 6/3 断面：10YR 3/1 内面：黒黒 10YR 3/1	B	60%	外面：口縁部短、卑部縮文、縮部切み、胴部縮部縮文(5本一単位)、胴部上半部縮部縮文(5本一単位)、下半ミガキ 内面：口縁部縮部縮文、縮部縮部縮文(5本一単位)、胴部縮部縮文(4本一単位) 内面：ヘラナデ	胴部外面スチ付着
2	弥生土器壺	(13.0)	(7.1)	-	ABGJLN	外面：黒黒 10YR 3/1 内面：にじい・黄緑 10YR 7/3	B	口縁～胴上部 10%	外面：口縁部縮部縮文、卑部縮文、胴部縮部縮文(5本一単位)、胴部上半部縮部縮文(4本一単位) 内面：ヘラナデ	
3	弥生土器壺	(16.0)	(4.3)	-	ABGJLN	外面：7.5YR 4/2 内面：にじい・黄緑 10YR 6/4	B	口縁部 10%	外面：口縁部縮部縮文工具による押圧 内面：ヘラナデ	
4	弥生土器壺	(10.0)	(3.1)	-	ABJ	外面：灰白 10YR 8/2 内面：にじい・黄緑 7.5YR 6/4	B	口縁部 20%	外面：太い沈殿と角状工具による角押文	
5	弥生土器壺	(2.0)	6.7	-	ABGK	外面：浅黄緑 7.5YR 6/6 内面：にじい・黄緑 10YR 6/4	B	底部 100%	外面：胴部下平ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
6	弥生土器高坏	(4.4)	-	-	AGHJLN	径 5YR 7/6	B	坏部～脚部 80%	外面：坏部ヘラミガキ 内面：3ヶ所の凹部透かし	
7	弥生土器高坏	(5.9)	(8.4)	-	AGHJLN	径 5YR 6/6	B	脚部 70%	外面：厚瓦のため調整不明 内面：ヘラナデ	
8	石錐	最大長 21.5	最大幅 12.6	最大厚 4.2	-	-	完形	-	断面図を下平に写し、両側面からの両輪磨行技法で磨製、つぶれは磨製ではない	断面図あり
9	石錐	最大長 8.7	最大幅 6.5	最大厚 1.5	-	-	完形	-	扁平な棒を素材とし、断面は表裏2面、上端部両行磨	断面図あり

第7号住居跡 (第30、31図)

A区に位置し、B・C-3・4グリッドから検出した。第5号溝跡と重複しており、その溝跡に切られていた。

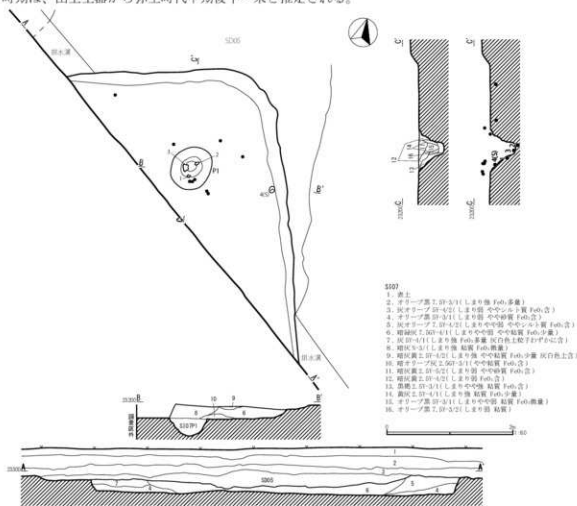
平面プランは、大半が調査区域外であるが、隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で2.1m、短軸で2.07m、深さは0.32m測り、主軸方向は、N-20°-Wを指す。床面は、わずかな凹凸があるもののほぼ水平である。断面は不規則な堆積であり、胎土も混ざりあって粘質土、砂質土が検出されていることから、人工的に埋設したものと推定される。

炉跡の検出はなかった。柱穴は1基のみの確認で、土器片が検出された。自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器鉢・甕、石器が検出された。うち1の鉢には鋸歯文が施され、内外面に赤彩が着色されている。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第30図 第7号住居跡

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

No	品種	口徑	器高	底径	胎土	色調	使用	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器鉢				ABJH	外面：にぶい黄褐色 10YR 7/3 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	B	口縁部片	外面：ヘラミガキ 内面：地文は縦、甲斐縄文、ヘラ掻きによる鋸歯文	内外面赤彩
2	弥生土器甕		(H.5)	4.8	ABIJM	外面：にぶい黄褐色 10YR 7/2 内面：灰白 10YR 8/1	B	胴部下半～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
3	弥生土器甕		(H.9)	(H.2)	AIJM	外面：灰褐色 7.5YR 4/1 内面：灰褐色 7.5YR 3/1	B	底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
4	石製磨石	最大長 12.0	最大幅 8.9	最大厚 8.2	重さ 1580 g			完形	表面は1面、他面に凹石のような窪みあり	輝石安山岩

第8号住居跡 (第32、33図)

B区に位置し、M・N-10グリッドから検出した。第4号方形周溝墓、第2号河川跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

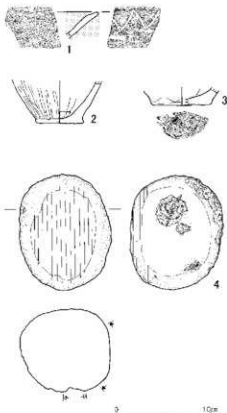
平面プランは、おおよそ半分が第4号方形周溝墓に切られていたため詳細は不明であるが、隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で3.13 m、短軸で4.86 m、深さは0.23 m測り、主軸方向は、N-15°-Eを指す。

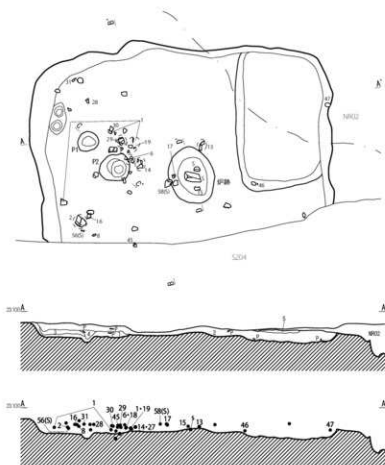
床面は、黒褐色粘質土を凹凸箇所を平らに整形しており、踏み固めたように土が締まっている。また東に0.15 m程度の深さの方形のプランをもつ。

断面は残存状態が悪いが、堆積は西側から埋設している。大部分を第2層の黒色の胎土が占める。河川の氾濫による堆積と推定される。

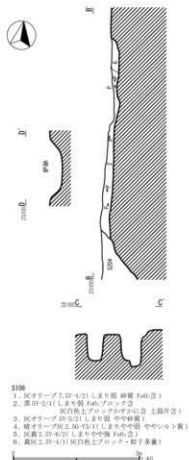
炉跡は推定される住居のほぼ中央から検出された。少量の炭化物と焼土が確認でき、底部には炉囲の岩材が1点検出された。



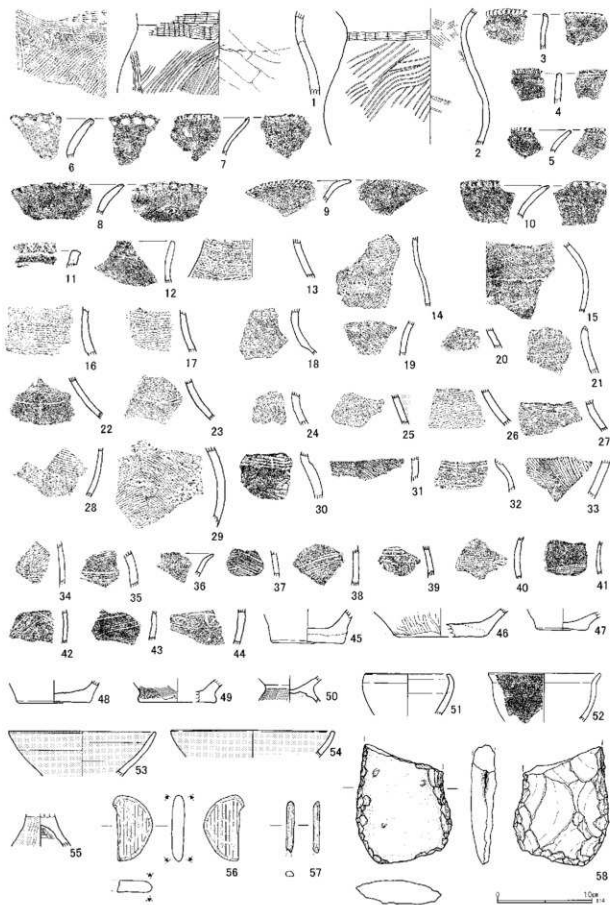
第31図 第7号住居跡出土遺物



第32図 第8号住居跡



- 33図
1. 灰タラップ 2.03-4.21 (しまり堀 粘質 F6の倉)
 2. 溝 03-21 (しまり堀 F6b, プロック溝)
 3. 灰タラップ 03-21 (しまり堀 やや粘質)
 4. 踏子跡 灰土 03-21 (しまり堀 やや粘質 やや粘質)
 5. 灰土 03-21 (しまり堀 やや粘質)
 6. 溝 03-21 (しまり堀 粘質 F6の倉)



第33图 第8号住居跡出土遺物

第7表 第8号住居跡出土土物観察表(第33図)

No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	赤生土器 甕		(8.5)		ARCIM	外面: 黒灰 10YR 3/1 内面: 灰黄黒 10YR 6/2	B	胴部~胴部片	外面: 胴部2段の縞線状文(本一単位)、 胴部上平帯部位置付状文 内面: ヘラナデ	
2	赤生土器 甕	(14.4)			AGIM	明褐色 7.5YR 7/2	A	胴部~胴部下平 30%	外面: 縞線部縞線状文(本一単位)、 胴部上平帯部縞線状文 内面: ヘラナデ	
3	赤生土器 甕				ARCIM	外面: にじみ-黄橙 10YR 7/2 内面: にじみ-黄橙 10YR 6/3	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状工具による割み	
4	赤生土器 甕				ARM	外面: にじみ-黄橙 10YR 7/2 内面: にじみ-黄橙 10YR 6/4	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状ヘラによる割み 内面: 2本の縦位縞線	
5	赤生土器 甕				EBM	外面: にじみ-黄橙 10YR 6/3 内面: 明赤黒 5YR 5/6	B	口縁部 10%	外面: 口縁部部碎状工具による割み	
6	赤生土器 甕				AKM	黒褐 5YR 2/1	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状による波状の押捺	
7	赤生土器 甕				CM	外面: 黒灰 5YR 5/1 内面: 明赤黒 5YR 5/8	B	口縁部 10%	外面: 口縁部部碎状ヘラによる割み	
8	赤生土器 甕				ARHM	外面: 黒 7.5YR 4/4 内面: 黒 10YR 3/3	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状による波状の押捺	押捺された器種の断面が 内面に残る
9	赤生土器 甕				ARCIM	外面: にじみ-黄 7.5YR 6/4 内面: 赤黒 2.5YR 4/8	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状工具による割み 内面: ミガキ	内面赤帯
10	赤生土器 甕				ARM	外面: にじみ-黄 7.5YR 7/3 内面: にじみ-黄 7.5YR 6/4	B	口縁部片	外面: 口縁部部碎状による波状の押捺、口縁 部ヘラ目	押捺された器種の断面が 内面に深く残る
11	赤生土器 甕				MN	外面: 明赤黒 5YR 5/6 内面: にじみ-黄 7.5YR 6/4	B	口縁部 10%	外面: 口縁部部碎状子泥 内面: 風り輪の小さい波状文が6段以上出る	複合口縁
12	赤生土器 甕				ARI	外面: 黒 7.5YR 3/4 内面: 黒 5YR 6/6	B	口縁部片	外面: 地文はヘラ目、縞線状文	
13	赤生土器 甕	(4.1)			ARKM	黒 5YR 6/8	B	胴部 40%	外面: 縞線状文、縞線状文	
14	赤生土器 甕				AR	外面: 黒 5YR 6/6 内面: 黒 2.5YR 6/6	B	胴部片	外面: 縞線状文(本一単位)、縞線状文(4 本一単位)、縞線目録	
15	赤生土器 甕				AEIMN	明赤黒 2.5YR 5/6	B	胴部 10%	外面: 縞線部位置付状文	
16	赤生土器 甕				ARI	外面: 明赤黒 2.5YR 5/6 内面: にじみ-黄 5YR 6/4	B	胴部片	外面: 縞線状文(5本一単位)が2段	
17	赤生土器 甕				DM	外面: 明赤黒 5YR 5/6 内面: にじみ-黄 7.5YR 6/3	B	胴部 10%	外面: 縞線状文、縞線状文	
18	赤生土器 甕				AEM	外面: 灰黄黒 10YR 4/2 内面: にじみ-黄 7.5YR 6/3	B	胴部 10%	外面: 地文はヘラ目、縞線状文	
19	赤生土器 甕				ARL	外面: 黒 5YR 7/8 内面: 黒 2.5YR 6/8	B	胴部片	外面: 縞線状文(5本一単位)	
20	赤生土器 甕				DMN	外面: にじみ-黄橙 10YR 6/4 内面: 赤黒 7.5YR 3/4	B	胴部 10%	外面: 波線部内面に押捺状文	
21	赤生土器 甕				ARKM	外面: にじみ-黄橙 10YR 7/3 内面: にじみ-黄 7.5YR 6/4	B	胴部片	外面: 縞線状文(3本一単位)、縞線状文(4 本一単位)、斜行波線を波線とした縞線文	
22	赤生土器 甕				ARM	灰黄黒 10YR 8/4	B	胴部片	外面: 横位波線の区画内に渦巻文	
23	赤生土器 甕				ADHM	にじみ-黄橙 10YR 7/3	B	胴部片	外面: 横位波線の区画内に渦巻文	
24	赤生土器 甕				ARHK	外面: 灰白 10YR 8/2 内面: 灰白 10YR 7/1	B	胴部片	外面: 縞線状文及び波状文(3本一単位)	
25	赤生土器 甕				ARIJ	外面: にじみ-黄 7.5YR 7/4 内面: にじみ-黄橙 10YR 7/3	B	胴部片	外面: 波線(彫文)の区画内を円形竹管による 刺突で文巻	外面赤帯
26	赤生土器 甕				ACDHJ	外面: にじみ-黄 7.5YR 7/4 内面: にじみ-黄 7.5YR 7/3	B	胴部片	外面: 縞線状文(5本一単位)及び波状文(5 本一単位)	
27	赤生土器 甕				ARM	外面: 灰黒 7.5YR 3/2 内面: にじみ-黄 7.5YR 5/3	B	胴部片	外面: 縞線状文(4本一単位)及び波状文(4 本一単位)	
28	赤生土器 甕				ARJM	外面: にじみ-黄橙 10YR 7/3 内面: 黒 10YR 3/1	B	胴部片	外面: 縞線状文	
29	赤生土器 甕				ARI	外面: 灰黒 7.5YR 4/2 内面: 灰黒 7.5YR 3/2	B	胴部片	外面: 縞線部位置付状文	
30	赤生土器 甕				ARJM	黒 10YR 3/1	B	胴部~胴部片	外面: 縞線状文(4本一単位)	
31	赤生土器 甕				ARKM	外面: 黒 7.5YR 6/6 内面: 黒 7.5YR 2/2	B	胴部片	外面: 縞線状文	
32	赤生土器 甕				AM	外面: 黒灰 10YR 4/1 内面: 灰黄黒 10YR 6/2	B	胴上部 10%	外面: 縞線状文及び縞線状文	
33	赤生土器 甕				ARI	外面: 黒 10YR 5/1 内面: 黒灰 10YR 4/1	B	胴部片	外面: 縞線状文(4本一単位)	
34	赤生土器 甕				JM	外面: 黒灰 7.5YR 4/1 内面: にじみ-黄橙 10YR 7/2	A	胴部片	外面: 縞線状文	
35	赤生土器 甕				IM	外面: 黒 7.5YR 6/6 内面: にじみ-黄橙 10YR 5/3	B	胴部 10%	外面: ヘラミガキ、縞線横位波線	
36	赤生土器 小型甕				ARHM	黒 5YR 7/6	B	口縁部片	外面: 縞線による縦位・横位縞線	
37	赤生土器 甕				M	外面: にじみ-黄 7.5YR 7/4 内面: にじみ-黄橙 10YR 6/3	B	胴部 10%	外面: 縞線部位置付状文	
38	赤生土器 甕				BM	外面: 黒 7.5YR 3/1 内面: 灰黒 7.5YR 4/2	B	胴部 10%	外面: 縞線部位置付状文	
39	赤生土器 甕				AJM	灰黒 7.5YR 5/2	A	胴部片	外面: 縞線部位置付状文	
40	赤生土器 甕				ARIM	外面: 黒 5YR 7/6 内面: 黒 2.5YR 6/8	B	胴部片	外面: 縞線状文(7本一単位)及び波状文	
41	赤生土器 甕				AEMN	外面: にじみ-黄 5YR 7/4 内面: にじみ-黄 5YR 7/6	B	胴部片	外面: 縞線状文(5本一単位)	

No.	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
42	弥生土器 甕	-	-	-	ARJM	にぶい黄褐色 10YR 5/3	B	胴部片	外面：縹緞模位状文	
43	弥生土器 甕	-	-	-	ADH	外面：黒 10YR 2/1 内面：黒黒 10YR 3/1	B	胴部片	外面：縹緞模位状文 (4本一単位)	
44	弥生土器 甕	-	-	-	ARDJ	外面：黒灰 10YR 6/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	胴部片	外面：平行状彫面に刷文	
45	弥生土器 甕	(3.6)	(7.4)	-	ARHGM	黒黒 10YR 3/1	B	胴部下半～底部 30%	外面：縹緞模位で調整痕不明	
46	弥生土器 甕	(3.0)	(8.8)	-	ARHBM	外面：にぶい赤黒 5YR 5/4 内面：橙 5YR 6/6	B	胴部下半～底部 20%	外面：ヘウミガキ 内面：ヘウナデ	
47	弥生土器 甕	(2.2)	4.9	-	ARGJM	にぶい黄橙 10YR 7/3	B	底部 100%	外面：磨耗のため調整痕不明	
48	弥生土器 甕	(2.3)	(7.8)	-	AJM	外面：明赤黒 2.5YR 5/6 内面：橙 5YR 6/6	B	底部片	外面：磨耗のため調整痕不明	
49	弥生土器 甕	(2.5)	(7.9)	-	ARHGM	外面：にぶい赤黒 5YR 4/4 内面：黒灰 10YR 4/1	B	底部 90%	外面：ハク目 内面：ヘウナデ	
50	弥生土器 台付甕	(2.9)	-	-	ADGCM	外面：明赤黒 2.5YR 6/2 内面：縹緞模位 7.5YR 8/4 底部灰黒 7.5YR 6/2	A	胴部 20%	外面：ハク目 内面：熊ナデ	
51	弥生土器 甕	(8.6)	(14.4)	-	ARHJM	外面：明赤黒 2.5YR 5/6 内面：にぶい橙 7.5YR 6/4	B	口縁～胴部片	外面：磨耗著しく、部分的にヘウミガキ 内面：ヘウナデ	
52	弥生土器 甕	(12.0)	(5.1)	-	ARHBM	橙 7.5YR 7/6	B	口縁部片	外面：縹緞による縦位・横位刻線	
53	弥生土器 高坏	(15.4)	(4.7)	-	ARHJ	外面：にぶい橙 7.5YR 6/4 内面：灰黄緑 10YR 6/2	B	口縁部片	内外面赤彩	
54	弥生土器 高坏	(17.2)	(2.8)	-	BM	灰白 7.5YR 8/2	A	口縁部片	外面：ヘウミガキ 内面赤彩	
55	弥生土器 高坏	(3.5)	-	-	AJM	外面：黄黒 7.5YR 8/3 内面：黒 N 2/	A	胴部 50%	外面：ヘウミガキ 内面：ハク目	外面赤彩
56	石器 磨石	最大長 6.9	最大幅 0.8	最大厚 1.2	重さ 43.9 g			半分欠損	扁平な礫を素材とし、表面2面が磨面	砂岩
57	石器 棒状石製品	最大長 0.9	最大幅 0.9	最大厚 0.7	重さ 5.9 g			先端欠損	目立った加工痕無し、用途不明	頁岩
58	石器 打製石片	最大長 12.7	最大幅 10.0	最大厚 2.6	重さ 360 g			基部欠損	表皮面を多く残し、両側面から肉輪縁打でつぶしをつくり出しているが磨面ではない	粗砂岩 片部のみで基部を欠損 乱形片

柱穴は2基検出した。互いに近接しているため、建て替えによる掘り直しによるものと考えられる。

出土遺物は、住居の南西エリアに集中して確認されている。弥生土器壺・甕・鉢・鉢・高坏・台付甕、石器が検出された。主な壺は頸部に縹緞模位状文、波状文を、胴部に縹緞羽状文を施したものがある。

時期は、出土土器から弥生時代後期初頭～前半と推定される。

第9号住居跡 (第34、35図)

B区に位置し、M-11グリッドから検出した。第4号方形周溝墓、第18溝跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、おおよそ4分の3が重複関係にある遺構に切られていたため詳細は不明であるが、隅丸方形と推定される。

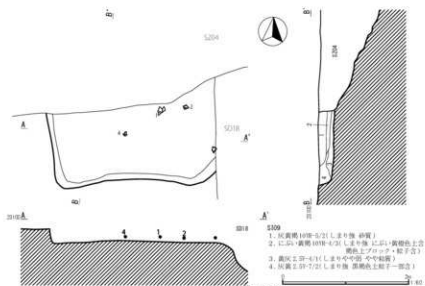
規模は、検出長軸で2.60 m、短軸で1.16 m、深さは0.25 m測り、主軸方向は、N-9°-Eを指す。

床面は、黒褐色粘質土を凹凸箇所を塞ぐことで、平らに整形しており、炉跡は検出されなかったが、中央付近の床からは炭化物や焼土痕が検出されていることから、炉跡は第4号方形周溝墓に切られたものと推定される。

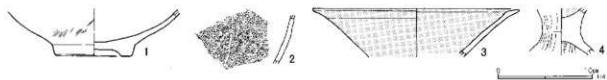
柱穴は検出されなかった。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏がわずかに検出された。

時期は、出土土器から弥生時代後期初頭～前半と推定される。



第34図 第9号住居跡



第35図 第9号住居跡出土遺物

第8表 第9号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

No.	品種	口徑	高さ	底径	物上	色調	構成	残存率	寸法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 皿	-	(5.0)	8.2	ADMIN	外底：にぶい硝子5YR7/4 内底：灰白土5YR6/2	B	胴部下半～底部10%	外底：ハケ目後ヘラナデ、輪付状の底部 内底：ヘラナデ	
2	弥生土器 器	-	-	-	ABDM	外底：にぶい硝子5YR7/4 内底：にぶい硝子5YR7/3	B	胴部片	外底：櫛目状文	
3	弥生土器 高杯	(2.6)	(5.1)	-	ABHM	外底：赤10R4/8 内底：赤10R3/8	B	杯部片	外底：ハケ目後ヘラミナ 内底：ヘラミナ	内外面赤彩
4	弥生土器 高杯	-	(4.9)	-	ABHKM	外底：浅黄緑10YR8/3 内底：黄オリーブ黒5Y3/1	B	胴部片	外底：摩耗面著で調整痕不明 内底：杯部ヘラミナ、櫛目ハケ目	内面環状赤彩

2 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第36、38図)

C区の東に位置しておりP・Q-14グリッドから検出した。

第30、32号溝跡、第12号土坑と重複関係にあり、本遺構が全ての遺構を切っていた。

建物跡は、掘立柱建物跡と推測され、規模は、1間のみを検出で 柱間は2.75 m (9尺)、面積は不明である。主軸方位は不明だが、柱軸はほぼ東西方向を指す。

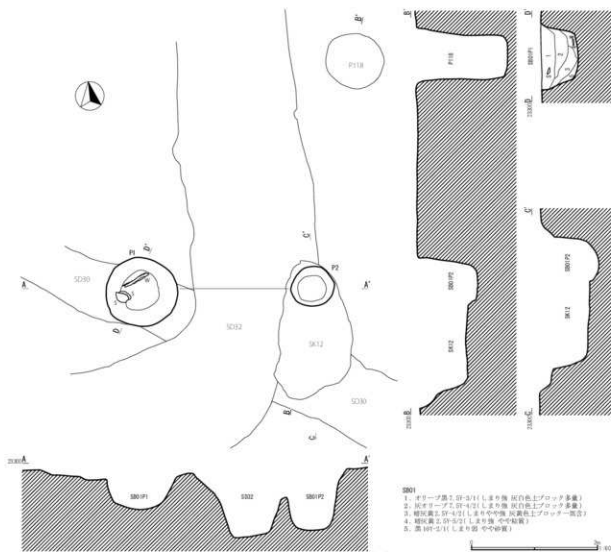
柱穴は楕円形の掘り跡があり、長軸0.6～1.1 m、短軸0.48～1.0 mを測る。

掘り方の深さは、いずれも確認面からP1が0.62 m、P2が0.97 mを測る。

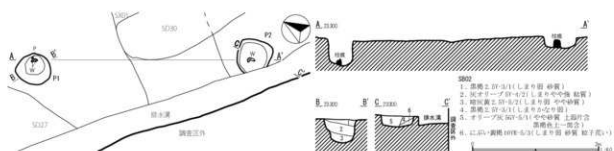
柱痕跡は、断面からは柱穴を確認することはできなかった。

土層断面観察からは柱穴が確認できず推定される柱の直径は、不明である。

出土遺物は、1点のみP1の柱穴痕内から土師器杯が1点出土した。出土量が少量のため、この遺構の時期は不明である。



第36図 第1号掘立柱建物跡



第37図 第2号掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 (第37、38図)

C区の西に位置しておりO-13グリッドから検出した。

直接切り合い関係にある遺構ではないが、第1号性格不明遺構と重複関係にある。

建物跡は、掘立柱建物跡と推測され、建物本体は南に展開すると推定される。

規模は、1間のみを検出で 柱間は3.5 m (11.5 尺)、面積は不明である。主軸方位は不明だが、柱軸は北西方向を指す。

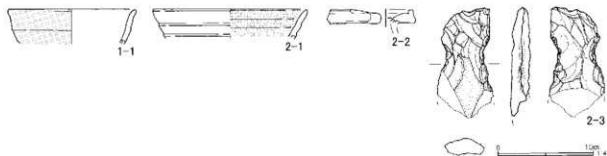
柱穴は楕円形の掘り跡があり、長軸 0.58 ～ 0.6 m、短軸 0.40 ～ 0.52 m を測る。

掘り方の深さは、いずれも確認面から P 1 が 0.35 m、P 2 が 0.19 m を測る。

柱痕跡は、平面上からは確認できなかったが、底部付近に高さ 0.8 ～ 1.0 m、径 0.1 m 程度の柱痕が残存していた。

土層断面観察からは柱穴が確認できず推定される柱の直径は、不明である。

出土遺物は、P 1 の柱穴痕内から 2 点出土した。この遺構の時期は不明である。



第 38 図 掘立柱建物跡出土遺物

第 9 表 掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 38 図)

遺物名	No.	品名	口径	高径	底径	出土	位置	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SB01P1	1-1	土師器 片	(13.0)	(3.8)	-	ABEHJM	外面：にぶい黄砂 10YR 7/2 内面：黄砂 2.5YR 6/2	B	残部 20%	内外面：ナデ	坏蓋縁部 外底面削
SB02P2	2-1	土師器 片	(16.0)	(3.0)	-	ABJ	外面：灰黄砂 10YR 6/2 内面：黒炭 10YR 3/1	B	口縁部片	内外面：ヨコナデ	有段口縁 内面黒色処理
SB02P1	2-2	陶器 片	-	-	-	ABM	外面：黒 7.5Y 4/3 内面：オリーブ鉄 10YR 5/2	B	口縁部片	口縁部 L 字状	須渚系 第 2 型式
SB02P1	2-3	石器 打製石片	最大長 (11.5)	最大幅 5.8	最大厚 1.9	重さ 140 g			刃部欠損	表裏面を残し、内面から内輪軸打で つぶしをつくり出している	白河

3 方形周溝墓

第 1 号方形周溝墓 (第 39、40 図)

A 区の西に位置しており B-1、B・C-2 グリッドから検出した。

検出されたのは南溝、東溝の全部と、西溝の一部の周溝である。第 2 号溝跡と重複関係にあり、第 2 号溝跡を切っていた。なお、調査区域外に接しているため、西溝、南溝の一部はトレンチ調査での検出である。また方台部は後世の攪乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は東周溝が 6.80 m、最大幅 1.50 ～ 1.70 m、確認面からの深さは 0.74 m、南周溝は 7.14 m、最大幅 1.30 m、確認面からの深さは 0.70 m、西周溝は検出長 1.09 m、最大幅 1.18 m ～ 1.26 m、確認面からの深さは 0.56 m を測る。

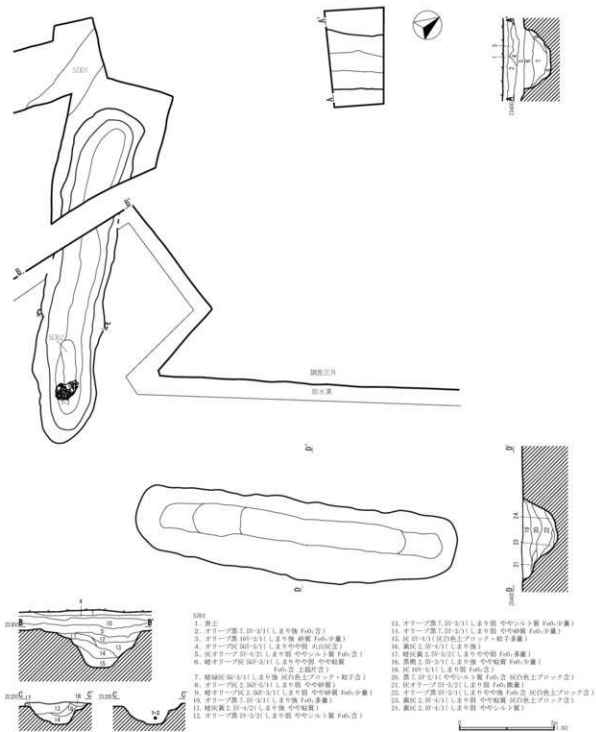
平面プランは四隅の切れるタイプと思われ、復元すると外縁の規模は 11.58 m、方台部は 8.78 m 程と推定される。

立ち上がりは鋭角であり、方台部側に顕著である。底面は西周溝がほぼ平坦、東、南周溝はやや方台部側に傾く。

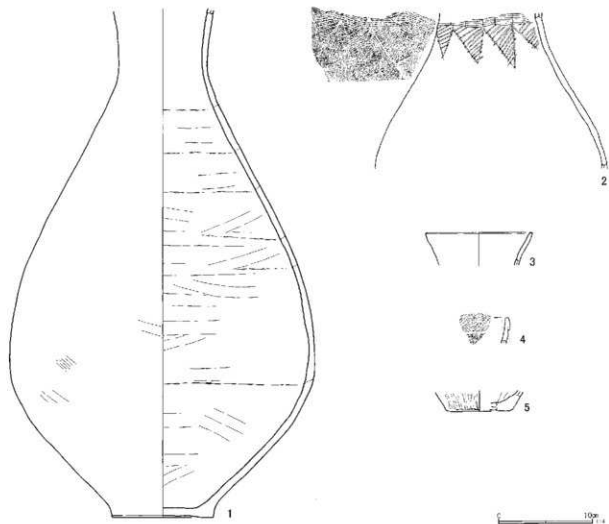
断面はいずれも 5 ～ 7 層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は南周溝からは器高 50 cm 大の弥生土器壺が確認されたほか、甕・鉢が、東周溝からは弥生土器壺・甕が検出された。西周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期前半と考えられる。



第 39 図 第 1 号方形周溝墓



第40図 第1号方形周溝墓出土遺物

第10表 第1号方形周溝墓出土遺物観察表 (第40図)

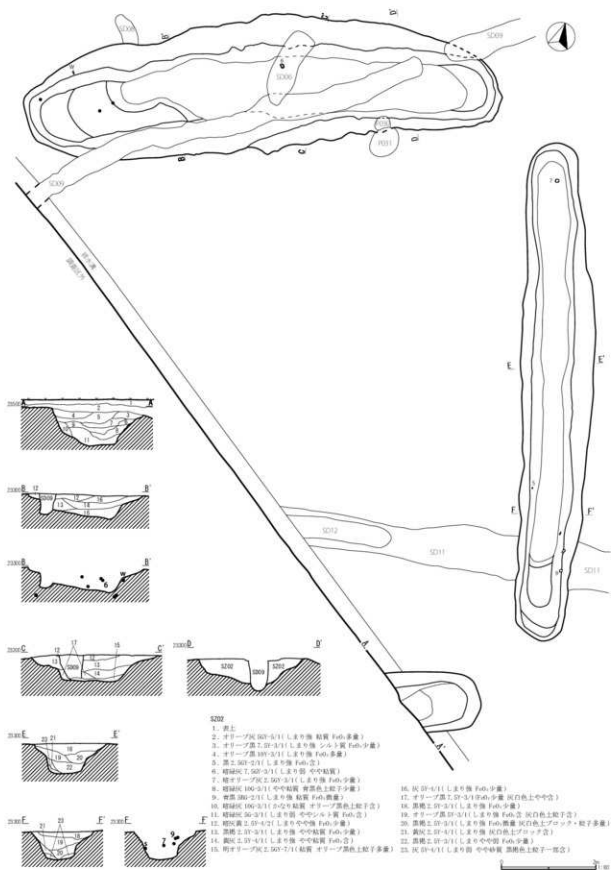
No	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	組成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	赤生土器 鉢	-	(5.4.5)	10.8	ABDMN	外面：橙 5YR 6/8 内面：黒灰 5YR 5/1	B	胴部～胴部～底部 60%	外面：摩耗のため調整痕不明。胴部下部分のみにハゲ目 内面：ヘラナデ	
2	赤生土器 鉢	-	(16.5)	-	ABGN	浅黄橙 7.5YR 8/4	B	胴部上半 20%	外面：磨損面(文付本一単位)。以下斜位沈殿を在壇した断面文	
3	赤生土器 鉢	(11.0)	(3.6)	-	ABG	にぶい橙 5YR 7/6	B	口縁部 20%	内外面：摩耗のため調整痕不明	
4	赤生土器 鉢	-	-	-	ABGK	にぶい橙 7.5YR 7/4	B	口縁部片	外面：LR 平部(縄文地に磨損)連山(彫文) 内面：土方子	折返し口縁 内外面赤影
5	赤生土器 鉢	-	(2.2)	(7.0)	ABG	にぶい黄橙 10YR 7/3	B	胴部下平～底部片	外面：ヘラミゴキ 内面：ヘラナデ	

第2号方形周溝墓 (第41、42図)

A区の中央に位置しており、D-3、C～E-4、D・E-5グリッドから検出した。

検出されたのは北溝、東溝の全部と、南溝の一部の周溝である。西溝は検出されていない。また方台部は後世の攪乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が 10.11 m、最大幅 2.38 ～ 2.84 m、東周溝は 10.51 m、最大幅 1.16 ～ 1.55 m、南周溝は検出長 1.54 m、最大幅 1.27 m を測る。



第 41 図 第 2 号方形周溝墓

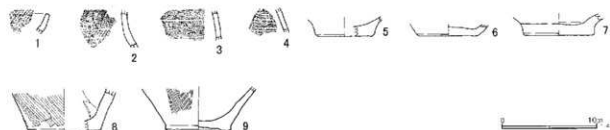
平面プランは四隅の切れるタイプであり、復元すると外縁の規模は14.85 m、方台部は11.46 m程と推定される。

確認面からの深さは、北周溝が0.45～0.57 m、東周溝は0.59～0.63 m、南周溝は0.42 m前後を測る。立ち上がりは鋭角であり、とくに東周溝は方台部側に顕著である。底面はいずれもほぼ平坦である。北溝は上壁の崩落により、幅が広がったものと考えられる。南周溝は、北端部の検出のみであったため、詳細は不明である。

断面は主に5～6層ほどがであり、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。北周溝のみは、後世の第9号溝跡により切られているため、不自然な土層断面となっている。

出土遺物は北周溝からは、弥生土器甕・鉢が、東周溝からは同じく壺・甕が検出された。南周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



第42図 第2号方形周溝墓出土遺物

第11表 第2号方形周溝墓出土遺物観察表 (第42図)

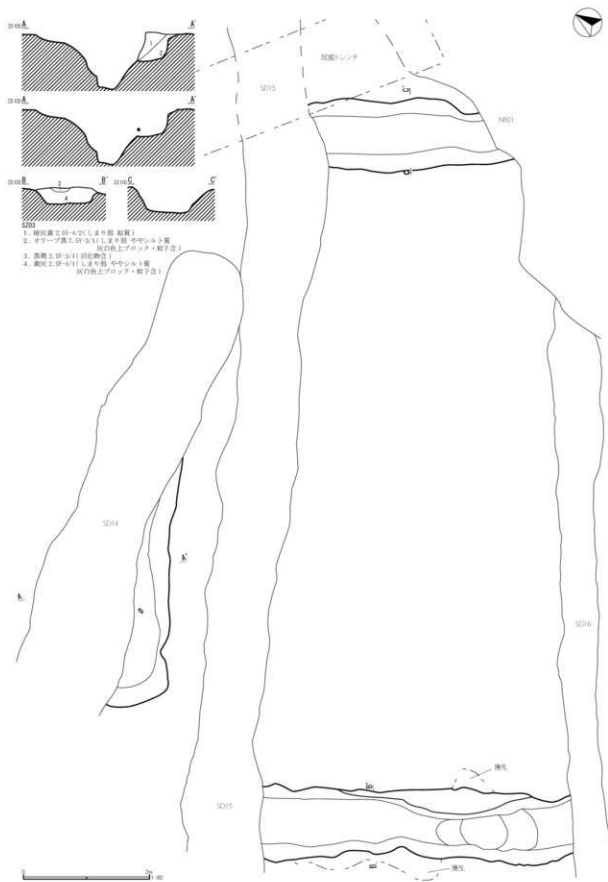
No	器種	口径	器高	底径	出土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 鉢	-	-	-	ABM	灰黄緑 10YR 4/2	B	口縁部片	外面：口縁・底部LR 半部縄文地に2条の巻掛状文	
2	弥生土器 甕	-	-	-	ABKM	外面：灰黄緑 10YR 4/2 内面：黄灰 10YR 4/1	B	胴部片	外面：胴部LR 半部縄文、平行沈線	
3	弥生土器 甕	-	-	-	ABKM	外面：黒 5Y 2/1 内面：にぶい黄緑 10YR 5/3	B	胴部片	外面：ハツ目、横位平行沈線	
4	弥生土器 甕	-	-	-	ABDM	にぶい黄緑 10YR 7/3	B	胴部片	外面：5条以上の平行沈線	
5	弥生土器 甕	(2.0)	(5.0)	-	ABKM	外面：黒 5Y 2/1 内面：橙 5YR 6/6	B	底部 20%	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
6	弥生土器 甕	(1.2)	6.1	-	ABDM	にぶい橙 7.5YR 7/4	B	底部 100%	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
7	弥生土器 甕	(2.3)	7.4	-	BGJM	にぶい黄緑 10YR 7/2	A	底部 90%	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
8	弥生土器 甕	(4.4)	(7.0)	-	ABKM	黒黒 7.5YR 3/1	B	胴部下半～底部 20%	外面：ハツ目 内面：ハツナ目	
9	弥生土器 甕	(4.7)	6.8	-	DGHJ	にぶい橙 5YR 7/4	A	胴部下半～底部 25%	外面：ハツ目、底部輪付状	

第3号方形周溝墓 (第43、44図)

A区の東に位置しており、E～G-5、F-6グリッドから検出した。

検出されたのは北西溝、北東溝、南西溝のそれぞれ一部の周溝である。南東溝に当たる部分は検出されていない。また方台部は後世の擾乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北西周溝が検出長2.98 m、最大幅0.55 m、北東周溝は検出長2.68 m、最大幅1.12 m、南西周溝は検出長4.97 m、最大幅0.85～1.09 mを測る。



第43図 第3号方形周溝墓

平面プランは四隅の切れるタイプであり、復元すると外縁の規模は12.06 m、方台部は9.83 m程と推定される。

確認面からの深さは、北西周溝が0.46 m、北東周溝は0.38 m、南西周溝は0.26 m前後を測る。残存状態がよくないため、一部のみの判断であるが、立ち上がりはやや方台部側に鋭角である。底面はいずれもほぼ平坦である。北西周溝は、一部のみの検出であったため、詳細は不明である。

断面は残存状態がよくないため、いずれも2層程度の確認である。やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は北西周溝からは、弥生土器壺が、南西周溝からは同じく壺が検出された。北東周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



第44図 第3号方形周溝墓出土遺物

第12表 第3号方形周溝墓出土遺物観察表 (第44図)

No.	図種	土班	部高	直径	粘土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	-	-	ABDGL	外面：にぶい黄緑 10YR 7/4 内面：にぶい黄緑 10YR 7/2	B	側面部	外面：RL 早期縄文地に2条以上の横位平行沈線・漏網文	
2	弥生土器 壺	-	-	-	ABGJ	外面：にぶい黄緑 10YR 7/2 内面：純黒 10YR 4/1	B	側面部	外面：LR 早期縄文	
3	弥生土器 壺	-	-	-	AGIN	外面：黒 7.5Y 2/1 内面：にぶい黄緑 10YR 6/3	B	側面部	外面：ハケ目	

第4号方形周溝墓 (第45～52図)

B区の西に位置しており、L～N-10、L・M-11 グリッドから検出した。

検出されたのは南東溝の一部の周溝である。それ以外の周溝は検出されていない。また方台部は第2号河川跡の攪乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は検出長19.23 m、最大幅2.25～3.38 mを測る。

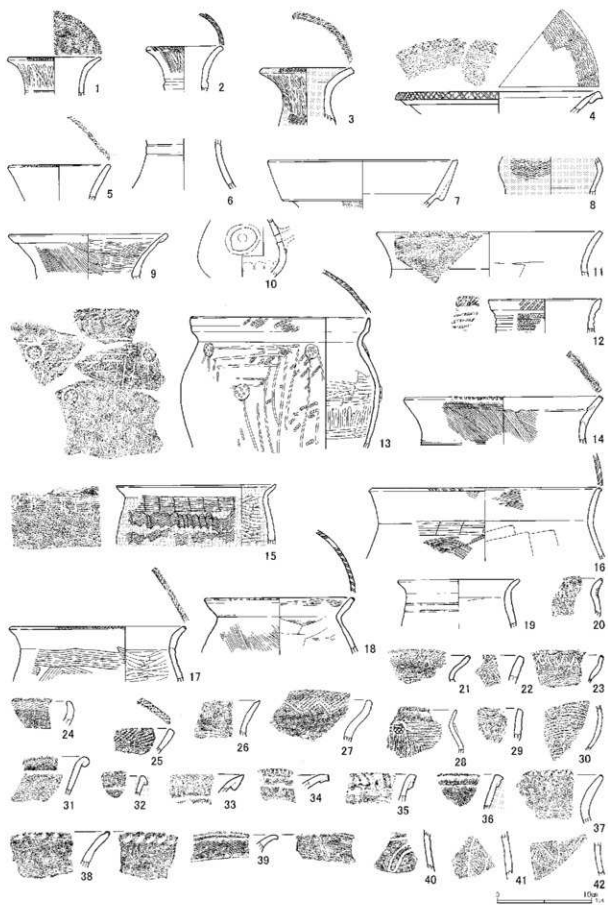
平面プランは四隅がつながる全周タイプと推定される。

確認面からの深さは0.89～0.98 mを測る。立ち上がりは方台部側に鋭角である。底面はやや外縁部へ傾斜する。

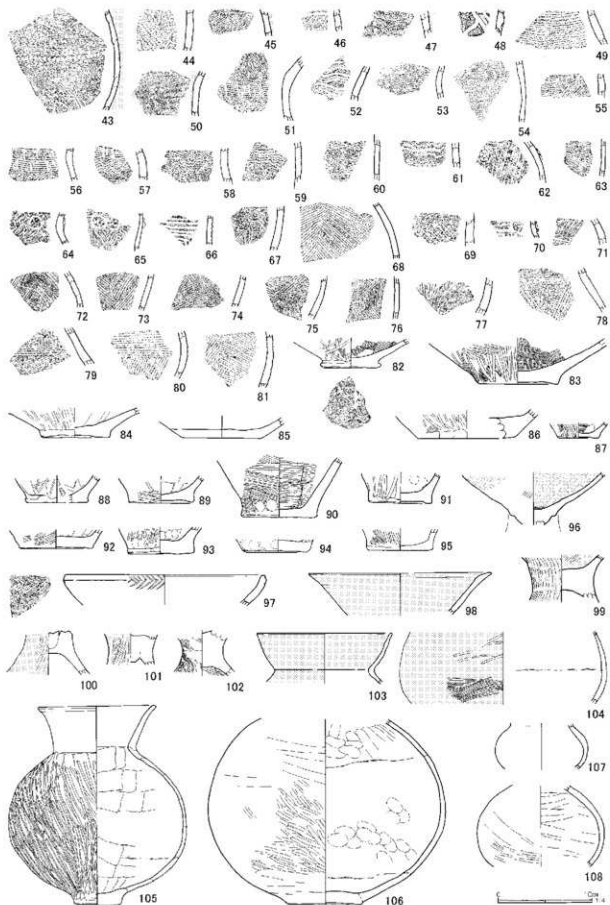
断面は10層確認され、下層はレンズ状に堆積し、A-A'の第2号河川跡側に近い第9層以上、特に第4層は35 cmの厚さが堆積しており、河川の氾濫によるものと思われる。

出土遺物は本調査における方形周溝墓のなかでも最大の出土量であり、図示しただけで200点以上を数える。主な出土遺物は、弥生土器壺・甕・小型甕・台付甕・高坏、土師器壺・甕・台付甕・甌・鉢・小型鉢・坏・高坏・器台、土製品、石器、木製品が検出されている。弥生土器の一部は重複関係にある第8、9号住居跡の遺物も検出されている。特徴的な遺物としては、外来系の土器が多く検出されている。また、環状磨製石斧とされるものも1点ある。

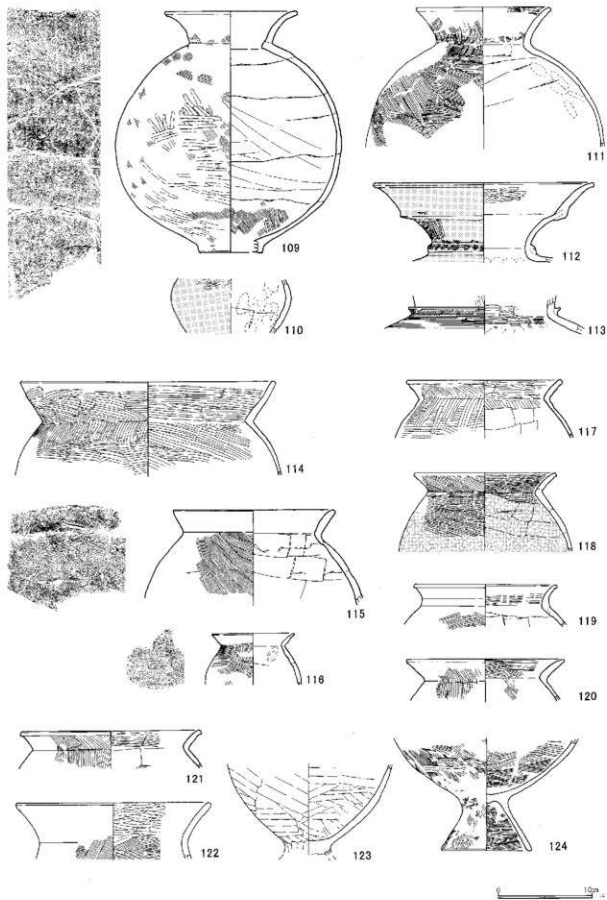
時期は、出土遺物から古墳時代前期初頭と考えられる。



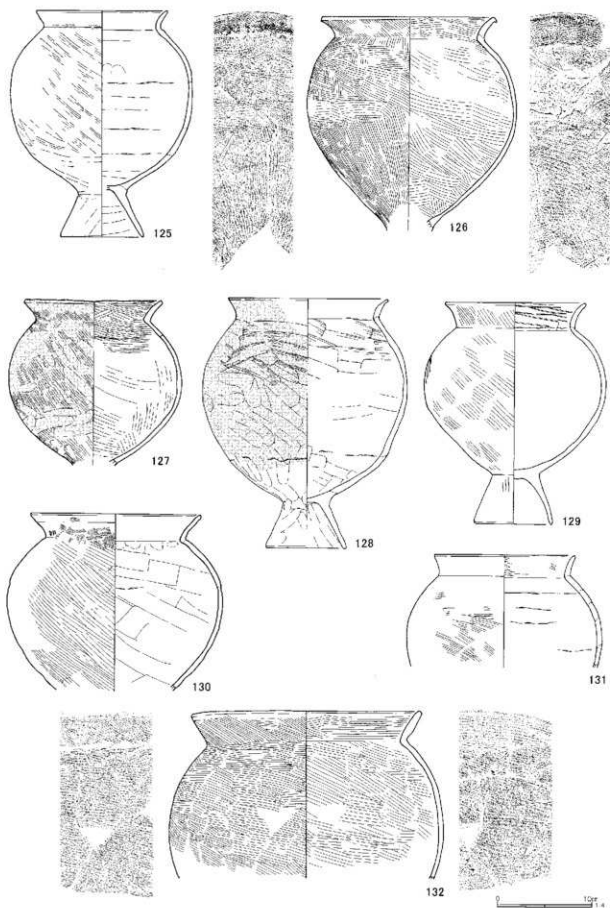
第 46 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(1)



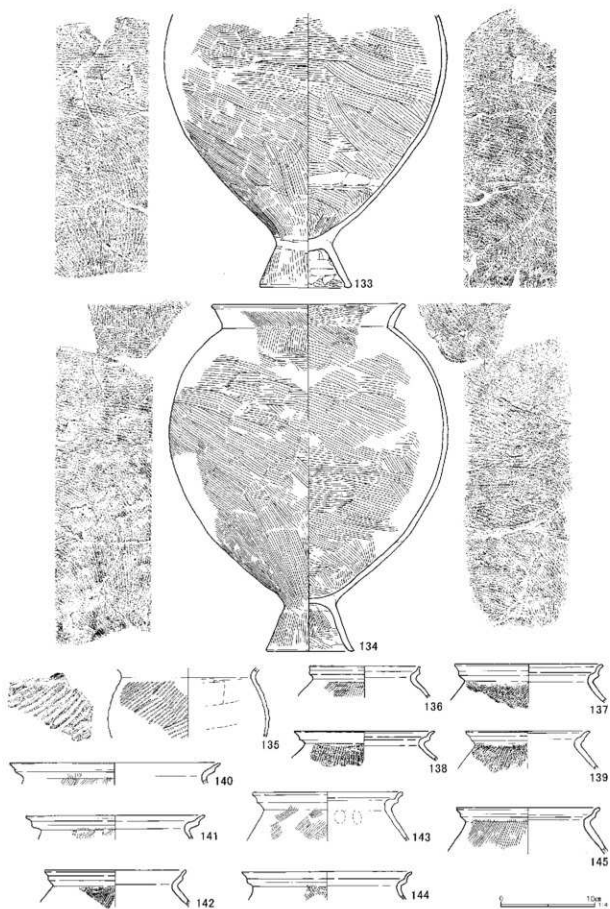
第 47 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(2)



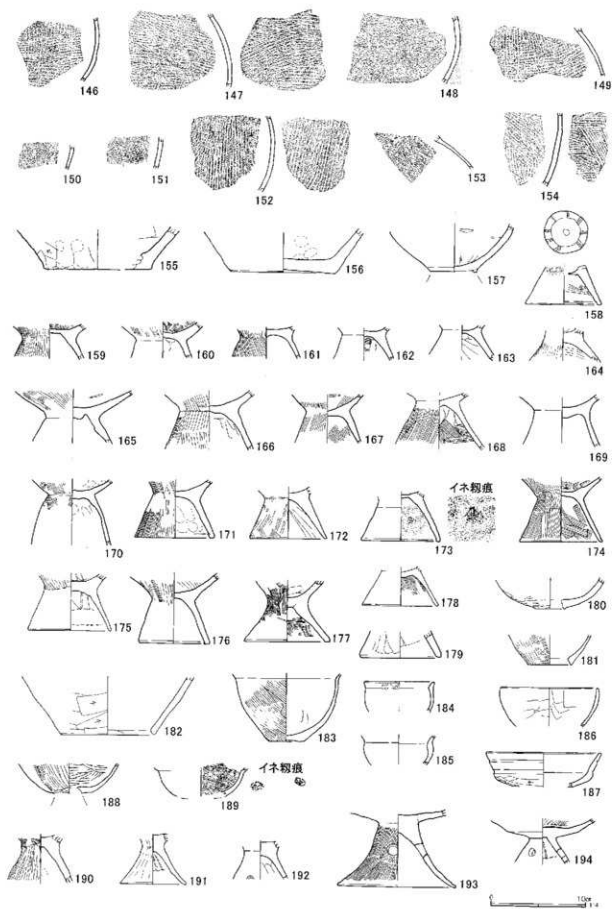
第 48 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(3)



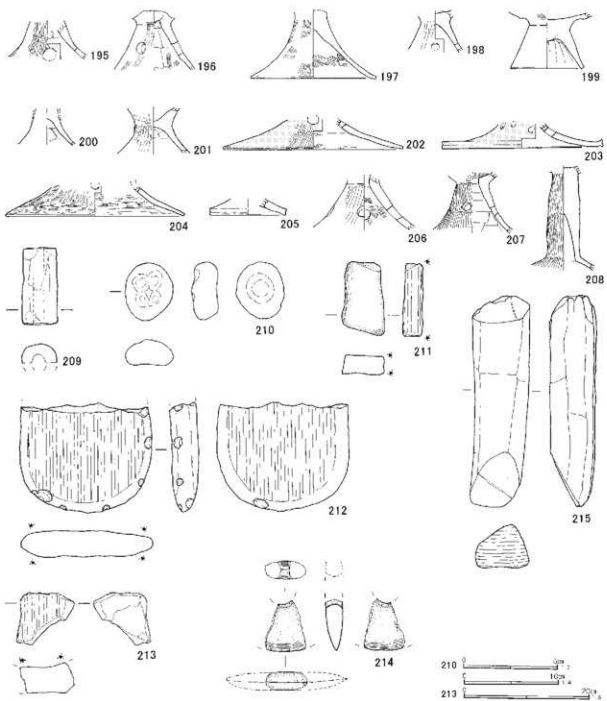
第49图 第4号方形周溝墓出土遺物(4)



第 50 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(5)



第 51 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(6)



第 52 图 第 4 号方形周溝墓出土遺物(7)

第13表 第4号方周溝墓出土遺物観察表(1) (第46～52図)

No	図種	口径	高さ	底径	出土	色調	構成	内存在	手法、形態の特徴等	備考
1	赤生土器 甕	Φ7.7	3.9	-	ABM	にぶい黄褐色 10YR 7/4	B	口縁～頸部 20%	外面：頸部縁位沈陥、ヘラミガキ 内面：口縁部から口縁部直上区、彫筋縄文	
2	赤生土器 甕	7.7	(4.8)	-	ABJM	黒褐色 7.5YR 3/1	B	口縁～頸部 20%	外面：口縁部直上区 単節縄文、頸部ヘラミガキによる平行沈陥、ヘラミガキ	
3	赤生土器 甕	Φ4	Φ6.1	-	ABM	外面：灰褐色 7.5YR 6/2 内面：灰黒色 10YR 6/2	B	口縁～頸部 20%	外面：口縁部直上区 単節縄文、ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	内外面赤彩
4	赤生土器 甕	Φ1.0	Φ2.3	-	AJM	褐色 5YR 7/6	B	口縁部 5%	外面：口縁部直上区 格子状沈陥 内面：2段以上の縞帯状沈陥(7本一単位)	複合口縁
5	赤生土器 甕	(10.4)	(3.8)	-	ABDG1	にぶい褐色 7.5YR 7/4	B	口縁部 5%	外面：口縁部直上区 単節縄文 内面：ヘラミガキ	
6	赤生土器 甕	-	(5.4)	-	ABCMN	明赤期 2.5YR 5/6	B	頸部 5%	外面：頸部ヘラミガキによる平行沈陥が通る	
7	赤生土器 甕	(20.0)	(5.0)	-	ABDGHJLN	褐色 5YR 7/6	B	口縁～頸部 5%	外面：頸部ヘラミガキ	複合口縁
8	赤生土器 甕	-	(4.0)	-	AM	にぶい褐色 7.5YR 7/4	A	胴部上半片	外面：2段以上の縞帯状沈陥(本一単位)	内外面赤彩 複合口縁
9	赤生土器 甕	(16.0)	(4.8)	-	ABDFIN	外面：にぶい褐色 2.5YR 6/4 内面：灰黒色 10YR 5/2	B	口縁部片	内外面：ハケ目	折返し口縁
10	赤生土器 甕	-	(6.1)	-	ABDM	外面：灰黒色 10YR 5/2 内面：黒 10YR 2/1	A	胴部片	外面：摩耗のため調整不明 内面：指ナデ、指筋直線	注口土器
11	赤生土器 甕	(23.3)	(4.8)	-	ABM	外面：灰黒色 10YR 4/2 内面：にぶい黄褐色 10YR 6/3	B	口縁～頸部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、頸部縞帯状沈陥 内面：ヘラミガキ	
12	赤生土器 甕	(11.8)	(3.6)	-	ABDK	外面：にぶい褐色 7.5YR 7/3 内面：黒色 10YR 6/1	B	口縁～頸部片	外面：口縁から頸部 LR 単節縄文、頸部深い平行沈陥	
13	赤生土器 甕	(9.1)	(3.8)	-	BM	灰白 10YR 8/2 灰白 10YR 8/1	A	口縁～胴部 40%	外面：口縁部直上区 胴部 LR 単節縄文、胴部コノ字突起をなす、6～8個の円形突起を欠けたボタンの状態付付文 内面：ヘラミガキ後ヘラミガキ	受口口縁
14	赤生土器 甕	(20.4)	(5.0)	-	ABJLN	褐色 5YR 4/1	B	口縁部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、ハケ目を施すとし、縞帯直線付付文 内面：口縁部直上区に折返し、ハケ目	
15	赤生土器 甕	(16.0)	(6.4)	-	ABJLM	黒褐色 10YR 3/1	B	口縁～胴部上半 30%	外面：頸部縞帯状沈陥(8本一単位)、胴部上半縞帯状沈陥(本一単位、2段) 内面：ヘラミガキ後ヘラミガキ	内外面又久付着
16	赤生土器 甕	(24.2)	(7.6)	-	ABDM	外面：にぶい褐色 7.5YR 6/3 内面：にぶい黄褐色 10YR 6/3	B	口縁～胴部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、頸部縞帯状沈陥(本一単位)、指筋直線付付文 内面：口縁部ハケ目、縞帯以下ヘラミガキ	
17	赤生土器 甕	(18.4)	(5.0)	-	ABM	灰黒期 10YR 5/2	B	口縁～胴部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、頸部深い沈陥文(本一単位)、その下に縞帯直線付付文 内面：ヘラミガキ	
18	赤生土器 甕	(15.5)	(5.0)	-	ABJM	にぶい褐色 7.5YR 6/4	B	口縁部片	外面：口縁部直上区 調整に使う工具で殆く、胴部ハケ目 内面：ハケ目後ヘラミガキ	
19	赤生土器 甕	(12.6)	(5.2)	-	ABM	外面：にぶい黄褐色 10YR 6/3 内面：浅黄褐色 10YR 8/3	B	口縁～胴部上半片	外面：口縁部縞帯状沈陥(2本一単位) 内面：ヘラミガキ	
20	赤生土器 小甕	-	-	-	AJM	褐色 5YR 6/6	B	口縁～胴部片	外面：口縁部直上区 格子状沈陥ハケ目、胴部・口縁部縞帯状沈陥(本一単位)	
21	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	にぶい褐色 7.5YR 6/4	B	口縁～胴部片	外面：口縁部縞帯状沈陥(本一単位)、胴部 LR 単節縄文、頸部縞帯状沈陥	
22	赤生土器 甕	-	-	-	GJMN	褐色 5YR 7/6	B	口縁部片	外面：縞帯状沈陥、円形突起による刺突を有した縞帯文	
23	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：明赤 7.5YR 4/1 内面：黒色 7.5YR 3/1	B	口縁部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、ヘラミガキによる山形文	受口口縁
24	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	灰褐色 7.5YR 6/2	B	口縁部片	外面：口縁部縞帯状沈陥(本一単位)	
25	赤生土器 甕	-	-	-	AB	外面：にぶい黄褐色 10YR 7/2 内面：灰黄 2.5Y 7/2	B	口縁部片	外面：口縁部・胴部 LR 単節縄文	
26	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	にぶい赤褐色 5YR 5/4	B	口縁部片	外面：頸部縞帯状沈陥	
27	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：灰黒期 10YR 6/2 内面：黒色 10YR 4/1	B	口縁部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、口縁部 LR 単節縄文地に縞帯状沈陥(2本一単位)	
28	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：灰黒期 10YR 5/2 内面：にぶい褐色 7.5YR 6/3	B	口縁～胴部片	外面：口縁部直上区 単節縄文、胴部 LR 単節縄文地にコノ字突起文、突起の頂点に円形突起されたボタンの状態付付文が付く 内面：ヘラミガキ	
29	赤生土器 甕	-	-	-	AJMN	外面：褐色 5YR 7/8 内面：にぶい褐色 7.5YR 6/4	B	口縁部片	外面：縞帯状沈陥、円形突起による刺突文	
30	赤生土器 甕	-	-	-	ABD	外面：にぶい黄褐色 10YR 6/3 内面：にぶい黄褐色 10YR 5/3	B	胴部片	外面：縞帯状沈陥 内面：ヘラミガキ	
31	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：灰褐色 7.5YR 5/2 内面：灰褐色 7.5YR 6/2	B	口縁部片	外面：口縁部直上区に施す細い格子状沈陥、胴部平行沈陥、縞帯状沈陥 内面：ヘラミガキ	折返し口縁

第13表 第4号方形周溝墓出土遺物観察表(2) (第46～52図)

No	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
32	赤生土器				ABDM	外面：赤黒 10R-4/4 内面：赤黒 10R-5/4	B	口縁部片	外面：口縁部LR 卑部織文、ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	内外面赤彩 新返し口縁
33	赤生土器				ABDHM	楕 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：摩耗面等で調整面不明	複合口縁
34	赤生土器				ABDM	外面：にぶい楕 7.5YR-7/4 内面：にぶい楕 7.5YR-6/3	B	口縁部片	外面：口縁部部障ヘラ状工具による部み	新返し口縁
35	赤生土器				ADHJMN	楕 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：肥厚した口縁部部障圧痕	新返し口縁
36	赤生土器				AM	外面：にぶい赤黒 5YR-5/4 内面：にぶい楕 5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁部部障圧痕	外面赤彩 新返し口縁
37	赤生土器				ABM	外面：にぶい黄黒 10YR-4/3 内面：にぶい黄黒 10YR-7/4	B	口縁部 20%	口縁部部障のみ、部障部障織文	
38	赤生土器				ABDJM	外面：黒帯 10YR-3/1 内面：灰帯 7.5YR-5/2	B	口縁部片	外面：ハケ目、口縁部部障く彫削も残るヘア状の部障圧痕	
39	赤生土器				ABDM	楕 10YR-4/1	B	口縁部片	内外面：ハケ目	
40	赤生土器				ABDM	にぶい楕 7.5YR-6/4	B	胴部上平片	外面：赤黒及び黄黒の沈殿を施し、面影区画内にLR 卑部織文を充填する	
41	赤生土器				AMN	外面：黒帯 10YR-4/1 内面：浅黄帯 10YR-6/2	B	胴部 10%	部下する舌状文をヘラ描きし、その中を黒、卑部織文で充填	
42	赤生土器				ABI	外面：にぶい黄帯 10YR-7/3 内面：黒帯 N/3	B	胴部片	外面：ヘラ描き沈殿文、LR 卑部織文	
43	赤生土器				ABDHM	外面：赤 10R-4/6 内面：にぶい黄帯 10YR-7/2	B	胴部片	外面：中位円形刺突の刺点文が通り、上半部は沈殿 内面：輪帯部障	外面赤彩
44	赤生土器				ABJM	外面：黒帯 10YR-4/1 内面：にぶい黄帯 10YR-7/2	B	胴部片	外面：LR 卑部織文、沈殿の黒帯文状区画内を充填し	
45	赤生土器				ABDEHJ	にぶい楕 7.5YR-7/3	B	胴部上平片	外面：LR 卑部織文	外面赤彩
46	赤生土器				ABDJM	外面：灰帯 7.5YR-4/2 内面：灰帯 7.5YR-5/2	B	胴部片	外面：ヘラ描きによる太い沈殿とLR 卑部織文	
47	赤生土器				IM	外面：赤 10R-5/8 内面：黒 7.5YR-2/1	B	胴部片	外面：ヘラ描沈殿の区画内に円形刺突文	外面赤彩
48	赤生土器				ABJ	外面：黒帯 7.5YR-5/1 内面：にぶい楕 7.5YR-6/3	B	胴部片	外面：太い沈殿	
49	赤生土器				ABDJM	外面：にぶい楕 7.5YR-6/4 内面：にぶい楕 7.5YR-7/4	B	胴部～肩部片	外面：部障織文、波状文	
50	赤生土器				ABGHJ	外面：にぶい楕 7.5YR-7/3 内面：赤帯 2.5YR-4/6	B	胴部片	外面：ハケ目後、部障織文、彫り幅の小さな部障織文 内面：ミガキ	内面赤彩
51	赤生土器				ABDM	にぶい楕 5YR-7/4	B	胴部片	外面：部障織文、帯状文 (8 本一単位)	
52	赤生土器				AJM	黒帯 10YR-3/2	B	胴部片	外面：部障が幅広な部障織文	
53	赤生土器				ABJM	にぶい楕 5YR-6/4	B	胴部片	外面：部障織文 (8 本一単位)、波状文	
54	赤生土器				ABDM	外面：にぶい黄帯 10YR-7/3 内面：浅黄帯 7.5YR-8/4	B	胴部片	外面：3 段の部障織文 (8 本一単位)、その上下に横位直線文	
55	赤生土器				AEIJM	外面：黒帯 10YR-3/2 内面：黒帯 10YR-3/1	B	胴部片	外面：部障織文、縦位直線文	
56	赤生土器				ABI	外面：にぶい楕 7.5YR-7/4 内面：にぶい楕 7.5YR-6/4	B	胴部片	外面：2 段以上の部障織文 (8 本一単位)、縦位直線文	
57	赤生土器				ABDM	楕 7.5YR-4/2	B	胴部上平片	外面：部障織文、波状文	
58	赤生土器				ABDJM	にぶい黄帯 10YR-7/2	B	胴部片	外面：2 段以上の部障織文	
59	赤生土器				BJM	外面：にぶい黄帯 10YR-4/3 内面：黒 10YR-2/1	B	胴部片	外面：部障織文	
60	赤生土器				AJMN	外面：黒帯 7.5YR-4/2 内面：にぶい楕 7.5YR-7/4	B	胴部片	外面：ハケ目後2 段以上の部障織文	
61	赤生土器				AJIM	浅黄帯 10YR-6/2	B	胴部片	外面：ハケ目後彫り幅の小さな部障織文	
62	赤生土器				IM	外面：灰黄帯 10YR-4/2 内面：にぶい赤帯 10YR-5/3	B	胴部片	外面：コ字状赤帯文に円形刺突 6 個のボタシ状彫付文	
63	赤生土器				AHIN	外面：にぶい黄帯 10YR-6/3 内面：黒帯 10YR-4/1	B	胴部片	外面：2 段以上の部障織文 (5 本一単位)	
64	赤生土器				AIM	外面：にぶい楕 5YR-7/4 内面：楕 5YR-6/6	B	胴部片	外面：縦位ヘラ部障織文に円形刺突 10 個のボタシ状彫付文	
65	赤生土器				ABJM	外面：にぶい黄帯 10YR-6/3 内面：にぶい楕 7.5YR-7/3	B	胴部片	外面：部障織文 (4 本一単位) に円形刺突のボタシ状彫付文	
66	赤生土器				ABI	外面：にぶい楕 7.5YR-5/3 内面：にぶい黄帯 10YR-7/3	B	胴部片	外面：ヘラ部障直内角文	
67	赤生土器				ABM	外面：にぶい楕 7.5YR-7/4 内面：浅黄帯 7.5YR-8/3	B	胴部片	外面：部障直内角文	

No.	品種	口徑	器高	底径	製工	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
68	赤生土器 甕				ARI	外面：にぶい赤陶 5YR-4/3 内面：灰黄陶 10YR-5/2	B	胴部上半片	外面：磨蝕縦位羽状文	
69	赤生土器 甕				AM	外面：明赤陶 2.5YR-5/6 内面：黄灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：へら割陶面による器格子文	
70	赤生土器 甕				AB	外面：灰黄陶 10YR-6/2 内面：灰黄陶 10YR-8/3	B	胴部上半片	外面：コの字状重ね文に内折割突6個のボタ ン彫付	
71	赤生土器 甕				ABEM	外面：黒 8Y-2/ 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：磨蝕縦位羽状文	
72	赤生土器 甕				ABIK	黄灰 7.5YR-4/1	B	胴部片	外面：磨蝕縦位羽状文	
73	赤生土器 甕				ARI	外面：黒陶 7.5YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：磨蝕縦位羽状文	
74	赤生土器 甕				AJM	外面：灰陶 7.5YR-4/2 内面：灰黄陶 10YR-4/2	B	胴部片	外面：磨蝕縦位羽状文	
75	赤生土器 甕				ARJM	にぶい黄 7.5YR-5/3	B	胴部下半片	外面：磨蝕縦位羽状文	
76	赤生土器 甕				ARJM	外面：黒陶 10YR-3/1 内面：灰黄陶 10YR-6/2	B	胴部片	外面：磨蝕器格子文	
77	赤生土器 甕				BIEM	外面：黒陶 5YR-2/1 内面：灰黄陶 10YR-6/2	B	胴部下位片	外面：傘下する磨蝕沈線	
78	赤生土器 甕				ARIJ	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：黄灰 10YR-4/1	B	胴部-胴部上半片	外面：磨蝕横位文 (3本一単位)、縦位羽状文	
79	赤生土器 甕				ABM	橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：磨蝕横位条線、縦位羽状文	
80	赤生土器 甕				AJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：10本の平行沈線部の上下にLR平 面陶文	
81	赤生土器 甕				ABEM	外面：黒陶 5YR-3/1 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：磨蝕縦位羽状文	
82	赤生土器 甕	(3.0)	(6.4)		ABGHIN	外面：黒 10YR-2/1 内面：黄灰 2.5YR-6/1	B	胴部下半~底部片	外面：磨蝕下半へラミガキ、底部本 面陶	内面：ハケ目
83	赤生土器 甕	(4.9)	8.4		ABDQMN	外面：黒 5Y-2/1 内面：灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部下半~底部 90%	外面：LR平面陶文條文飾ミガキ 内面：ハケ目	
84	赤生土器 甕	(3.1)	7.2		AGMN	黄灰陶 10YR-8/3	A	胴部下半~底部片	外面：へラミガキ 内面：へラナデ	
85	赤生土器 甕	(2.3)	(8.4)		AHIM	外面：黒陶 10YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	底部 40%	内外面：摩耗陶器で調整形不明	
86	赤生土器 甕	(3.0)	(10.0)		ABMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：灰白 10YR-7/1	B	底部 10%	外面：へラミガキ、下端へラナズリ	
87	赤生土器 甕	(1.7)	(4.4)		ABEL	外面：赤 10R-4/6 内面：黄灰陶 10YR-8/3	B	底部片	外面：へラミガキ 内面：へラナデ	外面赤影
88	赤生土器 甕	(2.6)	(6.4)		ABI	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：黄灰 10YR-5/1	B	底部片	外面：へラナデ飾ミガキ 内面：へラナデ	
89	赤生土器 甕	(2.9)	6.8		ABJM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：明赤陶 5YR-5/6	B	底部 100%	外面：へラミガキ、磨蝕L面 内面：へラナデ	
90	赤生土器 甕	(6.4)	8.0		ABM	黄灰陶 10YR-8/3	B	底部 100%	外面：ハケ目、下端磨蝕L面 内面：ハケ目	
91	赤生土器 甕	(3.5)	6.5		ARI	外面：灰黄陶 10YR-5/2 内面：灰黄陶 10YR-6/2	B	底部片	外面：底部上げ底状、へラナデ飾ミガキ 内面：へラナデ、磨蝕L面	
92	赤生土器 甕	(2.0)	(7.8)		ABKM	外面：黄灰陶 10YR-8/3 内面：黒陶 10YR-3/1	B	底部 50%	外面：ハケ目 内面：へラナデ	
93	赤生土器 甕	(2.9)	7.0		ABKM	外面：灰黄陶 10YR-5/2 内面：黄灰 2.5Y-5/1	B	底部 100%	外面：へラミガキ、下端磨蝕L面 内面：磨蝕L面	
94	赤生土器 甕	(1.4)	(7.0)		ABDM	外面：黄灰陶 7.5YR-8/3 内面：灰白 10YR-8/2	B	底部 100%	外面：下端磨蝕L面	
95	赤生土器 甕	(2.4)	6.9		ABDQMN	にぶい赤陶 5YR-5/4	B	底部 10%	外面：ハケ目 内面：へラナデ	
96	赤生土器 付付甕	(5.6)				外面：灰陶 7.5YR-5/2 内面：黒陶 10YR-3/1	B	胴部下半~接合部片	外面：ハケ目 内面：ハケ目後へラナデ	内外面スリ付着 接合部は胴部の 磨蝕部部に依り 凸凹タイプ
97	赤生土器 鉢	(21.8)	(3.3)		ABHL	外面：黄灰陶 7.5YR-8/4 内面：黄灰陶 7.5YR-8/3	B	口縁部片	外面：内筒意味に立ち上がる口縁部磨蝕L 面文	
98	赤生土器 高杯	(19.3)	(4.5)		ARI	明赤陶 2.5YR-5/6	B	杯部片	外面：へラミガキ 内面：磨蝕線をもつ、へラミガキ	内外面赤影
99	赤生土器 高杯	(5.1)			AEM	外面：赤陶 10R-6/6 内面：黒陶 5YR-2/1 にぶい黄橙 10YR-7/3	B	接合部片	外面：へラミガキ 内面：杯部へラミガキ、磨蝕へラナデ	外面・杯部内面 赤影
100	赤生土器 高杯	(4.7)			AGJM	外面：赤 10R-5/8 内面：黄灰陶 7.5YR-8/3	B	接合部~胴部片	外面：へラミガキ 内面：磨蝕へラナデ	外面赤影 杯部の磨が残存
101	赤生土器 高杯	(3.4)			ABMN	外面：赤陶 10R-4/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	接合部片	外面：へラミガキ 内面：へラナデ	外面赤影 杯部の磨が突出
102	赤生土器 高杯	(4.6)			ABIM	外面：灰黄陶 10YR-5/2 内面：高杯陶文 N-3/ 磨蝕にぶい黄橙 10YR-7/3	B	接合部片	外面：ハケ目後ミガキ 内面：杯部へラミガキ、磨蝕ハケ目、磨蝕L 面	
103	土師器 甕	(14.4)	(5.4)		DGM	黄灰陶 7.5YR-8/3	A	口縁~胴部 30%	内外面：へラミガキ	内外面赤影

第13表 第4号方周溝墓出土遺物観察表(3) (第46～52図)

No	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	内存在	手法、形態の特徴等	備考
104	土師器 壺	(7.6)			ABDM	外面：にぶい赤 7.5R/4 内面：浅黄緑 10YR 8/3	B	胴部片	外面：上平へうミガキ、下平ハケ目 内面：ヘラナデ	外面赤彩
105	土師器 壺	12.3	21.1	(5.0)	AGJ	黒焼 7.5YR 3/1	B	70%	内外面：口縁部コナデ、胴部ヘラナデ	
106	土師器 壺	(19.8)		7.6	ABDMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	胴部～底部 60%	外面：ヘラナデ後へうミガキ 内面：ヘラナデ、器部圧痕	
107	土師器 小空甕	(4.9)			ABKM	外面：にぶい橙 5YR 6/4 内面：にぶい橙 7.5YR 7/4	B	胴部 20%	内外面：摩耗著しく調査結果不明	
108	土師器 壺	(8.7)			ABJM	外面：浅黄緑 7.5YR 8/4 内面：灰焼 7.5YR 5/2	B	胴部 50%	外面：ヘラナズリ後へうミガキ 内面：ヘラナデ	
109	土師器 壺	(14.0)	25.8	(6.8)	ABDMN	外面：浅黄緑 7.5YR 8/4 内面：黒灰 7.5YR 6/1	B	80%	外面：ヘラナズリ後へうミガキ 内面：ヘラナデ	
110	土師器 壺	(5.8)			ABDM	外面：赤 10R 4/8 内面：灰黄緑 10YR 5/2	B	胴部 25%	外面：へうミガキ 内面：ヘラナデ後指痕圧痕	外面赤彩
111	土師器 壺	14.2	(14.9)		ABDMN	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	口縁～胴部上平 40%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ、器部圧痕	
112	土師器 壺	(23.4)	(8.4)		ABGMN	浅黄緑 7.5YR 8/4 内面：黒灰 10YR 6/1 が多い	A	口縁～胴部 50%	外面：胴部へうミガキ、器部・胴部の境に広がる突起・磨耗状工具での連続押捺の痕み 内面：口縁部へうミガキ、胴部ヘラナデ、器部指痕圧痕	外面赤彩 有段口縁加飾部
113	土師器 壺	(4.1)			GM	外面：浅黄緑 10YR 8/3 内面：灰白 10YR 8/2	A	胴部～胴部片	外面：胴部へうミガキ、突起部は灰白相対の磨耗状、器部は3段以上の磨耗横位状 内面：胴部へうミガキ、胴部ハケ目後指痕圧痕、ヘラナデ	加飾部
114	土師器 壺	26.6	(10.0)		ABMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	口縁～胴部 30%	内外面：ハケ目	
115	土師器 壺	17.0	(10.1)		ABJM	外面：にぶい橙 5YR 7/4 内面：浅黄緑 5YR 6/3	B	口縁～胴部上平 30%	外面：ヘケ目 内面：ヘラナデ	
116	土師器 小空甕	(8.8)	(5.5)		DGI	灰白 10YR 8/1	A	口縁～胴部上平 20%	外面：器部ハケ目後胴部のみ横位ハケ目 内面：ヘラナデ、器部圧痕	
117	土師器 壺	(16.3)	(6.2)		AGM	外面：灰白 10YR 8/2 内面：にぶい黄緑 10YR 7/2	A	口縁～胴部上平 20%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
118	土師器 壺	(15.0)	(8.3)		ABDMN	外面：黒焼 10YR 2/3 内面：橙 7.5YR 6/6	B	口縁～胴部上平 30%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	内外面スス付着
119	土師器 壺	(15.0)	(4.5)		ABJM	にぶい橙 7.5YR 6/3	B	口縁～胴部 30%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
120	土師器 壺	(16.8)	(4.5)		ABDMN	外面：にぶい赤焼 5YR 4/4 内面：橙 5YR 6/6	B	口縁部 25%	内外面：ハケ目	
121	土師器 壺	(19.1)	(4.1)		ABJM	外面：灰焼 7.5YR 5/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	口縁～胴部 10%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
122	土師器 壺	(20.2)	(6.0)		ABDMN	外面：にぶい黄緑 10YR 5/3 内面：にぶい赤焼 5YR 5/4	B	口縁～胴部片	外面：ヘケ目 内面：ヘケ目後口縁部へうミガキ	
123	土師器 付付費	(9.8)			ABJM	外面：にぶい橙 7.5YR 5/4 内面：橙 5YR 6/6	B	40%	外面：ヘラナズリ 内面：ヘラナデ	
124	土師器 付付費	(12.0)	9.5		ABDMN	外面：にぶい橙 7.5YR 6/4 内面：灰焼 7.5YR 4/2	B	胴部中位～器部 30%	外面：ヘケ目 内面：胴部細かなハケ目と粗いハケ目の2種を併用する	
125	土師器 付付費	(14.0)	(24.1)	(8.0)	ABDMN	にぶい橙 5YR 6/4	B	70%	外面：ヘケ目 内面：へうミガキ、器部圧痕	
126	土師器 付付費	18.2	(22.9)		ABDMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	70%	外面：縦位ヘケ目後胴部上平横位ハケ目 内面：ヘケ目	外面部分のスス付着
127	土師器 付付費	14.6	(17.5)		ABDMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 5YR 7/4	B	60%	外面：ヘケ目後部ヘラナデ 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ	外面スス付着
128	土師器 付付費	17.0	26.5	8.5	ABJM	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	70%	外面：胴部上平ハケ目、それ以下ヘラナデ 内面：ヘラナデ	外面スス付着
129	土師器 付付費	15.1	23.4	8.2	ABMN	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	70%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ヘラナデ、胴部・器部ヘラナデ	
130	土師器 付付費	18.0	(18.7)		ABDMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：橙 7.5YR 4/3	B	50%	外面：胴部細かなハケ目、胴部粗いハケ目 内面：胴部指痕圧痕、胴部ヘラナデ	
131	土師器 付付費	15.0	(11.9)		ABJM	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	40%	外面：ヘケ目 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ	
132	土師器 付付費	24.0	(17.8)		ABDMN	外面：灰焼 7.5YR 4/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/4	B	口縁～胴部中位 40%	内外面：ハケ目	
133	土師器 付付費	(28.0)	9.5		ABDMN	外面：橙 5YR 6/6 内面：灰焼 5YR 4/2	B	60%	外面：ヘケ目 内面：胴部ハケ目、器部ハケ目後ヘラナデ	
134	土師器 付付費	20.4	36.8	9.2	ABDMN	外面：黒焼 7.5YR 3/2 内面：にぶい橙 7.5YR 6/4	B	80%	内外面：ハケ目	
135	土師器 壺	(7.4)			DGM	にぶい黄緑 10YR 7/3	A	胴上部片	外面：多角半球形でタタキ目は右より 内面：ヘラナデ	庄内式末期の小 型化した壺
136	土師器 付付費	(11.2)	(3.3)		AJM	にぶい橙 7.5YR 7/4	A	口縁部 10%	外面：ヘケ目 内面：ヘラナデ	5字口縁
137	土師器 付付費	(15.0)	(4.1)		ABJM	にぶい黄緑 10YR 7/3	B	口縁部 20%	外面：ヘケ目 内面：ヘラナデ	5字口縁

No	品種	口径	器高	口径	型士	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
138	土師器 付付費	(14.8)	(3.1)		ABDM	外面：にぶい・黄緑 10YR 6/3 内面：にぶい・黄緑 10YR 7/3	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 内面：器部縦線ヘラナデ	S字口縁
139	土師器 付付費	(13.1)	(4.1)		ABDM	外面：にぶい・黄緑 10YR 7/4 内面：にぶい・黄緑 10YR 6/4	B	口縁部 20%	外面：斜位ハケ目	S字口縁
140	土師器 付付費	(22.2)	(2.3)		ABDKM	外面：にぶい・橙 7.5YR 7/3 内面：にぶい・黄緑 10YR 7/2	B	口縁部片	外面：ハケ目	S字口縁
141	土師器 付付費	(18.8)	(2.5)		ABDKM	外面：にぶい・黄緑 10YR 5/3 内面：淡黄 2.5Y 8/2	B	口縁部 20%	外面：ハケ目	S字口縁
142	土師器 付付費	(15.0)	(3.9)		ADJM	外面：灰白 7.5YR 8/2 内面：明褐色 7.5YR 7/2	A	口縁部 15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S字口縁
143	土師器 付付費	(15.8)	(5.2)		ADJM	灰白 7.5YR 8/2	A	口縁～器部 20%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ、微細直線	S字口縁
144	土師器 付付費	(18.0)	(3.0)		ABHJM	外面：にぶい・黄緑 10YR 5/3 内面：黒黒 10YR 3/1	B	10%	外面：ハケ目 内面：摩耗面等で調整痕不明	S字口縁
145	土師器 付付費	(15.2)	(5.0)		ABDM	にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	口縁部 25%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S字口縁
146	土師器	-	-		ABDM	外面：黒黒 10YR 3/2 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	胴部片	内外面：ハケ目	
147	土師器	-	-		ABEGIK	橙 5YR 7/6	B	胴部片	内外面：ハケ目	
148	土師器 山	-	-		ABDM	にぶい・黄緑 10YR 7/3	B	胴部片	外面：細かいハケ目 内面：ヘラナデ	外面赤影
149	土師器	-	-		ABHJ	外面：黒黒 10YR 3/2 内面：灰黄緑 10YR 5/2	B	胴部上平片	内外面：ハケ目	
150	土師器	-	-		AM	灰黒 7.5YR 4/2	B	胴部片	外面：縦・斜位ハケ目 内面：縦位ヘラナデ	
151	土師器	-	-		BM	外面：にぶい・黄緑 10YR 6/4 内面：黄灰 2.5Y 5/1	B	胴部片	外面：斜・縦位ハケ目	
152	土師器	-	-		ABDM	にぶい・黄 7.5YR 5/3	B	胴部片	内外面：ハケ目	
153	土師器	-	-		ADJM	外面：にぶい・赤黒 5YR 5/4 内面：黒黒 7.5YR 3/1	B	胴部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
154	土師器	-	-		ABHJM	外面：灰黄緑 10YR 4/2 内面：にぶい・黄緑 10YR 6/3	B	胴部下平片	内外面：ハケ目	
155	土師器 山	(4.3)	(11.4)		ABDMN	外面：灰白 7.5YR 8/2 内面：淡黄緑 7.5YR 8/4	B	底部 10%	外面：ヘラナデ式リ成、脚跡による微細直線 内面：ヘラナデ	
156	土師器	(4.7)	(11.0)		ABMN	橙 5YR 7/6	B	底部 10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：微細直線	
157	土師器 付付費	(5.2)			ABDM	外面：灰黒 7.5YR 5/2 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	胴部下平片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
158	土師器 付付費	(4.2)	8.1		BDEJMN	外面：にぶい・橙 5YR 6/4 内面：橙 5YR 6/6	B	器部 10%	微細部との組み合わせのため、微細部に断面 V字形の陥み 外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
159	土師器 付付費	(3.8)			AGH	外面：にぶい・橙 5YR 7/4 内面：底部黒灰 10YR 4/1 器部黒灰 7.5YR 7/2	A	器部 20%	外面：ハケ目 内面：微細部ハケ目、器部ヘラナデ	
160	土師器 付付費	(3.8)			ABDMN	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：黒黒 10YR 3/1	B	接合部片	外面：ハケ目 内面：器部～器部ヘラナデ	
161	土師器 付付費	(3.4)			AJM	灰白 7.5YR 8/2	A	器部 10%	外面：ハケ目 内面：微細部ハケ目、器部ヘラナデ	
162	土師器 付付費	(3.3)			ABHJMN	外面：明赤黒 2.5Y 5/6 内面：にぶい・橙 2.5YR 6/4 器部内面：暗赤黒 2.5YR 3/1	B	接合部片	外面：摩耗面等で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
163	土師器 付付費	(3.5)			ABMN	外面：にぶい・橙 7.5YR 6/4 内面：にぶい・黄緑 10YR 6/3	B	器部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
164	土師器 付付費	(3.5)			ABDMN	外面：明赤黒 5YR 5/6 内面：橙 5YR 6/6	B	器部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：器部ヘラナデ	
165	土師器 付付費	(5.6)			BMN	外面：にぶい・黄緑 10YR 5/3 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	接合部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
166	土師器 付付費	(6.4)			BGHM	灰白 7.5YR 8/2	A	器部 60%	外面：ハケ目 内面：器部ヘラナデ	
167	土師器 付付費	(5.3)			ABHJMN	外面：にぶい・黄緑 10YR 6/3 内面：灰黒 7.5YR 6/2	B	接合部片	内外面：ハケ目	
168	土師器 付付費	(6.1)			ABHJMN	橙 2.5YR 6/6	B	器部片	内外面：ハケ目	
169	土師器 付付費	(5.2)			ABDM	外面：明赤黒 2.5YR 5/6 内面：黒黒 7.5YR 3/1	B	接合部 50%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：器部ヘラナデ	
170	土師器 付付費	(7.0)			ABDM	橙 2.5YR 6/8	B	接合部～器部 50%	外面：ハケ目 内面：微細部～器部ヘラナデ、微細直線	
171	土師器 付付費	(6.2)	8.5		ABJM	にぶい・黄緑 10YR 6/3	B	器部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
172	土師器 付付費	(5.5)	(8.2)		ABKM	にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	器部 60%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
173	土師器 付付費	(5.2)	8.4		GM	にぶい・黄緑 10YR 7/3	A	器部 100%	器部：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	器部内面にイネ 類直線

第13表 第4号方形周溝墓出土遺物観察表(4) (第46～52図)

No	器種	口径	高さ	底径	出土	色調	構成	内容率	手法、形態の特徴等	備考
174	土師器 付付費	-	(6.9)	8.8	ASDM	橙 5YR 6/8	B	接合部～腰部 80%	外面：ハケ目 内面：敷底部・腰部ハケ目	
175	土師器 付付費	-	(6.0)	(8.9)	ABMN	橙 5YR 6/6	B	胴部下端～腰部片	外面：ハケ目 内面：敷底部ハケ目、腰部ヘラナデ	
176	土師器 付付費	-	(7.5)	7.5	ABMN	にぶい・周 7.5YR 5/4 明赤褐 5YR 5/8	B	胴部下端～腰部片	外面：ハケ目 内面：敷底部・腰部ヘラナデ	
177	土師器 付付費	-	(6.5)	(9.0)	ABDM	明赤褐 2.5YR 5/8	B	接合部～腰部 60%	外面：ハケ目 内面：敷底部ヘラナデ、腰部ヘラナデ、ハケ目	
178	土師器 付付費	-	(4.2)	(8.0)	BDMN	外面：にぶい・橙 5YR 7/4 内面：にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	腰部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：腰部ハケ目	
179	土師器 付付費	-	(2.9)	(8.4)	ABKL	外面：暗灰 10YR 4/1 内面：にぶい・周 7.5YR 5/4	B	腰部 30%	外面：ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	
180	土師器 皿	-	(3.4)	(3.1)	ABDM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	坯部 10%	半孔式 外面：縁かみ・横位ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	
181	土師器 皿	-	(3.2)	(4.6)	ABDJ	にぶい・周 7.5YR 6/3	B	底部片	半孔式 外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
182	土師器 皿	-	(6.0)	(9.9)	ABDM	外面：灰褐 7.5YR 6/2 内面：灰褐 7.5YR 4/2	B	胴部下半～底部片	半孔式 外面：ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	流れ込みか
183	土師器 鉢	-	(7.2)	4.0	ABHM	にぶい・黄橙 10YR 7/2	B	胴部～底部 60%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
184	土師器 小空鉢	(7.4)	(3.2)	-	ABJM	にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	口縁～胴部 10%	外面：ハケ目後ヘラケツリ 内面：ミガキ	
185	土師器 小空鉢	-	(3.2)	-	BDM	外面：浅黄橙 7.5YR 8/3 内面：暗灰 7.5YR 5/1	B	胴部～胴部片	内外面：摩耗調整で調整痕不明	
186	土師器 鉢	(10.4)	(4.2)	-	ABJ	にぶい・黄褐 10YR 5/3	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	
187	土師器 杯	(12.0)	(3.6)	-	AEGJM	にぶい・赤褐 5YR 5/4 外面：体部部 5Y 2/1	A	20%	外面：底部を持ちヘラケツリ、直線的に有口縁	流れ込みか 有口縁
188	土師器 高杯	-	(3.2)	-	ABDJM	外面：橙 2.5YR 6/6 内面：橙 5YR 7/6	B	坯部片	内外面：ヘラミガキ	
189	土師器 鉢	-	(3.0)	-	ABHJ	にぶい・周 7.5YR 6/3	B	30%	外面：摩耗調整で調整痕不明 内面：ヘラミガキ	内面にイネ糊正
190	土師器 高杯	-	(5.0)	-	DGM	浅黄橙 10YR 8/3	A	接合部～腰部上半 60%	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：坯部ミガキ、腰部ヘラナデ、調整痕	
191	土師器 高杯	-	(5.2)	(6.9)	ABDM	橙 2.5YR 6/6	B	接合部～腰部片	外面：ヘラミガキ 内面：坯部ミガキ、腰部ヘラナデ	
192	土師器 高杯	-	(4.0)	-	ABHJMN	橙 2.5YR 6/6	B	腰部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：腰部ヘラナデ	腰部 3ヶ所の円形通し
193	土師器 高杯	-	(8.3)	(12.5)	ABDGMN	にぶい・周 7.5YR 7/4 浅黄橙 7.5YR 8/3	A	接合部～腰部 70%	外面：ハケ目 内面：腰部ヘラナデ	腰部 3ヶ所の円形通し
194	土師器 高杯	-	(4.9)	-	ABGDM	明赤褐 2.5YR 5/8	B	坯部下半～腰部上半片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：坯部ヘラミガキ、腰部ヘラナデ	腰部 3ヶ所の円形通し
195	土師器 高杯	-	(4.2)	-	ABJ	にぶい・周 7.5YR 7/4	B	腰部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	腰部 4ヶ所の円形通し
196	土師器 高杯	-	(6.3)	-	ABDH	外面：浅黄橙 10YR 8/4 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	接合部～腰部上半片	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	腰部 3ヶ所の円形通し
197	土師器 高杯	-	(7.2)	13.3	ABEK	浅黄橙 10YR 8/3	B	腰部 100%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
198	土師器 高杯	-	(4.6)	-	ABDM	外面：暗赤褐 5YR 5/6 内面：橙 7.5YR 7/6	B	接合部～腰部 60%	外面：ヘラミガキ 内面：坯部ミガキ、腰部ヘラナデ	腰部 4ヶ所の円形通し
199	土師器 高杯	-	(5.9)	7.8	ABM	外面：にぶい・周 7.5YR 6/3 内面：暗灰 8/3	B	腰部 90%	外面：部分のハケ目後 内面：坯部・腰部ヘラナデ	接合部は坯部の調整め込み式
200	土師器 高杯	-	(5.9)	-	ABJM	にぶい・橙 5YR 7/4	B	10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：腰部ヘラナデ	
201	土師器 高杯	-	(4.9)	-	ABM	にぶい・周 7.5YR 7/4	B	腰部片	外面：ヘラミガキ 内面：坯部ヘラミガキ、腰部表面正	
202	土師器 高杯	-	(3.1)	(19.0)	ABM	外面：橙 5YR 6/6 内面：浅黄橙 10YR 8/3	B	腰部片	縁が大きく開く 外面：ハケ目後ミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	外面赤彩 腰部 4ヶ所の円形通し
203	土師器 高杯	-	(2.4)	(17.1)	ABMN	橙 5YR 7/6	B	腰部 20%	縁が大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	外面赤彩 腰部ナンダムで多数の円形通し
204	土師器 高杯	-	(3.1)	(19.0)	ABJM	浅黄橙 7.5YR 8/3	B	腰部 30%	縁が大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、ミガキ	腰部 4ヶ所の円形通し

No.	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
205	土師器 高坪		(1.7)	(8.0)	ABDHLMN	橙 5YR 7/6	B	器部1/3	内外面：摩耗面若で調整痕不明	
206	土師器 器行		(5.8)		ABDGJL	にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	器部 70%	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	器部 4ヶ所の目 が透し
207	土師器 器行		(6.4)		AGM	外面：橙 2.5YR 6/6 内面：にぶい・橙 5YR 7/4	A	器部 60%	外面：ヘラミガキ 内面：坪部ヘラミガキ、器部ヘラナデ	器部 3ヶ所の目 が透し
208	土師器 高坪		(11.0)		ABDJMN	にぶい赤黒 5YR 4/4	B	器部 60%	器部エンタシス形で解は大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：坪部ヘラナデ	
209	土製品 土練	最大長 8(2)	最大幅 3(8)	孔径 1.1	重さ 68.9 g		半分欠損	外面：ヘラナデ、筋ナデ		
210	土製品 不明品	最大長 3.1	最大幅 2.5	最大厚 1.3	重さ 11.2 g		完形	外面：手捏ね成形、断面圧痕	用途不明	
211	石製品 砥石	最大長 7(3)	最大幅 4.5	最大厚 1.8	重さ 109.2 g		完形	砥面は片面の1面のみ	燧灰岩	
212	石部 磨石	最大長 11.2	最大幅 14.0	最大厚 2.8	重さ 830 g		半分欠損	表裏2面が砥面	花崗岩	
213	石部 磨石	最大長 8.3	最大幅 9.3	最大厚 4.9	重さ 460 g		破片	1面が砥面	花崗岩	
214	石部 磨杖石押	最大長 5(4)	最大幅 4(3)	最大厚 1.8	重さ 54.0 g		破片	全面磨砕され外縁部に押痕 残した外縁径は 1.3cm、最大厚は 1.85cm 柄状磨杖は 3.0cm - 3.5cm	燧灰岩	
215	木製品 不明品	残存長 22.4	最大幅 6.0	最大厚 4.6			完形	木目は板目、三角形に近い形状	用途不明	

第5号方形周溝墓（第53～55図）

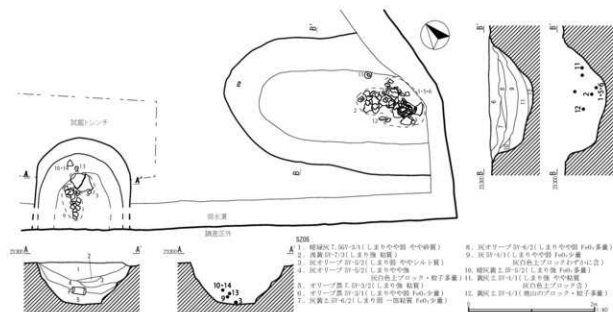
C区の東に位置しており、P・Q-14グリッドから検出した。

検出されたのは北西溝と北東溝の一部の周溝である。それ以外の周溝は検出されておらず、調査区域外の南東部分に主体部が位置するものと推定される。

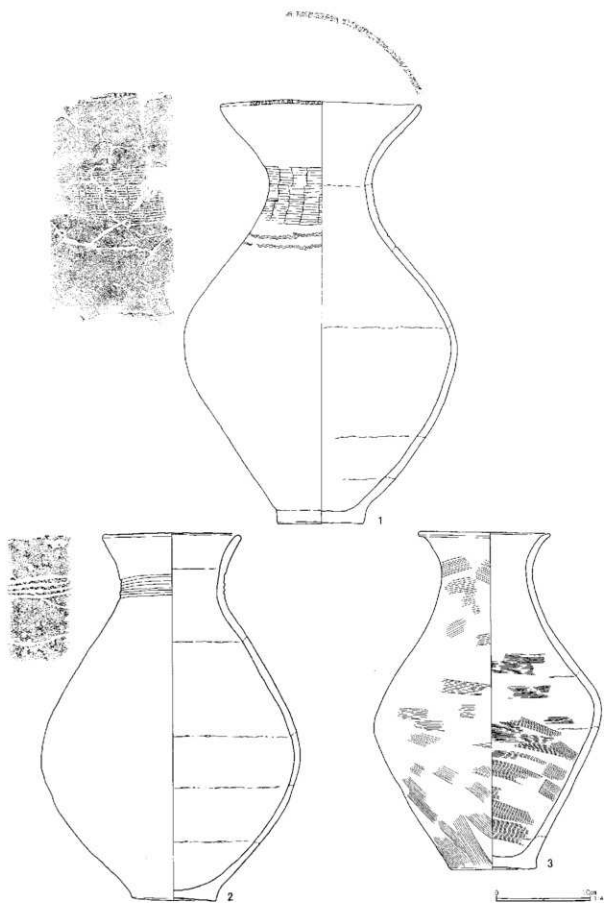
正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北西周溝が検出長 1.45 m、最大幅 1.55 m、北東周溝は検出長 3.21 m、最大幅 2.16 mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定される。

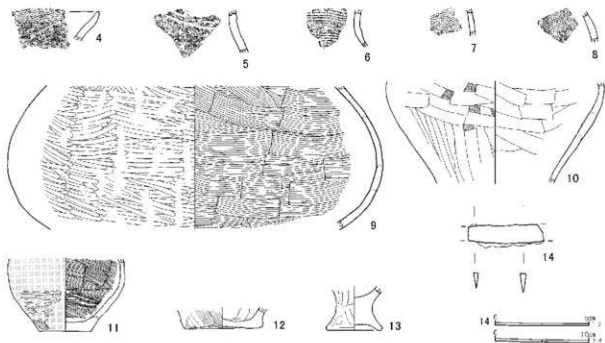
確認面からの深さは北西周溝が 0.67 m、北東周溝は 0.70 mを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面は外縁部へ傾斜する。



第53図 第5号方形周溝墓



第54图 第5号方形周溝墓出土遺物(1)



第55図 第5号方形周溝墓出土遺物

断面は5層、ないしは7層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏、鉄製品が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

第14表 第5号方形周溝墓出土遺物観察表 (第54、55図)

No.	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	20.9	44.7	9.1	ABDMN	橙 5YR 6/6	B	70%	外面：口縁部部へラ押圧による連続斜み目、胴部3段の縞線装文(7本一単位)、胴部張り輪の小さい2条の波状文 内面：摩耗箇所で調整痕不明	
2	弥生土器 壺	14.3	39.0	8.9	ABEJMN	にぶい橙 7.5YR 7/4	B	90%	外面：胴部4条の太い平行洗線 内外面：摩耗のため調整痕不明	
3	弥生土器 壺	13.8	36.0	8.8	ABDMN	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：赭灰 7.5YR 7/2	B	ほぼ完了 95%	内外面：ハケ目	
4	弥生土器 壺				ABM	赭灰 7.5YR 4/1	B		口縁部片	外面：縞線装文(4本一単位)
5	弥生土器 壺				ABDM	外面：にぶい橙 7.5YR 7/3 内面：にぶい橙 7.5YR 7/4	B		胴部片	外面：2条の縞線平行洗線
6	弥生土器 壺				ABDJMN	外面：にぶい橙 5YR 6/4 内面：にぶい橙 7.5YR 7/4	B		胴部片	外面：2段以上の縞線装文(5本一単位)
7	弥生土器 甕				ADJ	赭赤灰 2.5YR 3/1	B		胴部片	外面：縞線斜洗線
8	弥生土器 甕				AJ	外面：にぶい黄橙 10YR 6/3 内面：赭灰 10YR 4/1	B		胴部片	外面：縞線縦位斜装文
9	弥生土器 壺	(15.5)			DHRM	外面：にぶい橙 7.5YR 7/4 内面：黒炭 10YR 3/1	B	胴部 40%	外面：ミヤキ 内面：ハケ目状のへラナデ	
10	弥生土器 甕	(10.8)			ABJMN	赭赤灰 10YR 3/1	B	胴部片	外面：ハケ目状のへラナデ 内面：へラナデ	
11	弥生土器 壺	(7.7)	5.4		AEGM	にぶい橙 7.5YR 7/3	A	胴下部 100%	外面：へラミヤキ 内面：ハケ目	外面赤彩
12	弥生土器 壺	(2.2)	(8.4)		AJMN	内外面：にぶい橙 7.5YR 7/4 内面：黒炭 10YR 4/1	B	底部 100%	外面：ハケ目 内面：へラナデ	
13	弥生土器 高坏	(4.6)	(5.7)		EM	外面：橙 7.5YR 6/6 内面：にぶい黄橙 10YR 7/3	B	胴部 40%	外面：縞線縦位、へラナデ 内面：ナデ	
14	鉄製品 刀子	最大長 4.1	最大幅 0.9	最大幅 0.3		重さ 2.4 g		刀子身部 30%	刃部の砥ぎ減りが顕著	

第6号方形周溝墓 (第56、57図)

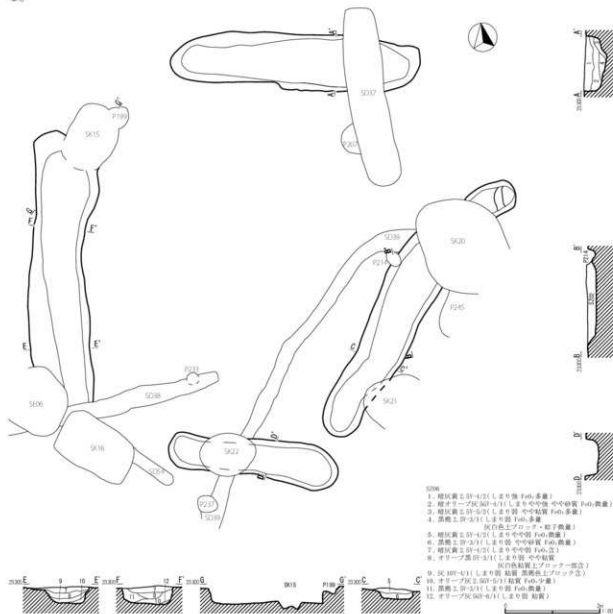
D区の西に位置しており、S・T-15・16グリッドから検出した。

重複関係にあったが、全ての周溝が検出された。また方台部は後世の擾乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が検出長5.63 m、最大幅1.05～1.17 m、東周溝は検出長6.51 m、最大幅0.77～1.18 m、南周溝が検出長3.62 m、最大幅0.68～0.94 m、西周溝は検出長5.83 m、最大幅1.04～1.35 mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外縁の規模は9.36 m以上、方台部は7.43 m以上と推定される。

確認面からの深さは北周溝が0.44 m、東周溝は0.21 m、南周溝は0.27 m、西周溝は0.33～0.35 mを測る。立ち上がりは西周溝と東周溝が方台部側にやや鋭角である。底面はわずかに外縁部へ傾斜する。

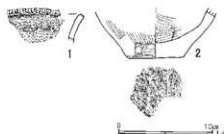


第56図 第6号方形周溝墓

断面は4層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。ただし、東周溝は残存状態が悪いため、詳細は不明である。

出土遺物は、弥生土器壺・甕が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。



第57図 第6号方形周溝墓出土遺物

第15表 第6号方形周溝墓出土遺物観察表(第57図)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器壺				ABHJM	外面：黒褐色 10YR 3/2 内面：灰黄褐色 10YR 5/2	B	口縁部片	外面：口縁部2段の縞線状文(3本一単位)、底部にへら状工具による刻み目	
2	弥生土器壺		(5.3)	(5.9)	ABCEGM	外面：橙 2.5YR 6/6 内面：橙 5YR 6/6	B	胴部下平～底部 20%	外面：ハケ目、底部木炭痕 内面：ハケ目	

第7号方形周溝墓(第58、59図)

D区の北中央に位置しており、T-15、T・U-16グリッドから検出した。

東溝、西溝の一部、南溝の周溝が検出された。また方台部は後世の掘乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は西周溝が検出長2.62m、最大幅1.051～1.16m、東周溝は検出長3.49m、最大幅1.62～2.47m、南周溝が検出長7.68m、最大幅0.97～1.22mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外縁の規模は13.04m以上、方台部は9.62m以上と推定される。

確認面からの深さは西周溝が0.40m、東周溝は0.61m、南周溝は0.43mを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面はほぼ平坦であるが、一部わずかに外縁部へ傾斜する。

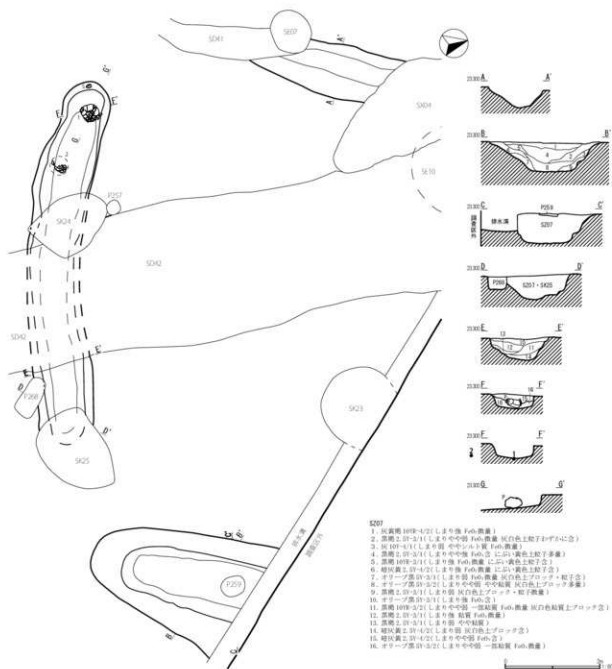
断面は6～8層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、南周溝の西端部で弥生土器壺・甕が検出されている。

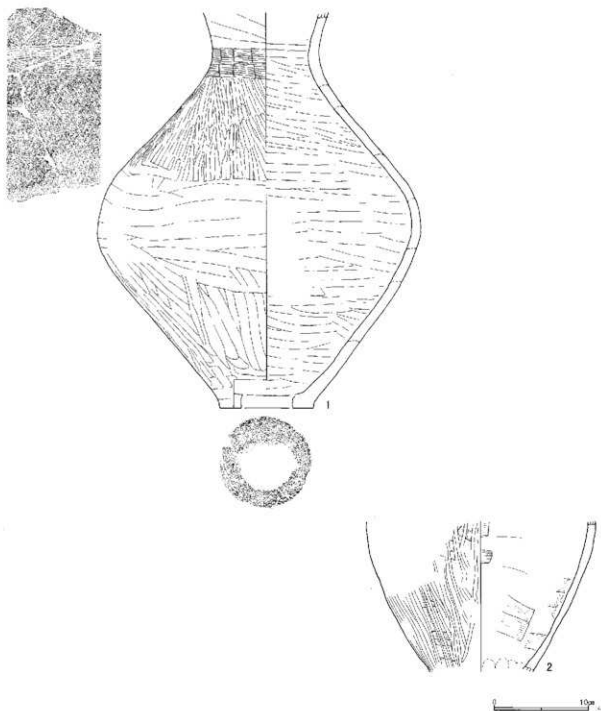
時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

第16表 第7号方形周溝墓出土遺物観察表(第59図)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器壺		(42.0)	9.8	ABDMN	明赤褐色 2.5YR 5/8	B	胴部～底部 90%	外面：胴部2段の縞線状文(7本一単位)、胴部上平へら状字本、中位～下位へらナデ、下端へらケズリ 内面：へらナデ	底部焼成後底部穿孔
2	弥生土器壺		(16.0)		ABHJM	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：黄底 7.5YR 4/1	B	胴部下平 40%	外面：ハケ目接へらミ字本 内面：ハケ目状のへらナデ、指頭圧痕	



第 58 図 第 7 号方形周溝墓



第 59 図 第 7 号方形周溝墓出土遺物

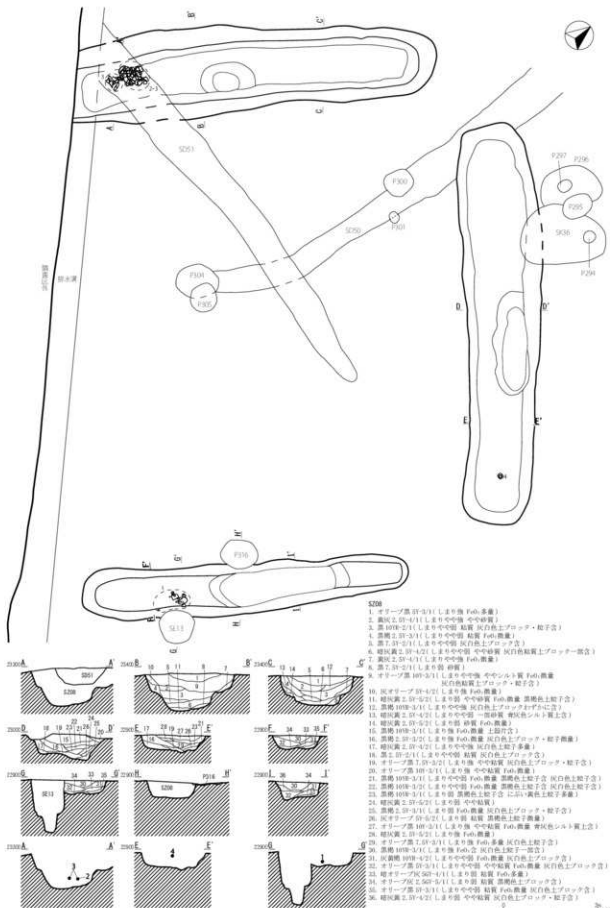
第 8 号方形周溝墓 (第 60、61 図)

D 区の西に位置しており、U・W-18・19、V・W-19 グリッドから検出した。

北溝、東溝、西溝の一部の周溝が検出された。また方台部は後世の攪乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が検出長 8.47 m、最大幅 1.38 ~ 1.69 m、東周溝は検出長 6.92 m、最大幅 0.83 ~ 1.12 m、西周溝が検出長 7.67 m、最大幅 1.15 ~ 1.89 m を測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外線の規模は 12.36 m 以上、方台部は 9.59 m 以上と推定される。



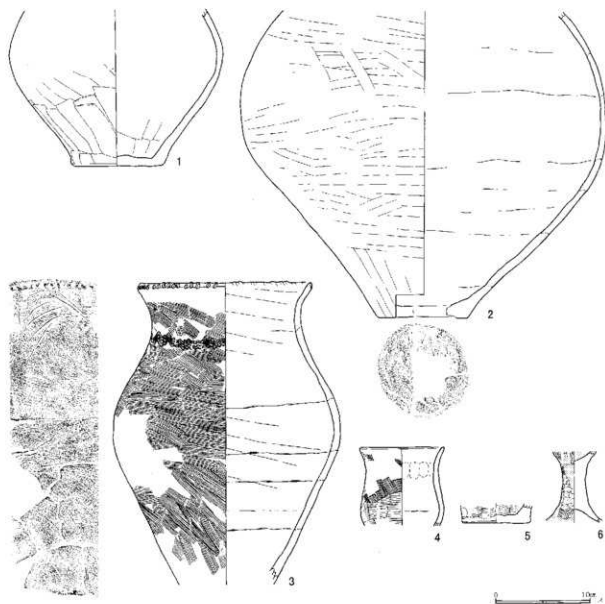
第 60 図 第 8 号方形周溝墓

確認面からの深さは北周溝が0.32 m、東周溝は0.28～0.32 m、西周溝は0.62～0.78 mを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面はほぼ平坦であるが、一部わずかに方台部へ傾斜する。

断面は東周溝を除き11～12層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。東周溝は自然堤防から低地への落ち込む位置にあることから、断面は6層程度である。

出土遺物は、北・西周溝を中心に、弥生土器壺・甕・小型甕・高坏が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。



第61図 第8号方形周溝墓出土遺物

第17表 第8号方形周溝墓出土遺物観察表 (第61図)

No.	品種	口径	器高	底径	出土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	赤土土器 器	-	(16.3)	9.9	ABDM	橙 5YR 6/6 にぶい黄緑 10YR 7/3	B	胴部~底部片	外面：上下厚料のため調整痕不明、下平ヘラナデ 内部：厚料面劣で調整痕不明	
2	赤土土器 器	-	(32.6)	9.4	ABDM	橙 5YR 7/6 赤白 5YR 8/2	B	胴部~底部60%	外面：ヘラナデ 内部：厚料面劣で調整痕不明	底部破成残存片
3	赤土土器 器	18.2	(32.0)	-	ABDM	外面：灰黒 7.5YR 5/2 内面：灰黒 7.5YR 4/1	B	口縁~底部80%	外面：口縁端部ヘラ押痕による連続刻み目、全面ハケ目 内面：ヘラナデ	
4	赤土土器 小器	8.9	(8.3)	-	AGM	明黄緑 7.5YR 7/2 灰黒 7.5YR 4/1	A	口縁~胴部70%	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：ヘラナデ、微細圧痕	
5	赤土土器 器	-	(2.1)	7.3	ABM	にぶい橙 7.5YR 7/4	B	底部40%	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	
6	赤土土器 高坪	-	(7.6)	-	AGM	浅黄緑 7.5YR 8/3 赤 10R 5/6	A	接合部片	外面：節間圧痕、ヘラミガキ 内面：環部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	外面・環部内面赤粉

4 河川跡

第1号河川跡 (第62図)

G-4、F・G-5・6グリッドから検出した。第3号方形周溝と第16号溝跡と重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っている。この遺構の調査はトレンチ掘削による確認とし、全面的調査は実施していない。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、いびつな形で流れており、流路方向は北から南に向かっている。

規模は、検出長 18.13 m、検出幅 6.77 m、深さは確認面から 0.83 ~ 0.86 m であった。

土層断面を観察すると、13層に渡る堆積がみられ、主に上からオリープ灰土(2層)、暗オリープ粘質土(3層)、暗緑灰土(4層)、暗青灰砂質土(7層)、暗灰土(9層)、暗青灰シルト、砂質土(12層)の順で堆積しており、底部付近は幅が 0.34 m で、粘質、砂質土が堆積し、平坦であった。

出土遺物はトレンチ調査によることから、図示できるものは確認されていない。弥生土器片がわずかに確認された以外は、土師器片が多く検出されている。

それらの遺物から河川としての流路時期は、奈良・平安時代(8世紀から9世紀ごろ)と考えられる。

第2号河川跡 (第63~68図)

K~N-9、K~O-10、N・O-11グリッドから検出した。第8号住居跡、第4号方形周溝墓、第17、23、24号溝跡、第86号ピットと重複関係にあり。この遺構の調査は7箇所のトレンチ掘削による確認とし、全面的調査は実施していない。

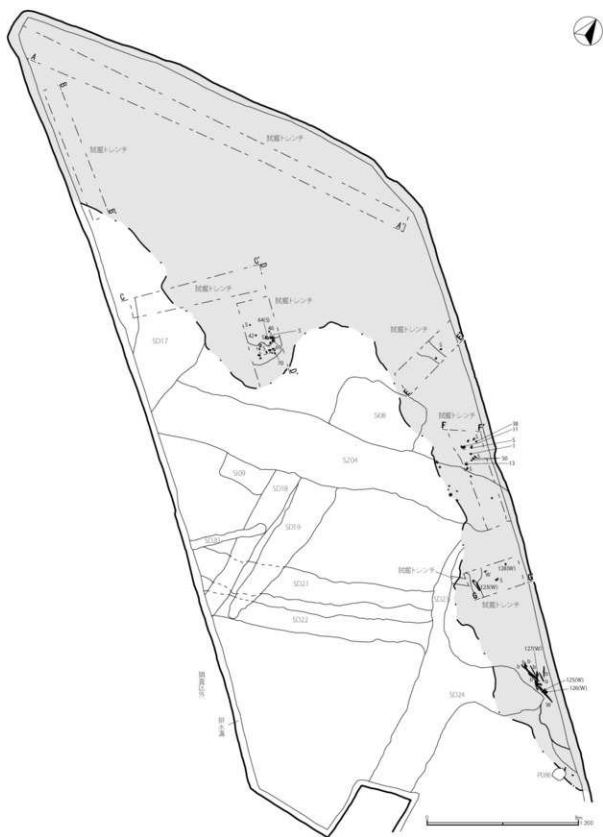
大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、いびつな形で流れており、流路方向は北から南に向かっている。現況の隣接水路に並走して流れているようである。また、本遺構と接する第24号溝跡との間には護岸用、もしくは堰としての利用での横板と杭列が検出されている。

規模は、検出長 54.51 m、検出幅 8.75 m、最大の深さは確認面から 0.46 ~ 0.80 m であった。

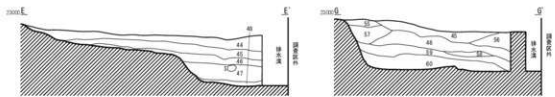
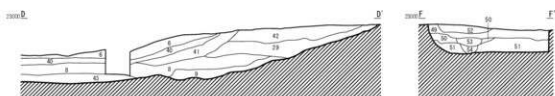
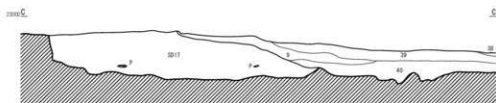
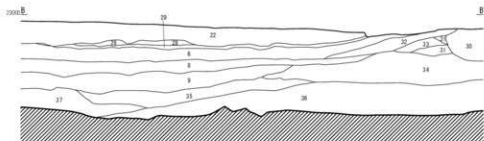
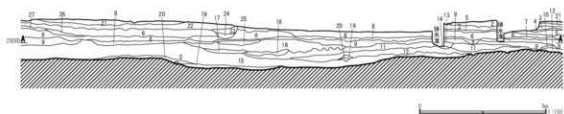
土層断面を観察すると、最大 27層に渡る堆積がみられ、主に上から黄灰粘質土(上層)、しまりが弱い洪水堆積の黒褐色土(中層)、オリープ黒砂質土(下層)の順で堆積しており、上・中層は旧耕作土跡や洪水堆積層と推定できる木粉や、木片が混ざる。底部付近は、砂質土が堆積し、平坦であった。

出土遺物はトレンチ調査であるが、大型蛤刃石斧、弥生土器、土師器、須恵器、そして瀬戸美濃系の陶器に至るまでの各年代の遺物が検出されている。また、木製品、種子(モモ)も検出されている。

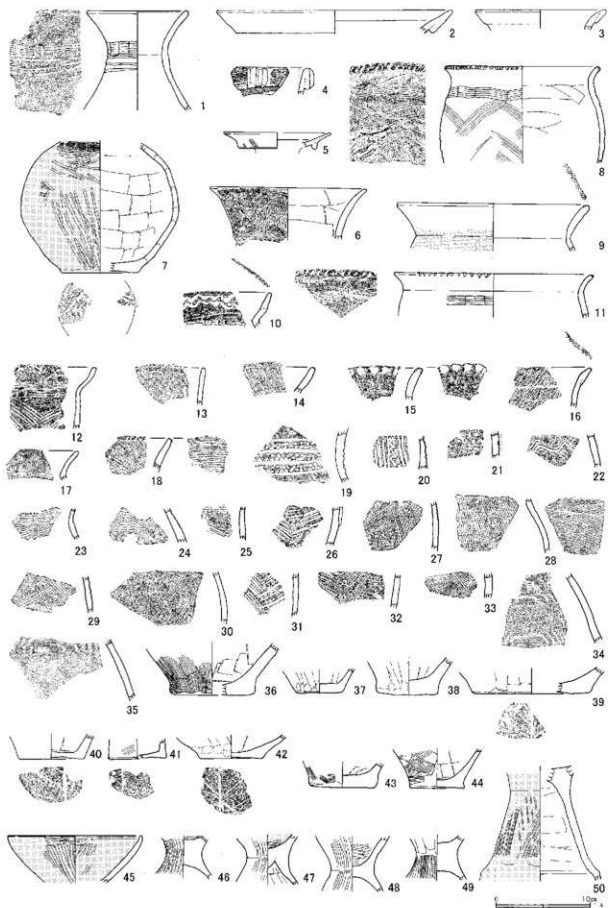
以上のことから河川としての流路時期は、弥生時代から近世に至るまでと考えられる。



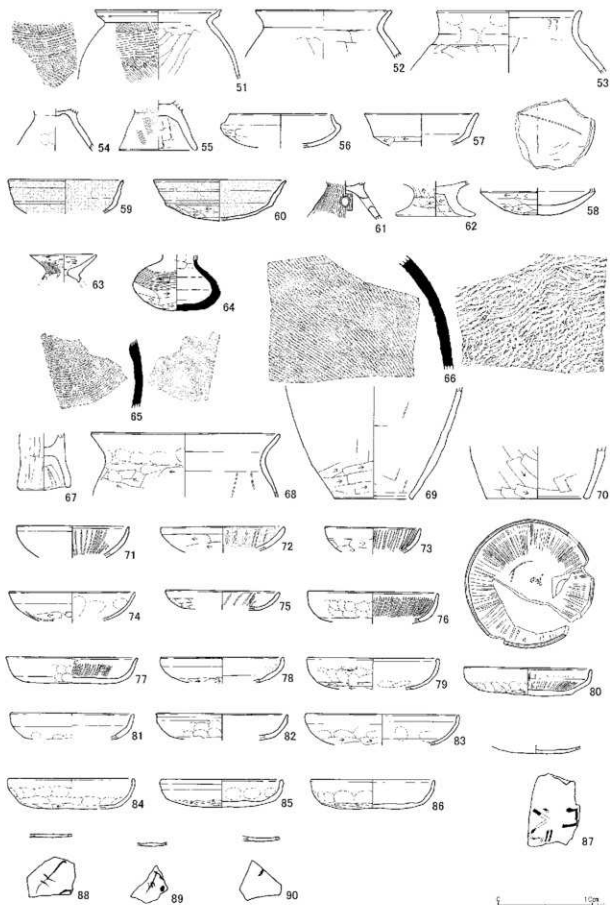
第 63 図 第 2 号河川跡



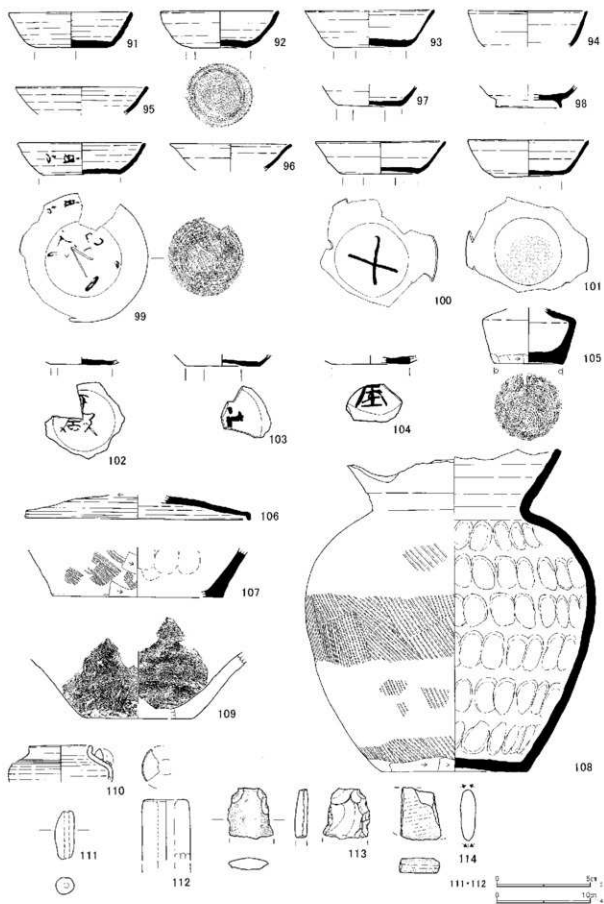
- 解説
1. 灰田-6/1(1)しまり野 F_{6b}多量 粘土層(4) 火山灰(古)
 2. 灰田土層-6/1(1)しまり野 粘質 F_{6b}少量 火山灰(古)
 3. 灰田土層-6/1(1)しまり野 粘質 F_{6b}少許(一部含 粘土層(4))
 4. 灰田100F(1)しまり野 中砂質
 5. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 木部多量 木屑(一部多量)
 6. 灰田土層-5/1(1)しまり野(中砂質) 中砂質
 7. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 黒褐色土一部含
 8. 灰田土層-4/2(1)しまり野(中砂質) 粘質
 9. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 粘質 中砂質
 10. 灰田土層-4/1(1)しまり野 砂質
 11. オリーブ層-5/2(1)砂質 粘土層(4) 灰褐色土一部含
 12. オリーブ層-5/2(1)しまり野 粘質 灰褐色土多量
 13. オリーブ層-5/2(1)粘質 灰褐色土多量
 14. 灰田-6/1(1)しまり野 粘質
 15. 緑田100-6/1(1)しまり野 粘質 砂質(粘土層(4)砂質土層(2)含)
 16. オリーブ層土層-6/1(1)砂質 灰白色砂質土層(2)多量
 17. 灰田土層-5/2(1)しまり野 粘質土層(2)多量 粘土層(4)
 18. 緑田土層-7/2(1)しまり野(粘質) 粘土層(4)
 19. 緑田100-6/1(1)しまり野 粘質 粘結性土層(2)砂質(4)含
 20. 緑田100F(1)しまり野 粘質
 21. オリーブ層-5/2(1)しまり野 F_{6b}多量
 22. オリーブ層-5/1(1)しまり野(中砂質) 火山灰(古)
 23. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 火山灰(古)
 24. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 黒褐色土一部含
 25. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 26. 灰田土層-5/2(1)中砂質 灰田土層(2)砂質(一部多量)
 27. 灰田土層-6/1(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 28. オリーブ層-5/1(1)しまり野 砂質
 29. 土に¹粘質 粘結性土層(2)しまり野 粘質 粘土(1)
 30. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}少量
 31. 灰田土層-5/2(1)しまり野 F_{6b}少量
 32. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野 粘質 F_{6b}含 黒褐色土層(2)一部含
 33. 灰田土層-5/2(1)しまり野 粘質
 34. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野 粘質
 35. 灰田土層-5/2(1)しまり野 F_{6b}含
 36. 灰田土層-5/2(1)しまり野 粘質
 37. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 粘質
 38. オリーブ層土層-5/2(1)中砂質 黒褐色土一部含
 39. 灰田土層-5/2(1)中砂質 粘質
 40. オリーブ層土層-5/2(1)中砂質 粘質
 41. 緑田100F(1)しまり野 粘質
 42. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野 粘質 黒褐色土一部含
 43. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 木部多量 木屑(一部多量)
 44. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 45. 灰田土層-6/2(1)しまり野(粘質) F_{6b}含
 46. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野 粘質 土層(2)多量
 47. オリーブ層土層-5/2(1)しまり野(粘質) シルト質
 48. 緑田土層-5/1(1)しまり野 粘質
 49. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}少量
 50. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}少量
 51. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 粘質
 52. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) 粘質
 53. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}含
 54. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}含
 55. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}少量
 56. 緑田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}含
 57. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 58. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 59. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量
 60. 灰田土層-5/2(1)しまり野(中砂質) F_{6b}多量



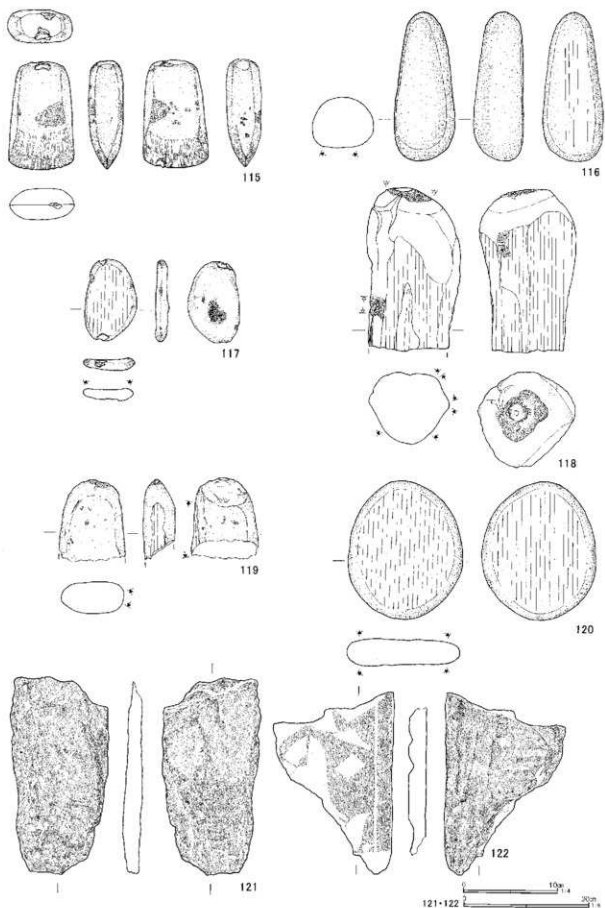
第64图 第2号河川跡出土遺物(1)



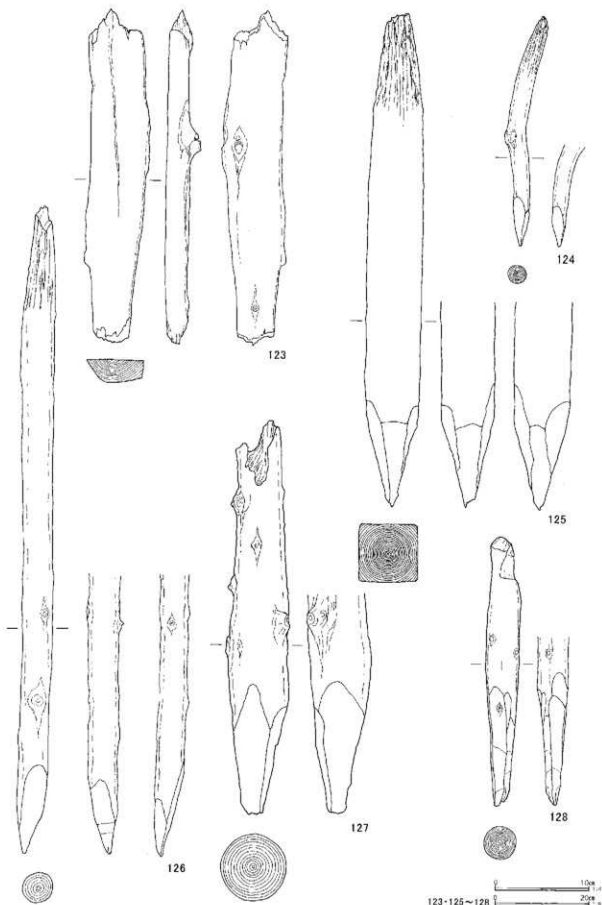
第 65 图 第 2 号河川跡出土遺物(2)



第 66 图 第 2 号河川跡出土遺物(3)



第 67 图 第 2 号河川跡出土遺物(4)



第 68 图 第 2 号河川跡出土物(5)

第18表 第2号河川跡出土遺物観察表1(第64～68図)

No	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	赤生土器 甕	(10.7)	(10.5)	-	ABCM	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	口縁～胴部 40%	外面：胎部縞縞状文(6本一単位)、3条の横 帯平行沈線	
2	赤生土器 甕	(24.8)	(2.9)	-	ADBM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	口縁部片	内外面：摩耗面著で調整痕不明	複合口縁
3	赤生土器 甕	(13.5)	(2.2)	-	ABKM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	口縁部片	内外面：摩耗面著で調整痕不明	折返し口縁
4	赤生土器 甕	-	-	-	ABGH	橙 7.5YR 7/6	B	口縁部 10%	外面：口縁部周りに細い小さい縞縞状文、稀に 浮文(2本一単位)、胴部ハケ目 内面：ヘラミガキ	内面赤帯 複合口縁
5	土師器 甕	(11.4)	(1.7)	-	ABHM	にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	口縁～胴部片	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	複合口縁
6	赤生土器 甕	(16.2)	(5.4)	-	ABJM	外面：赭灰 10YR 4/1 内面：にぶい・黄橙 10YR 6/3	B	口縁部 20%	外面：ハケ目後疎かなヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
7	赤生土器 甕	-	(13.8)	8.0	ABEM	外面：にぶい・橙 7.5YR 7/4 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/2	B	25%	外面：口縁部周りに細い小さい縞縞状文の斜 横文、底部本葉形 内面：ヘラミガキ	外面赤帯
8	赤生土器 甕	16.2	(10.2)	-	DCJM	にぶい・橙 7.5YR 7/4 赭灰 7.5YR 5/1	A	口縁～胴上部 40%	外面：口縁部周りに工具による刻み、胎部縞 縞状文(5本一単位)、胴部縞縞状文 内面：ヘラミガキ	
9	赤生土器 甕	(20.0)	(4.9)	-	ABDM	外面：黒褐 7.5YR 3/1 内面：にぶい・黄 7.5YR 5/4	B	口縁部 30%	外面：口縁部周りに縞縞状文	外面スス付着
10	赤生土器 甕	-	-	-	ABJM	外面：赭灰 7.5YR 4/2 内面：にぶい・黄 7.5YR 6/3	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 半縞縞文地に小さい縞縞状文 位(本一単位)、胎部縞縞状文、底部 LR 半縞 縞文	
11	赤生土器 甕	(21.0)	(4.6)	-	ABM	にぶい・橙 7.5YR 5/3	B	口縁～胴部片	外面：口縁部周りに、胎部縞縞状文	
12	赤生土器 甕	-	-	-	ABGI	黄 7.5YR 4/3	B	口縁～胴部上半 30%	外面：口縁部縞縞状文、胎部縞縞状文、胴 部縞縞状文引状文 内面：ヘラミガキ	突口状口縁
13	赤生土器 甕	-	-	-	ABBM	にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 半縞縞文 内面：ヘラミガキ	
14	赤生土器 甕	-	-	-	ABJ	外面：にぶい・黄橙 10YR 6/3 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 半縞縞文に縞縞状文(3本 一単位)、胎部 LR 半縞縞文	
15	赤生土器 甕	-	-	-	ABJI	外面：黒褐 10YR 3/1 内面：にぶい・黄橙 10YR 6/3	B	口縁部片	外面：口縁部内側から胎部によるフレア状の 押圧	
16	赤生土器 甕	-	-	-	ABJ	黒褐 7.5YR 3/1	B	口縁部片	外面：口縁部から胴部まで LR 半縞縞文	折返し口縁
17	赤生土器 甕	-	-	-	ABJ	外面：赭灰 7.5YR 4/1 内面：成黄褐 10YR 5/2	B	口縁部片	外面：縞縞沈線	
18	赤生土器 甕	-	-	-	ABEM	黄灰 2.5Y 5/1 成黄 2.5Y 7/2	B	口縁部 10%	外面：縞縞斜位沈線、口縁部周りに工具によ る刻み 内面：縞縞斜位沈線	
19	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：成黄褐 10YR 6/2 内面：赭灰 10YR 5/1	B	胴部片	外面：4条のいっ平行沈線間に小さな円形刺 を充填	
20	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：黒褐 10YR 3/2 内面：赭灰 10YR 4/1	A	胴部片	外面：コノ字状重文とみられる沈線と波状沈 線が垂下 内面：ヘラミガキ	
21	赤生土器 甕	-	-	-	AJM	外面：橙 5YR 6/6 内面：黒褐 10YR 3/1	B	胴部片	外面：円形刺状文	外面赤帯
22	赤生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：灰白 5Y 8/1 内面：黒 2.5Y 2/1	A	胴部片	外面：縞縞状文(3本一単位) 内面：ヘラミガキ	
23	赤生土器 甕	-	-	-	ABKM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	胴部片	外面：縞縞状文と波状文	
24	赤生土器 甕	-	-	-	ABDI	外面：橙 5YR 7/6 内面：にぶい・橙 5YR 6/4	B	胴部片	外面：縞縞状文(4本一単位)、下半ハケ目	
25	赤生土器 甕	-	-	-	ABJM	外面：赭灰 7.5YR 4/1 内面：成黄褐 10YR 5/2	B	胴部～胴部片	外面：縞縞状文(4本一単位)、胴部縞縞状 引状文	
26	赤生土器 甕	-	-	-	ABJ	外面：赭灰 7.5YR 4/1 内面：赭灰 10YR 4/1	B	胴部片	外面：ボタノ状周付文、地文は半縞縞文、胴部 縞縞状文	

第18表 第2号河川跡出土遺物観察表(2) (第64～68図)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	接合	内存在	手法、形態の特徴等	備考
27	赤生土器 甕	-	-	-	ADM	外面：黒 10YR 2/1 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	A	胴部片	外面：縞帯稜位羽状文 内面：上部ヘラナデ	
28	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	にぶい褐色 5YR 6/4	B	胴部片	内外面：ハケ目	
29	赤生土器 甕	-	-	-	AJM	外面：黒 10YR 2/1 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/3	A	胴部片	外面：縦位ハケ目後継縞帯器格子文 内面：縦位ハケ目	
30	赤生土器 甕	-	-	-	ABH	外面：黒灰 7.5YR 4/1 内面：灰黄褐色 10YR 5/2	B	胴部片	外面：縞帯器格子文	
31	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：黒灰 10YR 5/1 内面：にぶい黄 7.5YR 6/3	B	胴部片	外面：縞帯稜位羽状文	
32	赤生土器 甕	-	-	-	ABH	外面：黒褐色 10YR 3/2 内面：にぶい黄褐色 10YR 6/3	B	胴部片	外面：縞帯器格子文	
33	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：黒灰 10YR 4/1 内面：にぶい褐色 7.5YR 7/4	B	胴部片	外面：縞帯器格子文	
34	赤生土器 甕	-	-	-	ABEJM	外面：にぶい黄褐色 10YR 7/3 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	B	胴部片	外面：縦かへ平行沈痾、連続山形文	加藤直
35	赤生土器 甕	-	-	-	ABHIM	外面：にぶい黄褐色 10YR 7/3 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	B	胴部片	外面：縦かへ平行沈痾に円形竹貫をはば等距離に付録	加藤直
36	赤生土器 甕	-	(5.6)	(8.8)	ABDKM	外面：にぶい褐色 7.5YR 5/3 内面：にぶい赤褐色 5YR 5/4	B	底部 40%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
37	赤生土器 甕	-	(2.5)	5.0	ABDIM	外面：にぶい赤褐色 5YR 5/4 内面：にぶい褐色 7.5YR 6/3	B	底部 100%	外面：ヘラナデ、下縁折曲し直 内面：ヘラナデ	
38	赤生土器 甕	-	(4.0)	6.4	ABJM	外面：褐色 7.5YR 7/6 内面：にぶい褐色 7.5YR 5/4	B	胴下部～底部 100%	外面：ヘラケズリ、下縁折曲し直 内面：ヘラナデ	
39	赤生土器 甕	-	(2.8)	12.5	ABDKM	外面：にぶい赤褐色 5YR 5/3 内面：灰黄褐色 10YR 6/2	B	底部片	外面：ヘラナデ、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
40	赤生土器 甕	-	(2.6)	6.9	ABKM	にぶい黄褐色 10YR 6/3	B	底部 40%	外面：縞斜線等で調整不明、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
41	赤生土器 甕	-	(2.1)	(5.7)	ABDKM	褐色 7.5YR 6/6	B	底部 30%	外面：ハケ目、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
42	赤生土器 甕	-	(2.5)	6.4	AKM	黒灰 10YR 6/1	B	底部 50%	外面：ヘラナデ、下縁折曲し直、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
43	赤生土器 甕	-	(2.8)	6.9	ADDM	外面：灰白 10YR 8/2 灰褐色 7.5YR 5/2 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	A	底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
44	赤生土器 甕	-	(4.2)	5.8	ABDKM	外面：にぶい褐色 7.5YR 5/3 内面：黒褐色 7.5YR 3/2	B	底部 90%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
45	赤生土器 高杯	(14.4)	(5.0)	-	AM	外面：赤褐色 2.5YR 4/6 内面：赤褐色 2.5YR 4/6 にぶい黄褐色 10YR 6/3	B	口縁部 30%	内外面：ミガキ後赤彩	内外面赤彩
46	赤生土器 高杯	-	(4.5)	-	BM	外面：明赤褐色 2.5YR 5/6 内面：黒灰 10YR 5/1 灰白 10YR 8/2	B	胴部 10%	外面：ヘラミガキ 内面：環帯ミガキ、胴部ヘラナデ	外面赤彩
47	赤生土器 高杯	-	(5.3)	-	ABM	外面：明赤褐色 2.5YR 5/8 内面：褐色 7.5YR 7/6	B	接合部 80%	外面：ヘラミガキ 内面：環帯ミガキ、胴部ヘラナデ、杯部の縁が胴部内側に突出	杯部内面赤彩
48	赤生土器 高杯	-	(5.9)	-	ABM	外面：黒灰 10YR 4/1 にぶい黄褐色 10YR 7/3 内面：灰黄褐色 10YR 6/2	A	接合部 45%	外面：ヘラミガキ 内面：環帯ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	
49	赤生土器 高杯	-	(4.8)	-	ABM	内外面：褐色 2.5YR 6/6 黒灰 10YR 5/1	A	接合部 80%	外面：環帯ヘラナデ、胴部ヘラミガキ 内面：環帯ミガキ、胴部ヘラナデ	
50	赤生土器 高杯	-	(12.2)	-	BCDM	外面：赤 10R 4/8 内面：にぶい黄褐色 10YR 7/2	A	胴部 40%	外面：ヘラミガキ、胴端部内反装飾に屈曲 内面：ヘラナデ	外面・杯部内面赤彩
51	土師器 付付録	(13.5)	(7.4)	-	ADJM	外面：黒 10YR 1.7/1 内面：黒灰 10YR 4/1 にぶい黄褐色 10YR 7/2	A	口縁～胴部上半片	外面：縦位・斜位・斜帯稜位のハケ目 内面：ヘラナデ	S字口縁
52	土師器 甕	(14.4)	(5.1)	-	ABDHM	灰褐色 7.5YR 4/2	B	口縁～胴部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	

No	品種	口径	高さ	壁厚	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
53	土師器 甕	(15.0)	(6.7)	-	ABBN	にぶい黄橙 10YR 7/3	B	口縁～胴部片 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
54	土師器 付付費	-	(4.4)	-	EM	外面：明赤灰 7.5YR 4/1 内面：にぶい橙 7.5YR 6/4	B	胴部 40% 外面：ヘラナデ後指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
55	土師器 付付費	-	(5.3)	(8.4)	AM	外面：明赤灰 7.5YR 7/2 内面：にぶい橙 7.5YR 7/3	B	胴部 25% 外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	外面スチ付着
56	土師器 杯	(10.8)	(3.6)	-	DM	にぶい橙 7.5YR 6/4	B	口縁～体部 25% 外面：ヘラケズリ 内面：磨料のため調整痕不明	坏身模造片
57	土師器 杯	(11.8)	(3.4)	-	AB	外面：橙 5YR 6/6 内面：にぶい橙 5YR 6/4	B	口縁～底部 20% 外面：ヘラケズリ 内面：磨料のため調整痕不明	坏身模造片
58	土師器 杯	-	(2.8)	-	ABDGM	にぶい赤黒 5YR 5/3	A	底部片 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	底部内面「X」の 磨料
59	土師器 杯	(12.4)	(3.6)	-	DM	黒紫 5YR 3/1	B	口縁～底部片 外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面黒色処理 有段口縁
60	土師器 杯	14.0	4.3	-	DM	黒 10YR 2/1	A	40% 外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面黒色処理 有段口縁
61	土師器 高杯	-	(3.8)	-	M	にぶい黄橙 10YR 7/4	B	胴部 40% 外面：ハケ目 内面：坏部ヘラナデ、胴部ヘラナデ後指ナデ	胴部 4ヶ所の円形 透かし
62	土師器 高杯	-	(3.7)	(8.6)	DM	外面：にぶい橙 7.5YR 7/4 内面：黄黒橙 10YR 8/3	B	坏部～胴部 40% 外面：坏部ヘラケズリ、複合部指頭圧痕、胴部 ヘラナデ 内面：ヘラナデ	
63	土師器 高杯	(7.8)	(2.9)	-	ABCDGHI	にぶい黄橙 10YR 7/2	B	口縁～胴部片 外面：ハケ目 内面：坏部ハケ目後ミガキ、胴部ヘラナデ	胴部径 10mm の円 形透かしを 3ヶ所 穿孔
64	須恵器 小茶盅	-	(5.9)	-	ADM	内外面：灰 N 5/ 底部灰 C 5Y 7/	A	80% 外面：胴部上半部縦平行段線、下半ヘラケズリ	丸底
65	須恵器 短瓶	-	-	-	ABBMN	灰 N 6/	B	胴部片 外面：カキ目	
66	須恵器 甕	-	(12.1)	-	ABGHLN	灰 N 6/	B	胴部片 外面：平行タタキ 内面：同心円状のアナ具痕	未野産
67	ミニチュア土器 付付費	-	(6.0)	5.5	EM	外面：にぶい橙 7.5YR 5/3 内面：にぶい橙 7.5YR 6/4	B	胴部 100% 外面：ヘラケズリ 内面：胴部・胴部ヘラナデ	
68	土師器 甕	(20.0)	(6.7)	-	ABDI	外面：灰黄 2.5Y 6/2 内面：にぶい橙 7.5YR 6/3	B	口縁～胴部片 外面：ヘラケズリ後指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
69	土師器 甕	-	(11.9)	(8.4)	ABDEGLN	外面：灰赤 2.5YR 6/2 内面：明赤黒 5YR 5/8	B	胴部下平片 甲片式 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
70	土師器 甕	-	(5.5)	11.0	ABEMN	外面：にぶい橙 5YR 7/4 内面：橙 5YR 6/8	B	胴部下平片 甲片式 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
71	土師器 杯	(12.0)	(3.4)	-	EM	明赤黒 2.5YR 5/6	B	口縁～底部片 外面：指頭圧痕、調整痕不明 内面：放射状周文	
72	土師器 杯	(13.0)	(2.6)	-	AB	外面：灰黄黒 10YR 5/2 内面：灰黒 7.5YR 5/2	B	口縁部片 外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状周文	内外面黒色処理 丸底
73	土師器 杯	(10.0)	(2.7)	-	ABDI	外面：にぶい橙 5YR 6/4 内面：にぶい橙 7.5YR 6/4	B	口縁部片 外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状周文	丸底
74	土師器 杯	(13.4)	(3.1)	-	ABDM	外面：灰黄黒 10YR 5/2 内面：灰黒 7.5YR 5/2	B	口縁～底部 20% 外面：底部ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	丸底
75	土師器 杯	(12.0)	(2.8)	-	ABK	外面：灰黄黒 10YR 6/2 内面：にぶい黄橙 10YR 6/3	B	口縁部 20% 外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状周文	
76	土師器 杯	(14.0)	(3.3)	-	DM	外面：にぶい黄橙 10YR 6/3 内面：明赤黒 2.5YR 5/6	B	口縁～底部 30% 外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：変な放射状周文	
77	土師器 杯	(14.0)	(2.8)	-	DM	にぶい赤黒 5YR 5/3	B	口縁～底部 20% 外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：放射状周文	
78	土師器 杯	(13.0)	(2.7)	-	ABJK	にぶい橙 7.5YR 5/4	B	口縁～底部 20% 外面：底部ヘラケズリ 内面：新ナデ	内面スチ付着

第18表 第2号河川跡出土遺物観察表(3) (第64～68図)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	検成	内存在率	手法、形態の特徴等	備考
79	土師器 杯	14.0	3.3	-	ADM	灰白 10YR 7/1 黄灰 2.5Y 4/1	A	25%	外面：指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ。指頭圧痕	
80	土師器 杯	13.4	3.0	9.8	ADM	外面：灰黄 7.5YR 6/2 内面：灰黄 7.5YR 5/2	A	70%	外面：指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：鉄削片・螺旋状の痕文	底部外面筆書 判読不明
81	土師器 杯	(13.0)	(2.8)	-	ABGJK	外面：にぶい・黄 7.5YR 6/4 内面：にぶい・黄橙 10YR 6/3	B	口縁～底部 10%	外面：ヨコナデ後指頭圧痕	
82	土師器 杯	(14.0)	(2.7)	-	DM	にぶい・黄 7.5YR 6/4	B	口縁～底部 20%	外面：指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：ナデ	
83	土師器 杯	(16.0)	(3.3)	-	ABH	外面：黄 5YR 6/6 内面：にぶい・黄 5YR 6/4	B	口縁～底部片	外面：指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
84	土師器 杯	13.3	3.2	10.7	ADM	明陶灰 7.5YR 7/2	A	60%	外面：指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
85	土師器 杯	(12.8)	2.9	-	ABEGJK	にぶい・黄 7.5YR 6/4	B	口縁～底部 30%	外面：ヨコナデ。底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
86	土師器 杯	13.2	3.1	11.0	ADM	にぶい・黄 7.5YR 6/3	A	65%	外面：ヨコナデ後指頭圧痕。底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内面部分のヌイ付 着
87	土師器 杯	-	(0.9)	08.0	ABM	黄 5YR 6/6	B	底部 30%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面筆書 判読不明
88	土師器 杯	-	-	-	ABM	外面：にぶい・黄 7.5YR 5/3 内面：にぶい・黄 7.5YR 5/4	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面筆書 判読不明
89	土師器 杯	-	-	-	ABM	外面：黄 5YR 6/6 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面筆書 判読不明
90	土師器 杯	-	-	-	ADMN	外面：にぶい・黄橙 10YR 6/3 内面：にぶい・黄 7.5YR 5/3	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面筆書 判読不明
91	須恵器 杯	13.2	3.8	7.8	AB	外面：灰黄 2.5Y 6/2 内面：にぶい・黄橙 10YR 4/3	B	100%	外面：底部糸切り難し後、全面ヘラケズリ	未野産
92	須恵器 杯	(12.4)	3.9	6.9	ABF1	外面：灰黄 10YR 6/1 内面：灰黄 10YR 6/2	B	口縁～底部 70%	外面：糸切り難し後、底部周縁回転ヘラケズリ	底部外面に使用後 の痕跡「A」 南比企産
93	須恵器 杯	(13.9)	4.0	7.8	ABMN	外面：灰白 2.5YR 7/1 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/2	B	90%	外面：糸切り難し後、底部周縁回転ヘラケズリ	未野産
94	須恵器 杯	(12.6)	(3.9)	-	ABG	外面：黄灰黄 2.5Y 5/2 内面：にぶい・黄橙 10YR 5/4	B	口縁～底部片	体部内湾気味に立ち上がる	未野産
95	須恵器 杯	(14.0)	(3.8)	-	ABG	外面：黄灰 2.5Y 6/1 内面：灰黄 10YR 5/2	B	口縁部片	体部直線的に立ち上がる	南比企産
96	須恵器 杯	(13.0)	(2.9)	-	ABM	陶灰 7.5YR 5/1	B	口縁部片	体部外湾気味に立ち上がる	未野産
97	須恵器 杯	-	(2.3)	(7.0)	AFMN	灰 N 6/	B	底部片	外面：糸切り難し後、底部周縁回転ヘラケズリ	南比企産
98	須恵器 高台杯	-	(2.5)	(7.0)	ABHM	灰 N 6/	B	底部 40%	外面：底部糸切り難し後高台部付	未野産
99	須恵器 杯	13.8	3.4	8.2	AGJMN	灰白 5Y 7/1 明赤黄 2.5YR 5/6	B	口縁～底部片	外面：底部糸切り難し無調整。胴部下端ヘラケズリ	底部～底部外面筆書 判読不明 底部外面湾気味成後の 痕跡「A」 南比企産
100	須恵器 杯	13.9	3.5	8.0	ABF	外面：灰白 10YR 7/1 内面：灰黄 10YR 6/2	B	60%	外面：底部糸切り難し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面「X」帯書 南比企産
101	須恵器 杯	(13.0)	3.0	7.1	AFGM	外面：陶灰 10YR 4/1 内面：陶灰 10YR 5/1	B	70%	外面：底部糸切り難し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面筆書 判読不明
102	須恵器 杯	-	(0.6)	6.6	M	外面：陶灰 10YR 5/1 内面：灰黄 10YR 5/2	B	底部 80%	外面：底部糸切り難し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面筆書 判読不明 ●「A」 未野産
103	須恵器 杯	-	(1.2)	08.0	ABFM	灰白 2.5Y 7/1	B	底部片	外面：底部糸切り難し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面筆書 判読不明 南比企産

No	品種	口径	高さ	底径	取手	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
104	須恵器 F	-	(10.8)	(8.4)	ADM	灰白 10YR 7/1	B	底部分	外面：底部全面回転ヘラケズリ	底部外面磨面 判定不明 木野森
105	須恵器 小笠原産	-	(6.8)	7.4	AF	赭灰 7.5YR 6/1	A	胴部～底部 95%	外面：胴部本切り難し無調整、胴部下端ヘラケズリ	底部磨成前の十字 状の磨面 由比企産
106	須恵器 器	(24.0)	(2.5)	-	ABFT	外面：灰白 2.5Y7/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	蓋片	外面：底部僅く屈曲、天井部回転ヘラケズリ	由比企産
107	須恵器 器	-	(5.3)	(18.2)	ABGLN	外面：灰 N 4/ 内面：灰 N 6/	B	底部分	外面：平行タタキ後部分的ヘラケズリ 内面：無文字具痕	木野森
108	須恵器 器	-	(34.0)	15.6	ABMN	外面：灰オリーブ 灰白 N 7/ 内面：灰 N 6/	A	80%	外面：縦型平行タタキ、下端ヘラケズリ 内面：無文字具痕	口縁部を打ちいた たまで突入れか 全面白磨面
109	陶器 片口鉢	-	(7.2)	(12.0)	ABFM	外面：にぶい黒 7.5YR 5/3 内面：灰赤 7.5R 5/2	B	体部～底部 20%	外面：縦方向のケズリ 内面：磨れている	常滑系 片口鉢Ⅱ類
110	陶器 小皿	(6.8)	(3.8)	-	AB	外面：浅黄 2.5Y 7/3 内面：浅黄 2.7Y 7/3 黄灰 2.5Y 4/1	A	口縁～胴部 30%	外面：胴部磨面沈没、縦方向の耳 1 ヶ所 口唇部を除き内外面に灰焼	瀬戸美濃系 連同期
111	土製品 土罨	最大長 2.6	最大幅 1.0	孔径 0.2	重さ 1.9 g		完形		棒状工具に巻きつけ手捏ね成形	
112	土製品 土罨	最大長 46.9	最大幅 (1.7)	孔径 1.8	重さ 36.3 g		25% 残存		外面：筋ナデ	円形形
113	石器 打製石斧	最大長 (5.3)	最大幅 4.4	最大厚 1.3	重さ 45.8 g		刃部欠損		打製石斧の基部	黒色頁岩
114	石器 磨石	最大長 15.6	最大幅 (4.4)	最大厚 1.6	重さ 51.8 g		一部残存		両面欠損、断面扁平	砂岩
115	石器 磨製石斧	最大長 11.5	最大幅 6.9	最大厚 3.7	重さ 507 g		完形		大型船形石斧。全面磨製されており、刃部の表 裏面に縦方向の細かな筋を、中央部に縦横の 筋	閃緑岩
116	石器 磨石	最大長 15.8	最大幅 6.5	最大厚 5.4	重さ 820 g		完形		一面に磨面	砂岩 リング状に又付着
117	石器 磨石	最大長 8.2	最大幅 5.5	最大厚 1.4	重さ 93 g		完形		石罨にも利用を 磨面は 1 面で、裏面に磨痕	砂岩
118	石器 砥石	最大長 17.5	最大幅 9.8	最大厚 7.7	重さ 2200 g		半分欠損		砥面は 4 面 筋状の砥面は 2 条、端部に磨痕と深さ 12mm の窪み	砂岩
119	石器 磨石	最大長 (8.6)	最大幅 7.2	最大厚 3.4	重さ 290 g		半分欠損		片側面に顕著な磨痕面、先端に磨痕と炭化物 付着	玄武岩
120	石器 磨石	最大長 14.7	最大幅 12.2	最大厚 2.9	重さ 790 g		完形		扁平な両面に顕著な磨痕面	花崗岩
121	石製品 板石磨盤	最大長 (31.8)	最大幅 (15.0)	最大厚 1.6～2.8	重さ 2110 g		破片		磨面：「赤灰層」カ	
122	石製品 板石磨盤	最大長 29.4	最大幅 19.3	最大厚 2.7～2.8	重さ 2320 g		破片		磨面：真珠阿波泥種子、細磨 裏面：ノミ痕	
123	木製品 板材	残存長 72.2	最大幅 12.8	最大厚 4.8			完形		木取は板目	
124	木製品 板	残存長 49.6	最大径 4.2				完形		木取は芯持丸木、片端を鉋状工具で鋭利に削る	
125	木製品 板	残存長 106.0	最大幅 12.8	最大厚 12.6			完形		木取は芯持角材、4 寸角柱を板の積として両利 用、片端を鉋状工具で鋭利に削る	
126	木製品 板	残存長 138.4	最大径 6.5				完形		木取は芯持丸木、片端を鉋状工具で鋭利に削る	
127	木製品 板	残存長 84.4	最大径 14.2				完形		木取は芯持丸木、樹皮を残す、片端を鉋状工 具で鋭利に削る	
128	木製品 板	残存長 57.6	最大径 7.2				完形		木取は芯持丸木、片端を鉋状工具で鋭利に削る	

第3号河川跡 (第69、70図)

W-20 グリッドから検出した。第57号溝跡と重複し、その溝跡を切っていた。

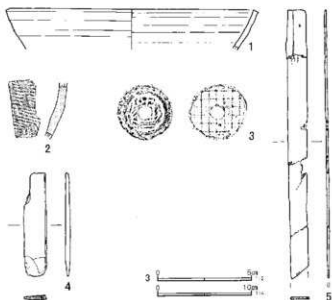
大半が調査区域外であり、流路方向は検出範囲が狭小であったため不明である。

規模は、検出長4.15m、検出幅2.72m、最大の深さは確認面から0.72mであった。本遺構は河川跡としたが、溝跡の可能性も考えられる。

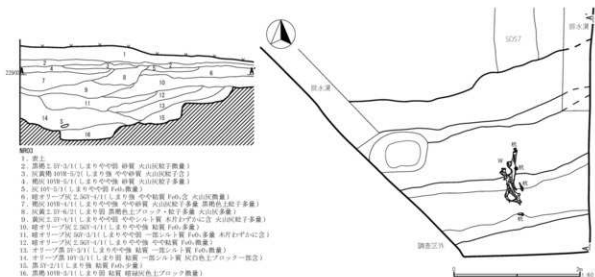
土層断面を観察すると、16層に渡る堆積がみられ、堆積状況から1回の埋没後、掘り直されていることから、水路としての利用があったことが推定される。底部付近は黒褐、オリーブ黒色粘質土、そこから4層程度が堆積した後、再度掘り直されたようで、木片などを含む3層(9、15、16層)が堆積していた。

出土遺物は掘削範囲が狭小であったためわずかであるが、瓦質土器土鍋、灰釉陶器瓶などが検出している。

出土遺物からこの河川は近世であろうと推定される。



第69図 第3号河川跡出土遺物



第70図 第3号河川跡

第19表 第3号河川跡出土遺物観察表(第69図)

No.	品名	口径	器高	口径	器高	器重	材質	形状	用途	備考
1	瓦質土器土鍋	φ7.0	(4.3)	-	-	ABM	にがい・黄澄 10YR7/3	B	残存率 5% 口内面・外面に若干突出 内外面: ロク口取割	
2	灰釉陶器瓶	-	-	-	-	ABM	外面: 灰白 2.5Y7/1 内面: 灰白 10YR7/1	B	胴部片	外面: 平行タタキ、輪郭は直り 底は直
3	金属製品 木交金	直径3.0mm	厚さ2.0~2.5mm	長さ13.1g	-	-	-	片断	粗重な溝。表面が内側から垂れる輪。裏面は格子のデザイン	材質は鉛合金、近代の所産とみられる
4	木製品 板材	残存長11.0	最大幅2.4	最大厚0.5	-	-	-	一部欠損	木取は榎目、片端に削り口	
5	木製品 板材	残存長28.6	最大幅2.0	最大厚0.2	-	-	-	一部欠損	木取は榎目、片端等孔、縁部を、木取りからする上削り口	

5 溝跡

第1号溝跡 (第71図)

A・B-2グリッドから検出した。隣接する第1号方形周溝墓の範囲確認のためトレンチ調査の際に検出したもので、調査範囲は一部のみである。

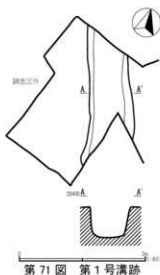
本遺構は、検出範囲はわずかであるが、ほぼ南北に延伸している。

規模は、検出長1.97 m程度、検出幅0.62～0.72 mを測り、深さは遺構確認面から0.23 mを測った。

平面形は、ほぼ一定の溝幅をもち、底部は、平坦ではなく起伏が目立ち、北から南に向かって傾きをもつ。

断面は、不明であるが自然堆積により埋没したと思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第2号溝跡 (第72図)

B-2グリッドから検出した。第1号方形周溝墓と重複しており、第1号方形周溝墓を切っていた。

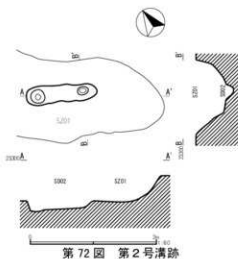
本遺構は、検出範囲はわずかであるが、ほぼ東西に延伸している。

規模は、検出長1.12 m程度、検出幅0.24～0.30 mを測り、深さは遺構確認面から0.59 mを測った。

平面形は、ほぼ一定の溝幅をもち、底部は、平坦ではなく両端にピット状の落ち込みをもつ。

断面は不明であるが自然堆積により埋没したと思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第3号溝跡 (第73図)

B・C-2グリッドから検出した。第1号住居跡と重複関係にあり、第1号住居跡を切っていた。攪乱により一部が消失していた。

本遺構は、切り合い関係にある第1号住居跡から南西に向かって延伸し、途中やや南に角度を変え、南の攪乱へ抜け、消失する。

規模は、検出長11.05 m程度、検出幅0.19～0.44 mを測り、深さは遺構確認面から0.07～0.13 mを測った。

平面形は、南進するにつれ溝幅が狭くなり、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、北から南に向かって傾きをもつ。

断面は、断面観察から、コの字状を呈し、2層～4層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第4号溝跡 (第74図)

B～D-3、D～F-4グリッドから検出した。第2、4、5号住居跡、第1号土坑、第5、6、9号溝跡と重複関係にあり、重複関係にあるすべての遺構を切っていた。また攪乱により一部が消失していた。

本遺構は、切り合い関係にある第4号住居跡から南西に向かって延伸し、途中北西に角度を変え、南西隅の調査区域へ抜ける。

規模は、検出長42.99 m程度、検出幅0.24～0.47 mを測り、深さは遺構確認面から0.06～0.15 mを測った。

平面形は、溝幅は一定の幅で、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、傾斜などはみられなかった。

断面は、断面観察から、掘り方はややつぶれたコの字状を呈し、最大2層程度の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と考えられる。

出土遺物は、検出されなかった。

第5号溝跡 (第75図)

B・C-3、C-4グリッドから検出した。第7号住居跡、第4号溝跡と重複関係にあり、第7号住居を切り、第4号溝跡に切られていた。

本遺構は、切り合い関係にある第7号住居跡から北西に向かって延伸し、第4号溝跡付近で収束する。

規模は、検出長6.79 m程度、検出幅3.37～4.55 mを測り、深さは遺構確認面から0.15 mを測った。

平面形は、溝幅は一定の幅で、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、傾斜などはみられなかった。

断面は、断面観察から、掘り方はややつぶれたコの字状を呈し、最大2層程度の堆積が確認できた。

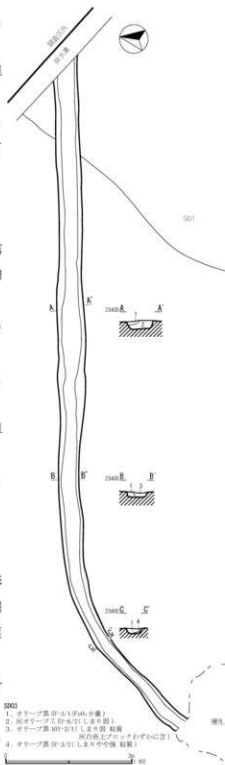
出土遺物は、検出されなかった。

第6号溝跡 (第76図)

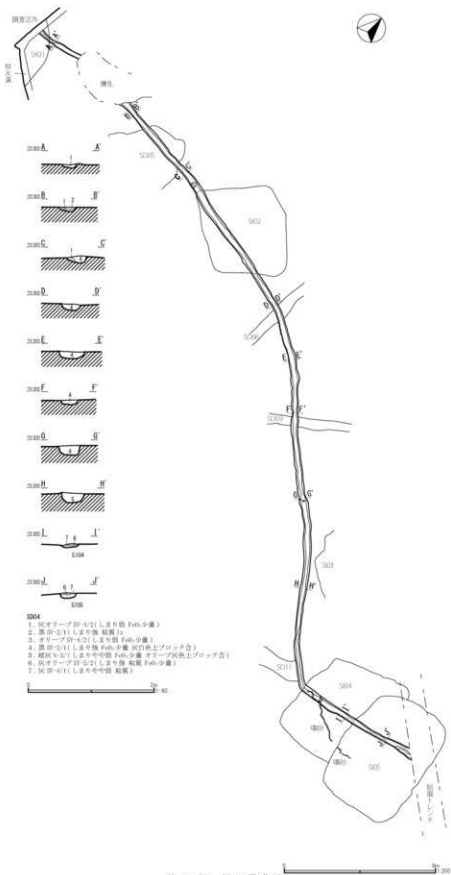
D-2～4グリッドから検出した。第1号住居跡、第2号方形周溝墓、第9号溝跡、第32号ピットと重複関係にあり、重複関係にある第4号溝跡、第32号ピットに切られ、それ以外の重複関係にある遺構に切っていた。

本遺構は、北壁の調査区域外から南に向かって延伸し、第2号方形周溝墓先で収束する。

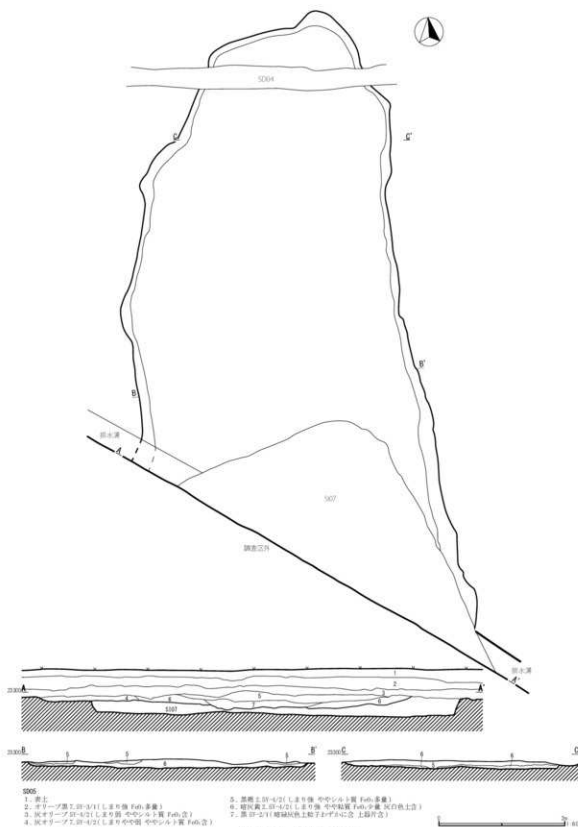
規模は、検出長15.97 m程度、検出幅0.51～0.95 mを測り、深さは遺構確認面から0.08～0.10 mを測った。深さが浅いため、



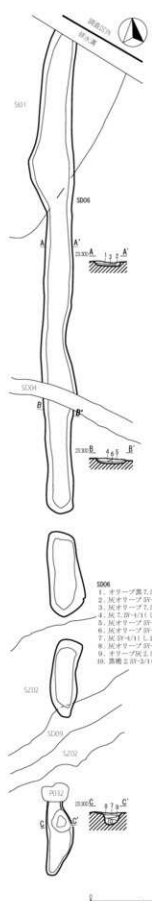
第73図 第3号溝跡



第 74 図 第 4 号溝跡



第75図 第5号溝跡



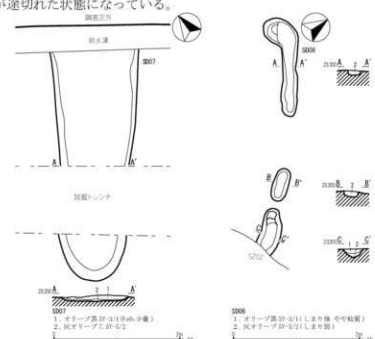
表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。
 平面形は、溝幅は一部に張り出しがあるものの一定の幅をもち、底部は、ほぼ平坦であり、北から南へのゆるやかな傾斜を備えていた。
 断面は、断面観察から、U字を呈し、2～3層程度の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。
 出土遺物は、検出されなかった。

第7号溝跡 (第76, 113図)

D-2・3グリッドから検出した。試掘トレンチにより一部が消失していた。
 本遺構は、調査区域外から南西に向かって延伸し、収束する。
 規模は、検出長 3.65 m 程度、検出幅 1.08 ~ 1.24 m を測り、深さは遺構確認面から 0.09 m を測った。
 平面形は、溝幅は一定の幅をもち、底部は、平坦である。傾斜は不明である。
 断面は、断面観察から、2層の堆積が確認できた。いずれも水平堆積であった。
 出土遺物は、陶器片口が検出された。

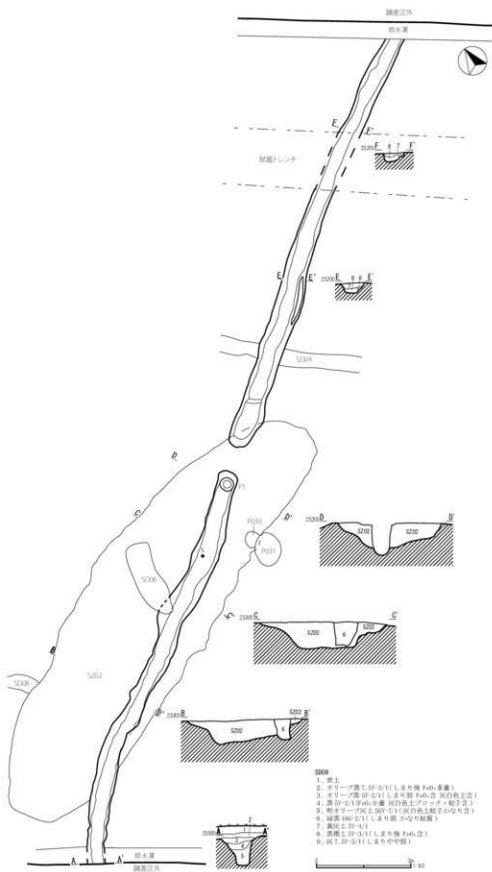
第8号溝跡 (第76図)

C-3・4グリッドから検出した。第2号方形周溝墓と重複関係にあり、第2号方形周溝墓によって一部切られている。
 本遺構は、南東に向かって延伸し、第2号方形周溝墓の西溝に切られる。
 規模は、検出長 3.79 m 程度、検出幅 0.23 m を測り、深さは遺構確認面から 0.08 ~ 0.13 m を測った。深さが浅いため、表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。



- 5000
1. オリーブ葉 (計-5/1/0/6、少量)
 2. 灰オリーブ (計-5/1/0/6、少量)
 3. 灰オリーブ (計-5/1/0/6、少量)
 4. 灰土 (計-5/1/0/6、少量)
 5. 灰オリーブ (計-5/1/0/6、少量)
 6. 灰オリーブ (計-5/1/0/6、少量)
 7. 灰土 (計-5/1/0/6、少量)
 8. 灰オリーブ (計-5/1/0/6、少量)
 9. オリーブ葉 (計-5/1/0/6、少量)
 10. 灰土 (計-5/1/0/6、少量)

第76図 第6～8号溝跡



第 77 図 第 9 号溝跡

平面形は、溝幅は西端が張り出した状態であるものの、一定の幅をもち、底部は、凹凸が目立つ。傾斜は第2号方形周溝墓へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、1～2層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第9号溝跡（第77図）

D・E-3、C・D-4グリッドから検出した。第2号方形周溝墓、第4・6号溝跡と重複関係にあり、第2号方形周溝墓、第4号溝跡を切っている。

本遺構は、南西に向かって延伸し、第2号方形周溝墓の西溝をへて、調査区域外へと進む。

規模は、検出長 18.11 m 程度、検出幅 0.34～0.58 m を測り、深さは遺構確認面から 0.51 m を測った。表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。

平面形は、溝幅は起伏があるが、一定の幅をもち、底部は凹凸が目立つ。南へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、1～3層の堆積が確認できた。なお、南側は人工的に一括で埋められた形跡があった。

出土遺物は、検出されなかった。

第10号溝跡（第78図）

F-4グリッドから検出した。

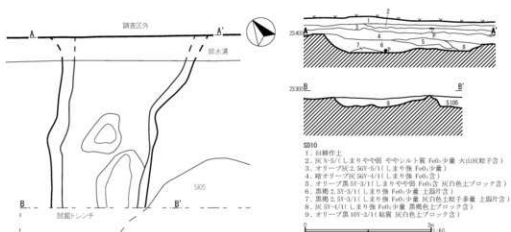
本遺構は、南西に向かって延伸し、試掘トレンチによって消失する。

規模は、検出長 2.35 m 程度、検出幅 1.49～2.08 m を測り、深さは遺構確認面から 0.21 m を測った。

平面形は、溝幅は北端が広く、その後は一定の幅をもち、底部は凹凸が目立つ。南西へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、本遺構に係る堆積は黒褐色土に、粘質ブロックの胎土が混ざる堆積で確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第78図 第10号溝跡

第11号溝跡（第79図）

D・E-4、D-5グリッドから検出した。第2号方形周溝墓、第4、12号溝跡、第56号ピットと重複関係にあり、いずれの遺構にも切られていた。

本遺構は、第4号溝跡付近から南西方向に延伸し、調査区域外まで伸びる。

規模は、検出長11.35 m程度、検出幅0.76～1.01 mを測り、深さは遺構確認面から0.19～0.26 mを測る。

平面形は、起伏があるものの、一定の幅をもち、底部は凹凸が目立つ。底部には噴砂が複数箇所確認でき、南西へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、3層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第12号溝跡（第79、113図）

D-4・5グリッドから検出した。第11号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第11号溝跡を切っていた。

本遺構は、第11号溝跡の直上に位置し、南西方向に延伸し調査区域外まで伸びる。

規模は、検出長2.00 m程度、検出幅0.43 mを測り、深さは遺構確認面から0.07 mを測る。

平面形は、検出範囲が狭小であるが、溝幅は一定で、第11号溝跡同様、南西へ向かって傾斜しているものと推定される。

断面は、断面観察から、1層の堆積が確認でき、自然堆積と思われる。

出土遺物は、土師器が1点のみ検出された。

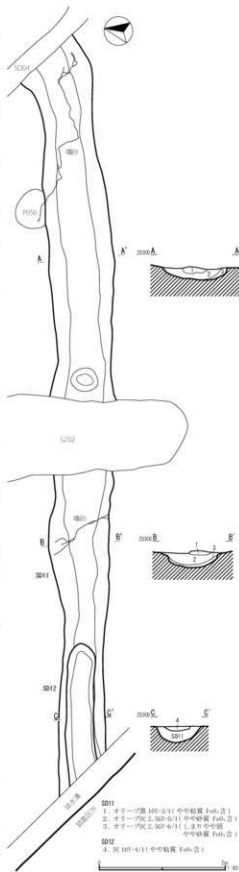
第13号溝跡（第80、113図）

F-4グリッドから検出した。

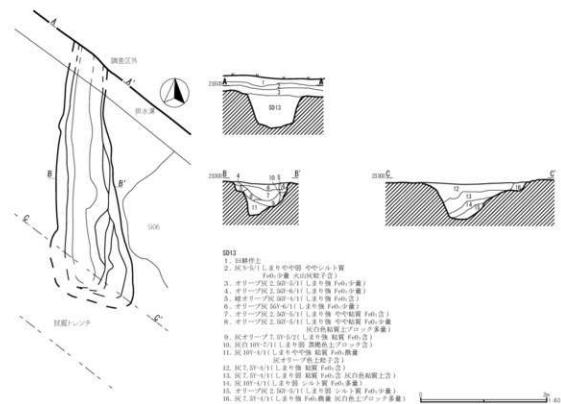
本遺構は、南方向に延伸し、試掘トレンチ付近で収束する。

規模は、検出長3.50 m程度、検出幅0.62～1.27 mを測り、深さは遺構確認面から0.50～0.55 mを測る。

平面形は、溝幅は北から南に進むにつれ広がり、南へ向かって傾斜しているものと推定される。底部は鋭角に落ち込みが確認された。



第79図 第11・12号溝跡



第80図 第13号溝跡

断面は、断面観察から、8層の堆積が確認でき、周辺からの自然堆積と思われる。

出土遺物は、弥生土器壺及び甕2点が検出され、この遺構の時期は弥生時代中期後半から末頃と考えられる。

第14号溝跡 (第81、113図)

F-4、E・F-5グリッドから検出した。第3号方形周溝墓、第15号溝跡、第5号土坑、第61.62号ピットと重複関係にあり、第3号方形周溝墓、第15号溝跡、第5号土坑を切り、第61.62号ピットに切られていた。

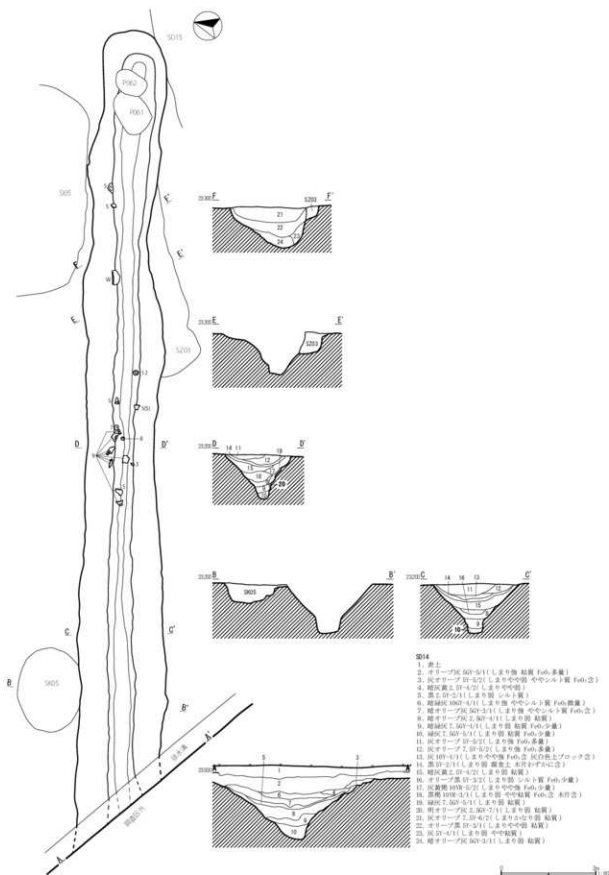
本遺構は調査区域外から北東方向に延伸し、第62号ピット付近で収束する。

規模は、検出長 16.64 m、検出幅 1.13～1.83 mを測り、深さは遺構確認面から 0.85～1.05 mを測る。平面形は、溝幅は東から西に進むにつれ広がり、西へ向かって傾斜しているものと推定される。底部は鋭角に落ち込みが確認された。

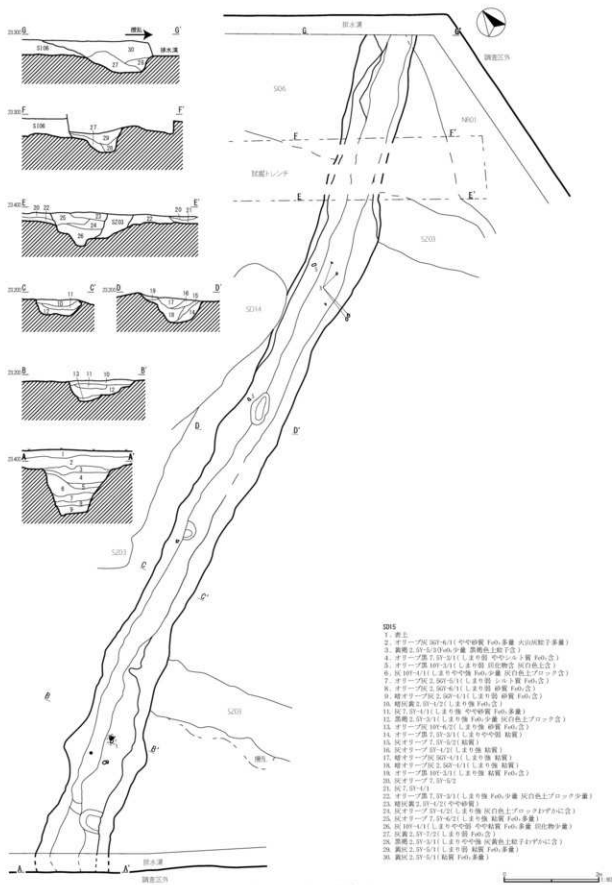
断面は、断面観察から、V字状で最大11層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積、河川の氾濫等による一括堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器坏、土師質土器、漆碗、土鍋、銭貨、石器が検出され、うち大部分は古河公方系の土師質土器が占める。

この遺構の時期は15C末から16C初ごろと考えられる。



第 81 図 第 14号溝跡



第 82 図 第 15 号溝跡

第15号溝跡 (第82、113図)

F・G-4、E・F-5グリッドから検出した。第6号住居跡、第3号方形周溝墓、第14号溝跡と重複関係にあり、第6号住居跡、第3号方形周溝墓を切り、第14号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区域外から北東方向に延伸し、再び調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長19.07m程度、検出幅0.87mを測り、深さは遺構確認面から0.34～0.72mを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔で、南へ向かって傾斜している。特に南壁付近では20cm程度の傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、逆台形状で最大7層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積や河川の氾濫等による堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・高台坏が検出された。

重複関係にある遺構の切り合い関係から弥生時代後期以降と考えられる。

第16号溝跡 (第83、113図)

F-5・6グリッドから検出した。第1号河川跡、第3号方形周溝墓と重複関係にあり、第3号方形周溝墓を切り、第1号河川跡に切られていた。

本遺構は重複する第1号河川跡から南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

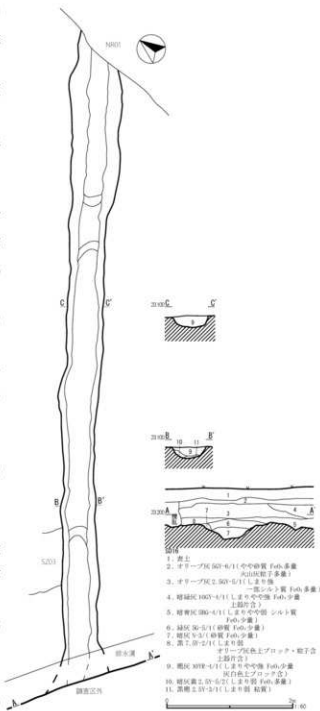
規模は、検出長9.51m程度、検出幅0.48～0.84mを測り、深さは遺構確認面から0.18～0.19mを測る。

平面形は、溝幅は第1号河川跡付近が最大で、そこから窄むように間隔が狭くなる。床面は凹凸が多く、かろうじて南東方向に傾斜するが、検出範囲が極小のため詳細は不明である。

断面は、断面観察から、最大2層の堆積が確認でき、自然堆積と考えられるが、隣接する第1号河川跡の影響も考えられる。

出土遺物は、弥生土器甕、細片で土師器片が検出された。

この遺構の時期は、出土量や重複関係にある遺構の切り合い関係から第3号方形周溝墓の弥生時代後期以降と考えられる。



第83図 第16号溝跡

第17号溝跡（第84、113、114図）

L-10・11 グリッドから検出した。第4号方形周溝墓、第2号河川跡と重複関係にあり、第4号方形周溝墓を切り、第2号河川跡に切られていた。

本遺構は重複する第4号方形周溝墓から南に延伸し、調査区域外へと抜ける。

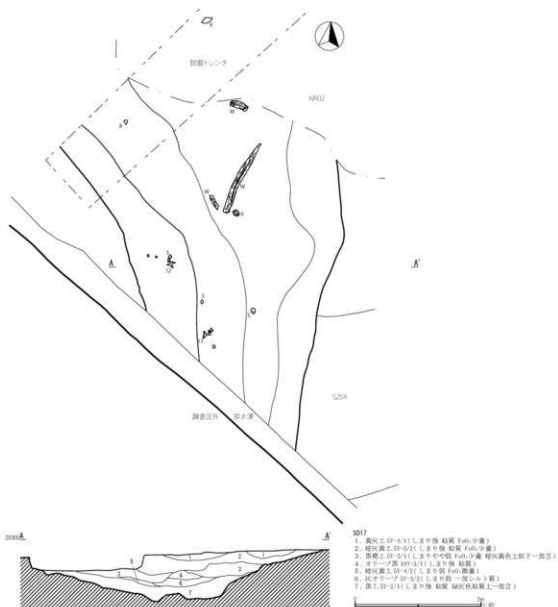
規模は、検出長4.89 m程度、検出幅2.88～3.75 mを測り、深さは遺構確認面から0.66～0.71 mを測る。

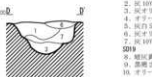
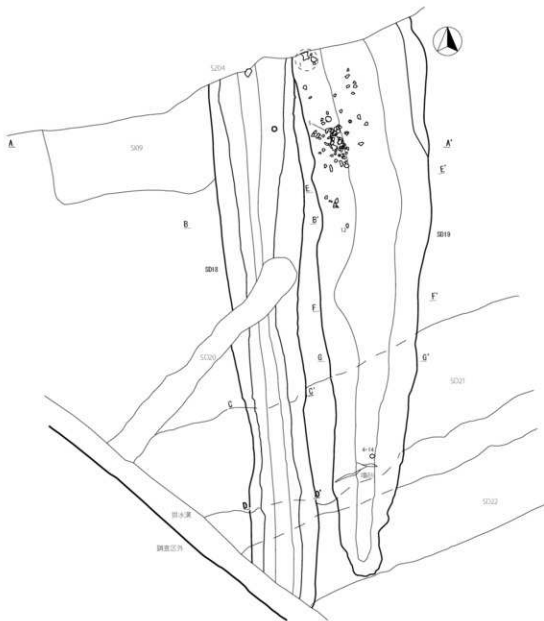
平面形は、溝幅は第4号方形周溝墓付近から徐々に広がり、そこから収縮を繰り返す。床面はやや起伏があり、南東方向に傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、7層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器杯・高坏・甕・台付甕、須恵器甕、石製紡錘車、板材が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代後期～古墳時代前期初頭と考えられる。





- SD18
1. 埋マリアP16 507-473 (しまりや中層 中ヤシロ土層)
 2. 埋マリアP17 507-473 (しまりや)
 3. 埋マリアP18 507-473 (しまりや 砂層)
 4. オラマリアP19 507-473 (しまりや中層 砂層)
 5. 埋マリアP20 507-473 (しまりや)
 6. 埋マリアP21 507-473 (しまりや 砂層)
 7. 埋マリアP22 507-473 (しまりや中層 砂層)
- SD19
8. 埋マリアP23 507-473 (しまりや 第一シロ土層 砂層)
 9. 埋マリアP24 507-473 (しまりや 第二シロ土層)
 10. オラマリアP25 507-473 (しまりや 中層)



第 85 図 第 18・19 号溝跡

第18号溝跡 (第85、114図)

M-10・11グリッドから検出した。第9号住居跡、第4号方形周溝墓、第19～22号溝跡と重複関係にあり、第9号住居跡、第19、21、22号溝跡を切り、それ以外のすべての遺構に切られていた。

本遺構は重複する第4号方形周溝墓から第19号溝跡と平行して、南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長8.22m程度、検出幅0.87～1.35mを測り、深さは遺構確認面から0.51～0.73mを測る。

平面形は、溝幅は第4号方形周溝墓付近から徐々に窄まり、南進する。床面はやや起伏があり、南方向に傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、基本4層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・壺型ミニチュア土器、土師器甕、須恵器坏、石器が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代末ごろと考えられる。

第19号溝跡 (第85、114図)

M-10・11グリッドから検出した。第4号方形周溝墓、第18、21、22号溝跡と重複関係にあり、第4号方形周溝墓、第18号溝跡に切られ、第21、22号溝跡を切っていた。

本遺構は重複する第4号方形周溝墓から隣接する第18号溝跡と平行して、南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長8.50m程度、検出幅1.49～2.11mを測り、深さは遺構確認面から0.27～0.58mを測る。

平面形は、溝幅は第4号方形周溝墓付近から徐々に窄まり、重複する第21号溝跡付近で収縮し、立ち上がる。床面はやや起伏があり、南東方向に傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、基本3層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器、小型壺が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代後期～末と考えられる。

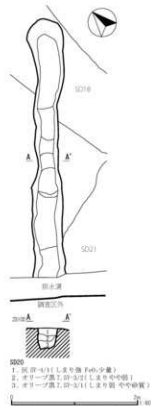
第20号溝跡 (第86、114図)

M-11グリッドから検出した。第18、21号溝跡と重複関係にあり、いずれの溝跡を切っていた。

本遺構は西壁の調査区域外から北東に直進し、第18号溝跡と重複して収束する。

規模は、検出長4.09m程度、検出幅0.31～0.48mを測り、深さは遺構確認面から0.32mを測る。

平面形は、溝幅は中央付近あたりで窄むもののほぼ同じ幅で進み、重複する第18号溝跡付近で収縮し、立ち上がる。床面はやや起伏であるが、平坦である。溝の傾斜はみられない。



第86図 第20号溝跡

断面は、断面観察から、3層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器甕・台付甕が検出された。

この遺構の時期は、出土量がわずかであるため、不明である。

第21号溝跡（第87、114図）

M・N-11グリッドから検出した。第18～20、23号溝跡と重複関係にあり、第19、20号溝跡を切り、それ以外のいずれの溝跡に切られていた。

本遺構は西壁の調査区域外から東に直進し、第22号溝跡と平行して、第23号溝跡に切られ、消滅する。

規模は、検出長12.78m程度、検出幅0.73～1.85mを測り、深さは遺構確認面から0.05～0.11mを測る。

平面形は、溝幅は一貫して一定の幅で直進する。床面は平坦であり、溝の傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、1層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器甕・甗が検出された。出土量から土師器甗は他からの流れ込みと推定される。

この遺構の時期は、弥生時代中期末と考えられる。

第22号溝跡（第87、115図）

M・N-11グリッドから検出した。第18、19、23号溝跡と重複関係にあり、第19、20号溝跡を切り、それ以外のいずれの溝跡に切られていた。

本遺構は西壁の調査区域外から東に直進し、第21号溝跡と平行して、第23号溝跡に切られ、消滅する。

規模は、検出長11.93m程度、検出幅0.99～1.32mを測り、深さは遺構確認面から0.52～0.58mを測る。

平面形は、溝幅は一貫して一定の幅で直進する。床面は鋭角であり、溝の傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、V字状で6～7層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器土釜・甕・高坏が検出された。

この遺構の時期は、弥生時代中期末と考えられる。

第23号溝跡（第88、115図）

N-10・11グリッドから検出した。第2号河川跡、第21、22、24号溝跡と重複関係にあり、第21、22号溝跡を切っており、第2号河川跡、第24号溝跡に切られていた。

本遺構は第2号河川跡から南東方向に直進し、第24号溝跡に合流する。

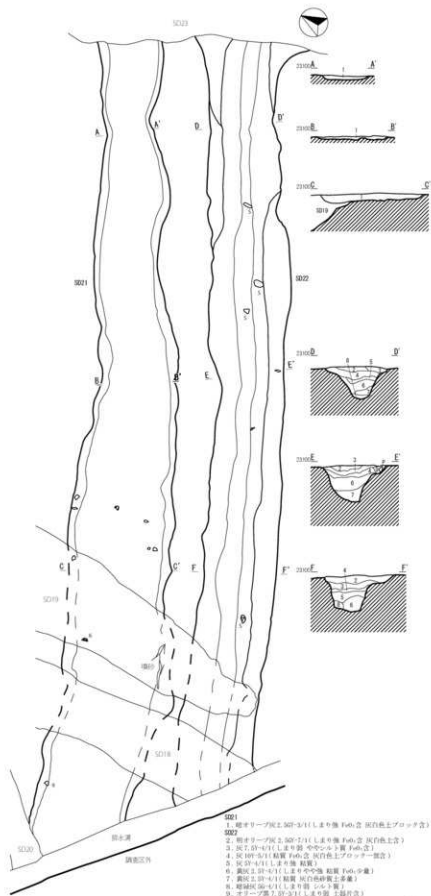
規模は、検出長13.58m程度、検出幅0.89mを測り、深さは遺構確認面から0.42mを測る。

平面形は、溝幅は収縮を繰り返しながら、直進する。床面はやや平坦であり、溝は第24号溝跡へ向かって傾斜する。

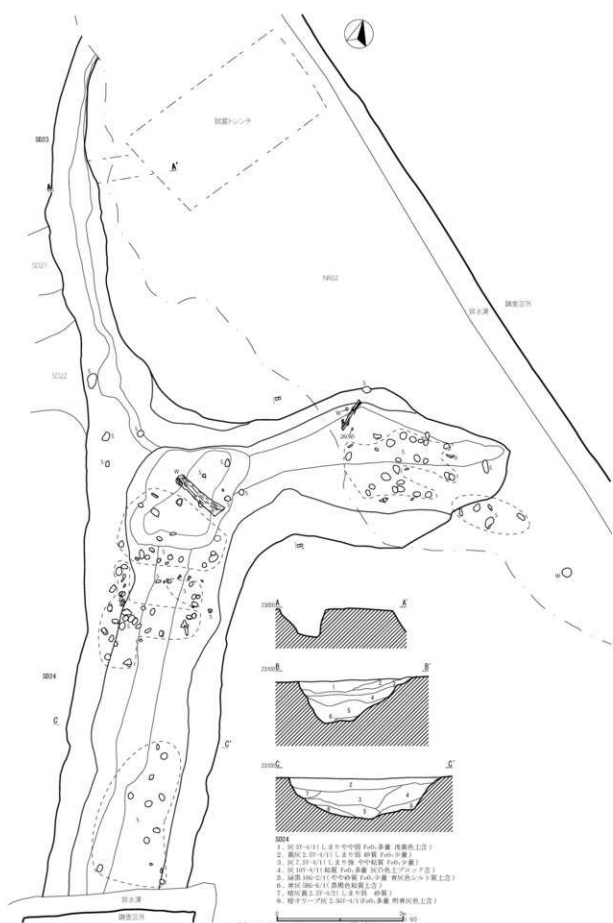
断面からは、逆台形状で堆積が確認できる。

出土遺物は、土師器甕が数点検出された。

この遺構の時期は、出土量が少量のため断定はできないが、古墳時代前期以降と考えられる。



第 87 図 第 21、22 号溝跡



第88図 第23・24号溝跡

- 5024
1. 穴径4.1(1)しまりや中層 F₀少量 浅層粘土上
 2. 穴径2.5(4)しまり部 砂質 F₀少量
 3. 穴径4.1(1)しまり部 中層粘質 F₀少量
 4. 穴径4.1(1)粘層 F₀少量 灰白色土アサツ上
 5. 穴径3.0(2)しまりや中層 F₀少量 黄灰色シルト質上
 6. 穴径2.0(4)しまり部 粘質 F₀少量 黄灰色粘質上
 7. 埋土層土質(2)しまり部 粘質
 8. 埋土層(1)土質(4)粘質 多量 明褐色粘土上

第24号溝跡（第88、115図）

N・O-11・12グリッドから検出した。第2号河川跡、第23号溝跡と重複関係にあり、第2号河川跡に切られ、第23号溝跡を切っている。

本遺構は第2号河川跡との境に木杭と矢板で組んで構築した堰が検出しており、そこから西に直進し、ほぼ90°で折れ、調査区域外の南壁へと進む。

規模は、検出長11.59 m程度、検出幅1.72～2.52 mを測り、深さは遺構確認面から0.63～0.65 mを測る。なお屈曲部の底部は深さ20 cm程度の落ち込みをもつ。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。南北軸の立ち上がりは西側が鋭角であり、東側はやや緩やかである。床面は平坦であり、第2号河川跡から調査区域外に向かって傾斜する。

断面は、断面観察から、逆台形状で6～7層の堆積が確認でき、レンズ状堆積、河川氾濫による堆積が確認できた。中層ではφ5～10 cm位の礫が多量に検出された。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器甕・台付甕・甌・坏・高坏、須恵器坏、また、在地系の瓦質土器瓦登、土師質土器（かわらけ）、鉄滓、磨製石鏃、木製品が検出された。

この遺構の時期は、複数の期間に跨っての出土遺物があるため断定できないが、古代から近世に至るまでと考えられる。

第25号溝跡（第89、116図）

O・P-11、O-12グリッドから検出した。第26号溝跡と重複関係にあり、第26号溝跡に切られている。

本遺構は第26号溝跡から北西方向に延伸し、途中南西軸へ向きを変え、5.5 m程度直進した後、南東軸へ向きを変え、調査区域外へと至る。

規模は、検出長9.83 m程度、検出幅0.20～0.38 mを測り、深さは遺構確認面から0.07～0.21 mを測る。

平面形は、全景がコの字状を呈し、溝幅は一定の間隔を保ち、延伸する。床面はやや平坦であるが、一部V字状に鋭角になる。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、U字状で1～2層の堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量であるため時期不明である。

第26号溝跡（第89、116図）

P-11・12グリッドから検出した。第25号溝跡、第108、109号ピットと重複関係にあり、第25号溝跡を切り、第108、109号ピットに切られていた。

本遺構は調査区東端に位置し、南北軸に直進し、北壁から南壁へと至る。

規模は、検出長5.66 m程度、検出幅0.31～0.66 mを測り、深さは遺構確認面から0.05～0.11 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。床面はやや凹凸があるものの平坦である。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、U字状で1層の堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕、土師器甕・壺・坏・甌が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第27号溝跡（第89、116図）

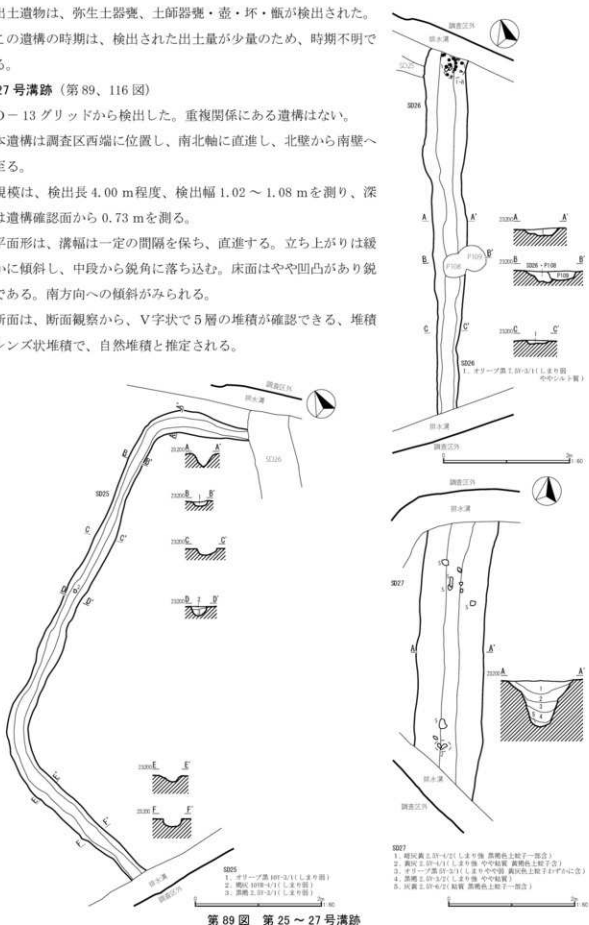
〇-13グリッドから検出した。重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区西端に位置し、南北軸に直進し、北壁から南壁へと至る。

規模は、検出長4.00 m程度、検出幅1.02～1.08 mを測り、深さは遺構確認面から0.73 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。立ち上がりは緩やかに傾斜し、中段から鋭角に落ち込む。床面はやや凹凸があり鋭角である。南方向への傾斜がみられる。

断面は、断面観察から、V字状で5層の堆積が確認できる、堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。



第89図 第25～27号溝跡

出土遺物は、弥生土器壺、陶器甕が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第28号溝跡（第90、116図）

P-13グリッドから検出した。第1号性格不明遺構と重複関係にあり、第1号性格不明遺構に切られていた。

本遺構は調査区中央北に位置し、東西軸に直進し、第1号性格不明遺構に接する。

規模は、検出長2.68m程度、検出幅0.43mを測り、深さは遺構確認面から0.28mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、長細い方形のプランである。立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、U字状で4層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕ほか数点の土器片が出土したが、細片が大部分であった。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第29号溝跡（第91、116、117図）

P・Q-13グリッドから検出した。第30、32号溝跡、第10、11号土坑、第1号性格不明遺構と重複関係にあり、第1号性格不明遺構に切られていた。

本遺構は調査区を北東から南西に向かって横断している。

規模は、検出長14.47m程度、検出幅0.66～0.79m、深さは遺構確認面から0.55～0.69mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、U字状で6層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕・壺・鉢・高坏、石器が検出した。うち1点の壺は高さ20cm以上の大型である。

この遺構の時期は、弥生時代中期後半～後期前半と考えられる。

第30号溝跡（第92、117図）

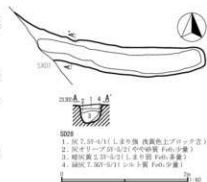
O・P-13、P・Q-14グリッドから検出した。第1号掘立柱建物跡、第29、32号溝跡、第11号土坑、第1号性格不明遺構と重複関係にあり、第29号溝跡、第1号性格不明遺構を切り、第1号掘立柱建物跡、第32号溝跡、第11号土坑に切られていた。

本遺構は調査区を東西に横断しており、東から西へ直進し、第1号性格不明遺構と重複した付近で、収束する。

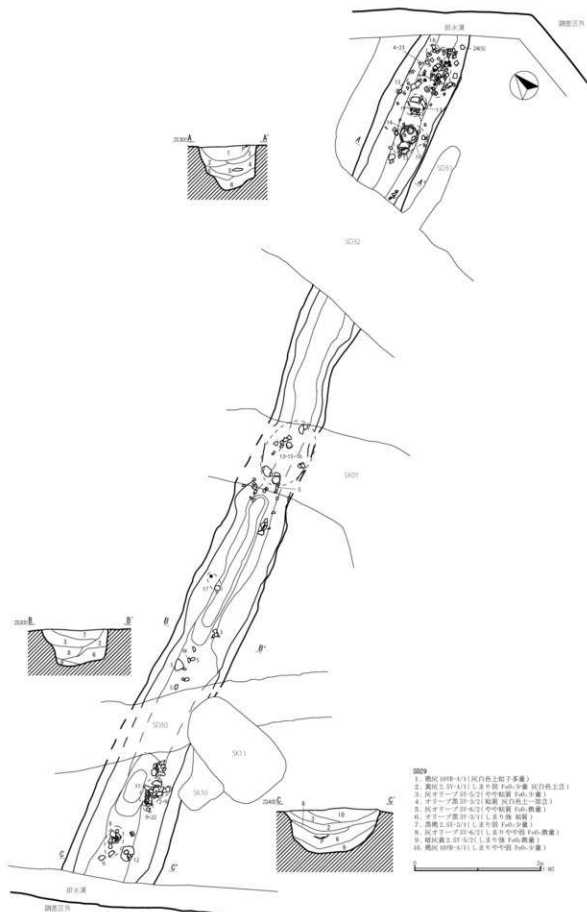
規模は、検出長19.17m程度、検出幅0.71～1.36mを測り、深さは遺構確認面から0.08～0.30mを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは東側は緩やかで底部は平坦で、西側はほぼ垂直で底部は平坦である。西から東へと傾斜が確認できた。

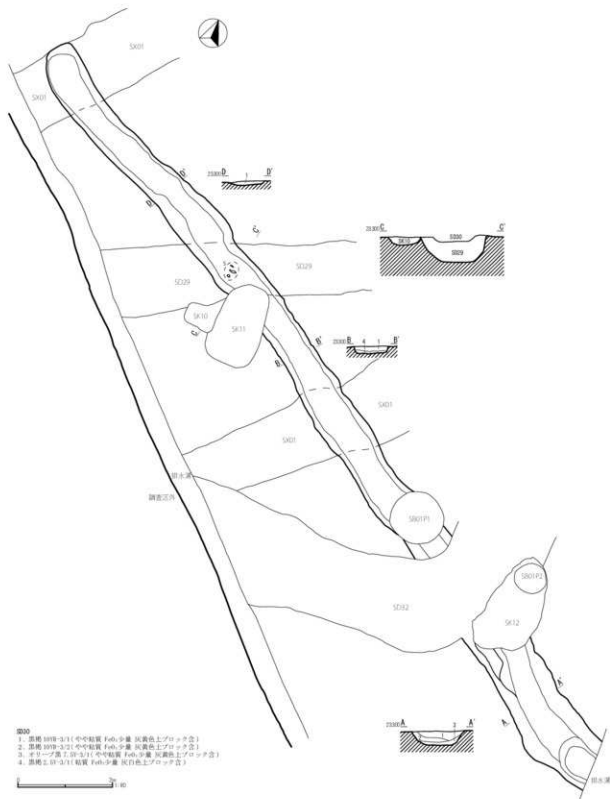
断面は、断面観察から、コの字状もしくはU字状で2～3層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。



第90図 第28号溝跡



第 91 図 第 29 号溝跡



第 92 図 第 30 号溝跡

出土遺物は、土師器鉢やその他土師器の細片を検出した。鉢以外は細片であるため図化できるものはなかった。

よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第31号溝跡（第93図）

Q-13グリッドから検出した。第32号溝跡と重複関係にあり、第32号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区北東付近に第29号溝跡に平行して南西方向に進み、第32号溝跡に切られる。

規模は、検出長1.37m程度、検出幅0.35mを測り、深さは遺構確認面から0.25mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、長細い方形のプランである。立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、断面観察から、U字状で3層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第32号溝跡（第94、117、118図）

P・Q-13・14グリッドから検出した。第29～31号溝跡、第1号掘立柱建物跡、第12号土坑、第2号性格不明遺構と重複関係にあり、第1号掘立柱建物跡、第12号土坑に切られ、それ以外の遺構を切っていた。

本遺構は調査区を北から南にS字状に横断している。

規模は、検出長17.74m程度、検出幅1.59～2.03m、深さは遺構確認面から0.74～1.07mを測る。

平面形は、蛇行はしているものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、断面観察から、位置によって、逆台形もしくはU字状で11層程度の堆積が確認できる。なお、一度は堆積しながらも、一時溝としての機能があったことが分かる（第8層）。堆積は主に西からの堆積によるもので、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕・鉢、土師器甕・台付甕・坏、須恵器壺、灰釉陶器皿、瓦、瓦質土器片口鉢、挿鉢、土鍋、陶器花瓶、磁器白磁碗、白玉、銭貨、石器、種子（エゴマ）などが検出された。出土量から判断し、主体的な遺物は弥生土器、土師器、須恵器を除く中世に属する遺物が大半である。検出位置は中央と、南端部分に集中しており、銭貨は南端部にまとめて検出された。

よって、この遺構の時期は、15世紀後半の中世に属する。

第33号溝跡（第95図）

R-15グリッドから検出した。第13号土坑と重複関係にあり、その土坑に切られていた。

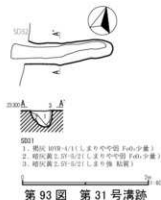
本遺構は調査区西に位置し、南東方向から北西に直進する。

規模は、検出長1.84m程度、検出幅0.40～0.55mを測り、深さは遺構確認面から0.12mを測る。

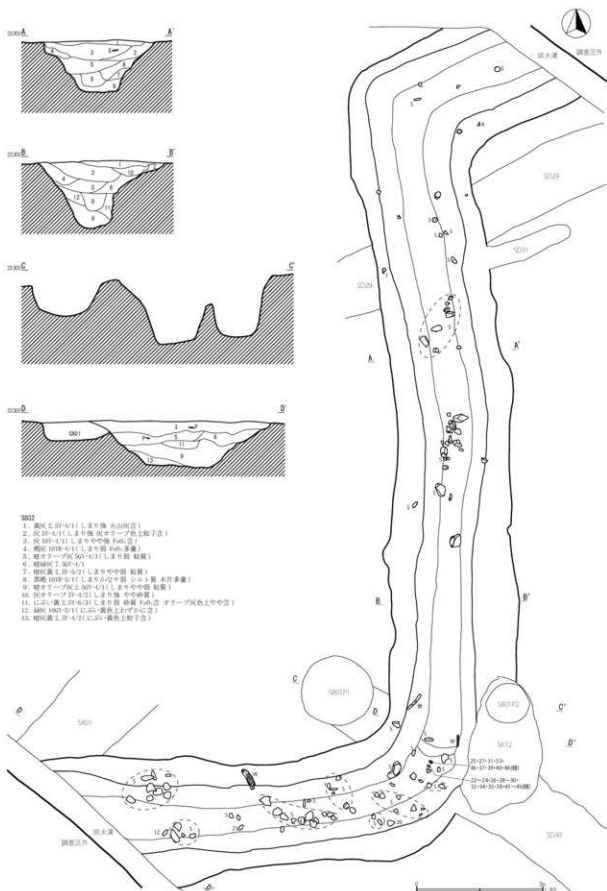
平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面の詳細は不明である。

出土遺物は、種子（モモ）が検出された。



第93図 第31号溝跡



第 94 図 第 32 号溝跡

第34号溝跡（第95図）

R・S-15、R-16グリッドから検出した。第179、181、183号ピットと重複関係にあり、それらピットに切られていた。

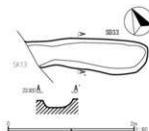
本遺構は調査区西に位置し、ほぼ南北軸を呈し、南から北へ直進し、収束する。

規模は、検出長7.77 m程度、検出幅0.30～0.45 mを測り、深さは遺構確認面から0.19～0.27 mを測る。

平面形は、やや歪んでいるものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面の詳細は不明である。

出土遺物は、検出されなかった。



第35号溝跡（第95図）

S・T-15グリッドから検出した。第17号土坑、第3号井戸跡、第168号ピットと重複関係にあり、すべての遺構を切っていた。

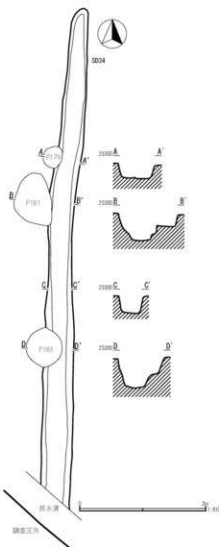
本遺構は調査区西に位置し、東西軸を呈し、第3号井戸跡付近で収束する。

規模は、検出長7.11 m程度、検出幅0.24～0.28 mを測り、深さは遺構確認面から0.05～0.06 mを測る。深さが浅いため、表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。

平面形は、やや南西に蛇行はしているものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、緩やかなU字状で1層の堆積が確認できる。堆積は、自然堆積と推定される。

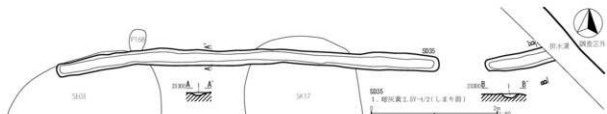
出土遺物は、検出されなかった。



第36号溝跡（第96図）

T-15グリッドから検出した。第37号溝跡と重複関係にあり、この溝跡に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、東西軸を呈し、第37号溝跡付近で収束する。



第95図 第33～35号溝跡

規模は、検出長 5.05 m 程度、検出幅 0.22 ~ 0.36 m を測り、深さは遺構確認面から 0.11 ~ 0.16 m を測る。

平面形はわずかに弓のように張っているようであり、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、U 字状である。

出土遺物は、検出されなかった。

第 37 号溝跡 (第 96、118 図)

S・T-15 グリッドから検出した。第 6 号方形周溝墓、第 36 号溝跡、第 207 号ピットと重複関係にあり、これらの遺構を切っていた。

本遺構は調査区西に位置し、南北に延伸し北は第 36 号溝跡付近、南は第 207 号ピット付近で収束する。規模は、検出長 3.82 m 程度、検出幅 0.78 m を測り、深さは遺構確認面から 0.55 m を測る。

平面形は長細く、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、コの字状で 5 層の堆積が確認できる。大部分の覆土は黒褐色やオリーブ黒の粘質土で、4 層は炭化物層で構成されていた。

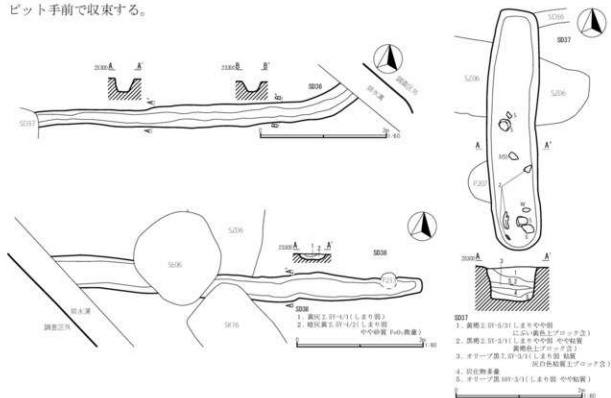
出土遺物は、瓦質土器の土鍋、板石塔婆、土師質土器などが数点検出されている。

検出された遺物から、本遺構の時期は 15 世紀中頃から 16 世紀前半頃と考えられる。

第 38 号溝跡 (第 96 図)

S-16 グリッドから検出した。第 6 号方形周溝墓、第 6 号井戸跡、第 16 号土坑、第 233 号ピットと重複関係にあり、第 6 号方形周溝を切り、第 6 号井戸跡、第 16 号土坑、第 233 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、東西方向に直進する溝跡で、調査区域外から延伸し、第 233 号ピット手前で収束する。



第 96 図 第 36 ~ 38 号溝跡

規模は、検出長 5.68 m 程度、検出幅 0.30 ～ 0.50 m を測り、深さは遺構確認面から 0.09 m を測る。
平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。
断面は、断面観察から、2 層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。
出土遺物は、検出されなかった。

第 39 号溝跡 (第 97 図)

S・T-16 グリッドから検出した。第 6 号方形周溝墓、第 22 号土坑、第 214、237 号ピットと重複関係にあり、第 6 号方形周溝墓を除き、重複関係にある全ての遺構に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、第 6 号方形周溝墓から延伸し、調査区南壁まで延びる。第 6 号方形周溝墓との接続付近でやや屈曲するものの、北東から南西方向に向かって直進する。

規模は、検出長 8.93 m 程度、検出幅 0.25 ～ 0.43 m を測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.03 m を測る。

平面形は、ゆがみながらも、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。
断面は、断面観察から、3 層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。
出土遺物は、検出されなかった。

第 40 号溝跡 (第 97 図)

S-16・17 グリッドから検出した。他の遺構との重複関係はない。

本遺構は調査区西に位置し、南壁から北東方向に直進し、収束する。収束部にはピット状の落ち込みを有する。

規模は、検出長 2.38 m 程度、検出幅 1.15 m を測り、深さは遺構確認面から 0.12 ～ 0.17 m を測る。ピット状の落ち込みは確認面からの深さで 0.41 m を測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は平坦である。
断面は、断面観察から、2 層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。
出土遺物は、検出されなかった。

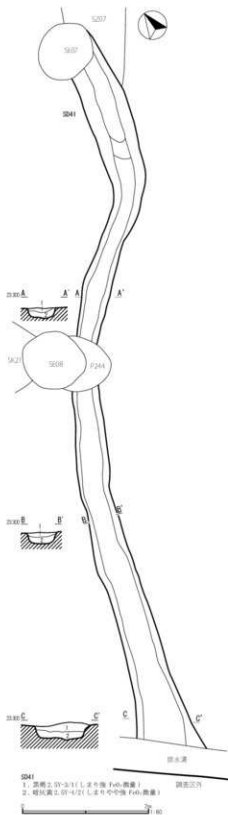
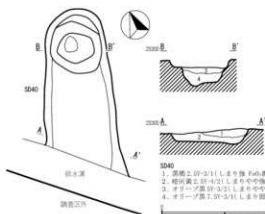
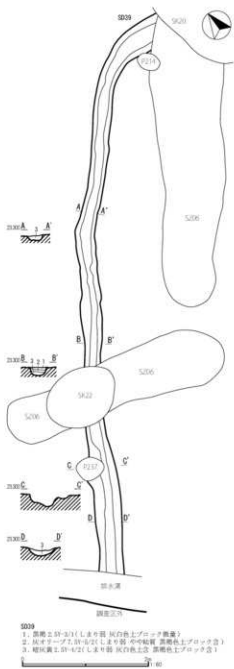
第 41 号溝跡 (第 97 図)

S・T-16、S-17 グリッドから検出した。第 7 号方形周溝墓、第 7、8 号井戸跡、第 244 号ピットと重複関係にあり、第 7 号方形周溝を切り、第 7、8 号井戸跡、第 244 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、調査区南壁から蛇行しながら北東方向に延伸し、第 7 号井戸跡に切られ消滅する。

規模は、検出長 11.12 m 程度、検出幅 0.35 ～ 0.70 m を測り、深さは遺構確認面から 0.15 ～ 0.24 m を測る。

平面形は、ゆがみながらも、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。
断面は、断面観察から、2 層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。
出土遺物は、検出されなかった。



第 97 図 第 39 ~ 41 号溝跡

第42号溝跡（第98、121～130図）

T-15～17グリッドから検出した。第7号方形周溝墓、第10号井戸跡、第157号ピット、第4号性格不明遺構と重複関係にあり、重複関係にある全ての遺構を切っていた。

本遺構は調査区中央に位置し、北から南に直進したのち90°屈曲し、西に延伸する。

規模は、検出長21.84m程度、検出幅2.53～3.09mを測り、深さは遺構確認面から0.90～1.02mを測る。

全体的に残存状態はよく、機能していた様相が残り、寺院の区画堀としての機能を果たしていた溝跡と推定できる。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは底部から鋭角に伸び、途中からやや緩やかになる。底部は平坦である。

断面は、断面観察から、9～11層の堆積が確認できる。覆土の大半がしまりの弱い、粘質土で埋まりながらも堆積から機能していたことがわかる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、縄文時代後期から中世にかけてのものが数百点上検出された。大半は中世における土師質土器、瓦質土器挿鉢・片口鉢、土鍋、焙烙、陶器茶壺・鉢、青磁碗・皿、白磁皿・壺、染付皿、瓦などである。それ以外の遺物は重複関係にある遺構からの流れ込みと考えられる。

本遺構では検出遺物の大半を土師質土器が占め、本溝跡の北端に集中しており、それら遺物は「かわらけ集中地点」として別途まとめている。その特徴から大部分を在地系の成田氏に関連するもの、少数を古河公方系のもの大別することができる。また磁器のうち龍泉窯の青磁皿や白磁皿は14世紀末～15世紀後、土鍋は15世紀後半から16世紀前半で、焙烙は16世紀前半と大別でき、本遺構は機能していた時期が複数にわたっていた可能性が考えられる。

第43号溝跡（第98、119図）

T-17グリッドから検出した。第42号溝跡と重複関係にあり、第42号溝跡（南北方向）に接続する。

本遺構は調査区中央南に位置し、調査区南壁から第42号溝跡（東西方向）に平行して延伸し、第42号溝跡（南北方向）に接続し、収束する。

規模は、検出長5.61m程度、検出幅1.15mを測り、深さは遺構確認面から0.29mを測る。

平面形は、南岸の立ち上がりが消滅しているが、ほぼ直線的に均一な溝幅で延伸していたものと考えられる。立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、3層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

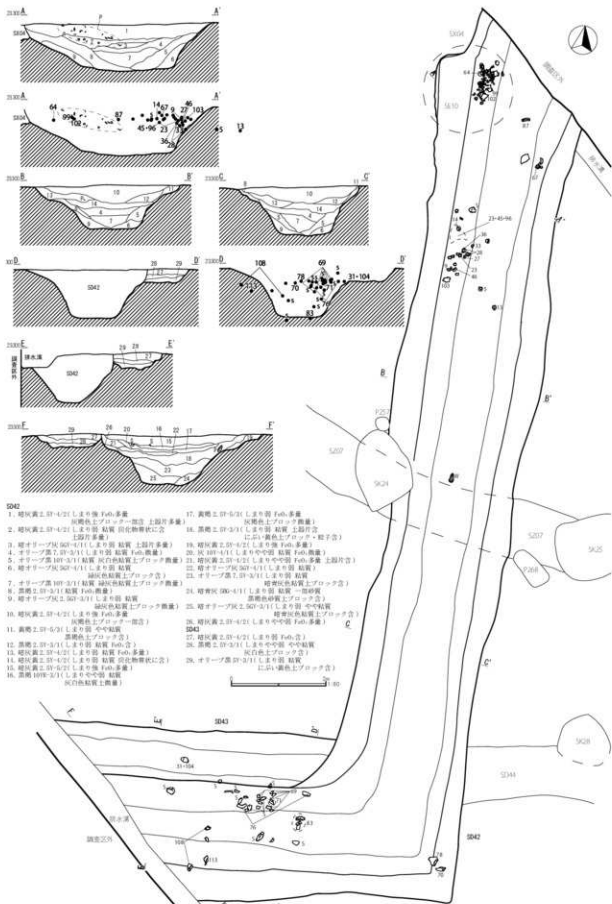
出土遺物は、青磁香炉、白磁皿、焙烙、木製品などが検出された。それ以外にも複数の土師質土器片が検出されている。

出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明であるが、重複関係から第42号溝跡より以前のものであることが推定できる。

第44号溝跡（第99、119図）

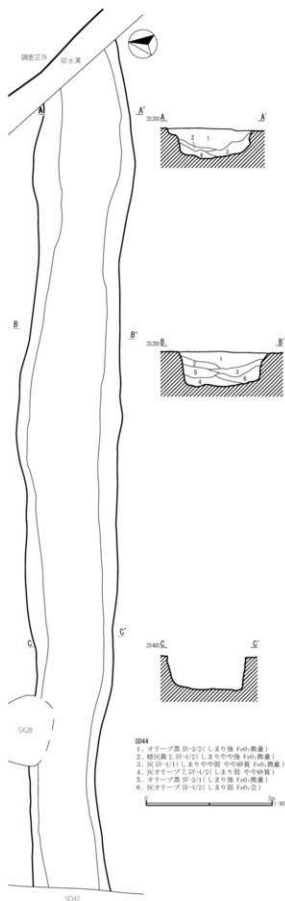
T～V-17グリッドから検出した。第42号溝跡、第27号土坑と重複関係にあり、第42号溝跡、第27号土坑に切られていた。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区北壁からやや南西方向に延伸して、第42号溝跡（南北方向）



- 5042
1. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり強 Fe₂O₃多量
 2. 砂状黄土 2.01-4.21(2) しまり弱 粘質 同化物質状に含
 土層片多量
 3. 砂オリーブ質 5.07-6.11(1) しまり弱 粘質 土層片多量
 4. オリーブ質 5.07-3.11(1) しまり弱 粘質 Fe₂O₃多量
 5. オリーブ質 1.07-3.11(1) 粘質 灰白色粘質土ブロック状
 6. 砂オリーブ質 5.07-6.11(1) しまり弱 粘質
 凝灰色粘質土ブロック状
 7. オリーブ質 1.07-3.11(1) 粘質 凝灰色粘質土ブロック状
 8. 凝灰土 2.01-3.11(1) 粘質 Fe₂O₃多量
 9. 砂オリーブ質 2.507-3.11(1) しまり弱 粘質
 凝灰色粘質土ブロック状
 10. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり強 Fe₂O₃多量
 灰白色粘質土ブロック状
 11. 高純土 2.01-4.21(1) しまり弱 中々粘質
 凝灰色土ブロック状
 12. 高純土 2.01-3.11(1) しまり弱 粘質 Fe₂O₃含
 13. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり弱 粘質 Fe₂O₃多量
 14. 砂状黄土 2.01-4.21(2) しまり弱 粘質 同化物質状に含
 15. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり弱 Fe₂O₃多量
 16. 高純土 1.07-3.11(1) しまり弱 粘質
 灰白色粘質土塊
 17. 高純土 2.01-5.21(1) しまり弱 Fe₂O₃多量
 凝灰色土ブロック状
 18. 高純土 2.01-3.11(1) しまり弱 粘質 土層片含
 2.01-5.21 黄色土ブロック・砂子含
 19. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり弱 Fe₂O₃多量
 20. 砂状黄土 2.01-4.21(2) しまり弱 Fe₂O₃多量 土層片含
 21. 砂オリーブ質 5.07-6.11(1) しまり弱 粘質
 22. オリーブ質 7.01-3.11(1) しまり弱 粘質
 23. オリーブ質 7.01-3.11(1) しまり弱 粘質
 凝灰色粘質土ブロック状
 24. 砂状黄土 5.07-6.11(1) しまり弱 中々粘質
 凝灰色粘質土ブロック状
 25. 砂オリーブ質 2.507-3.11(1) しまり弱 中々粘質
 凝灰色粘質土ブロック状
 26. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり弱 Fe₂O₃多量
 5043
 27. 砂状黄土 2.01-4.21(1) しまり弱 Fe₂O₃含
 28. 高純土 2.01-3.11(1) しまり弱 中々粘質
 灰白色土ブロック状
 29. オリーブ質 2.01-3.11(1) しまり弱 粘質
 2.01-5.21 黄色土ブロック状

第98図 第42・43号溝跡



に接続し、消滅する。

規模は、検出長 13.02 m 程度、検出幅 1.03 ~ 1.66 m を測り、深さは遺構確認面から 0.48 ~ 0.57 m を測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、4 ~ 6 層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、土師器坏、青磁碗、土錘を検出している。

出土量も少なく、出土遺物の時期も異なっているため、時期特定はできなかった。

なお、本遺構と第 43 号溝跡は、別遺構と捉えているが、平面形からみると直線的に延伸している。そのため、第 42 号溝跡に切られた後、第 43 号溝跡は埋没し、本遺構は掘り直され、再利用された可能性がある。

第 45 号溝跡 (第 100 図)

U-16 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区北壁から延伸して、第 261 号ピット手前で収束する。

規模は、検出長 1.92 m 程度、検出幅 0.31 m を測り、深さは遺構確認面から 0.12 m を測る。

平面形は、溝幅は収縮をしながらも一定に保ち、立ち上がりはやや鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 46 号溝跡 (第 100 図)

U-16 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 1.74 m 程度、検出幅 0.32 ~ 0.39 m を測り、深さは遺構確認面から 0.06 m を測る。

第 99 図 第 44 号溝跡

平面形は、弓状形で溝幅はほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、単層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第47号溝跡 (第100図)

U・V-17グリッドから検出した。第48号溝跡、第28、32、33号土坑、第278号ピットと重複関係にあり、第48号溝跡、第32、33号土坑を切り、第278号ピットに切られていた。第28号土坑との新旧関係は不明である。

本遺構は調査区中央やや東に位置し、調査区北壁から西に延伸して、第28号土坑と接続し、収束する。

規模は、検出長10.84m程度、検出幅0.33～0.45mを測り、深さは遺構確認面から0.11～0.12mを測る。

平面形は、波状で溝幅はほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは垂直に落ち、ゆるやかに底部へ落ち込み、底部は丸い。

断面は、断面観察から、2層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第48号溝跡 (第101図)

T・U-17・18グリッドから検出した。第47号溝跡、第30号土坑、第273号ピットと重複関係にあり、第30号土坑を切り、第47号溝跡、第273号ピットに切られていた。

本遺構は調査区中央やや東に位置し、調査区南壁から北東に延伸したのち屈曲して、第47号溝跡と接続し、収束する。

規模は、検出長10.70m程度、検出幅0.56～1.08mを測り、深さは遺構確認面から0.08～0.11mを測る。

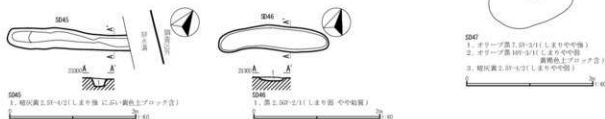
平面形は、溝幅は南壁から延伸するにつれ、窄んでいく。立ち上がりは緩やかで、底部は丸い。

断面は、断面観察から、1～2層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第49号溝跡 (第102、119図)

U～W-17、U・V-18グリッドから検出した。第50号溝跡、



第100図 第45～47号溝跡

第35号土坑、第275、290、298号ピットと重複関係にあり、第50号溝跡、第298号ピットを切り、第35号土坑、第275、290号ピットに切られていた。

本遺構は調査区東に位置し、調査区を北東から南西に向かって横断する。

規模は、検出長18.90m程度、検出幅1.95～3.26mを測り、深さは遺構確認面から1.00～1.08mを測る。

平面形は、調査区南壁付近に窄みがある以外は、ほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは鋭角に落ち込み底部まではやや緩やかに傾斜する。底部は平坦である。

断面は、逆凸状で断面観察から、16層確認でき、堆積状況から一度埋没後、再度溝として機能させていたことが推定できる。堆積はしまりの強い粘質土で、第10層の黒色粘質土より上層はしまりが弱い。堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・コップ型土器、土師質土器、石器などを検出している。

検出された遺物、比率から、本遺構の時期は8世紀後半と考えられる。

第50号溝跡（第103、119図）

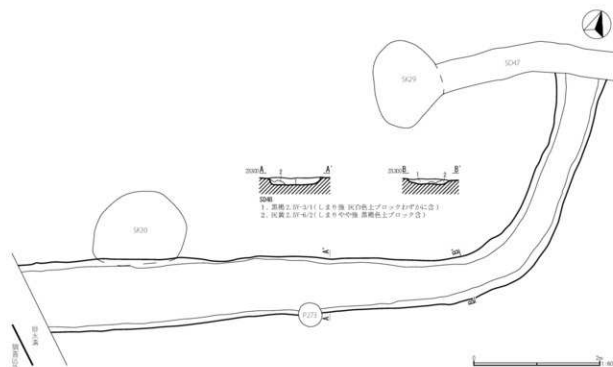
V-18グリッドから検出した。第8号方形周溝墓、第49、51号溝跡、第300、301、304号ピットと重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

本遺構は調査区東に位置し、第49号溝跡からやや屈曲しながら南に直進し、第304号ピットにぶつかり消失する。

規模は、検出長8.28m程度、検出幅0.43～0.83mを測り、深さは遺構確認面から0.08mを測る。

平面形は、北から南へ窄んでいく。立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。



第101図 第48号溝跡

出土遺物は図化可能な遺物が土師器坏 1 点のみ検出された。

よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第 51 号溝跡 (第 103、119 図)

U・V-18 グリッドから検出した。第 8 号方形周溝墓、第 50 号溝跡と重複関係にあり、第 8 号方形周溝墓、第 50 号溝跡を切っていた。

本遺構は調査区東に位置し、南壁から東へ直進し、第 306 号ピット付近で収束する。

規模は、検出長 8.92 m 程度、検出幅 0.64 ~ 0.84 m を測り、深さは遺構確認面から 0.81 ~ 0.35 m を測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、断面観察から、3 ~ 4 層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

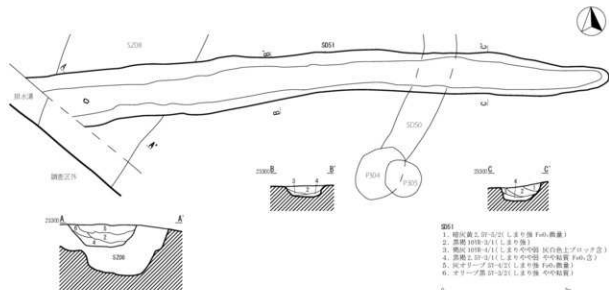
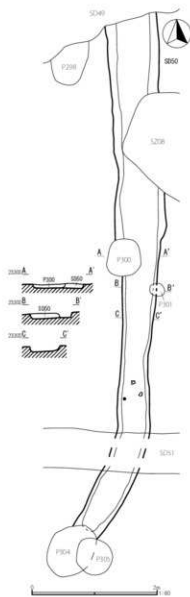
出土遺物は図化可能な遺物が瓦質土器火鉢 1 点のみ検出された。よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第 52 号溝跡 (第 104 図)

V-18 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 2.72 m 程度、検出幅 0.57 m を測り、深さは遺構確認面から 0.09 m を測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜



第 103 図 第 50・51 号溝跡

- S051
1. 研究調査 20-2(2) (しまや物 F・h 調査)
 2. 調査 100年-2(1) (しまや物)
 3. 調査 100年-2(1) (しまや物) 灰白土プロップ面
 4. 調査 20-2(1) (しまや物) 今や結算 F・h 調査
 5. 調査 20-2(1) (しまや物) F・h 調査
 6. サリープ面 20-2(1) (しまや物) 今や結算

し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第53号溝跡（第104図）

V-18・19グリッドから検出した。第307号ピットと重複関係にあり、第307号ピットに切られていた。

規模は、検出長2.90 m程度、検出幅0.57 mを測り、深さは遺構確認面から0.16 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは東側が鋭角、西側が緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、舟底形で断面観察から、3層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第54号溝跡（第104図）

S-16グリッドから検出した。第16号土坑と重複関係にあり、第16号土坑に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、第16号土坑から派生、東へ直進し、収束する。

規模は、検出長0.99 m程度、検出幅0.25 mを測り、深さは遺構確認面から0.11 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、U字状で断面観察から、単層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第55号溝跡（第104図）

W-18グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長2.09 m程度、検出幅0.26～0.39 mを測り、深さは遺構確認面から0.06 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第56号溝跡（第104図）

W-19グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長2.10 m程度、検出幅0.31 mを測り、深さは遺構確認面から0.20 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第57号溝跡（第104、119図）

W-19・20グリッドから検出した。第3号河川跡と重複関係にあり、その河川跡に切られる。

規模は、検出長5.79 m程度、検出幅0.53～0.62 mを測り、深さは遺構確認面から0.04 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は、瓦質土器片口鉢が検出された。

第58号溝跡（第104図）

X-19グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区北壁から南西に向かって延伸する。

規模は、検出長 3.28 m 程度、検出幅 0.76 ~ 0.88 m を測り、深さは遺構確認面から 0.22 ~ 0.31 m を測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは緩やかで、底部は平坦である。

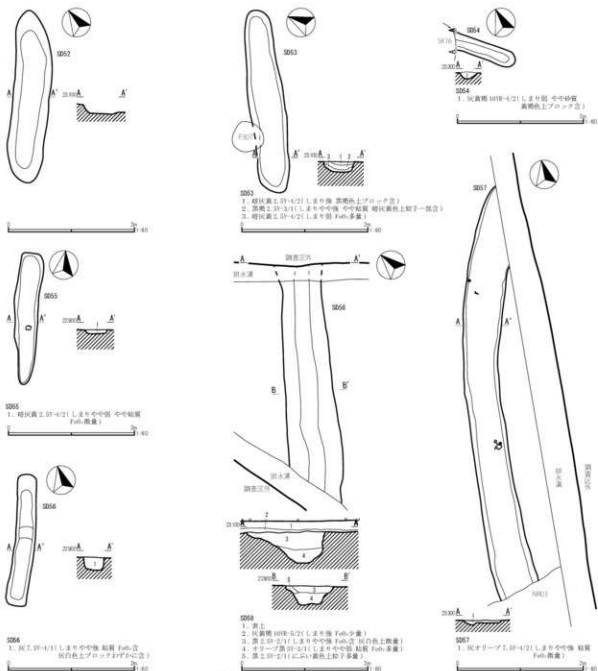
断面は、舟底型で断面観察から、2 ~ 3 層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 59 号溝跡 (第 105 図)

X-19、X・Y-20 グリッドから検出した。第 60 号溝跡と重複し、第 60 号溝跡を切っていた。

本遺構は北壁から南へ「し」の字状に延伸し、第 60 号溝跡を切り、収束する。



規模は、検出長 15.39 m 程度、検出幅 0.28 ～ 0.49 m を測り、深さは遺構確認面から 0.10 ～ 0.19 m を測る。

平面形は、曲線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは緩やかで、底部は平坦である。

断面は、U 字型で断面観察から、最大 3 層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 60 号溝跡 (第 105、119、120 図)

X ～ Z - 20 グリッドから検出した。第 59 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 59 号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区を東から西へ横断するように延伸している。

規模は、検出長 15.35 m 程度、検出幅 1.14 ～ 1.48 m を測り、深さは遺構確認面から 0.43 ～ 0.54 m を測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは鋭角で、底部はほぼ平坦である。傾斜はみられない。

断面は、舟底型で断面観察から、5 層であり、自然堆積と推定される。いずれの覆土は粘質の灰色土であった。

出土遺物は、土師質土器、木製品、銭貨、陶器、馬歯、種子 (モモ・ウメ) であった。それ以外にも土師質土器片と推定できる欠片が数点検出されたが図示できるものはなかった。

検出された土師質土器は鎌倉公方系であり、それ以外にも同器種が検出していることから、本遺構の時期は 14 世紀後半から 15 世紀初頭と考えられる。

第 61 号溝跡 (第 106、120 図)

X ～ Z - 21 グリッドから検出した。第 62 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 62 号溝跡を切っていた。南端部分が調査区域外であるため、詳細は不明である。

本遺構は調査区南壁に沿って東西方向に直進する溝跡である。

規模は、検出長 20.45 m 程度、検出幅 1.57 ～ 1.84 m を測り、深さは遺構確認面から 0.74 ～ 0.80 m を測る。

平面形は、直線状に延び、一部調査区域外であるが溝幅は間隔が一定と推定され、立ち上がりはやや鋭角で、底部はほぼ平坦である。東から西への傾斜が確認できる。

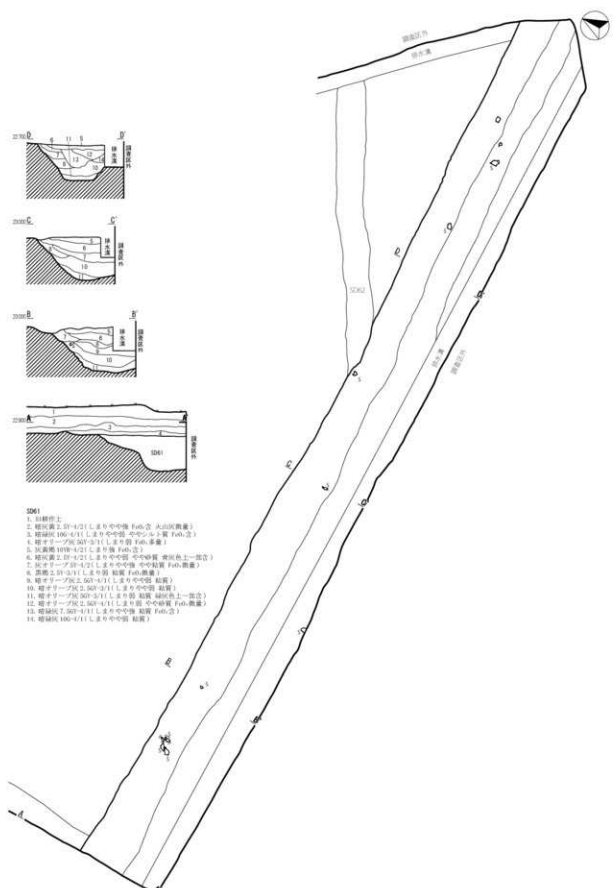
断面は、舟底型で断面観察から、最大 9 層であり、自然堆積と推定される。いずれの覆土は粘質の灰色土であった。溝の一部は堆積後、掘り直された形跡 (E - E') が確認できる。

出土遺物は、須恵器甕・瓶、灰釉、瓦質土器、陶器、銭貨、瓦、馬歯などであった。

検出された遺物から、本遺構の時期はやや幅があるが、主体時期は 12 世紀 ～ 13 世紀代と考えられる。

第 62 号溝跡 (第 107、120 図)

Y ・ Z - 20 ・ 21 グリッドから検出した。第 61 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 61 号溝跡に切られていた。



- D61
1. 田跡中心
 2. 堀内溝 2.5F-4.2F (しまりや中池 F6h.含 大山沢側溝)
 3. 堀内溝 1.6F-4.1F (しまりや中池 中マウンド側 F6h.含)
 4. 堀内溝 5.0F-5.1F (しまりや池 F6h.多量)
 5. 穴裏溝 10.0F-4.2F (しまりや池 F6h.含)
 6. 堀内溝 2.5F-4.2F (しまりや中池 中マウンド側 堀内池土一包含)
 7. 堀内溝 3.0F-4.2F (しまりや中池 中マウンド側 F6h.側溝)
 8. 堀内溝 2.5F-3.1F (しまりや池 堀内池側溝)
 9. 堀内溝 2.5F-4.1F (しまりや中池 堀内池)
 10. 堀内溝 2.5F-2.1F (しまりや中池 堀内池)
 11. 堀内溝 2.5F-3.1F (しまりや池 堀内池土一包含)
 12. 堀内溝 2.5F-4.1F (しまりや池 中マウンド側 F6h.側溝)
 13. 堀内溝 7.5F-4.1F (しまりや中池 堀内池 F6h.含)
 14. 堀内溝 1.6F-4.1F (しまりや中池 堀内池)

第 106 図 第 61 号溝跡

本遺構は調査区東壁から南西方向に直進し、第61号溝跡に接続する。

規模は、検出長0.56 m程度、検出幅0.55～0.63 mを測り、深さは遺構確認面から0.14～0.15 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は一定で、立ち上がりはゆるやかで、底部は丸い。北東から南西への傾斜が確認できる。断面は、断面観察から、最大2層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は陶器ほか、数点の図示できない陶磁器、かわらけ片などがあつた。

検出された遺物から、本遺構の時期は12世紀末から13世紀後半と考えられる。

第63号溝跡（第107図）

AD・AE-27、AD-28グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進し、第335号ビット手前で収束する。

規模は、検出長8.51 m程度、検出幅0.33 mを測り、深さは遺構確認面から0.07～0.10 mを測る。

平面形は、一部歪みながら直線状に延び、溝幅は一定で、立ち上がりはゆるやかで、底部は丸い。南西から北西にやや傾斜が確認できる。

出土遺物は検出されなかった。

第64号溝跡（第109図）

AE-26・27、AD・AE-28グリッドから検出した。第341号ビットが重複関係にあり、本遺構を切っていた。軸方向はN-16°-Eを指す。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進する。東には第67号溝跡がほぼ同じ角度で平行に直進する。

規模は、検出長19.8 m程度、検出幅1.92～2.04 mを測り、深さは遺構確認面から0.64～0.72 mを測る。

平面形は、一部歪みながら直線状に延び、溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、最大10～12層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

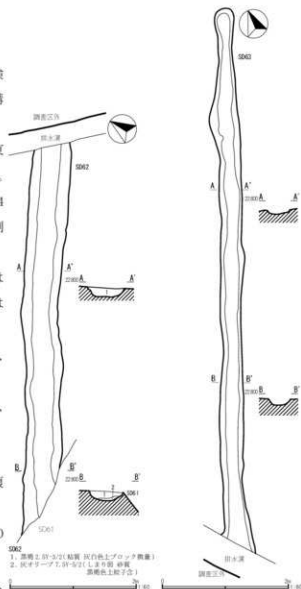
出土遺物は土師器坏片などが数点検出されたが、図化できるものはなかった。

第65号溝跡（第108図）

AE-27グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。軸方向は北東方向を指す。

規模は、検出長2.11 m程度、検出幅0.14～0.50 mを測り、深さは遺構確認面から0.12 mを測る。

平面形は、ビット状の膨らみから溝状に延伸し、



第107図 第62・63号溝跡

溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、2層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第66号溝跡（第108図）

A・E・AF-27グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。軸方向は北東方向を指す。

規模は、検出長3.36m程度、検出幅0.24mを測り、深さは遺構確認面から0.07～0.11mを測る。

平面形は、ビット状の膨らみから溝状に延伸し、溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。

断面は、断面観察から、2層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第67号溝跡（第109図）

AF-27、A・E・AF-28・29グリッドから検出した。第68号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていた。軸方向はN-15°-Eを指す。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進する。西には第64号溝跡がほぼ同じ角度で平行に直進する。

規模は、検出長18.02m程度、検出幅0.84～1.38mを測り、深さは遺構確認面から0.36～0.44mを測る。

平面形は、大きく歪みながら直線状に延び、溝幅は一律ではない。立ち上がりは両端ともややゆるやかに傾斜した後、鋭角に落ち込む。底部は丸い。南西方向にわずかに傾斜している。

断面は、断面観察から、最大6～7層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はされなかった。

第68号溝跡（第110、120図）

A・E～A・G-28・29グリッドから検出した。第67号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていた。

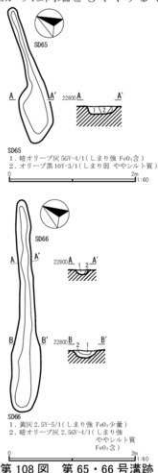
本遺構は東西方向に直進し、東壁付近で北に屈曲する。

規模は、検出長21.09m程度、検出幅2.27～3.16mを測り、深さは遺構確認面から0.74～0.88mを測る。

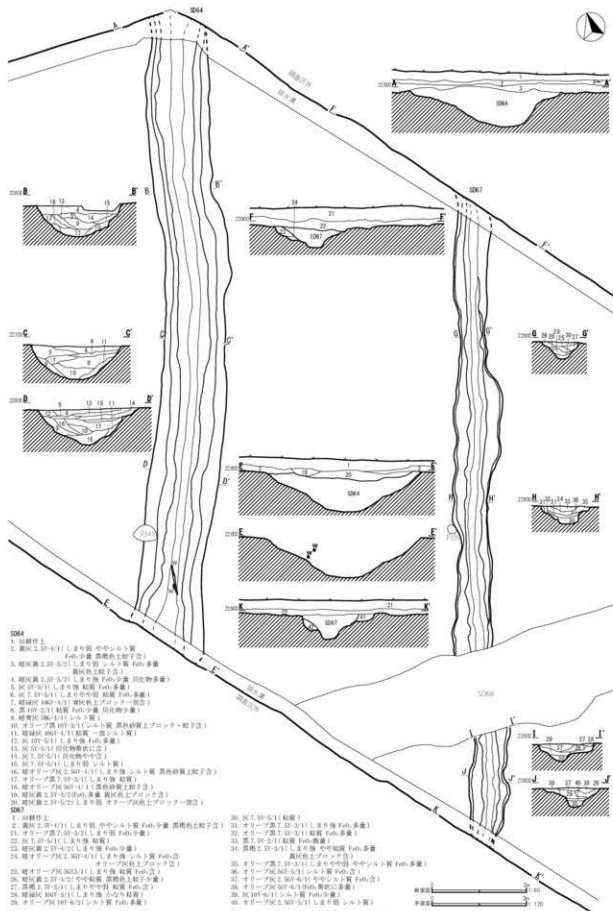
平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定ながら一部に凹凸がある。立ち上がりは鋭角で、中段からゆるやかに傾斜する。東側はさらに落ち込みを有する。底部は平坦である。東方向に傾斜している。

断面は、断面観察から、最大6層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は陶磁器等が数点確認されたが、図示できるものは古瀬戸の陶器、馬歯各1点づつのみであった。それ以外に炭化米塊、モモの種子が多



第108図 第65・66号溝跡



第109図 第64・67号溝跡

規模は、検出長 1.72 m 程度、検出幅 0.24 m を測り、深さは遺構確認面から 0.06 m を測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定ながら一部にくびれがある。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 70 号溝跡 (第 111 図)

AG-29 グリッドから検出した。第 71 号溝跡、第 43 号土坑と重複関係にあり、いずれの遺構も切っていた。

規模は、検出長 3.64 m 程度、検出幅 1.01 m を測り、深さは遺構確認面から 0.17 m を測る。

平面形は、南北方向に延び、溝幅はほぼ一定ながら北側がやや窄まる。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。

断面は、断面観察から、3層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 71 号溝跡 (第 111 図)

AF・AG-29 グリッドから検出した。第 70 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていた。

規模は、検出長 1.66 m 程度、検出幅 0.39 m を測り、深さは遺構確認面から 0.05 m を測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定を保つ。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、2層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

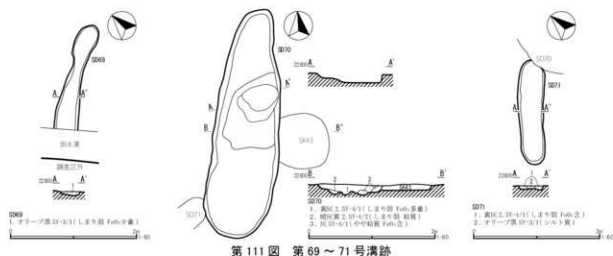
出土遺物の検出はなかった。

第 72 号溝跡 (第 112 図)

AF・AG-29、AF-30 グリッドから検出した。第 73 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 73 号溝跡を切っていた。

規模は、検出長 9.00 m 程度、検出幅 0.23 ~ 0.55 m を測り、深さは遺構確認面から 0.04 ~ 0.06 m を測る。

平面形は、一部屈曲しながらも、直線状に延び、溝幅はほぼ一定を保つ。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。



断面は、断面観察から、1～2層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土物の検出はなかった。

第73号溝跡（第112図）

A F・AG-29・30グリッドから検出した。第72号溝跡と重複関係にあり、本遺構の一部が第72号溝跡に切られていた。

規模は、検出長5.60 m程度、検出幅0.31～0.90 mを測り、深さは遺構確認面から0.06 mを測る。

平面形は、起伏や屈曲しながらも、直線状に延び、溝幅は一定ではない。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。

断面は、断面観察から、単層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土物の検出はなかった。

第74号溝跡（第112図）

AG-30グリッドから検出した。第75号溝跡と重複関係にあり、本遺構の一部が第75号溝跡に切られていた。

規模は、検出長1.32 m程度、検出幅0.63 mを測り、深さは遺構確認面から0.06 mを測る。

平面形は、検出長がわずかであるが、直線状に延びる。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、2層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土物の検出はなかった。

第75号溝跡（第112図）

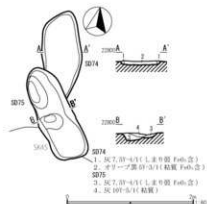
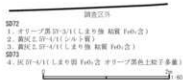
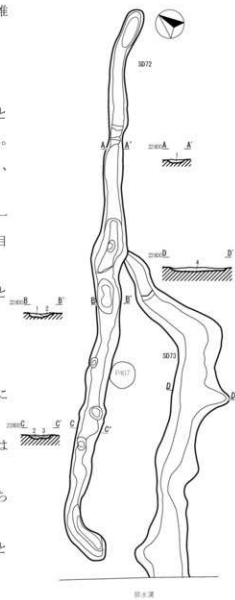
AG-30グリッドから検出した。第74号溝跡、第45号土坑と重複関係にあり、本遺構の一部が第74号溝跡、第45号土坑を切っていた。

規模は、検出長1.56 m程度、検出幅0.60 mを測り、深さは遺構確認面から0.07～0.12 mを測る。

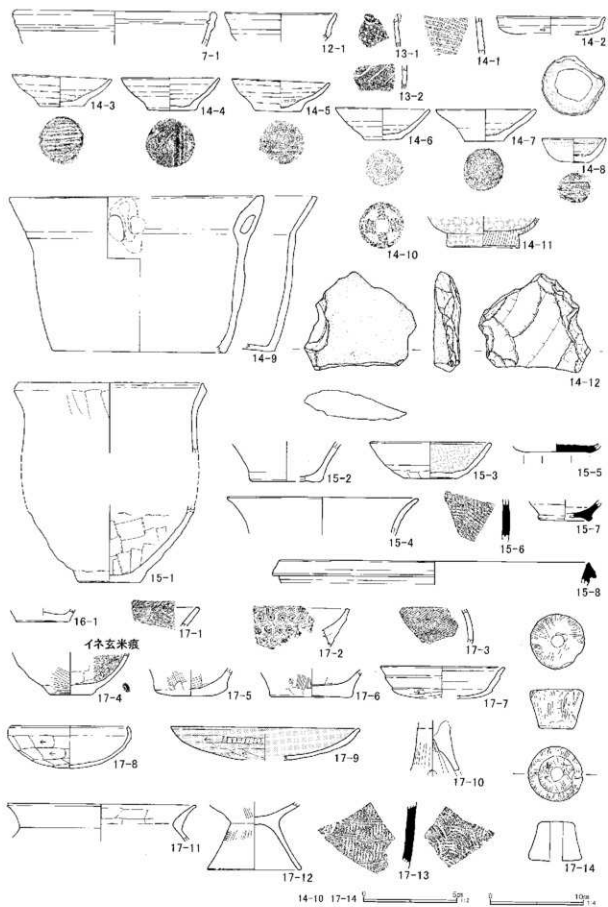
平面形は、直線状に延び、縦に長い隅丸方形を呈する。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦であるが、一部落ち込みを有する。

断面は、断面観察から、2層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

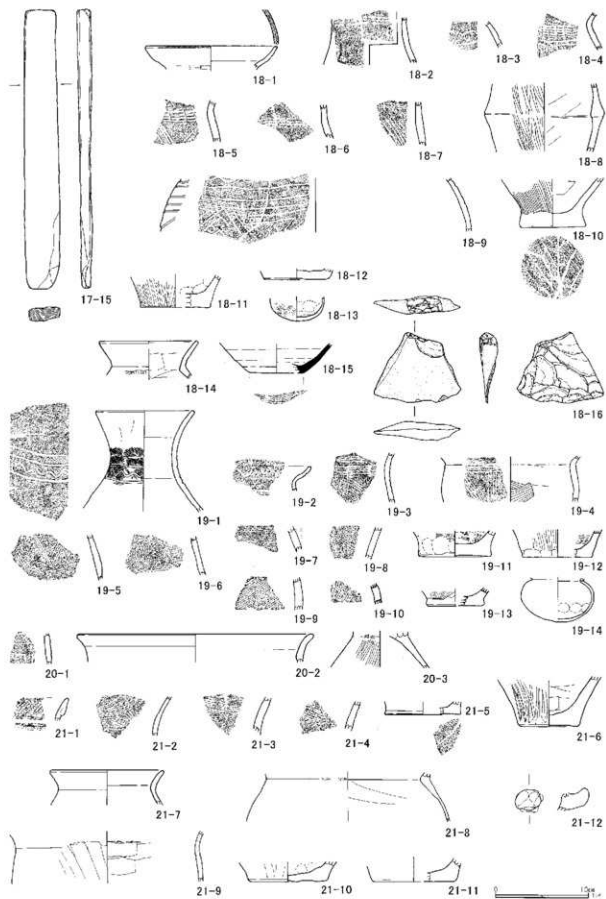
出土物の検出はなかった。



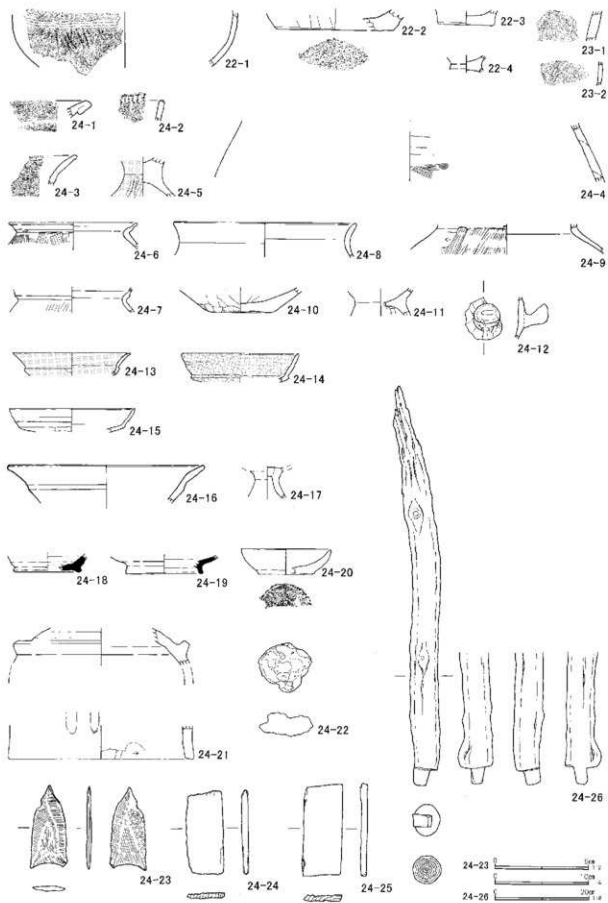
第112図 第72～75号溝跡



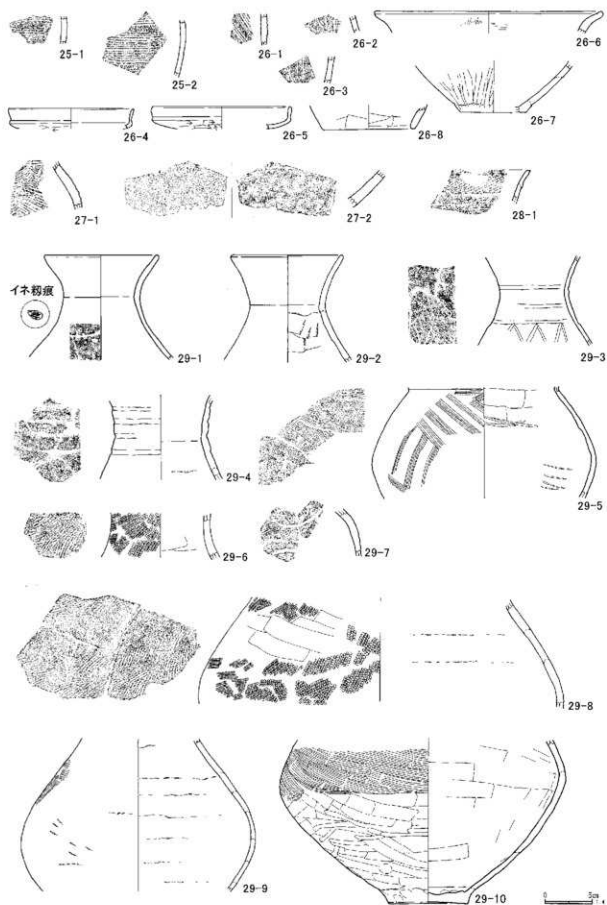
第113图 第7・12～17号溝跡出土遺物



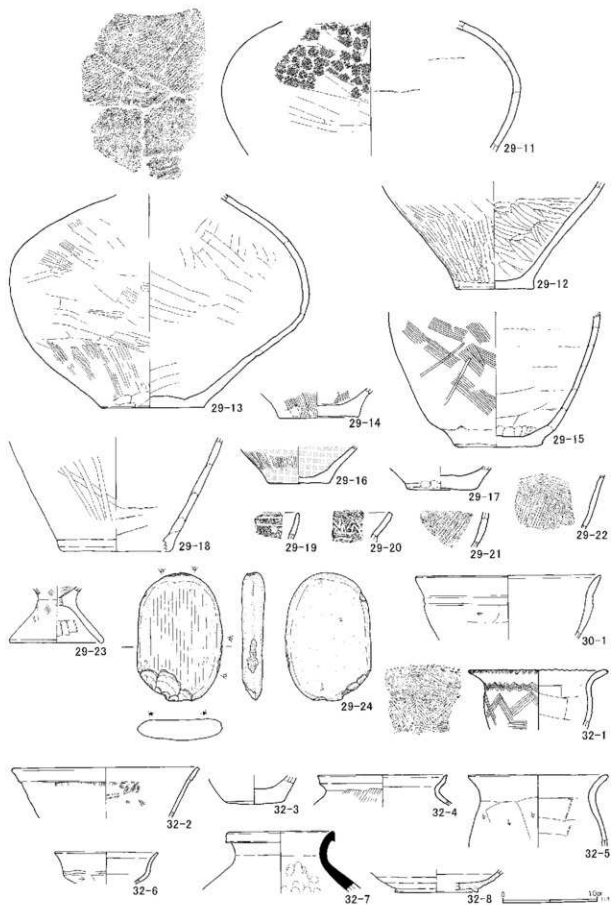
第 114 图 第 17 ~ 21 号清跡出土遺物



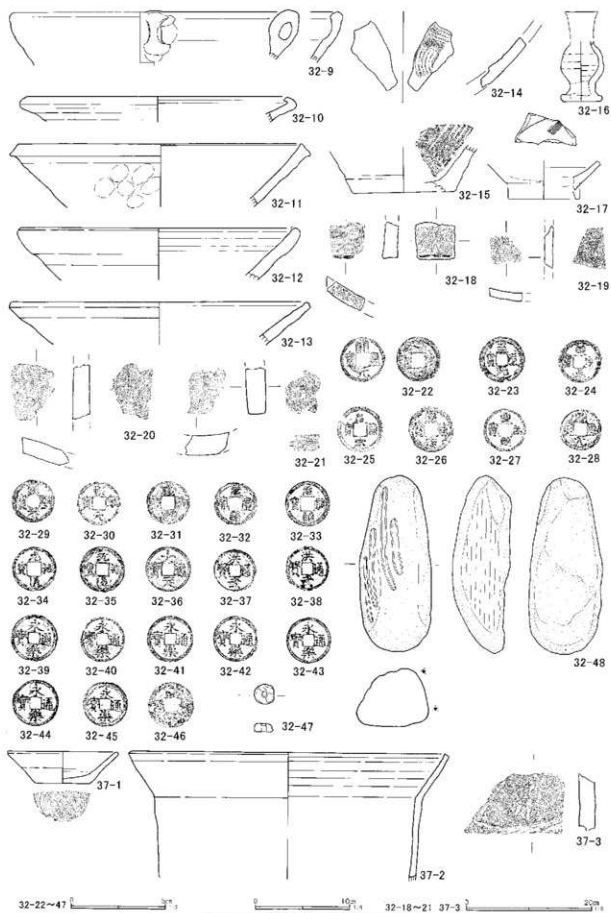
第 115 図 第 22 ~ 24 号溝跡出土遺物



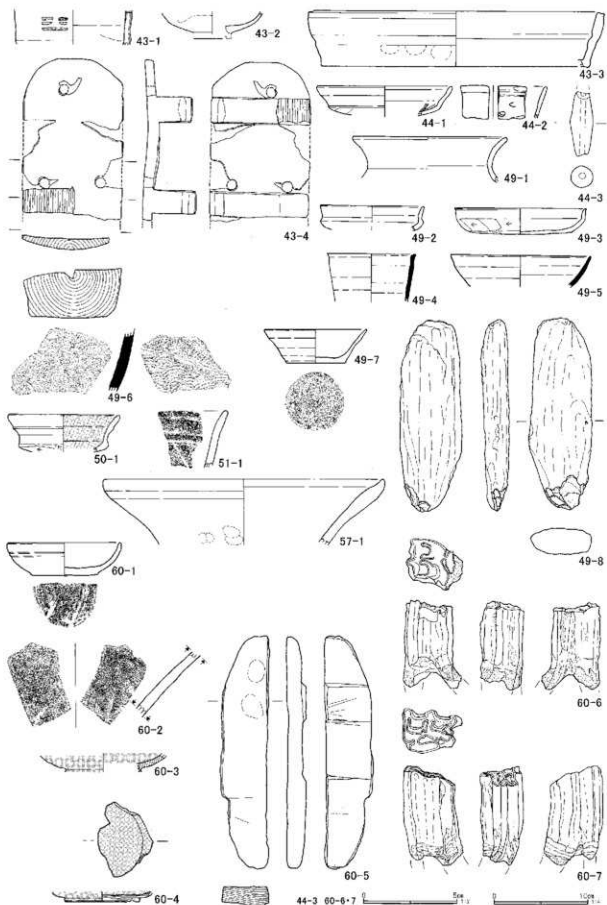
第 116 図 第 25 ~ 29 号溝跡出土遺物



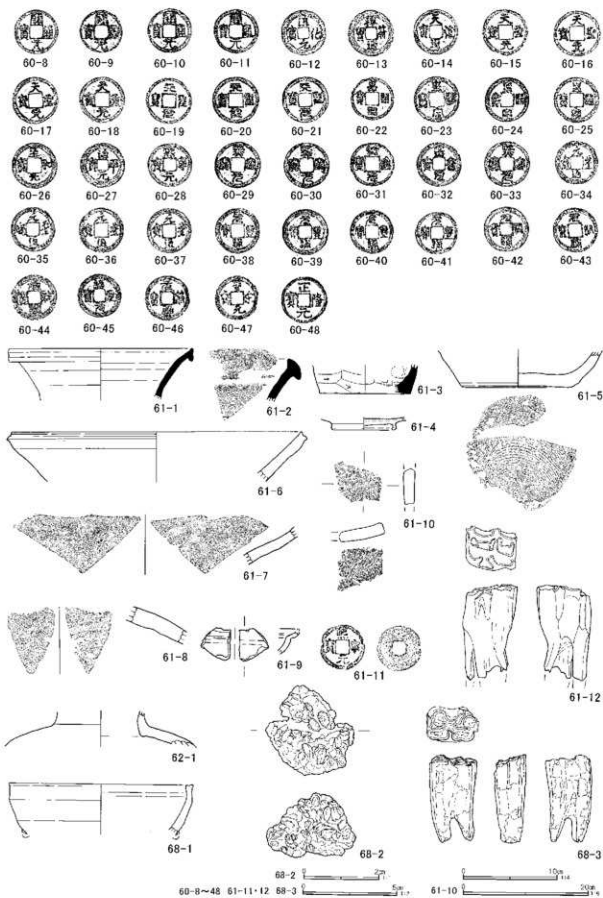
第 117 图 第 29·30·32 号溝跡出土遺物



第118图 第32·37号溝跡出土遺物



第 119 圖 第 43・44・49～51・57・60 号溝跡出土遺物



第 120 图 第 60 ~ 62 · 68 号清跡出土遺物

第20表 溝跡出土遺物観察表(1) (第113～120図)

No	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎色	残存率	手法、形態の特徴等	備考
7-1	陶器 片口	(21.0)	(3.7)	-	AB	灰黄 5Y 7/3	A	口縁部片	外面：灰焼 内面：灰焼、口縁部折り返され突出	瀬戸式土系
12-1	土師器 片	(12.0)	(3.1)	-	DM	橙 7.5YR 6/6	B	口縁部10%	外面：口縁部外周築込に立ち上がる、底部ヘラケズリ	
13-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABHM	灰黄緑 10YR 5/2	B	胴部片	外面：ボタコ状胎付文、平軟竹節による模様の連続刺突文が3段	
13-2	弥生土器 甕	-	-	-	ABF	黄灰 10YR 5/1	B	胴部片	外面：ヘラ指沈線	
14-1	弥生土器 甕	-	-	-	GUMN	外面：明赤黄 5YR 5/6 内面：橙 7.5YR 7/6	B	胴部片	外面：縄文地に横位平行沈線	
14-2	土師器 片	(11.0)	(2.0)	-	AEM	橙 5YR 6/8	B	10%	外面：口縁部コナデ、底部ヘラケズリ	
14-3	土師質土器 かわらけ	10.6	3.2	4.7	ABDK	浅黄橙 10YR 8/3	B	100%	外面：斜目反直筋 内面：指ナデ 口ウロ右直筋	古河方系
14-4	土師質土器 かわらけ	10.6	3.4	5.2	ADJM	灰白 10YR 8/2	A	100%	外面：斜目反直筋 内面：みこみ指ナデ直 口ウロ右直筋	在地 古河方系
14-5	土師質土器 かわらけ	10.2	3.3	5.0	ABK	にぶい黄橙 10YR 7/2	B	100%	外面：斜目反直筋 内面：みこみ指ナデ直 口ウロ右直筋	古河方系
14-6	土師質土器 かわらけ	10.1	3.4	3.9	AEM	にぶい黄橙 10YR 7/3	B	90%	内面：みこみ指ナデ直 口ウロ右直筋	古河方系
14-7	土師質土器 かわらけ	10.5	3.4	4.2	ABDK	浅黄橙 10YR 8/3	B	100%	内面：みこみ指ナデ直 口ウロ右直筋	古河方系
14-8	土師質土器 かわらけ	6.8	2.6	3.3	ABEJ	外面：灰白 10YR 8/2 内面：浅黄橙 7.5YR 8/4	A	80%	外面：斜目反直筋、小型 内面：指部凹線が露出 内面：指部線をもつ、内径1ヶ所残存し、2耳	口縁部内外面油 層付着 古河方系
14-9	瓦質土器 土鍋	27.5	16.7	19.0	AEGJN	外面：黄緑 5YR 2/1 内面：黄灰 7.5YR 4/1	A	口縁～底部70%	外面：指部に凹線が露出 内面：指部線をもつ、内径1ヶ所残存し、2耳	在地 平灰
14-10	瓦質									黄赤 切縁 1017年
14-11	木製品 柄	-	(3.3)	7.8				40%	椀目の縦木取り	内外面黒漆塗りの 見込みに係連で 文様を描くが胎 地不明
14-12	石器 礫石部	最大長(10.1)	最大幅(11.0)	最大厚(2.7)	重さ 420 g			完形	礫の両側を削磨	ホルンフェルス
15-1	弥生土器 甕	(19.0)	(21.5)	6.7	ADDMN	外面：黄緑 10YR 3/1 内面：灰黄緑 10YR 4/2	B	口縁～底部40%	外面：縦位ヘラナデ 内面：ヘラナデ	口縁部に最大径 をもつ
15-2	弥生土器 甕	-	(4.3)	(7.2)	ABKM	外面：にぶい黄 7.5YR 5/4 内面：黄 7.5YR 4/3	B	胴部下半～底部10%	内外面：摩利磨着で調整態不明	
15-3	土師器 片	(12.8)	3.8	5.7	ABJM	にぶい黄 7.5YR 7/4	B	40%	外面：糸切り磨し無調整、体部下端手持 ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	内面黒色処理
15-4	土師器 甕	(20.3)	(4.0)	-	ABKM	にぶい黄緑 10YR 5/3	B	口縁部10%	内外面：コナデ	
15-5	須恵器 片	-	(0.9)	7.0	ABM	灰 7.5Y 6/1	A	底部70%	外面：糸切り磨し後底部周縁凹線ヘラケ ズリ	
15-6	須恵器 片	-	-	-	ABM	灰 N 6*	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：同心円アタリ直	
15-7	須恵器 高台杯	-	(2.2)	(5.2)	ABM	浅黄 2.5Y 7/3	B	底部40%	内周縁地の角高台	土野産
15-8	須恵器 甕	(33.0)	(2.9)	-	ABM	黄灰 10YR 5/1	A	口縁部片	角縁口縁	
16-1	弥生土器 甕	-	(1.4)	(5.8)	ABCK	外面：にぶい黄橙 10YR 7/2 内面：灰黄緑 10YR 6/2	B	底部70%	内外面：摩利磨着で調整態不明	
17-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABHM	外面：にぶい黄橙 10YR 7/2 内面：にぶい黄緑 10YR 7/3	B	口縁部片	外面：口縁部部1.8 半周縄文の帯状を斜 位に押捺 外面：ハケ目	
17-2	弥生土器 甕	-	-	-	ABHM	外面：浅黄橙 7.5YR 8/6 内面：浅黄橙 10YR 8/4	B	口縁部片	外面：凹形浮文を帯付し、その上から径 9mmの二重同心円スタンプを押捺	報告口縁 部内面IV 式土 器と併行期
17-3	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：黄灰 10YR 4/1 内面：にぶい黄橙 10YR 7/4	B	胴部上半片	外面：磨消し無調整、1.8 半周縄文帯	
17-4	弥生土器 甕	-	(4.6)	4.4	ABDMN	にぶい黄橙 10YR 7/2	B	胴部下半～底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	内面にイネ末 付着
17-5	弥生土器 甕	-	(3.1)	(7.6)	ABM	黄灰 10YR 4/1	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目、下縁ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
17-6	弥生土器 甕	-	(3.0)	8.8	ABDM	外面：にぶい黄橙 10YR 7/3 内面：黄灰 10YR 4/1	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目、下縁ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
17-7	土師器 片	(13.1)	(3.3)	-	ABDKJ	外面：黄灰 7.5YR 4/1 内面：黄灰 10YR 5/1	B	口縁～底部片	外面：底部ヘラケズリ 内面：コナデ	角縁口縁
17-8	土師器 片	(12.6)	(4.9)	-	AM	外面：橙 5YR 6/8 内面：にぶい黄 5YR 6/4	A	25%	外面：底部ヘラケズリ 内面：指ナデ	

No	品種	口径	器高	底径	射口	色調	物産	残存率	手法、形態の特徴等	備考
17-9	土器器 高坪	(20.0)	(3.9)	-	ABIMN	外面：にぶい・磨 7.5YR 7/4 内面：磨 5YR 6/8	B	杯部25%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	内外面赤彩
17-10	土器器 高坪	-	(5.6)	-	ABKM	外面：浅黄粉 10YR 8/3 内面：浅黄粉 10YR 8/4	B	杯部～胴部上半片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	器底に押し通した 穿孔
17-11	土器器	(20.4)	(3.7)	-	ABDFMN	黒期 7.5YR 3/2	B	口縁～胴部 40%	外面：ヨコナデ 内面：ヘラナデ	
17-12	土器器 石付壺	-	(7.3)	(10.2)	AJEMN	にぶい・磨 7.5YR 5/3	B	胴下部～胴部 70%	外面：ハケミ 内面：ヘラケズリ	
17-13	土器器 壺	-	-	-	ABFI	灰 N 5/	B	胴部片	外面：平行タタキ磨鏡位タタキ 内面：同色付のテア目編	
17-14	石器 初繰車	上径 2.9 下径 1.8 器高 2.1 孔径 0.7 重さ 26.5 g						定形 (初繰)	断面位磨削	
17-15	木製品 板材	残存長 300 最大幅 3.8 最大厚 1.5						定形	木目は板目	
18-1	赤生土器 壺	(13.8)	(2.5)	-	ABIM	外面：にぶい・黄粉 10YR 6/3 内面：にぶい・磨 7.5YR 6/4	B	口縁～胴部片	外面：口縁部は LR 卑部縄文を押し、胴部は磨削文	
18-2	赤生土器 壺	-	(4.9)	-	BM	外面：にぶい・磨 7.5YR 6/3 内面：にぶい・磨 10YR 7/2	B	胴部片	外面：磨削文状文 (3 本一単位)	
18-3	赤生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：にぶい・黄粉 10YR 7/2 内面：にぶい・磨 7.5YR 6/4	B	胴部上半片	外面：地文は LR 卑部縄文、磨削文状	
18-4	赤生土器 壺	-	-	-	ABIM	黒期 7.5YR 4/1	B	胴部～胴部片	外面：磨削文状文 (3 本一単位) とこの 字ね文	
18-5	赤生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：黒期 7.5YR 3/1 内面：にぶい・磨 7.5YR 7/3	B	胴部～胴部片	外面：地文はハケ目、磨削文状文 (4 本一 単位) に磨削位目状文	
18-6	赤生土器 壺	-	-	-	ABDM	外面：にぶい・磨 7.5YR 7/4 内面：にぶい・黄粉 10YR 7/2	B	胴部片	外面：磨削文状文 (3 本一単位)	
18-7	赤生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：黒期 7.5YR 4/2 内面：にぶい・黄粉 10YR 7/3	B	胴部片	外面：磨削文状文、凹位浅彫	
18-8	赤生土器 壺	-	(7.3)	-	ABIM	外面：黒 2.5Y 2/1 内面：灰白 2.5Y 7/1	A	胴部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
18-9	赤生土器 壺	-	(5.8)	-	ABIM	外面：灰黄粉 10YR 5/2 内面：灰灰 10YR 4/1	B	胴部上半片	外面：ヘラ磨削文、平行浅彫、山形文 の区画内 LR 卑部縄文で光彫	
18-10	赤生土器 壺	-	(5.2)	7.0	ABGIN	外面：にぶい・黄粉 10YR 7/2 内面：灰黄粉 10YR 5/2	B	胴部下部～底部片	外面：ハケ目、底部木葉編 内面：ヘラナデ	
18-11	赤生土器 壺	-	(3.6)	(7.6)	ABIM	外面：にぶい・黄粉 7.5YR 7/3 内面：にぶい・磨 5YR 5/4	B	胴部下部～底部片	外面：胴部下部、底部ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、磨削位編	
18-12	赤生土器 壺	-	(1.0)	(7.0)	ABDM	外面：浅黄粉 7.5YR 8/4 内面：黒期 7.5YR 7/1	B	底部 30%	内外面：磨削面著で調整痕不明	
18-13	ミニチュア土器 壺型	-	(2.5)	-	ABIM	外面：灰黄粉 10YR 6/2 内面：にぶい・黄粉 10R 7/3	B	胴部～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、磨削位編	
18-14	土器器	(10.6)	(4.1)	-	AJEMN	磨 5YR 7/6	B	口縁～胴部 25%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
18-15	土器器 序	-	(3.2)	5.8	ABI	外面：灰黄 2.5YR 6/1 内面：灰黄 2.5YR 7/2	B	胴部～底部片	外面：底部は漆系切り磨し無調整	木葉編
18-16	石器 磨石	最大長 7.5 最大幅 9.3 最大厚 2.0 重さ 120.6 g						定形	一端に割鑿加えて鋭角内外面を造り出す	地産品の打製タ タキ丁の可能性も ある ホルンフェルス
19-1	赤生土器 壺	10.0	(10.7)	-	ABDGI	外面：磨 2.5YR 6/8 内面：にぶい・磨 5YR 7/3	B	口縁～胴部片	外面：LR 卑部縄文の地文に 1 本の浅彫 文と 3 本の平行浅彫を横位に施す 内面：ヘラナデ	
19-2	赤生土器 壺	-	-	-	ADDM	黒期 7.5YR 4/2	B	口縁～胴部片	外面：口縁部は LR 卑部縄文地に 1 本の 浅彫で磨削文	
19-3	赤生土器 壺	-	-	-	ABGHMN	外面：黒期 10YR 3/3 内面：浅黄粉 10YR 8/3	B	胴部～胴部片	外面：磨削 (5 本一単位) で磨削文・斜 編 内面：横・斜位ヘラナデ	
19-4	赤生土器 壺	-	(4.8)	-	ABGJM	外面：灰黄 7.5YR 4/2 内面：にぶい・磨 7.5YR 5/3	B	胴部～胴部上半片	外面：磨削 (4 本一単位) で磨削文・斜 編 内面：横位ヘラナデ	
19-5	赤生土器 壺	-	-	-	BGM	外面：にぶい・磨 7.5YR 5/3 内面：黒期 7.5YR 6/2	B	胴部上半片	外面：斜格子文 (4 本一単位) 内面：ヘラナデ	
19-6	赤生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：にぶい・黄粉 10YR 7/2 内面：浅黄粉 10YR 8/3	B	胴部上半片	外面：短幅の小さな磨削文状文	
19-7	赤生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：黒期 7.5YR 4/2 内面：にぶい・黄粉 10YR 6/3	B	胴部片	外面：磨削斜編 (2 本一単位)	外面赤彩
19-8	赤生土器 壺	-	-	-	ABDM	外面：黒期 10YR 3/1 内面：にぶい・磨 7.5YR 5/3	B	胴部片	外面：磨削斜編 (2 本一単位)	
19-9	赤生土器 壺	-	-	-	AIMN	黒期 10YR 3/2	B	胴部片	外面：LR 卑部縄文	
19-10	赤生土器 壺	-	-	-	AEM	外面：明赤期 5YR 5/6 内面：磨 5YR 6/6	B	胴部片	外面：磨削格子状文	
19-11	赤生土器 壺	-	(2.6)	(7.8)	ABI	浅黄粉 10YR 8/3	B	胴部下部～底部 50%	内外面：ハケ目、磨削位編	
19-12	赤生土器 壺	-	(3.0)	(7.4)	AJMN	外面：にぶい・磨 7.5YR 6/4 内面：黒期 10YR 4/1	B	胴部下部～底部 20%	外面：ハケ目、下部ヘラケズリ 内面：ハケ目	
19-13	赤生土器 壺	-	(1.9)	(5.8)	ABFKLN	黒期 2.5Y 3/2	B	胴部下部～底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
19-14	土器器 小型丸底壺	-	(4.6)	-	ABDF	にぶい・磨 5YR 7/4	B	60%	外面：磨削面著で調整痕不明 内面：ヘラナデ、磨削位編	

第20表 溝跡出土遺物観察表2(第113～120区)

No	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
20-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABJM	明赤褐色 2.5YR 5/6	B	胴部片	外面：平行沈凹部、口の字区画内LR半部 破断で充塞	
20-2	土器器 蓋	(24.8)	(3.0)	-	ABDMN	にぶい-褐色 7.5YR 6/4	B	口縁部10%	内外面：ヨコナデ	
20-3	土器器 台付椀	-	(3.9)	-	ABIM	外面：灰黄褐色 10YR 6/2 内面：灰黄褐色 10YR 4/2	B	胴部片	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ	
21-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABHM	外面：にぶい-赤褐色 5YR 5/3 内面：黒褐色 5YR 4/2	B	口縁部片	外面：LR半部破断 内面：ミガキ	近返し口縁
21-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：灰白 10YR 8/2 内面：にぶい-黄褐色 10YR 7/2	B	胴部片	外面：肌、半部破断地に2本の平行沈凹	
21-3	弥生土器 壺	-	-	-	ADDM	明赤褐色 2.5YR 5/6	B	胴部片	外面：胎線の小さな磨痕状状況	
21-4	弥生土器 壺	-	-	-	AB	橙 5YR 7/6	B	胴部片	外面：肌、半部破断	
21-5	弥生土器 壺	-	(1.4)	(8.0)	ABDKL	外面：橙 5YR 7/6 内面：黄灰 7.5YR 5/1	B	底部片	外面：底部木炭痕 内外面：摩耗面著で調整痕不明	
21-6	弥生土器 壺	-	(3.4)	(8.0)	ABDFGLN	外面：黄灰 10YR 4/1 内面：にぶい-黄 7.5YR 5/4	B	胴部下半～底部 50%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
21-7	土器器 壺	(12.0)	(3.7)	-	ABHM	外面：にぶい-橙 7.5YR 7/4 内面：浅黄褐色 7.5YR 8/4	B	口縁部10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヨコナデ	
21-8	土器器 壺	-	(5.2)	-	AJKM	外面：明赤褐色 2.5YR 5/8 内面：にぶい-黄褐色 10YR 7/4	B	胴部片	外面：摩耗面著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	2次焼成面著
21-9	土器器 壺	-	(5.5)	-	AJEM	外面：明赤褐色 5YR 5/6 内面：明赤褐色 2.5YR 5/8	B	胴部上半片	外面：ヘラケズ 内面：ヘラナデ	
21-10	土器器 壺	-	(2.1)	(8.0)	ABDH	外面：にぶい-橙 7.5YR 7/4 内面：にぶい-黄褐色 10YR 7/3	B	胴部下半～底部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	
21-11	土器器 壺	-	(2.0)	(9.0)	ABDE	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：にぶい-黄褐色 10YR 7/2	B	胴部下半～底部片	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
21-12	土器器 壺	-	-	-	ABLN	橙 5YR 7/6	B	把手部片	外面：把手ヘラケズリ	
22-1	弥生土器 壺	-	(6.0)	-	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	胴部片	外面：ヘラ磨平行沈凹	
22-2	土器器 土釜	-	(2.2)	(12.3)	ABIM	外面：灰褐色 7.5YR 5/2 内面：にぶい-黄 5YR 6/4	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	底部外面砂鉄 古代末期の所 産否
22-3	土器器 壺	-	(1.6)	(6.0)	ABDM	外面：橙 5YR 6/6 内面：黄灰 7.5YR 4/1	B	底部 30%	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
22-4	土器器 高坪	-	(1.7)	-	ABD	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	縁部片	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
23-1	土器器 壺	-	-	-	ABDE	にぶい-黄褐色 10YR 7/3	B	胴部片	外面：ハケ目	
23-2	土器器 壺	-	-	-	ABDK	外面：にぶい-橙 5YR 7/4 内面：灰褐色 7.5YR 6/2	B	胴部片	外面：ハケ目	
24-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABJM	にぶい-黄 7.5YR 6/3	B	口縁部片	内外面：摩耗のため調整痕不明	近返し口縁
24-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABDM	外面：橙 5YR 6/6 内面：にぶい-橙 5YR 6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部連続欠片	
24-3	弥生土器 壺	-	-	-	AB	にぶい-橙 7.5YR 6/4	B	口縁部片	外面：ハケ目	
24-4	弥生土器 壺	-	(6.2)	-	ADDM	外面：灰白 10YR 8/2 内面：にぶい-黄褐色 10YR 7/2	A	胴上部 10%	外面：摩耗面著で調整痕不明 内面：ハケ目後ナデ	
24-5	弥生土器 壺	-	(4.1)	-	GIM	灰白 7.5YR 8/1	A	胴部 30%	外面：ヘラミガキ 内面：杯底ミガキ、胴部ヘラナデ	外面赤彩
24-6	土器器 台付椀	(13.5)	(2.9)	-	ADGM	にぶい-黄褐色 10YR 7/3	A	口縁～胴部 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S字状口縁
24-7	土器器 台付椀	-	(2.6)	-	M	外面：灰白 10YR 8/2 内面：灰褐色 7.5YR 6/2	A	口縁部15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S字状口縁
24-8	土器器 壺	(19.2)	(3.3)	-	ABIM	橙 5YR 6/6	B	口縁部片	内外面：摩耗面著で調整痕不明	
24-9	土器器 壺	-	(3.1)	-	ABDMN	外面：明赤褐色 5YR 5/6 内面：にぶい-黄 7.5YR 7/4	B	胴部 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
24-10	土器器 壺	-	(2.7)	(7.0)	ABDJ	外面：黄灰 N 3/1 内面：にぶい-黄 7.5YR 5/3	B	胴部下半～底部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
24-11	土器器 台付椀	-	(2.9)	-	ABKM	外面：明赤褐色 2.5YR 5/8 内面：にぶい-黄褐色 10YR 4/3	B	胴部 40%	外面：摩耗面著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
24-12	土器器 壺	-	-	-	CM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	A	把手部片	外面：手捏ね、ヘラケズリ	
24-13	土器器 坪	(12.4)	(2.4)	-	ABDM	赤 10R 5/8	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面赤彩
24-14	土器器 坪	(12.4)	(3.1)	-	ABI	外面：にぶい-黄 7.5YR 6/3 内面：黄褐色 10YR 3/1	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁 内外面黒色磨痕
24-15	土器器 坪	(13.4)	(2.9)	-	ABDE	外面：灰黄褐色 10YR 6/2 内面：にぶい-黄 7.5YR 6/3	B	口縁～底部 20%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁
24-16	土器器 高坪	(20.7)	(4.6)	-	AEM	にぶい-橙 7.5YR 6/4	B	口縁～胴部 20%	内外面：摩耗面著で調整痕不明	

No	品種	口径	部高	底径	管土	色調	構成	残存率	手法、相違の特徴等	備考
24-17	土器器 高台坪	-	(3.3)	-	ABIM	橙：2.5YR 6/8	B	断面片	内外面：摩耗顯著で調整痕不明	
24-18	銅器器 高台坪	-	(2.0)	(6.5)	BI	灰白 10YR 8/2	A	底部 30%	外面：底部高台取り付け	未野産
24-19	銅器器 高台坪	-	(1.9)	(8.3)	IM	灰白 10YR 7/1	B	底部 10%	外面：底部高台取り付け	未野産
24-20	土器質土器 かわらけ	色母	2.7	(6.0)	BEM	にぶい・黄橙 10YR 7/2	B	20%	断面内側	在地
24-21	瓦葺土器 長筒	-	-	(19.8)	M	黒灰 10YR 5/1	B	肩部 10% 底部 10%	体部下方面で 2ヶ所のスリット	
24-22	鉄滓	最大長 5.3	最大幅 5.7	最大厚 2.3	重さ 89.7 g			定形	砂状で、全体発色顕著	
24-23	石器 磨製石鏝	最大長 4.4	最大幅 1.9	最大厚 0.2	重さ 2.5 g			一部欠損	研削痕明確。穿孔無し。凹縁無形式	私蔵物
24-24	木製品 板材	残存長 8.9	最大幅 4.0	最大厚 0.6				-	木目は横目	
24-25	木製品 板材	残存長 9.8	最大幅 4.2	最大厚 0.7				-	木目は横目	
24-26	木製品 杭	残存長 86.0	最大径 6.2					定形	木目は芯持丸木、凸跡を有する建築材を杭に再利用	
25-1	赤生土器 甕	-	-	-	M	外面：黒 7.5YR 4/3 内面：にぶい・黒 5YR 6/3	B	断面片	外面：磨損縦位沈線	
25-2	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：にぶい・赤黒 5YR 4/4 内面：黒 5YR 6/6	B	断面片	外面：地文・ハケ目に磨損縦位沈線	
26-1	赤生土器 甕	-	-	-	BDI	外面：黒黒 10YR 3/2 内面：にぶい・黒黒 10YR 7/3	B	断面片	外面：磨損縦位沈線	
26-2	赤生土器 甕	-	-	-	AJDM	にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	断面片	外面：磨損縦位沈線	
26-3	赤生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：黒黒 10YR 4/1 内面：にぶい・橙 7.5YR 6/4	B	断面片	断面状の肩縁に縦位沈線	
26-4	土器器 坪	(13.2)	(2.2)	-	ABIJ	橙 2.5YR 6/8	B	口縁～底部 10%	外面：口縁部コナナゲ、底部ヘラウズリ 内面：底部ミガキ	
26-5	土器器 坪	(14.6)	(2.4)	-	ABDR	外面：にぶい・赤黒 5YR 5/4 内面：黒黒 7.5YR 5/2	B	口縁～底部 20%	外面：口縁部コナナゲ、底部ヘラウズリ 内面：ミガキ	
26-6	土器器 甕	(24.0)	(2.4)	-	ABDRK	外面：オリーブ黒 5Y 3/1 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	口縁部 10%	外面：ハケ目後継ナゲ	
26-7	土器器 甕	-	(5.5)	(7.0)	ADMN	外面：黒灰 10YR 6/1 内面：明赤黒 2.5YR 5/8	B	断面下半～底部 20%	外面：断面下半ヘラナゲ	
26-8	土器器 甕	-	(2.6)	(9.8)	AIM	外面：黒 10YR 2/1 内面：にぶい・黒 10YR 5/4	B	断面下半 10%	外口 内外面：横位ヘラウズリ	
27-1	赤生土器 甕	-	-	-	ABDKN	外面：黒黒 10YR 3/2 内面：にぶい・黒 7.5YR 5/4	B	断面～胴上部分	外面：磨損縦位沈線、波状文 (5本一単位)、 磨損縦位波状文	
27-2	陶器 甕	-	-	-	AM	灰黒 7.5YR 6/2	B	断面片	外面：タタキ目 内面：指痕	甕溝系
28-1	赤生土器 甕	-	-	-	ABIJM	灰黒 7.5YR 4/2	B	口縁部片	外面：LR 卑部縦文 断面縦位平行沈線	折返し口縁
29-1	赤生土器 甕	12.0	(11.0)	-	ABDMN	橙 5YR 7/6	B	口縁～断面 90%	内外面：摩耗顯著で調整痕不明	胴部外面にイボ 状圧痕
29-2	赤生土器 甕	(11.8)	(11.4)	-	ABDMN	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	口縁～断面 50%	外面：摩耗顯著で調整痕不明 内面：ヘラナゲ	
29-3	赤生土器 甕	-	(8.4)	-	ADM	内外面：にぶい・橙 7.5YR 7/4 内面：黒黒 7.5YR 3/1	B	断面 80%	外面：3本のヘラ溝平行沈線、縦向文 内面：ヘラナゲ	
29-4	赤生土器 甕	-	(8.1)	-	AMN	明赤黒 5YR 5/8	B	断面 15%	外面：4本のヘラ溝平行沈線 内面：ヘラナゲ	
29-5	赤生土器 甕	-	(11.8)	-	ABIJM	外面：灰黒 5YR 4/2 内面：にぶい・赤黒 2.5YR 5/4	B	断面片	外面：磨損斜格子文 内面：ヘラナゲ後部部分的ミガキ	
29-6	赤生土器 甕	-	(4.7)	-	ABIJM	黒灰 5YR 4/1	B	断面片 5%	外面：LR 卑部縦文 内面：ヘラナゲ	
29-7	赤生土器 甕	-	-	-	IM	外面：にぶい・黄橙 10YR 7/4 内面：橙 5YR 6/6	B	胴部片	外面：ヘラ溝沈線部(4面)内 LR 卑部縦文を 確認	
29-8	赤生土器 甕	-	(11.0)	-	ABIJM	外面：黒黒 10YR 3/2 内面：にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	断面片	外面：LR 卑部縦文後部部分的にヘラ ナゲ 内面：ヘラナゲ	
29-9	赤生土器 甕	-	(16.2)	-	DJM	外面：明赤黒 5YR 5/6 内外面：にぶい・黄橙 10YR 7/3	B	断面中～断面下半 60%	外面：ハケ目後ヘラナゲ 内面：輪軸磨痕	
29-10	赤生土器 甕	-	(17.4)	8.6	ABDMN	外面：浅黄橙 7.5YR 8/4 内面：黒灰 7.5YR 6/1	B	断面 60%	外面：断面上半ハケ目、下半ヘラナゲ後 ミガキ・指痕圧痕 内面：ヘラナゲ	
29-11	赤生土器 甕	-	(14.0)	-	ABDMN	明赤黒 5YR 5/8	B	断面 30%	外面：断面上半 LR 卑部縦文、下半ヘラ ナゲ 内面：ヘラナゲ	
29-12	赤生土器 甕	-	(11.4)	8.3	ARIJM	灰黒黒 10YR 5/2	B	断面下半 30%	内外面：ヘラミガキ	
29-13	赤生土器 甕	-	(22.6)	11.0	ABIM	外面：浅黄橙 7.5YR 8/4 内面：黒灰 7.5YR 6/1	B	断面 60%	外面：ヘラナゲ後断面下半ヘラミガキ 内面：ヘラナゲ	器口に赤い 点
29-14	赤生土器 甕	-	(31.0)	8.6	AIM	橙 5YR 6/6	B	底部 100%	外面：ハケ目、下縁指痕圧痕 内面：ハケ目後ヘラナゲ	

第20表 清跡出土遺物観察表(3) (第113～120図)

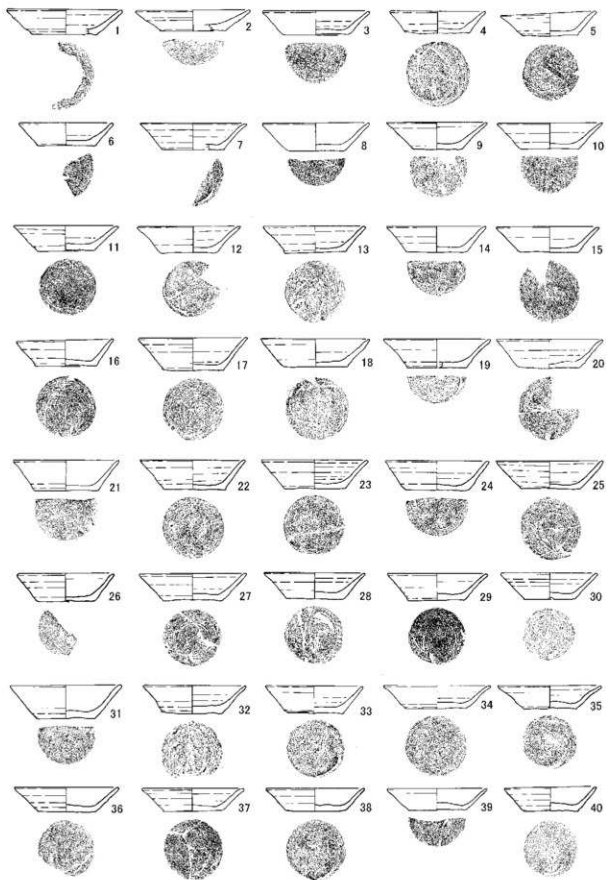
No	品種	口径	高さ	底径	胎土	色調	胎成	残存率	手法、形態の特徴等	備考	
29-18	赤生土器 土器	-	(14.3)	9.4	BM	橙 5YR 7/6		40%	外面：ハケ目後部方的ヘラナデ・ミガキ 内面：ヘラナデ、底部微凹圧痕		
29-19	赤生土器 鉢	-	(3.7)	6.4	BM	内外面：明赤黄 2.5YR 5/6 内面：灰白 10YR 6/4	A	60%	外面：ヘラミガキ 内外面：赤彩	内外面赤彩	
29-17	赤生土器 鉢	-	(2.5)	7.4	AJJM	外面：灰白・橙 7.5YR 7/4 内面：灰白 10YR 8/2	B	100%	外面：下端微凹圧痕		
29-18	赤生土器 鉢	-	(12.1)	(11.6)	ADMN	外面：橙 7.5YR 6/6 内面：明黄 7.5YR 5/8	B	15%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ		
29-19	赤生土器 鉢	-	-	-	ABKL	外面：橙 7.5YR 4/3 内面：明赤黄 5YR 5/6	B		外面：平行沈陥による区画内段半割面 文を欠損		
29-20	赤生土器 鉢	-	-	-	AJJM	外面：灰黄 7.5YR 4/2 内面：灰白・橙 7.5YR 6/4	B		外面：口縁部から底部部、半割面文に継 ぎ状文(2本・単位)・垂状文		
29-21	赤生土器 鉢	-	-	-	AIM	外面：灰黄 10YR 3/1 内面：灰白・黄緑 10YR 5/3	B		外面：継ぎ状文(16本・単位)		
29-22	赤生土器 鉢	-	-	-	ABEGBM	外面：橙 7.5YR 4/3 内面：灰白・黄緑 10YR 6/3	B		外面：継ぎ状文、縦位部状文		
29-23	赤生土器 高坪	-	(6.0)	(9.8)	ABHJMM	外面：灰白・赤黄 5YR 5/4 内面：赤黄 2.5YR 4/6	B	40%	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：坪部ミガキ、微凹ヘラナデ		
29-24	石器 磨石	最大長 13.6	最大幅 9.0	最大厚 2.2		重さ 492 g			一部欠損	磨部は1面、側部・端部磨打痕	灰山石
30-1	土器 鉢	(19.6)	(6.8)	-	ABEGBM	明赤黄 2.5YR 5/6	B		外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ		
32-1	赤生土器 鉢	(14.5)	(6.4)	-	ABDMN	外面：灰黄 7.5YR 4/1 内面：黄灰 10YR 4/1	B		外面：口縁部微凹内段、底部微凹状文 (4本・単位)、縦部微凹山形文 内面：ヘラナデ		
32-2	赤生土器 鉢	(19.6)	(5.4)	-	ABJM	外面：灰黄緑 10YR 5/2 内面：灰黄緑 10YR 4/2	B		内外面：ハケ目後ヘラナデ	近近し口縁	
32-3	赤生土器 鉢	-	(3.1)	(6.3)	ABDMN	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：灰黄 10YR 3/1	B	100%	内外面：摩耗面著で調整痕不明		
32-4	土器 行付鉢	(13.6)	(3.3)	-	ADJMN	灰白・橙 7.5YR 7/4	B	15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S字口縁	
32-5	土器 鉢	(14.7)	(7.6)	-	ABHJMM	外面：橙 2.5YR 6/6 内面：赤黄 5YR 4/6	B		外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ		
32-6	土器 高坪	(10.8)	(3.4)	-	ABJMM	外面：明赤黄 5YR 5/8 内面：明赤黄 5YR 5/8	B	20%	外面：口縁部ココナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ		
32-7	銅器 磨	(11.2)	(6.4)	-	ABIM	外面：灰 N 6/ 内面：灰 N 5/	B	40%	内面：微凹圧痕	木野産	
32-8	灰輪陶器 鉢	-	(2.4)	(8.8)	BM	外面：灰白 10YR 8/1 内面：灰白 2.5YR 8/1	B	10%	外縁微凹の二角高台		
32-9	瓦質土器 土器	(30.8)	(5.6)	-	ABDELN	灰 N 5/	B	10%	内面：内径1ヶ所残存、口縁部内面縁 きもつ	在池	
32-10	瓦質土器 行付鉢	(29.6)	(2.6)	-	ABIK	灰白 2.5YR 7/1	B	10%	口縁部断首「了」字状	在池	
32-11	陶器 行付鉢	(32.0)	(6.7)	-	ABMN	外面：灰白・赤黄 5YR 5/4 内面：橙 2.5YR 6/6	B	10%	外面：微凹部、口縁部内外面に突出	常滑系 第10型式	
32-12	瓦質土器 行付鉢	(30.0)	(5.5)	-	ABDMN	外面：灰白・橙 2.5YR 6/4 内面：赤黄 2.5YR 6/1	B	10%	外面：口縁部微凹ココナデ	在池	
32-13	瓦質土器 行付鉢	(32.0)	(4.4)	-	AJJM	灰黄 7.5YR 5/1	B	5%	内外面：口縁部微凹している	在池	
32-14	瓦質土器 鉢	-	-	-	ABJMN	外面：黄緑 2.5Y 3/2 内面：黄灰黄 2.5Y 5/2	B		内面：平均を越く5本の縦目が施され る	在池	
32-15	瓦質土器 鉢	-	(4.9)	(11.0)	ABMN	外面：灰黄緑 10YR 6/2 内面：黄灰 10YR 6/1	B	5%	内面：縦目間が広い、5本の縦目が施され る	在池	
32-16	銅器 花籃	-	(6.3)	4.0	ABDM	灰白 5Y 7/2 灰白 5Y 7/1	A	70%	外面：底部両辺を縁き灰輪、底部半切り 本銅器	瀬戸美濃系 古銅中形類	
32-17	銅器 石研碗	-	(2.6)	-	AB	灰白 10YR 8/1 灰白 N 8/	A	10%	内面：磨目文	中国 白銅碗V-4類	
32-18	瓦 平瓦	最大長 (5.4)	最大幅 (6.1)	最大厚 2.5	ABIM	灰 N 6/	B		重量 120 g 凹部：有目縁 凸部：押叩き	本願寺式瓦	
32-19	瓦 平瓦	最大長 (7.2)	最大幅 (5.5)	最大厚 (1.4)	ABJMM	凸部：灰白・黄緑 10YR 7/3 凹部：灰白 2.5Y 7/1	B		重量 600 g 凸部：鏡子字 凹部：垂状凹部(4個)		
32-20	瓦 平瓦	最大長 (8.3)	最大幅 (6.3)	最大厚 2.7	ABDM	凸部：灰黄緑 10YR 6/2 凹部：灰白・黄緑 10YR 6/4	B		重量 220 g 凸部：鏡子字 凹部：鏡子字		
32-21	瓦 平瓦	最大長 (7.2)	最大幅 (6.9)	最大厚 3.1	ABEM	凸部：灰白・橙 7.5YR 7/4 凹部：黄灰 7.5YR 6/1	B		重量 200 g 凸部：陶叩き 凹部：鏡子字		
32-22	瓦質								唐 開元通宝	貞壽 初降 621年 内に月文有	
32-23	瓦質								北宋 聖元元宝	貞壽 初降 965年	
32-24	瓦質								北宋 祥符元宝	貞壽 初降 1009年	

No	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	胎成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
32-25	瓦質								北宋 景祐通宝	高書 初降 1038年
32-26	瓦質								北宋 景祐通宝	高書 初降 1038年
32-27	瓦質								北宋 景祐通宝	高書 初降 1054年
32-28	瓦質								北宋 景祐元宝	高書 初降 1068年
32-29	瓦質								北宋 景祐元宝	高書 初降 1068年
32-30	瓦質								北宋 景祐元宝	高書 初降 1068年
32-31	瓦質								北宋 元豊通宝	高書 初降 1078年
32-32	瓦質								北宋 元豊通宝	高書 初降 1078年
32-33	瓦質								北宋 元祐通宝	高書 初降 1086年
32-34	瓦質								北宋 元祐通宝	高書 初降 1086年
32-35	瓦質								北宋 元祐通宝	高書 初降 1086年
32-36	瓦質								金 天定通宝	高書 初降 1178年
32-37	瓦質								北宋 天定通宝	高書 初降 1368年
32-38	瓦質								北宋 天定通宝	高書 初降 1368年
32-39	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-40	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-41	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-42	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-43	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-44	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-45	瓦質								北宋 永楽通宝	高書 初降 1408年
32-46	瓦質								判読不明銭	
32-47	石製品 白玉	最大長 1.1	最大幅 1.0	最大厚 0.5	孔径 0.2	重さ 0.9 g			定形	外面：穿孔残断片 磨石
32-48	石製品 磁石	最大長 18.7	最大幅 7.6	最大厚 6.2		重さ 1140 g			定形	2面に合計 4条の小溝が彫り込まれた扇 磁石
37-1	土師器土器 かわらけ	(11.8)	3.4	6.0	ABM	外面：紅い菊 7.5YR 5/3 内面：灰黒 7.5YR 5/2	A	40%	内面：みこみ指ナ字廻 ロケウヨ回転	在池
37-2	瓦質土器 土鍋	(34.0)	(13.5)		BF	外面：黒 2.5Y 2/1 内面：暗灰黄 2.5Y 5/2	B	口縁一部 70%	口縁部長い	在池 外面スス付着
37-3	石製品 板心塔婆	最大長 9(4)	最大幅 (14.5)	最大厚 2.6		重さ 660 g			破片	碑面：有期に彫順 「月日」の文字有
43-1	磁器 青磁香炉	-	(3.7)	-	B	外面：緑灰 10GY 6/1 内面：緑灰 10GY 6/1 明ナシ→7灰 2.5GY 3/1	A	体部 10%	外面：白土による八片文、地層が厚い	龍泉窯系
43-2	磁器 白磁皿	-	(2.4)	(4.0)	B	外面：明緑灰 7.5GY 5/1 内面：灰白 5GY 8/1	B	体部 10%	高台周辺を除き輪軸	中国(明)
43-3	瓦質土器 板焼	(31.4)	(5.9)	(28.7)	ABDJ	外面：灰灰 10YR 5/1 内面：灰 N 5/	B	5%	外面：指頭痕 内面：体部中央横をもつ	在池 外面スス付着
43-4	木製品 下駄	塊径長 (17.0)	最大幅 10.6	最大厚 5.7					扁平大角	本底は芯持 産下駄で前鼻縁孔はやや右に寄る 背上面は前中分心凹み、厚さは 1.1cm、幅端は 0.4cm、溝 は細線まで縁縁縁はほぼ形 付の前縁は厚さ 1.0cmで半円形に整形
44-1	土師器 坪	(14.4)	(3.1)	-	ABDM	外面：紅い菊 7.5YR 6/3 内面：灰黒 7.5YR 4/1	B	口縁一部 20%	外面：ヘラツクリ 内面：ミガキ	有段口縁 内面黒色処理
44-2	磁器 青磁皿	-	(3.4)	-	A	灰黄 2.5Y 6/2	A	口縁部 5%	体部内面：飛雲文	龍泉窯系 1 4 類
44-3	土製品 土鍋	最大長 3.4	最大幅 1.2	孔径 0.3		重さ 4.1 g			一部欠損	外面：指頭凹痕、棒に粘土倉付手付ね
49-1	土師器 盤	(16.4)	(4.8)	-	ARJMN	外面：紅い黄緑 10YR 7/3 内面：紅い菊 7.5YR 7/3	B	口縁部 10%	内外面：摩耗顯著で調整痕不明	
49-2	土師器 坪	(11.0)	(2.6)	-	ARJM	外面：黒 7.5YR 4/6 内面：明緑 7.5YR 5/6	B	口縁一部 20%	外面：口縁部コナダ、底部ヘラツクリ 内面：ヨコナダ	

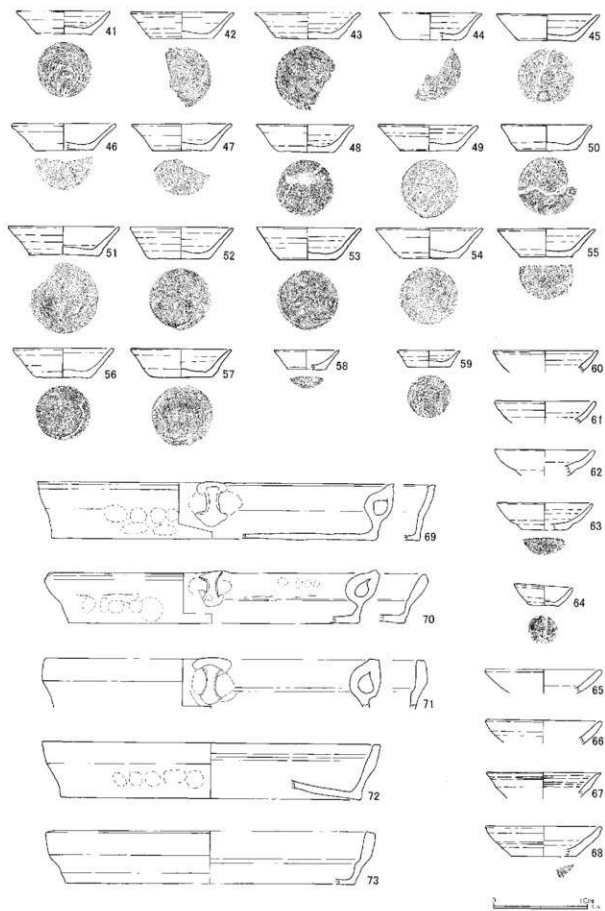
第20表 第42号溝跡出土遺物観察表(4) (第113～120図)

No	品種	口径	器高	底径	胎土	色澤	胎成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
49-3	土師器 杯	(14.0)	2.8	(11.0)	AGM	外面：焼 5YR 7/8 内面：焼 5YR 6/8 内外面：部分的灰白 10YR 8/2	A	50%	外面：口縁部コナデ、底部ヘラケズリ 内面：コナデ	度量衡の例に使用 南比企業
49-4	須恵器 コップ型土器	(9.4)	(5.1)	-	ABF	外面：灰 7.5Y 5/1 内面：灰白 N 7/1	B	口縁部片	内面：口縁部部斜めに内側ぎ	南比企業
49-5	須恵器 杯	(15.0)	(3.3)	-	ABEFCM	焼灰 10YR 6/1	B	口縁部片	体部内湾気味に立ち上がる	南比企業
49-6	須恵器 盤	-	-	-	ABM	灰 N 6/	B	胴部片	外面：明きの輪跡がナデの跡されている 内面：同心がけのデコ具輪	本野産
49-7	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.6	6.4	DM	にぶい焼 7.5YR 7/4	B	40%	ロケロ右目輪	在地
49-8	石器 磨石	最大長 20.4	最大幅 6.7	最大厚 2.8	重さ 720 g			定形	縦長い楕円で片方の先端に磨行痕	片岩
50-1	土師器 杯	(12.0)	(4.0)	-	AHJM	外面：焼期 7.5YR 5/1 内面：焼 7.5YR 1.7/1	B	口縁～底部 20%	外面：口縁部コナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部から底部丁寧なヘラミキ	在地の 内面黒色処理
51-1	瓦質土器 土鉢	-	-	-	ABDM	外面：焼期 7.5YR 5/2 内面：焼灰 7.5YR 4/1	C	口縁部片	外面：折衝痕、体部中央縫をもつ	在地 外面スス付着
57-1	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(7.0)	-	ABJM	外面：灰白 N 7/ 灰 N 6/ 内面：灰白 N 6/	B	口縁～体部 5%	外面：折衝痕 内面：口縁部くぼむ、磨れている	在地
60-1	土師質土器 かわらけ	(12.2)	3.4	7.0	ABM	浅黄褐色 7.5YR 8/4	B	45%	外面：二条の気線が通る 内面：みこみ指ナデ輪、磨つてい	鎌倉北方系
60-2	陶器 転用磨石 (片口鉢)	-	-	-	ADHM	外面：焼灰 10YR 6/1 内面：焼 7.5YR 4/4	B	口縁～体部片	内外面：磨れている転用磨石	常陸系 片口鉢片類
60-3	木製品 椀	-	(2.0)	-				体部残存	椀口の榎木取り、高台付、内外面黒漆塗り	
60-4	木製品 椀	-	(1.1)	8.0				底部残存	椀口の榎木取り、底部中窪みの椀高台、底部外面を削いで黒漆塗り	
60-5	木製品 下駄	残存長 24.8	最大幅 (5.0)	最大厚 2.0				半分残存	椀口の榎木取り 黒面下駄で台上面は甲田で足指が残り、厚さは 2.0cm 底は削ぎ	
60-6	瓦甎	最大長 (4.7)	最大幅 3.1	最大厚 2.3	重さ 19.5 g			-	右下隅第1目輪、咬合面有	
60-7	瓦甎	最大長 (5.3)	最大幅 3.2	最大厚 2.4	重さ 33.4 g			-	右上第1目輪、歯痕欠損	
60-8	瓦甎								唐 開元通宝	真書 初降 621年
60-9	瓦甎								唐 開元通宝	真書 初降 621年
60-10	瓦甎								唐 開元通宝	真書 初降 621年
60-11	瓦甎								唐 開元通宝	真書 初降 621年
60-12	瓦甎								北宋 淳化元宝	真書 初降 990年
60-13	瓦甎								北宋 祥符通宝	真書 初降 1009年
60-14	瓦甎								北宋 天禧通宝	真書 初降 1017年
60-15	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-16	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-17	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-18	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-19	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-20	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-21	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1023年
60-22	瓦甎								北宋 天聖元宝	真書 初降 1034年
60-23	瓦甎								北宋 皇宋通宝	真書 初降 1038年 方穿加工
60-24	瓦甎								北宋 皇宋通宝	真書 初降 1038年
60-25	瓦甎								北宋 皇宋通宝	真書 初降 1038年
60-26	瓦甎								北宋 皇祐元宝	真書 初降 1054年
60-27	瓦甎								北宋 治平元宝	真書 初降 1064年

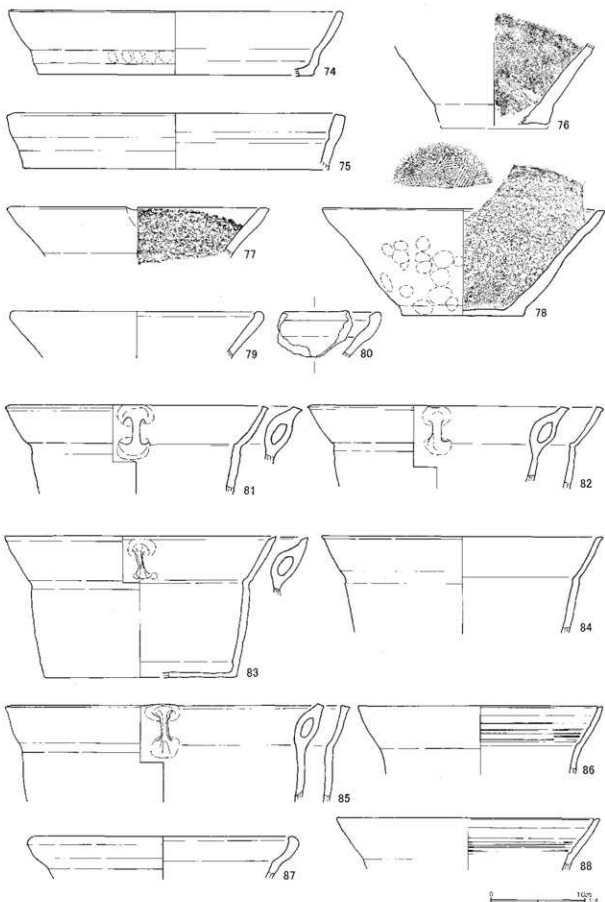
No	品種	口径	部高	底径	射上	色調	焼成 残存率	手法、形態の特徴等	備考	
60-28	真貨							北宋 繁華元宝	真書 初降 1068年	
60-29	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
60-30	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
60-31	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
60-32	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
60-33	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
60-34	真貨							北宋 元豊通宝	草書 初降 1078年	
60-35	真貨							北宋 元豊通宝	草書 初降 1078年	
60-36	真貨							北宋 元豊通宝	草書 初降 1078年	
60-37	真貨							北宋 元豊通宝	草書 初降 1078年	
60-38	真貨							北宋 元豊通宝	篆書 初降 1078年	
60-39	真貨							北宋 元豊通宝	篆書 初降 1078年	
60-40	真貨							北宋 元豊通宝	篆書 初降 1078年	
60-41	真貨							北宋 元豊通宝	篆書 初降 1078年	
60-42	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-43	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-44	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-45	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-46	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-47	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-48	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
60-49	真貨							北宋 元祐通宝	篆書 初降 1086年	
61-1	知患部 銀	(19.6)	(5.4)	-	ABDM	外面：直径 7.5YR 5/1 内面：直径 2.5Y 6/1	B	口縁部 10%	口縁部外周、端部内周	武野燾 自然焼
61-2	知患部 銀	-	-	-	ABFM	外面：直径 2.5YR 6/1 内面：明焼 7.5YR 7/1	B	口縁部片	外面：口縁部磨損状況	南比企産
61-3	知患部 銀	-	(3.0)	(9.6)	ABDM	径 N 5/	B	胴部下端～底部片	外面：下端へラケズリ 内面：ヘラケズリ、磨損箇所	外面部分的に自然焼
61-4	灰輪肉部 高台銀	-	(1.3)	6.8	M	径黄 7.5Y-7/3	B	体部～底部 80%	外面：爪形の高台 内面：底部灰オリーブ色輪ハケ塗り	折戸 33号陶式 併行期
61-5	長貫土器 片口鉢	-	(3.9)	11.8	ABDM	外面：径 N 6/1 内面：径 5Y 6/1	B	底部 80%	内面：底部・体部の境が滑れている	在産
61-6	陶器 片口鉢	(32.0)	(5.4)	-	ABDMV	径 N 赤銅 2.5YR 4/3	B	口縁部 5%	外面：口縁部收縮が著る	常滑系 片口鉢 1 類 3 形式
61-7	陶器 銀	-	-	-	ABDM	外面：径 N 赤銅 10YR 7/3 内面：径 N 赤銅 10YR 5/3	B	胴部片		常滑系
61-8	陶器 銀	-	-	-	AM	外面：径黄 5Y-7/3 内面：径 N 6/	B	胴部片		常滑系
61-9	陶器 折縁銀	-	-	-	B	径白 2.5Y 7/1 径オリーブ 7.5Y 6/2	A	口縁～体部片	内面：口縁部 2 条の収縮が著る 内外面：灰輪	瀬戸完結系 古瀬戸期
61-10	瓦 平瓦	最大径 15.8	最大幅 7.3	最大厚 1.9	AM	径白 N 7/	B	破片	重量 132.3 g 凸部：鈍目印 凹部：布目	平安期
61-11	真貨							北宋 繁華元宝	篆書 初降 1068年	
61-12	真貨	最大径 4.6	最大幅 2.7	最大厚 2.2	重さ 29.5 g		-		左上隅第 4 前口周、黄銅発達	
62-1	陶器 内耳直	-	(3.9)	-	BIM	外面：オリーブ黄 7.5Y 6/3 内面：径白 7.5Y 7/1	B	胴部～底部 5%	外面：灰輪	瀬戸完結系 古瀬戸前期
68-1	陶器 洗	(19.6)	(5.4)	-	AM	外面：径白 7.5Y 8/1 内面：径白 7.5Y 7/2	B	5%	内外面：灰輪、三足が付く	瀬戸完結系 古瀬戸前期
68-2	灰化米塊	最大径 2.5	最大幅 2.4	最大厚 1.7	重さ 7.5 g		-		米粒が滑で、割った塊の可能性がある。 玄米か精米か不明	
68-3	真貨	最大径 4.7	最大幅 2.5	最大厚 1.9	重さ 18.5 g		-		左上隅第 3 前口周	



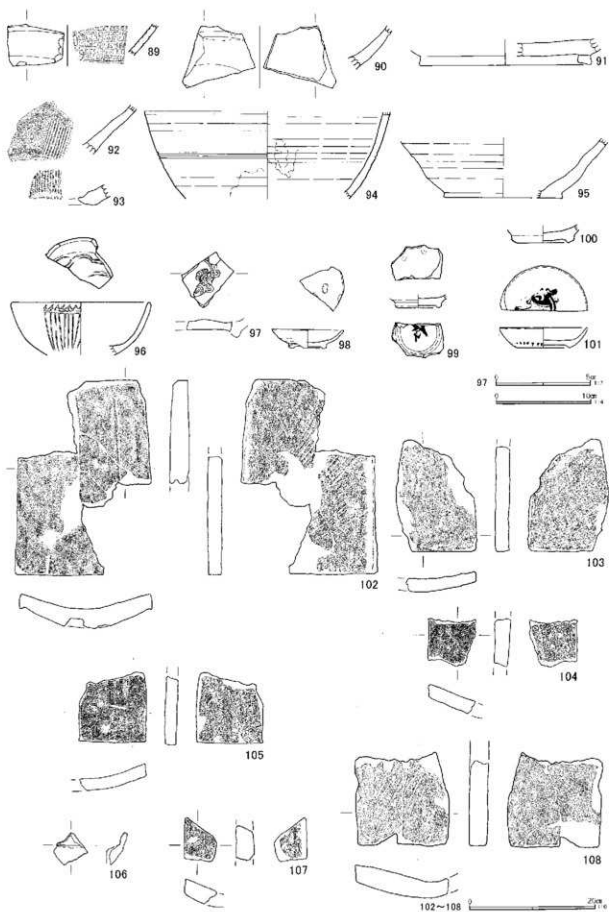
第 121 图 第 42 号溝跡出土遺物(1)



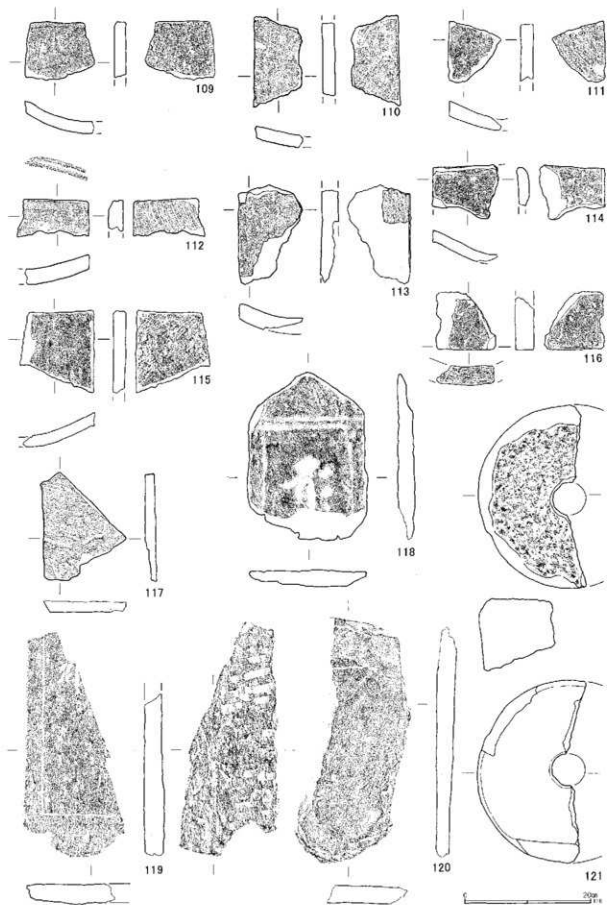
第 122 図 第 42 号溝跡出土遺物(2)



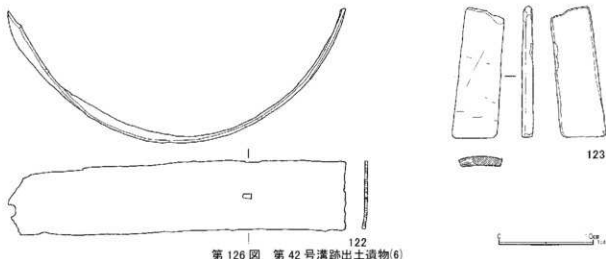
第 123 图 第 42 号溝跡出土遺物(3)



第124图 第42号沟跡出土物(4)



第 125 图 第 42 号溝跡出土遺物(5)



第 126 図 第 42 号溝跡出土遺物(6)

第 21 表 第 42 号溝跡出土遺物観察表(1) (第 121 ~ 126 図)

遺物番号	No	図種	口径	高さ	底径	取手	色調	焼成 残存率	手法、形等の特徴等	備考
SD42	1	土師質土器 かわらけ	(12.4)	2.6	6.8	DIMN	にぶい-黄橙 10YR 7/3	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42	2	土師質土器 かわらけ	(12.2)	2.2	6.9	BDJM	浅黄橙 7.5YR 6/4	B 40%	器高低い、ロクロ回転方向不明	在池
SD42	3	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.5	6.8	ABDJM	外面：にぶい-橙 7.5YR 6/4 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 50%	ロクロ回転方向不明	在池
SD42	4	土師質土器 かわらけ	10.3	2.3	6.9	ADBM	橙 7.5YR 7/6	B 90%	外面：靑目斑付面 内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	5	土師質土器 かわらけ	10.1	2.4	6.0	ABDM	橙 5YR 7/6	B 90%	外面：靑目斑付面 内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	6	土師質土器 かわらけ	10.8	2.4	6.0	ABDM	橙 5YR 7/6	B 25%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	7	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.8	(6.6)	ABH	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 30%	ロクロ左回転	在池
SD42	8	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.9	(6.6)	DM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 40%	ロクロ回転方向不明	在池
SD42	9	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	5.3	ABDK	外面：浅黄橙 7.5YR 8/3 内面：にぶい-橙 5YR 7/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	10	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.7	6.3	DM	灰白 10YR 8/2 浅黄橙 7.5YR 8/4 にぶい-黄橙 10YR 7/2	A 30%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	11	土師質土器 かわらけ	11.1	2.7	6.0	DJM	橙 5YR 7/6	B 90%	ロクロ左回転	在池
SD42	12	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.9	6.0	ABDU	橙 5YR 7/6 浅黄 7.5YR 5/2	B 60%	外面：靑目斑付面 内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	13	土師質土器 かわらけ	10.9	2.8	6.5	ABDEM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 70%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	14	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	(6.4)	ABEM	外面：浅橙 5 Y R 8/3 内面：にぶい-橙 5YR 7/4	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42	15	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.7	6.5	ABH	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 60%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	16	土師質土器 かわらけ	10.3	2.8	6.5	ABDM	橙 5YR 7/8	B 90%	ロクロ左回転	在池
SD42	17	土師質土器 かわらけ	11.6	3.5	6.5	BIM	橙 5 Y R 7/6	B 60%	ロクロ左回転	在池
SD42	18	土師質土器 かわらけ	11.5	3.0	6.8	AH	外面：にぶい-橙 7.5YR 7/3 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 95%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	19	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.0	(6.4)	ABDM	橙 5YR 7/6	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42	20	土師質土器 かわらけ	11.3	3.0	6.5	DM	外面：浅黄橙 7.5YR 8/3 灰白 10YR 6/1 内面：浅黄橙 7.5YR 8/3	A 60%	外面：靑目斑付面 内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	21	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.2	6.8	ABDJM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42	22	土師質土器 かわらけ	11.2	3.1	6.7	ABH	橙 5YR 7/6	B 80%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	23	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.0	6.6	ABDU	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 50%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池
SD42	24	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.1	6.7	ABEJM	橙 5YR 6/6	B 50%	内面：みこみ筋ナデ面 ロクロ左回転	在池

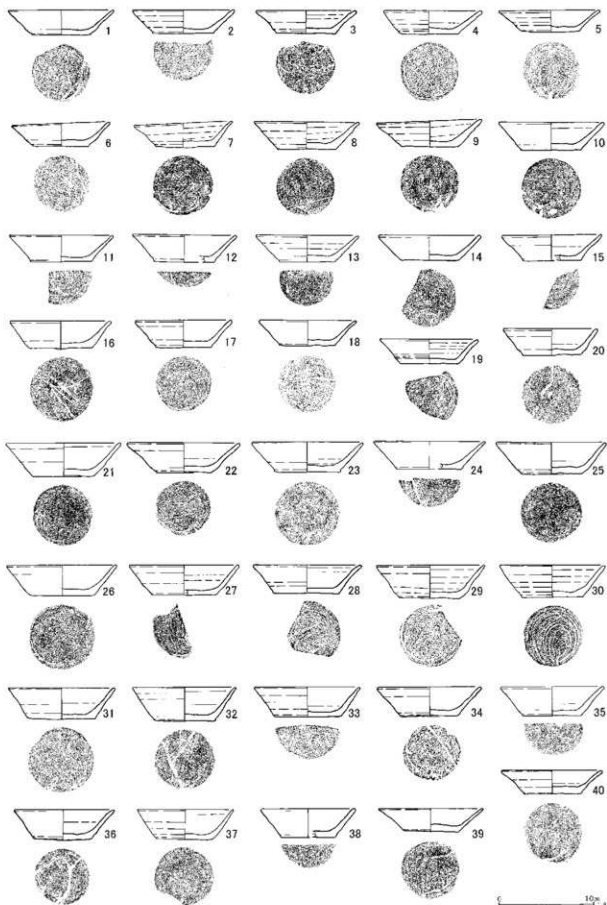
第 21 表 第 42 号溝跡出土土物観察表(2) (第 121 ~ 126 図)

遺構名 No	図種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成 残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 25	土師質土器 かわらけ	11.1	3.0	6.5	ABRH	橙 5YR 7/6	B 90%	ロクロ左回転	在池
SD42 26	土師質土器 かわらけ	(10.4)	3.0	(6.0)	DM	浅黄橙 7.5YR 8/3	B 20%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 27	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.9	6.2	ABR	橙 5YR 7/8	B 60%	ロクロ左回転	在池
SD42 28	土師質土器 かわらけ	10.8	2.8	6.1	BEM	浅黄橙 7.5YR 8/3	B 80%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ回転方向不明	在池
SD42 29	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.0	ABDJM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 70%	外面：板目状瓦筋 内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 30	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.8	5.6	ABDEM	外面：にぶい-黄橙 10YR 7/2 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 60%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 31	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.5	6.0	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 40%	内面：みこみ筋ナデ	在池
SD42 32	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.0	6.5	DM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 40%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 33	土師質土器 かわらけ	10.4	3.0	6.3	DM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 80%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 34	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.6	6.5	ABDEM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ回転方向不明	在池
SD42 35	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.4	5.8	ABEM	外面：橙 5YR 7/6 内面：浅黄橙 7.5YR 8/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 36	土師質土器 かわらけ	11.1	2.6	6.0	DJM	浅黄橙 7.5YR 8/4	B 80%	ロクロ左回転	在池
SD42 37	土師質土器 かわらけ	11.1	2.5	6.3	BDIM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 90%	外面：板目状瓦筋 内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 38	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.5	BDEJ	橙 5YR 7/6	B 60%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 39	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.4	(6.0)	ABDM	外面：にぶい-黄 7.5YR 6/3 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/3	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42 40	土師質土器 かわらけ	9.9	2.6	5.9	ABDJM	浅黄橙 7.5YR 8/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 41	土師質土器 かわらけ	9.8	2.5	6.0	DM	橙 7.5YR 6/6	B 100%	ロクロ左回転	在池
SD42 42	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.8	6.6	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 45%	底面厚い、ロクロ左回転	在池
SD42 43	土師質土器 かわらけ	11.1	2.8	6.7	DM	外面：灰白 10YR 8/2 浅黄橙 7.5YR 8/4 内面：灰白 10YR 8/2	A 60%	外面：板目状瓦筋 内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 44	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.9	(6.4)	ABDK	浅黄橙 7.5YR 8/4	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42 45	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	6.2	BDJM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 70%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ回転方向不明	在池
SD42 46	土師質土器 かわらけ	(10.9)	2.8	(6.0)	BDJ	浅黄橙 7.5YR 8/4	B 40%	ロクロ左回転	在池
SD42 47	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	(6.2)	ABDM	橙 5YR 7/6	B 25%	底面厚い、ロクロ左回転	在池
SD42 48	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.9	6.1	BJM	浅黄橙 10YR 8/3	B 60%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 49	土師質土器 かわらけ	10.6	2.7	6.2	BDI	にぶい-黄橙 10YR 7/2	B 60%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 50	土師質土器 かわらけ	(9.8)	2.7	6.4	DM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ回転方向不明	在池
SD42 51	土師質土器 かわらけ	11.8	3.1	7.4	ABDM	外面：橙 5YR 6/6 内面：浅黄橙 7.5YR 8/3	B 70%	ロクロ左回転	在池
SD42 52	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.5	6.6	ABDJ	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 60%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 53	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.4	6.4	ABDM	橙 5YR 7/6	B 70%	内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 54	土師質土器 かわらけ	(11.3)	3.2	6.2	BJM	橙 5YR 7/6	B 50%	底面厚い、ロクロ左回転	在池
SD42 55	土師質土器 かわらけ	(10.6)	3.0	6.0	ABDM	橙 5 Y R - 7/6	B 40%	内面：みこみ筋ナデ ロクロ左回転	在池
SD42 56	土師質土器 かわらけ	(10.8)	3.1	5.9	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B 60%	外面：板目状瓦筋 内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 57	土師質土器 かわらけ	10.8	3.0	6.7	BDJ	浅黄橙 7.5YR 8/4	B 90%	外面：板目状瓦筋 内面：みこみ筋ナデ、底面厚い ロクロ左回転	在池
SD42 58	土師質土器 かわらけ	(6.9)	2.1	(4.0)	DM	灰白 10YR 8/1	A 25%	小型、ロクロ回転方向不明	在池
SD42 59	土師質土器 かわらけ	6.6	1.7	4.6	DM	外面：灰白 7.5YR 8/2 内面：浅黄橙 7.5YR 8/3	A 80%	ロクロ左回転	在池
SD42 60	土師質土器 かわらけ	(11.2)	(2.3)	-	ABDM	灰白 7.5YR 8/1	B 10%	ロクロ回転方向不明	吉河公方系
SD42 61	土師質土器 かわらけ	(10.8)	(2.3)	-	ABDJM	明黄灰 7.5YR 7/2	B 10%	ロクロ回転方向不明	吉河公方系

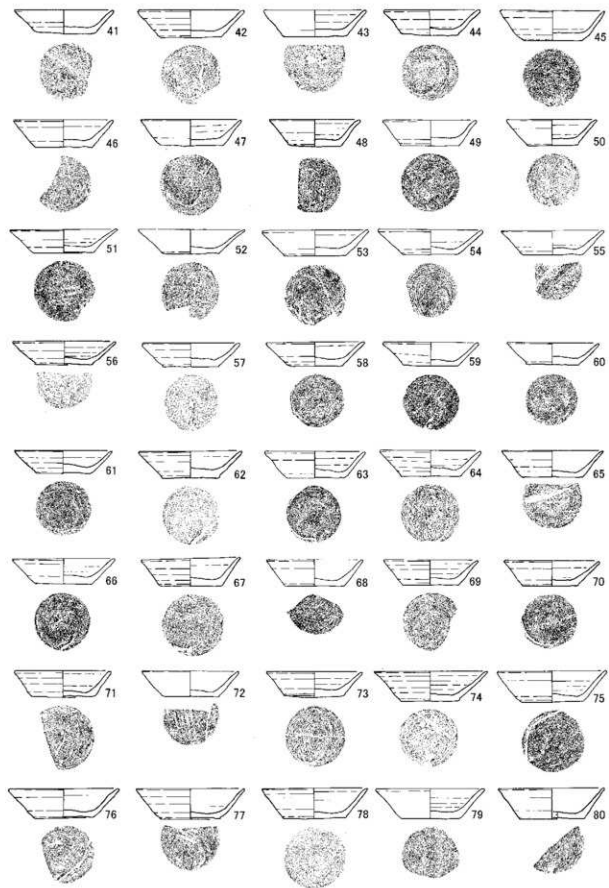
品番名	No.	品種	口径	部高	成径	船主	色調	構成	残存率	手法、形態的特徴等	備考
SD42	62	土師貫土器 かわらけ	(10.8)	(2.7)	-	ARJ	外面：灰白 10YR 7/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	10%	内面：みこみ筋ナ子堀 ロクロ右回転	古河公方系
SD42	63	土師貫土器 かわらけ	(10.2)	2.9	(4.8)	ABEJM	外面：浅黄緑 7.5YR 8/3 内面：灰白 7.5YR 8/2	B	30%	外面：飯目目上堀 内面：みこみ筋ナ子堀 ロクロ右回転	古河公方系
SD42	64	土師貫土器 かわらけ	6.2	2.1	3.2	ABDK	にぶい-橙 5YR 7/4	B	60%	外面：飯目目上堀 内面：みこみ筋ナ子堀 小型、ロクロ右回転	古河公方系
SD42	65	土師貫土器 かわらけ	(12.4)	(2.5)	-	BDM	黄緑 5YR 8/3	B	10%	体部深い、ロクロ回転方向不明	在池
SD42	66	土師貫土器 かわらけ	(12.4)	(2.5)	-	ABDM	黄緑 5YR 8/4	B	10%	体部深い、ロクロ左回転	在池
SD42	67	土師貫土器 かわらけ	(12.2)	(2.8)	-	AIM	にぶい-橙 5YR 7/4	B	10%	内外面：ロクロ左回転 ロクロ回転方向不明	在池
SD42	68	土師貫土器 かわらけ	(12.4)	3.2	(7.0)	BQUM	黄緑 5YR 8/4	B	10%	体部深い、ロクロ回転方向不明	在池
SD42	69	瓦貫土器 始絡	(38.0)	3.9	(34.0)	ABDJM	外面：黄灰 7.5YR 4/1 内面：にぶい-黄緑 7.5YR 7/2	B	30%	外面：黄面堀 内面：体部中央縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スス付着
SD42	70	瓦貫土器 始絡	(35.6)	3.3	(31.0)	BJM	外面：黄灰 5YR 3/1 内面：黄灰 10YR 4/1	B	10%	外面：黄面堀 内面：体部中央下縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スス付着
SD42	71	瓦貫土器 始絡	(36.0)	(5.3)	-	ABEJM	外面：黄灰 7.5YR 6/2 内面：にぶい-黄 7.5YR 6/3	B	3%	内面：縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池
SD42	72	瓦貫土器 始絡	(36.0)	3.9	(32.0)	AIM	外面：黒 10YR 2/1 内面：黄灰 10YR 6/1	B	10%	外面：黄面堀 内面：体部中央上縁をもち浅い沈堀が認め	在池 外面スス付着
SD42	73	瓦貫土器 始絡	(35.0)	3.6	(30.8)	ABEJM	外面：黄灰 7.5YR 6/2 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	10%	内面：体部中央下縁をもつ	在池
SD42	74	瓦貫土器 始絡	(35.6)	6.8	(29.6)	ARJ	外面：黄灰 10YR 4/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	5%	器高の高い 外面：黄面堀 内面：体部中央下縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	75	瓦貫土器 始絡	(36.0)	3.9	(32.6)	ABDM	外面：黄灰 7.5YR 3/1 内面：黄灰 7.5YR 6/1	B	10%	内面：体部中央縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	76	瓦貫土器 陶鉢	-	(8.8)	(11.6)	ABDM	黄灰 7.5YR 6/2	B	25%	内外面削れている 磨目4本	在池
SD42	77	瓦貫土器 陶鉢	(28.0)	(3.4)	-	ABDJM	外面：黄灰 7.5YR 4/1 内面：黄灰 10YR 6/2	B	10%	外面：口内面削れている 磨目不明	在池
SD42	78	瓦貫土器 陶鉢	(30.0)	11.3	13.0	ABDJM	黄灰 N 3/ 内面：一部灰白 N 8/	A	30%	外面：黄面堀 内面：削れている、特に口縁部付近 磨目3本、体部凹状	在池
SD42	79	瓦貫土器 片口鉢	(27.0)	(5.0)	-	ABDM	にぶい-黄 7.5YR 5/3	B	10%	口縁部近くのみ 内面に突出	在池
SD42	80	瓦貫土器 片口鉢	-	-	-	ABDJM	黄灰 10YR 5/1	B	口縁部片	口縁部内面に突出	在池
SD42	81	瓦貫土器 土鍋	(28.0)	(9.4)	-	ABDJM	黄灰 2.5Y 3/1	B	10%	口縁部内面に突出 外面：頸部凹陥する 内面：頸部縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スス付着
SD42	82	瓦貫土器 土鍋	(28.0)	(8.7)	-	ABDM	黄灰 2.5YR 3/1	B	10%	外面：口内面突出、頸部凹陥する 内面：頸部縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スス付着
SD42	83	瓦貫土器 土鍋	(29.0)	15.0	(20.5)	JMN	黄灰 10YR 3/1 黄 10YR 2/1	B	口縁～体部 30%	外面：口内面突出、頸部凹陥する 内面：頸部縁をもつ	在池
SD42	84	瓦貫土器 土鍋	(30.0)	(10.2)	-	ABRL	外面：黄灰 10YR 4/1 内面：黄灰 10YR 6/2	B	口縁～体部 10%	外面：口内面突出、頸部凹陥が認め 内面：頸部縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	85	瓦貫土器 土鍋	(34.0)	(10.2)	-	AJMN	外面：黄灰 5YR 2/1 内面：黄灰 10YR 5/1	B	口縁～体部 10%	口内面内面に突出、頸部凹陥が認め 内面：頸部縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	86	瓦貫土器 土鍋	(26.0)	(7.2)	-	AFJM	外面：黄灰 N 3/ 内面：灰 N 4/	B	口縁～体部 5%	内面：口縁部染堀が認め、頸部縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	87	瓦貫土器 土鍋	(29.0)	(4.5)	-	ARJM	灰 N 5/1	B	口縁～体部 5%	内面：口内面突出、頸部縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	88	瓦貫土器 土鍋	(28.0)	(5.5)	-	AIM	灰 N 4/	B	口縁～体部 10%	内面：口縁部染堀が認め、頸部縁をもつ	在池 外面スス付着
SD42	89	陶器 節目付大皿	-	-	-	ABRM	灰白 2.5Y 7/1	B	体部片	内面：へつりによる節目有	古瀬戸後期
SD42	90	陶器 陶鉢	-	-	-	AIM	外面：浅黄緑 10YR 6/2 内面：にぶい-黄緑 10YR 7/2	B	体部片	外面：上方ロクロ面 内面：削れている	古瀬戸後期
SD42	91	陶器 陶鉢	-	(2.7)	(18.2)	AIM	灰白 7.5YR 8/1	B	底部 10%	内外面：黄面堀 内面：黄灰ハツケリ	古瀬戸後期
SD42	92	陶器 陶鉢	-	-	-	IM	灰赤 10R 4/2	B	体部片	内外面：黄面堀 外面：へつり付りなし 内面：11本の磨目	瀬戸後中期～大塚1
SD42	93	陶器 陶鉢	-	-	-	AIM	外面：灰赤 7.5R 5/2 内面：赤灰 7.5R 5/1	B	底部片	内外面：黄面堀 内面：磨目11本の磨目	古瀬戸後中期～大塚1

第21表 第42号溝跡出土遺物観察表(3) (第121～126図)

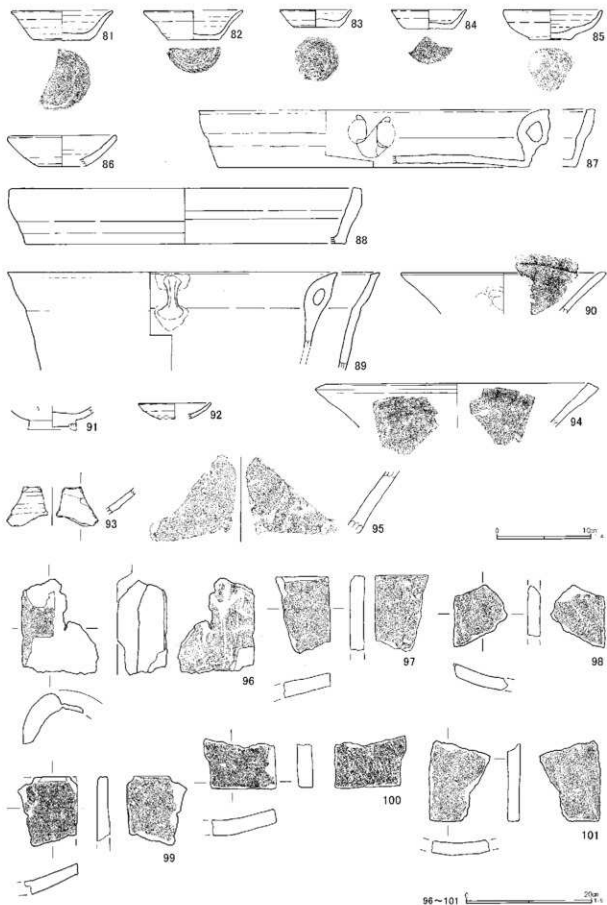
遺物名 No	図種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成 残存率	手法, 形態の特徴等	備考
SD42-94	陶器 灰器	-	(9.3)	-	ABM	外面: 珉赤褐 5YR3/4 明灰灰 7.5YR 7/2 内面: 珉赤褐 5YR3/4 オリーブ 5Y 5/4	B 体部 5%	外面: 2条の浅溝が深る 内外面: 上方取輪	古瀬戸時期
SD42-95	陶器 鉢	-	(6.4)	(12.6)	AHDJMN	黒 2.5YR 6/6	B 体部~底部 5%	外面: ロウソク 内面: 磨かれている	藤原系カ 底部残痕
SD42-96	磁器 青磁器	(14.8)	(5.6)	-	AB	明サリ〜灰 2.5GY 7/1	A 口縁~体部 10%	外面: ヘラ先による磨付文 内面: みごみに雲文	藤原系建礼文陶
SD42-97	磁器 青磁器	-	-	-	B	緑灰 7.5GY 6/1	A 底面片	内面: みごみに白土による魚文	藤原系文魚文陶
SD42-98	磁器 白磁器	(7.0)	1.9	4.0	M	灰白 5Y 8/1	B 口縁~底部 10%	外面: 高台取り込み 内面: みごみ並ね磨き痕	中国 白磁器B群
SD42-99	磁器 白磁器	-	(1.4)	4.9	M	灰白 2.5Y 8/1	B 底面 70%	外面: 高台内「石」の磨痕 内面: 磨き痕	中国 白磁器B群
SD42-100	磁器 白磁器	-	(1.9)	(5.2)	BI	外面: 灰白 2.5Y 8/1 内面: 灰白 7.5Y 8/1	B 底面 70%	外面: 磨痕 内面: コナノ磁	中国
SD42-101	磁器 染付磁	(8.4)	2.1	(5.5)	M	灰白 2.5Y 8/1	B 60%	外面: 口縁部磨痕, 高台内凸文 内面: みごみ・重磨胎内に刷籠文, 高台内磨痕	後醍醐天皇 染付磁C群
SD42-102	瓦 平瓦	最大径 31.2	最大幅 21.4	最大厚 3.1	AHDJMN	凸面: 灰~赤 7.5YR 7/4 凹面: 灰白 7.5YR 8/2	B 破片	重量 1710 g 凸面: 灰伏込直痕 (斜位) 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-103	瓦 平瓦	最大径 (18.0)	最大幅 (12.3)	最大厚 2.2	AHDJMN	凸面: 灰~赤 7.5YR 7/4 凹面: 浅黄緑 7.5YR 8/3	B 破片	重量 600 g 凸面: 粗い・磨ナデ, 磨ナキ痕むずかに残る 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-104	瓦 平瓦	最大径 (7.7)	最大幅 (7.6)	最大厚 2.3	AHEIM	灰~赤 7.5YR 7/4	B 破片	重量 173.2 g 凸面: 粗い・磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-105	瓦 平瓦	最大径 (11.2)	最大幅 (10.8)	最大厚 2.0	AHDJMN	凸面: 浅黄緑 7.5YR 8/4 凹面: 浅黄緑 7.5YR 8/3	B 破片	重量 390 g 凸面: 粗い・磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-106	瓦 丸瓦	最大径 (5.2)	最大幅 (5.4)	最大厚 1.4	AHEIM	灰~赤 7.5YR 7/4	B 破片	重量 22.8 g	在池
SD42-107	瓦 平瓦	最大径 (7.0)	最大幅 (5.3)	最大厚 2.5	AHEM	凸面: 明灰灰 7.5YR 7/1 磨灰 7.5YR 6/1 凹面: 灰白 7.5YR 5/1	B 破片	重量 99.2 g 凸面: 粗い・磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-108	瓦 平瓦	最大径 (15.2)	最大幅 (15.0)	最大厚 3.3	AHEJMN	凸面: 灰~赤 7.5YR 7/4 凹面: 黄緑 10YR 7/4 磨 7.5YR 7/6	B 破片	重量 960 g 凸面: 磨ナデ 凹面: 灰伏込直痕	在池
SD42-109	瓦 平瓦	最大径 (9.0)	最大幅 (11.8)	最大厚 1.9	AHEIM	浅黄緑 7.5YR 8/3	B 破片	重量 270 g 凸面: 粗い・磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-110	瓦 平瓦	最大径 (14.3)	最大幅 (7.7)	最大厚 2.0	AHEIM	凸面: 浅黄緑 7.5YR 8/4 凹面: 浅黄緑 7.5YR 8/3	B 破片	重量 270 g 凸面: 灰伏込直痕 (斜位), 磨ナキ痕むずかに残る 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-111	瓦 平瓦	最大径 (9.5)	最大幅 (8.4)	最大厚 2.1	ABM	灰白 10YR 7/1 灰 N 6/6	B 破片	重量 190.7 g 凸面: 灰伏込直痕 (斜位), 磨ナキ痕むずかに残る 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-112	瓦 平瓦	最大径 (5.6)	最大幅 (11.5)	最大厚 2.5	AHEIM	凸面: 灰白 7.5YR 8/1 凹面: 灰白 10YR 7/1	B 破片	重量 200 g 凸面: 灰伏込直痕	在池
SD42-113	瓦 平瓦	最大径 (15.9)	最大幅 (10.2)	最大厚 2.6	AHEJMN	凸面: 灰~赤 7.5YR 7/4 凹面: 灰~赤 10YR 7/3	B 破片	重量 340 g 凸面: 磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-114	瓦 平瓦	最大径 (8.0)	最大幅 (10.6)	最大厚 1.9	AHEIM	凸面: 灰白 10YR 7/1 凹面: 灰白 N 8/	B 破片	重量 198.7 g 凸面: 磨 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-115	瓦 平瓦	最大径 (13.1)	最大幅 (11.3)	最大厚 1.9	AHEJMN	凸面: 灰~赤 10YR 7/2 凹面: 灰白 N 8/	B 破片	重量 400 g 凸面: 灰伏込直痕 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-116	瓦 平瓦	最大径 (9.2)	最大幅 (9.6)	最大厚 3.0	AHEM	凸面: 灰~赤 7.5YR 7/3 凹面: 灰白 10YR 7/1	B 破片	重量 280 g 凸面: 粗い・磨ナデ 凹面: 磨ナデ	在池
SD42-117	石製 板石器	最大径 (17.3)	最大幅 (13.7)	最大厚 1.8	重さ 510 g		破片	表面: 磨痕	
SD42-118	石製 板石器	最大径 (26.6)	最大幅 18.8	最大厚 2.7	重さ 2090 g		破片	表面: 灰泥 (バク) 磨ナ, 磨痕	
SD42-119	石製 板石器	最大径 (37.8)	最大幅 (16.6)	最大厚 3.3	重さ 3910 g		破片	表面: 阿倍陀二尊様子の磨ナ (サ) の磨ナが 残る 磨痕 「孝四日廿日」	
SD42-120	石製 板石器	最大径 (39.0)	最大幅 (17.3)	最大厚 2.9	重さ 2950 g		破片	表面: 磨痕・磨痕	
SD42-121	石製 石(下付)	最大径 29.4	最大幅 (17.3)	最大厚 11.5	重さ 7900 g			表面の溝は磨痕している	花崗岩
SD42-122	木製 物 櫛	残存長 48.0	最大幅 7.3	最大厚 0.3			一部残存	柄を挿入した方法	
SD42-123	木製 櫛	残存長 13.8	最大幅 5.7	最大厚 1.0			-	本器は板目, 櫛を構成する板	



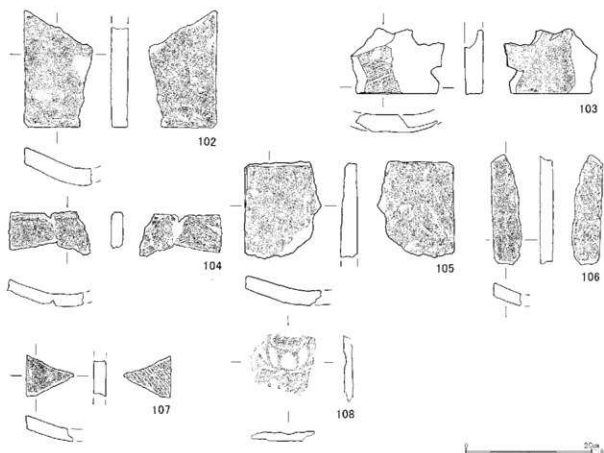
第 127 図 第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(1)



第 128 図 第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(2)



第129図 第42号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(3)



第 130 図 第 42 号溝跡かわらけ集中心地点出土遺物(4)

第 22 表 第 42 号溝跡かわらけ集中心地点出土遺物観察表(1) (第 127 ~ 130 図)

遺物番号	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形制の特徴等	備考	
SD 42	1	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	6.1	DM	にぶい-橙 7.5YR/7/4		B	30%	内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	2	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.4	BDJM	外面：にぶい-橙 7.5YR/7/4 内面：橙 7.5YR/7/6		B	50%	口クロ左回転	在池
SD 42	3	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.3	ABDM	にぶい-橙 7.5YR/7/4		B	60%	外面：板目段正直 内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	4	土師質土器 かわらけ	10.7	2.5	6.2	BDJ	にぶい-橙 7.5YR/7/4		B	70%	口クロ左回転	在池
SD 42	5	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.4	6.2	ABDEM	にぶい-橙 7.5YR/7/3		B	60%	内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	6	土師質土器 かわらけ	10.5	2.4	6.0	ABEM	にぶい-橙 7.5YR/7/3		B	70%	内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	7	土師質土器 かわらけ	10.4	2.5	6.2	ABH	橙 5YR/7/6		B	70%	外面：板目段正直 内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	8	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.8	6.1	AHK	橙 5YR/7/6		B	60%	外面：板目段正直 内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	9	土師質土器 かわらけ	11.2	2.7	6.0	ABDM	浅黄橙 7.5YR/8/3		B	90%	外面：板目段正直 内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	10	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	6.4	BDEM	橙 5YR/7/6		B	50%	外面：板目段正直 内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池
SD 42	11	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	(6.4)	ABEM	にぶい-橙 7.5YR/7/3		B	20%	口クロ左回転	在池
SD 42	12	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	(6.4)	ABDM	にぶい-橙 5YR/7/4		B	20%	内面：みこみ筋ナデ面 口クロ回転方向不明	在池
SD 42	13	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	5.9	DM	浅黄橙 7.5YR/8/3 底白 10YR/8/2 外面：底黄灰白 2.5Y/7/1		A	45%	口クロ回転方向不明	在池
SD 42	14	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.7	6.2	DM	浅黄橙 7.5YR/8/4		B	40%	内面：みこみ筋ナデ面 口クロ左回転	在池

道標No.	No.	器種	口径	部高	成径	射土	色温	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 からくり 器種別	15	土師瓦土器 かわらけ	(10.8)	2.7	(6.0)	ABDM	にぶい-燈 5YR 7/4	B	10%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	16	土師瓦土器 かわらけ	10.7	2.9	6.6	ABDEM	外面：にぶい-黄燈 10YR 7/2 内面：にぶい-燈 5YR 7/6	B	80%	外面：板目瓦庄 内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	17	土師瓦土器 かわらけ	(10.4)	2.9	5.8	ABDM	燈 5YR 7/6	B	60%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	18	土師瓦土器 かわらけ	10.4	2.7	6.0	DM	燈 5YR 7/6	B	40%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	19	土師瓦土器 かわらけ	(10.4)	2.6	(6.0)	ABE	にぶい-燈 7.5YR 7/4 靑灰 10YR 5/1	B	40%	外面：板目瓦庄 内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	20	土師瓦土器 かわらけ	(10.0)	2.9	6.3	ABEDM	にぶい-燈 7.5YR 7/3	B	80%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	21	土師瓦土器 かわらけ	12.2	3.5	6.4	DM	灰白 10YR 8/1 にぶい-燈 7.5YR 7/3	A	70%	外面：板目瓦庄 内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	22	土師瓦土器 かわらけ	(12.0)	3.2	5.8	DM	浅黄燈 7.5YR 8/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	23	土師瓦土器 かわらけ	(12.0)	3.2	7.0	BDM	浅黄燈 7.5YR 8/4	B	60%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	24	土師瓦土器 かわらけ	(11.8)	3.0	(6.8)	DM	浅黄燈 7.5YR 8/3	B	10%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	25	土師瓦土器 かわらけ	(11.8)	3.3	6.4	AEM	黄燈 5YR 8/4	B	60%	外面：板目瓦庄 内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	26	土師瓦土器 かわらけ	(11.8)	3.2	6.8	BUM	外面：にぶい-燈 7.5YR 7/4 内面：浅黄燈 7.5YR 8/3	B	60%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	27	土師瓦土器 かわらけ	(11.7)	3.2	(6.8)	BU	にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	40%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	28	土師瓦土器 かわらけ	(11.6)	3.0	(7.0)	AEM	にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	30%	外面：板目瓦庄 内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	29	土師瓦土器 かわらけ	11.5	3.4	6.4	DM	燈 7.5YR 7/6	B	40%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	30	土師瓦土器 かわらけ	11.4	3.4	6.4	BDM	外面：にぶい-黄燈 10YR 7/3 内面：明黄燈 7.5YR 7/2	B	80%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	31	土師瓦土器 かわらけ	(11.2)	3.5	7.0	ABE	にぶい-燈 7.5YR 7/2 にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	60%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	32	土師瓦土器 かわらけ	(11.2)	3.5	6.4	DM	燈 5YR 7/6 浅黄燈 7.5YR 8/3	A	70%	内面：みこみ筋ナデ皿、底部厚い 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	33	土師瓦土器 かわらけ	11.2	3.2	7.0	DM	浅黄 2.5Y 7/3	B	30%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	34	土師瓦土器 かわらけ	(11.2)	3.1	6.0	ABDM	にぶい-黄燈 10YR 7/2	B	40%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	35	土師瓦土器 かわらけ	(11.0)	3.1	6.2	ABDM	にぶい-燈 5YR 7/4	B	30%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ回転方向不明	在席
SD42 からくり 器種別	36	土師瓦土器 かわらけ	10.7	3.2	6.0	ABDM	にぶい-燈 7.5YR 7/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	37	土師瓦土器 かわらけ	10.2	3.2	6.2	ABE	外面：にぶい-燈 5YR 7/4 内面：浅黄燈 7.5YR 8/3	B	60%	口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	38	土師瓦土器 かわらけ	(10.2)	3.0	(5.8)	ABEM	にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	25%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ回転方向不明	在席
SD42 からくり 器種別	39	土師瓦土器 かわらけ	(11.2)	2.5	5.9	BM	浅黄燈 7.5YR 8/4	B	30%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	40	土師瓦土器 かわらけ	(10.8)	2.6	6.3	BDM	浅黄燈 7.5YR 8/3	B	50%	内面：みこみ筋ナデ皿、底部厚い 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	41	土師瓦土器 かわらけ	10.6	2.5	6.0	DM	外面：灰白 10YR 8/2 灰白 10YR 7/1 内面：浅黄燈 10YR 8/3	A	70%	内面：みこみ筋ナデ皿、底部厚い 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	42	土師瓦土器 かわらけ	(11.4)	2.9	6.5	ABDM	燈 2.5YR 6/6	B	50%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	43	土師瓦土器 かわらけ	(11.0)	2.8	6.8	ABEM	外面：にぶい-燈 7.5YR 7/3 内面：にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	50%	内面：みこみ筋ナデ皿、底部厚い 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	44	土師瓦土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.2	DM	にぶい-燈 7.5YR 7/4	B	70%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	45	土師瓦土器 かわらけ	(11.2)	3.2	6.2	DM	浅黄燈 7.5YR 8/3 靑灰 10YR 6/1	A	40%	内面：みこみ筋ナデ皿 口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	46	土師瓦土器 かわらけ	(10.6)	2.9	6.0	ABEM	外面：にぶい-黄燈 10YR 7/3 内面：にぶい-燈 7.5YR 7/3	B	50%	底部厚い、口クワ左回転	在席
SD42 からくり 器種別	47	土師瓦土器 かわらけ	10.6	2.8	6.7	ABDU	浅黄燈 7.5YR 8/3	B	70%	内面：みこみ筋ナデ皿、底部厚い 口クワ左回転	在席

第22表 第42号満跡がわらけ集中地点出土遺物観察表(2) (第127～130図)

遺物名 No	図種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形制的特徴等	備考	
SD 42 からんじり 観察品5	48	土師質土器 かわらけ	(9.8)	2.9	5.8	ABDK	浅黄緑 7.5YR 8/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品6	49	土師質土器 かわらけ	(10.0)	2.7	6.2	ABEJM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	70%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品7	50	土師質土器 かわらけ	(9.7)	2.7	5.5	DMN	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	60%	底面厚い、ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品8	51	土師質土器 かわらけ	(11.8)	2.5	6.5	RJM	橙 5YR 7/6	B	50%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品9	52	土師質土器 かわらけ	(11.8)	2.6	6.2	BM	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：浅黄緑 7.5YR 8/3	B	30%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ回転方向不明	在席
SD 42 からんじり 観察品10	53	土師質土器 かわらけ	11.4	2.7	6.6	BDKJ	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	60%	底面厚い、ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品11	54	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	5.8	DM	灰白 7.5YR 8/2	A	40%	ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品12	55	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	(6.2)	BEM	浅黄緑 10YR 8/3	B	30%	内面：みこみ筋ナデ箱 底面板目状庄箱、ロクロ回転方向不明	在席
SD 42 からんじり 観察品13	56	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.5	6.0	ABDJM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	40%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品14	57	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.5	5.9	BIM	外面：橙 5YR 7/6 内面：橙 7.5YR 7/6	B	70%	内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品15	58	土師質土器 かわらけ	(10.5)	2.5	5.6	DKM	浅黄緑 7.5YR 8/4	B	50%	底面厚い、ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品16	59	土師質土器 かわらけ	10.4	2.5	6.0	BDJ	浅黄緑 7.5YR 8/3	B	70%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品17	60	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.4	5.6	BIM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品18	61	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.4	5.8	BDI	灰白 7.5YR 8/2	B	80%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品19	62	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	6.2	BDK	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	60%	内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品20	63	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.0	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	70%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品21	64	土師質土器 かわらけ	10.8	2.7	6.4	BUM	橙 5YR 7/6	B	70%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品22	65	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.4	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	50%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品23	66	土師質土器 かわらけ	10.8	2.7	6.0	ABDM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	80%	外面：板目状庄箱 内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品24	67	土師質土器 かわらけ	10.6	2.9	6.6	ABEM	橙 5YR 7/6	B	70%	底面厚い、ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品25	68	土師質土器 かわらけ	(10.4)	2.8	(6.2)	ABDM	橙 5YR 7/8	B	30%	ロクロ回転方向不明	在席
SD 42 からんじり 観察品26	69	土師質土器 かわらけ	(10.1)	2.7	6.1	ABDM	外面：明黄緑 7.5YR 7/2 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	60%	ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品27	70	土師質土器 かわらけ	10.3	2.7	6.0	DM	浅黄緑 7.5YR 8/3	A	70%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品28	71	土師質土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.9	ABDJM	外面：にぶい-橙 7.5YR 7/3 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	50%	ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品29	72	土師質土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.0	DJM	にぶい-橙 7.5YR 7/4	B	40%	内面：みこみ筋ナデ箱 底面板目状庄箱、ロクロ回転方向不明	在席
SD 42 からんじり 観察品30	73	土師質土器 かわらけ	10.2	2.7	6.4	DM	外面：浅黄 5 Y R 8/4 内面：にぶい-橙 7.5YR 7/4 橙 2.5YR 6/6	A	80%	底面厚い、ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品31	74	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.2	6.1	DM	灰白 10YR 8/2 橙 5YR 7/6	A	60%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品32	75	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.3	6.7	BDJ	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	70%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ回転方向不明	在席
SD 42 からんじり 観察品33	76	土師質土器 かわらけ	(11.7)	3.1	6.1	DM	灰白 7.5YR 8/2 橙 5YR 7/6	A	50%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品34	77	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.2	6.4	BJM	浅黄緑 7.5YR 8/4	B	50%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品35	78	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.2	6.7	AEJ	外面：灰白 7.5YR 8/2 内面：浅黄緑 7.5YR 8/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ箱 ロクロ左回転	在席
SD 42 からんじり 観察品36	79	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.1	6.2	ABDEM	にぶい-橙 7.5YR 7/3	B	60%	内面：みこみ筋ナデ箱、底面厚い ロクロ回転方向不明	在席

遺物No.	No.	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	残存率	手法、形態的特徴等	備考
SD42 からくり 彫刻品	80	土師器土器 かわらけ	(11.3)	3.2	(6.8)	A8DM	浅黄緑 7.5YR 6/4	B	40%	内面：みこみ新ナズ瓶 ロクロ左回転	在池
SD42 からくり 彫刻品	81	土師器土器 かわらけ	(10.0)	3.1	(6.3)	DM	灰白 7.5YR 8/2	A	50%	ロクロ左回転	在池
SD42 からくり 彫刻品	82	土師器土器 かわらけ	(10.8)	3.1	(5.8)	DM	にぶい黄緑 10YR 7/4	A	40%	外面：板目瓦庄面 内面：みこみ新ナズ瓶 ロクロ左回転	在池
SD42 からくり 彫刻品	83	土師器土器 かわらけ	(7.8)	1.8	(4.9)	DM	橙 2.5YR 6/6	A	70%	底部厚い、ロクロ左回転	在池
SD42 からくり 彫刻品	84	土師器土器 かわらけ	(7.8)	2.0	(5.2)	A8DK	橙 5YR 7/6	B	30%	小形、ロクロ回転方向不明	在池
SD42 からくり 彫刻品	85	土師器土器 かわらけ	(10.5)	3.1	(4.4)	DJMN	外面：浅黄緑 7.5YR 8/3 内面：灰白 7.5YR 8/2	B	70%	外面：板目瓦庄面、底部を器々？と思われる 内面：みこみ新ナズ瓶 ロクロ左回転	古河公方式 江藤部に2ヶ所油 焼の瓶
SD42 からくり 彫刻品	86	土師器土器 かわらけ	(11.6)	3.3	(4.8)	A8DM	橙 2.5YR 7/6	B	20%	底部厚い、ロクロ回転方向不明	在池
SD42 からくり 彫刻品	87	瓦葺土器 器鉢	(37.0)	6.1	(33.0)	A8J	外面：黄灰 7.5YR 4/1 内面：灰白 7.5YR 6/2	B	20%	内面：体部中央縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スチ付着
SD42 からくり 彫刻品	88	瓦葺土器 器鉢	(37.6)	5.9	(34.0)	BE1M	外面：黄灰 5YR 3/1 内面：浅黄緑 5YR 8/3	B	10%	内面：体部中央下縁をもつ	在池 外面スチ付着
SD42 からくり 彫刻品	89	瓦葺土器 土瓶	(35.0)	(10.4)	-	DM	黄灰 2.5Y 3/1	B	口縁部 20%	外面：口内面外側に突出 内面：器部縁をもつ、内耳1ヶ所残存	在池 外面スチ付着
SD42 からくり 彫刻品	90	瓦葺土器 器鉢	(21.8)	(4.3)	-	A8DM	外面：黄灰 10YR 5/1 内面：灰白 10YR 7/1	B	口縁部 10%	外面：器部縁 内面：下方から口縁部まで磨かれている	在池
SD42 からくり 彫刻品	91	磁器 片磁器	-	(2.3)	(5.2)	A8E	灰ナリーパー 5Y 6/2 灰白 5Y 7/2	B	底部 60%	高肉付無縁	福泉系系建付文筒
SD42 からくり 彫刻品	92	磁器 白磁器	(7.8)	(1.7)	-	DM	灰白 10YR 8/1	B	口縁部 5%	体部縁やかに内肉	中国 行商品目群
SD42 からくり 彫刻品	93	陶器 製鉢	-	-	-	A8EM	外面：にぶい黄緑 10YR 7/2 内面：黄灰 10YR 6/1	B	体部片	内外面：上方尖縁 外面：ロクロ編み著	瀬戸瓦遺系 古瀬戸時期
SD42 からくり 彫刻品	94	瓦葺土器 器鉢	(30.0)	(4.6)	-	A8M	外面：灰 N 6/ 内面：上方内径 2.5Y 7/1 下方灰 N 4/1	B	口縁部 5%	外面：焼方向の工具痕 内面：磨かれている	在池
SD42 からくり 彫刻品	95	陶器 製	-	-	-	ADG8MN	赤灰 2.5YR 4/6	B	製部片	内面：輪軸痕	常滑系
SD42 からくり 彫刻品	96	瓦 瓦瓦	最大径 (15.3)	最大幅 (12.3)	最大厚 3.4	A8EM	凸面：にぶい黄 7.5YR 7/4 凹面：黄灰 10YR 5/6	B	破片	重量 560 g 凸面：唇状、唇子縁痕	在池
SD42 からくり 彫刻品	97	瓦 瓦瓦	最大径 (12.3)	最大幅 (8.7)	最大厚 2.3	A8M	凸面：にぶい黄 7.5YR 7/4 凹面：黄灰 7.5YR 6/1	B	破片	重量 310 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	98	瓦 瓦瓦	最大径 (9.9)	最大幅 (8.8)	最大厚 1.9	A8E	凸面：黄灰 5YR 6/2 凹面：黄灰 5YR 6/1	B	破片	重量 170.6 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	99	瓦 瓦瓦	最大径 (11.1)	最大幅 (9.6)	最大厚 2.1	A8EM	凸面：にぶい黄 7.5YR 6/4 凹面：橙 7.5YR 7/6	B	破片	重量 240 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	100	瓦 瓦瓦	最大径 (11.3)	最大幅 (11.3)	最大厚 2.4	A8EM	黄灰 7.5YR 6/1	B	破片	重量 300 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	101	瓦 瓦瓦	最大径 (13.0)	最大幅 (9.9)	最大厚 2.0	A8EM	凸面：黄灰 5YR 6/2 凹面：黄灰 5YR 6/1	B	破片	重量 260 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	102	瓦 瓦瓦	最大径 (18.5)	最大幅 (10.9)	最大厚 2.6	A8EMN	凸面：浅黄緑 7.5YR 8/4 黄灰 7.5YR 6/1 凹面：にぶい黄 7.5YR 7/4 黄灰 7.5YR 5/1	B	破片	重量 700 g 凸面：黄灰瓦庄面、喇叭口痕わずかに残る 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	103	瓦 瓦瓦	最大径 (10.4)	最大幅 (14.4)	最大厚 2.8	A8EJM	凸面：浅黄緑 7.5YR 8/4 灰白 N 7/ 凹面：にぶい黄 7.5YR 7/4	B	破片	重量 350 g 凸面：喇叭口 凹面：黄灰瓦庄面	在池
SD42 からくり 彫刻品	104	瓦 瓦瓦	最大径 (6.8)	最大幅 (12.3)	最大厚 1.9	A8EM	凸面：浅黄緑 7.5YR 8/3 凹面：黄灰 7.5YR 7/1 浅黄緑 7.5YR 8/3	B	破片	重量 192 g 凸面：喇叭口、糸切り痕 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	105	瓦 瓦瓦	最大径 (15.5)	最大幅 (12.2)	最大厚 2.6	A8EM	凸面：浅黄緑 7.5YR 8/4 凹面：黄灰 7.5YR 7/1	B	破片	重量 590 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	106	瓦 瓦瓦	最大径 (17.6)	最大幅 (4.9)	最大厚 2.0	A8EM	凸面：明黄灰 7.5YR 7/2 凹面：黄灰 7.5YR 6/2	B	破片	重量 210 g 凸面：喇叭口 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	107	瓦 瓦瓦	最大径 (6.0)	最大幅 (7.6)	最大厚 2.1	A8EM	にぶい黄 7.5YR 7/3	B	破片	重量 90.6 g 凸面：平行印字又は磨目 凹面：腹ナズ	在池
SD42 からくり 彫刻品	108	石製品 板石磨盤	最大径 (10.5)	最大幅 (10.1)	最大厚 1.4	重さ 260 g		破片		表面：何れ宛二尊種子と思われる、主尊建付の左下に磨字(マク) 種子の一部が残る	

6 土坑

土坑は、各調査区を通じて総数46基検出した。土坑は規模から大きささまざまなものが多く、平面プランについても円形、楕円形、方形、長方形など多様なプランを呈するものがあつた。規模は最大2.5m～最小1m程度の長軸を測り、深さは0.1m～1m程度である。

1割程度の土坑から遺物の検出があり、弥生土器甕・壺、土師器甕・甔、須恵器などの片口鉢、土鍋、からの細片のみであつた。

それ以外の土坑からの遺物の出土はなく、重複関係にある遺構からの大まかな時期判断のみで、特定は困難である。

主要な土坑についてここに注視すると、第2、4、6号土坑はいずれもA区から検出し、第4号土坑は大部分が調査区域外であるが、楕円形、不整形を呈するものと推定できる。深さも同程度であることから、同時期の土坑と考えられる。

第5号土坑はA区から検出し、長軸で1.8m、深さ0.4mを測る、楕円形の平面プランである。やや北側に落ち込みをもち、その底部からは弥生土器鉢、土師器甕片（未掲載）が検出された。時期は不明である。

第11号土坑はC区から検出し、長軸で1.7m、深さ0.3mを測り、第29、30号溝跡、第10号土坑を切る、平面プランが長方形の遺構である。主軸は正確に南北軸を指す。北側底部付近からは10～15cm大の礫が複数集めて検出された。出土遺物は土師器杯が1点のみ検出した。

第12号土坑はC区から検出し、長軸で2.19m、深さは0.8mを測り、第1号掘立柱建物跡第2号ピットに切られ、第30、32号溝跡を切っている。楕円形、もしくは隅丸方形の平面プランであり、底部はほぼ平坦である。長軸方向がほぼ南北軸を指し、出土遺物は土師質土器や、片口鉢、五輪塔などであり、出土遺物から15世紀後半と考えられる。

第13号土坑はD区から検出し、長軸で2.5m、深さ0.1mを測り、一部が調査区域外であるが、長方形の平面プランである。深さは浅いものの、主軸はほぼ南北方向を指す。遺物の検出がないため詳細は不明だが、時期は、中世以降と考えられる。

第16号土坑はD区から検出し、長軸1.7m、深さが0.3mを測り、第38、54号溝跡を切っていた。平面プランは長方形で、深さは浅いが、古墳時代後期に属する土師器甕・甔、14世紀後半から15世紀前半に属する片口鉢や土鍋が検出した。底部付近に土師器の遺物が集中していることから古墳時代後期に帰属する遺構と推定できる。

第17号土坑はD区から検出し、長軸2.0m、深さが0.4mを測り、第35号溝跡に切られ、第4号井戸跡を切っていた。円形の平面プランで、底は平坦で、壁は傾斜する。

第22号土坑はD区から検出し、長軸1.2m、深さが0.3mを測り、第6号方形周溝墓の南周溝、第39号溝跡を切っていた。楕円形の平面プランを呈し、底は平坦で、壁は垂直である。第1、2層中から底部穿孔を有する弥生土器壺が検出したことから、第6号方形周溝墓との関係が疑われる。

第23号土坑はD区から検出し、検出長軸1.4m、深さが0.5mを測り、一部が調査区域外である。平面プランは円形で、底は平坦で、壁面はやや垂直である。底部には粘質の覆土のピット状の落ち込みがある。

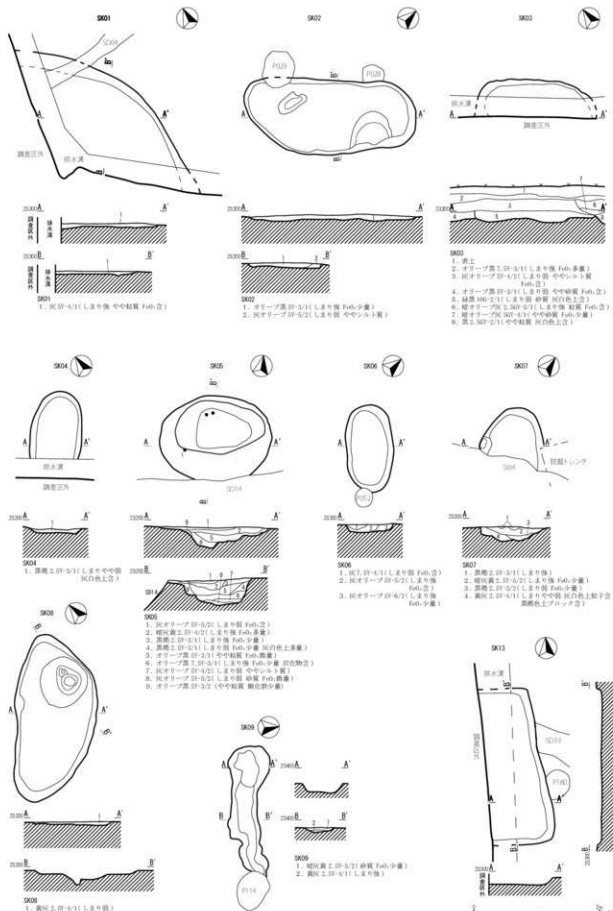
第35号土坑はD区から検出し、長軸2.3m、深さが0.7mを測り、第49号溝跡を切っていた。平面

プランは円形であり、底部はレンズ状に窪み、壁面はほぼ垂直である。一度掘り直されており、南に平面プランが楕円形で、深さ1.0mの落ち込みをもつ。出土遺物は、弥生土器甕、須恵器甕、椀型滓、木製品が検出された。第49号構跡との重複関係から本遺構は8世紀後半以降と考えられる。

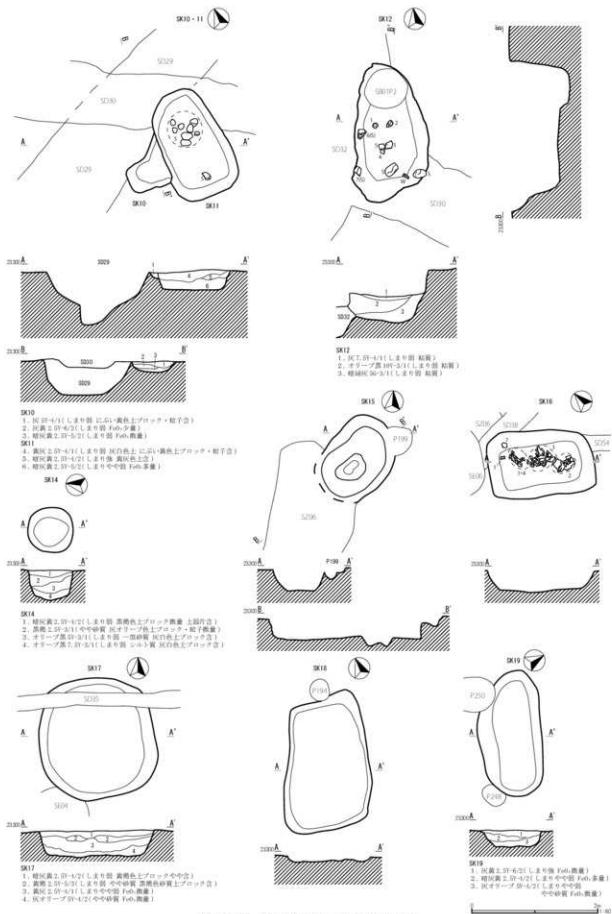
以下、紙面の都合上から、土坑の特徴等について一覧表で掲載をする。(第131～137図・第23、24表)

第23表 土坑一覧表 (第131～137図)

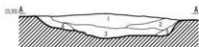
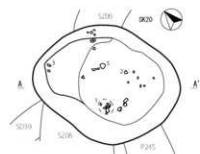
No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	主な出土遺物	重複関係(新旧)	備考
1	B-3	楕円形	(2.09) × (1.83) × 0.08		SD04	
2	C-3	楕円形	2.73 × 1.19 × 0.08		P028, P029	
3	C-4	楕円形	1.78 × (0.29) × 0.19			
4	C-4	楕円形	(1.07) × 0.82 × 0.07			
5	E-5	楕円形	1.78 × (1.35) × 0.40	弥生土器鉢、土師器甕	SD14	
6	E-4	楕円形	1.38 × 0.75 × 0.13		P052	
7	E・F-4	楕円形	(0.80) × 0.91 × 0.23		SI04	
8	O・P-11	楕円形	2.66 × 1.23 × 0.06	骨(被熱痕有) 未掲載		
9	P-13	不整楕円形	(1.99) × 0.42 × 0.08		P114	
10	P-13	不整楕円形	(0.66) × 0.52 × 0.17		SD29, SK11	
11	P-13	楕円形	1.75 × 1.02 × 0.32	土師器杯	SD29, SD30, SK10	
12	Q-14	楕円形	2.19 × 1.18 × 0.79	瓦質土器片口鉢、板碑(未掲載)	SD30, SD32, SB01P2	
13	R-15	長方形	2.50 × (0.86) × 0.08		SD33, P180	
14	S-14・15	円形	0.72 × 0.71 × 0.42			
15	S-15	楕円形	1.44 × 1.05 × 0.46		SZ06, P199	
16	S-16	長方形	1.68 × 1.06 × 0.34	土師器甕	SD38, SD54	
17	S-15	円形	1.91 × 1.83 × 0.38		SD35, SE04	
18	S-15	長方形	2.05 × 1.27 × 0.11		P194	
19	T-15	楕円形	1.99 × 1.03 × 0.27		P248, P250	
20	T-16	楕円形	2.29 × 1.77 × 0.39	須恵器杯、甕、土鐘	SZ06, SD39, P245	
21	S・T-16	楕円形	(1.13) × 1.25 × 0.24		SZ06, SE08	
22	S-16	楕円形	1.20 × 0.91 × 0.30	弥生土器甕	SZ06, SD39	
23	U-16	円形	(1.37) × 1.64 × 0.51			
24	T-16	不整楕円形	1.52 × 1.12 × 0.41		SZ07, SD42, P257	
25	U-16	楕円形	1.91 × 1.27 × 0.43	かわらけ(未掲載)	SZ07	
26	T・U-16	楕円形	1.32 × 1.09 × 0.36			
27	U-17	円形	0.87 × 0.84 × 0.09			
28	U-17	楕円形	1.11 × 1.04 × 0.30	土師器杯	SD44	
29	U-17	楕円形	1.39 × 1.07 × 0.44		SD47	
30	T・U-17	楕円形	1.46 × 1.34 × 0.08		SD48	
31	U-17・18	楕円形	1.56 × 1.03 × 0.11		P274	
32	V-17	楕円形	1.35 × (0.75) × 0.26		SD47, P278	
33	V-17	楕円形	(1.47) × 0.95 × 0.06		SD47	
34	V-17	楕円形	1.20 × 1.02 × 0.40	土師器杯	P288	
35	V-17・18	円形	2.31 × 2.11 × (0.67)	弥生土器甕、須恵器甕、椀型滓、木製品	SD49	
36	V-18	楕円形	1.81 × 1.28 × 0.19		SZ08, P294, P295, P296	
37	W-18	楕円形	1.44 × 1.27 × 0.08			
38	W-19	正方形	1.03 × 0.98 × 0.11			
39	Y-20	長方形	1.80 × 1.47 × 0.17		P328	
40	AE-28	長方形	1.89 × 1.44 × 0.11		SK41, P370, P371, P372	
41	AE-28	楕円形	1.08 × 0.98 × 0.11		SK40	
42	AF-28	楕円形	(0.91) × 0.82 × 0.13			
43	AG-29	円形	(0.87) × 0.89 × 0.96		SD70	
44	AF-29	楕円形	0.94 × 0.71 × 0.06			
45	AG-30	楕円形	1.94 × 1.34 × 0.07		SD75, SK46	
46	AG-30	円形	2.39 × (1.66) × 0.07		SK45	



第 131 図 第 1 ~ 9 土坑

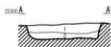


第 132 図 第 10 ~ 12、14 ~ 19 号土坑



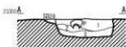
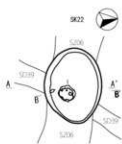
SK20

1. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 濃い褐色土ブロック多量)
2. 粘り土 S201-2(1) (しまり物 中に 濃い褐色土ブロック多量)
3. 黄褐色土 S201-4(1) (しまり物 灰白色土ブロック多量)
4. 灰褐色土 S201-4(2) (しまり物 Fの少量 濃い褐色土 灰白色土ブロック多量)
5. 灰褐色土 S201-4(2) (しまり物 粘質)



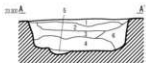
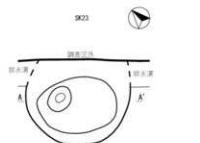
SK21

1. 黄褐色土 S201-4(1) (しまり物 Fの少量)
2. 粘り土 S201-2(1) (しまり物 Fの少量 濃褐色土粘り物)



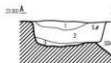
SK22

1. 黄褐色土 S201-3(1) (しまり物 Fの少量 濃褐色土ブロック・粘り物)
2. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 Fの少量)
3. オリーブ層 S201-3(2) (しまり物 一部粘質)



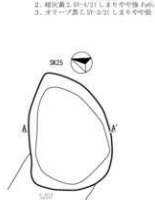
SK23

1. 粘り土 S201-2(1) (しまり物 Fの少量)
2. 濃い黄褐色土 S201-6(3) (しまり物 やや粘質 濃褐色土ブロック・粘り物)
3. 黄褐色土 S201-3(1) (しまり物 やや粘質 灰白色土粘り物)
4. 粘り土 S201-2(1) (しまり物 やや粘質 Fの少量)
5. オリーブ層 S201-3(1) (粘質)
6. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 やや粘質 わずかに粘質 Fの少量 濃褐色土ブロック・粘り物)



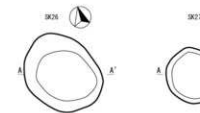
SK24

1. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 やや粘質 Fの少量)
2. 黄褐色土 S201-2(1) (しまり物 Fの少量 濃褐色土粘り物)



SK25

1. 灰褐色土 S201-4(2) (しまり物 やや粘質 濃褐色土粘り物)
2. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 やや粘質 Fの少量)
3. 灰 S201-4(1) (しまり物)
4. 灰 S201-4(1) (しまり物 やや粘質)
5. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 粘質 Fの少量)

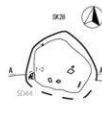


SK26

1. 粘り土 S201-2(1) (しまり物 Fの少量)
2. 黄褐色土 S201-3(1) (しまり物 やや粘質)
3. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 灰白色土ブロック多量)
4. 灰 S201-4(1) (しまり物 粘質 Fの少量)
5. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 粘質)

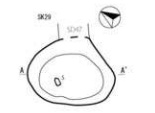


SK27



SK28

1. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 上部粘質 灰白色物)
2. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 上部粘質 上部粘質)

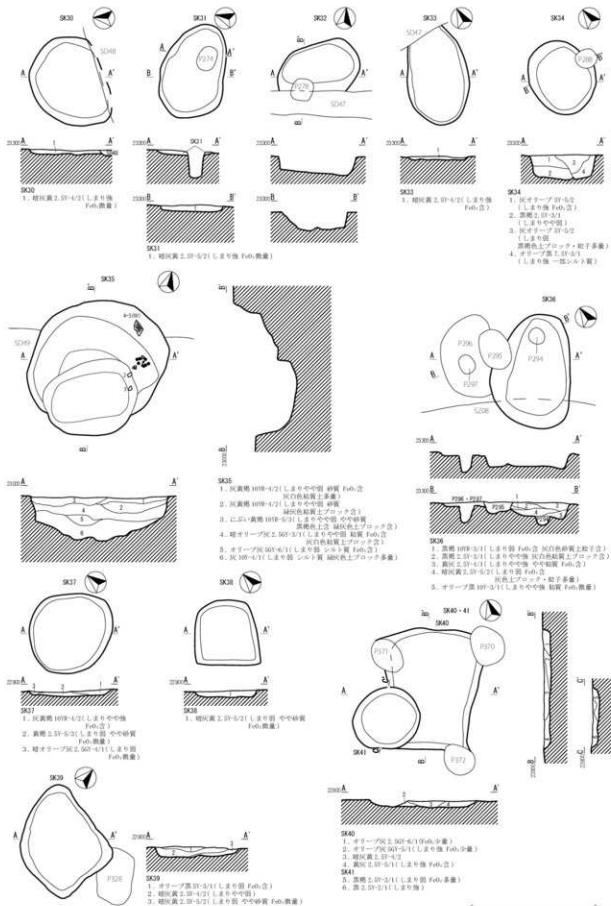


SK29

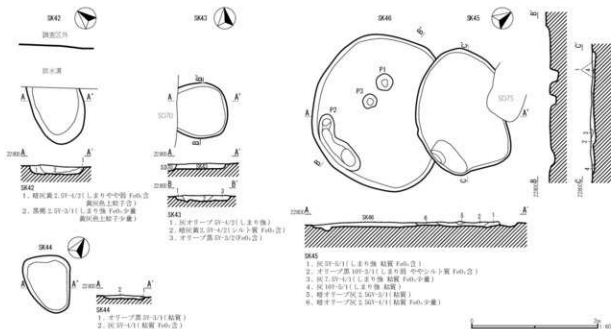
1. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 Fの少量 濃い褐色土ブロック一箇)
2. 灰 S201-4(1) (しまり物 灰白色土ブロック多量)
3. オリーブ層 S201-3(1) (しまり物 粘質)
4. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 やや粘質 濃褐色土粘り物)
5. 粘り土 S201-4(2) (しまり物 シルト質 灰褐色土粘り物)
6. オリーブ層 S201-4(2) (しまり物 シルト質)

第 133 図 第 20 ～ 29 号土坑

0 20 40



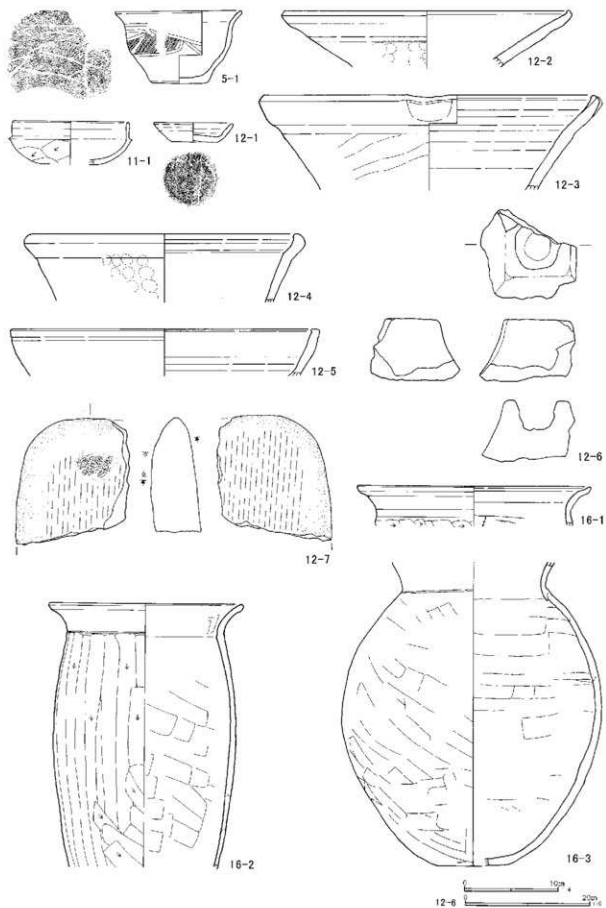
第134図 第30～41号土坑



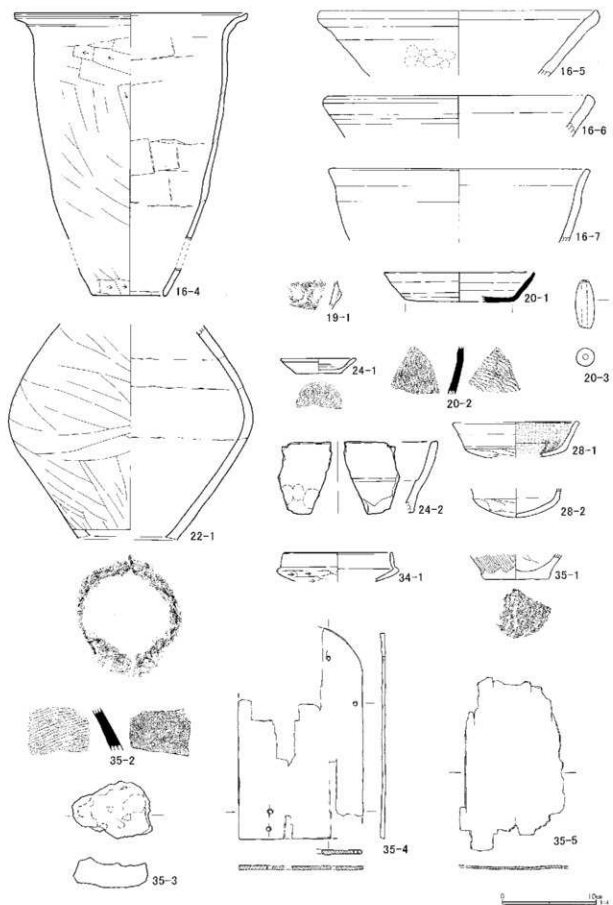
第 135 図 第 42～46号土坑

第 24 表 土坑出土遺物観察表(1) (第 136、137 図)

No	品種	口径	部高	底径	胎土	色澤	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
5-1	赤生土器片	(13.4)	7.7	5.9	ABK	にじみ濁 7.5YR 6/3	B	60%	外面：へう眉状縁の雛形文内にLR 単筋縄文を充満 内面：磨耗のため調整痕不明	発掘工学的文の洗いを 含む前縁は白式目に 近い
11-1	土器器 片	(12.2)	(14.6)	-	ABEJM	橙 7.5YR 7/6	B	口縁～底部 45%	外面：底部へラケズリ 内面：磨耗のため調整痕不明	研身模様残
12-1	土器器片 かわらけ	8.5	2.0	5.0	ABDMN	橙 2.5YR 6/8	B	90%	口縁左回転	自然 胎土に金雲母多量含 む
12-2	瓦質土器 片口縁	(30.2)	(6.0)	-	ABHM	焼灰 10YR 5/1	B	口縁～体部 40%	外面：口縁部強いヨコナデ 内面：口縁部強いヨコナデ 内面：口縁部強いヨコナデ、下方斜め方向ヨコナデ	在地
12-3	瓦質土器 片口縁	(35.0)	(10.0)	-	BMN	焼灰 5YR 6/1	A	口縁～体部 20%	外面：口縁部強いヨコナデ、下方斜め方向ヨコナデ 内面：口縁部強いヨコナデ、下方斜め方向ヨコナデ	在地
12-4	瓦質土器 土器	(30.0)	(7.3)	-	BMN	灰 5Y 5/5 オリーブ色 5Y 3/1	B	口縁～体部 15%	外面：磨損痕	自然 外面スス付着
12-5	瓦質土器 土器	(33.0)	(4.6)	-	ABEJM	外面：焼灰 7.5YR 4/1 内面：焼灰 10YR 6/1	B	口縁部 10%	丸丸縁	自然 外面スス付着
12-6	石製品 五輪帯 火輪	高さ 9.9	幅 15.5	奥行 14.3	重さ 1150 g			60%	ホゾ穴有	深灰岩
12-7	石器 磨石	最大長(11.2)	最大幅(11.6)	最大厚 4.9	重さ 1320 g			30%	両面に磨耗痕著しく、片面に磨打痕	安山岩 両面スス付着
16-1	土器器 片	(24.8)	(4.2)	-	ABEJM	橙 5YR 7/6	B	口縁～体部片	外面：へラケズリ 内面：へラケズリ	
16-2	土器器 片	(20.5)	(28.2)	-	ADM	にじみ濁 2.5YR 6/4 橙 5YR 7/6	A	口縁～胴部下半片	外面：へラケズリ 内面：へラケズリ	
16-3	土器器 片	-	(32.6)	7.6	ABEJM	橙 5YR 6/8	B	口縁～底部 70%	外面：へラケズリ 内面：へラケズリ	
16-4	土器器 片	(24.8)	(30.0)	(8.0)	ABDMN	橙 5YR 6/6	B	口縁～胴部下半 40%	単丸 外面：へラケズリ 内面：へラケズリ	
16-5	瓦質土器 片口縁	(30.0)	(7.0)	-	BIM	外面：灰白 2.5Y 7/1 灰 N-4/ 内面：焼灰 N-3/	A	口縁～体部 5%	外面：口縁部に強いヨコナデ、磨損痕 内面：磨れている	在地
16-6	瓦質土器 片口縁	(29.0)	(4.3)	-	EJMN	焼灰 10YR 6/1	B	口縁～体部 5%	外面：口縁部 内面：口縁部くぼむ	在地
16-7	瓦質土器 土器	(28.0)	(7.9)	-	ABDMN	外面：灰 10YR 1.7/1 内面：浅黄緑 7.5YR 6/3	B	口縁～胴部 5%	内外面：磨耗顯著で調整痕不明	在地
19-1	赤生土器 器	-	-	-	ABKL	外面：明赤期 2.5YR 5/6 内面：赤黄 2.5YR 2/1	B	胴部片	外面：縁部にへラ状工具先端による押圧痕	
20-1	須恵器 片	16.0	3.2	(11.6)	ABEGL	灰白 10YR 7/1	B	口縁～底部 40%	糸切り履し縁部全部を回転へラケズリ	未野産



第 136 图 土坑出土遗物(1)



第 137 図 土坑出土遺物(2)

第24表 土坑出土遺物観察表(2) (第136、137図)

No	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	検出	残存率	手法、形部の特徴等	備考
20-2	須弥器 費	-	-	-	ABDM	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	B	製部片	外面：タタキ 内面：アキ土編	未野産
20-3	土製品 土埴	最大長 5.1	最大幅 1.9	孔径 0.6	重さ 20.9 g			完形	外面：腐化ヘラケズリ	
22-1	弥生土器 片	(2.2.8)	-	-	ABDM	外面：橙 5YR 6/8 内面：灰黒層 7.5YR 8/3	B	製部 40%	底部穿孔 内外面：ヘラナデ	
24-1	土師器土器 かわらけ	(8.0)	1.6	5.0	ABDM	橙 5YR 6/6	B	40%	内外面：体部沈殿が認め はク口回転方向不明	白地 全面均滑む
24-2	瓦質土器 はうろく	-	-	-	AB	外面：黒灰 7.5YR 5/1 内面：灰 N-6/	B	口縁～底部片	外面：折面 内面：中位線をもつ	白地 外面スス付着
28-1	土師器 杯	(13.0)	(3.7)	-	AJM	外面：明赤層 2.5YR 5/6 内面：黒層 7.5YR 3/1	B	30%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	右側口縁 内面黒色処理
28-2	土師器 杯	-	(3.0)	-	ABJM	灰黒 7.5YR 4/2	B	底部 20%	外面：底部ヘラケズリ	
34-1	土師器 杯	11.4	(3.1)	-	ABDM	外面にふい粉 7.5YR 6/4 内面：灰黒層 10YR 6/2	B	口縁～底部片	外面：口縁部コナデ、底部ヘラケズリ	厚身椀状
35-1	弥生土器 費	-	(2.6)	(7.0)	ABEJM	黒灰 5YR 4/1	B	底部 30%	外面：ハケ目、底部木葉編 内面：ヘラナデ	
35-2	須弥器 費	-	-	-	ABDFGL	黒灰 7.5YR 5/1	B	製部片	外面：平打タタキ	南比企業
35-3	陶形埴	最大長 6.2	最大幅 8.7	最大厚 2.8	重さ 210 g			完形	伊底に埋した面は細い窪凹が顯著	
35-4	木製品 不明	残存長 (2.3)	最大幅 13.3	最大厚 0.3～0.5				半分欠損	縁は丁寧に磨取りが施される。 径 3mm ほどの穿孔が 4ヶ所穿たれる 形状は板瓦編に近いが木取りが軽目なので別物とみられる	
35-5	木製品 不明	残存長 (18.3)	最大幅 (11.1)	最大厚 0.2～0.3				一部残存	輪削りの工具で丁寧に削った薄板 前述の SK35-4 と同一個体の可能性有	

7 井戸跡

第1号井戸跡 (第138図)

O-13 グリッドから検出した。重複する遺構は検出されていない。

本遺構は主体部が検出されたが、暗渠埋設の擾乱により破壊を受けていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 1.00 m、短軸 0.80 m、深さは 0.39 m 以上である。なお、井筒部分の直径は 0.64 m であった。

断面は暗渠からの湧水のため観察できず、不明である。

出土遺物は、検出されなかった。

第2号井戸跡 (第138、140図)

R・S-14 グリッドから検出した。重複する遺構は検出されていない。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 1.47 m、短軸 1.42 m、深さは 1.02 m である。底面は径 0.96 m の舟底状を呈している。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察は、崩落の危険があるため、測量できなかった。

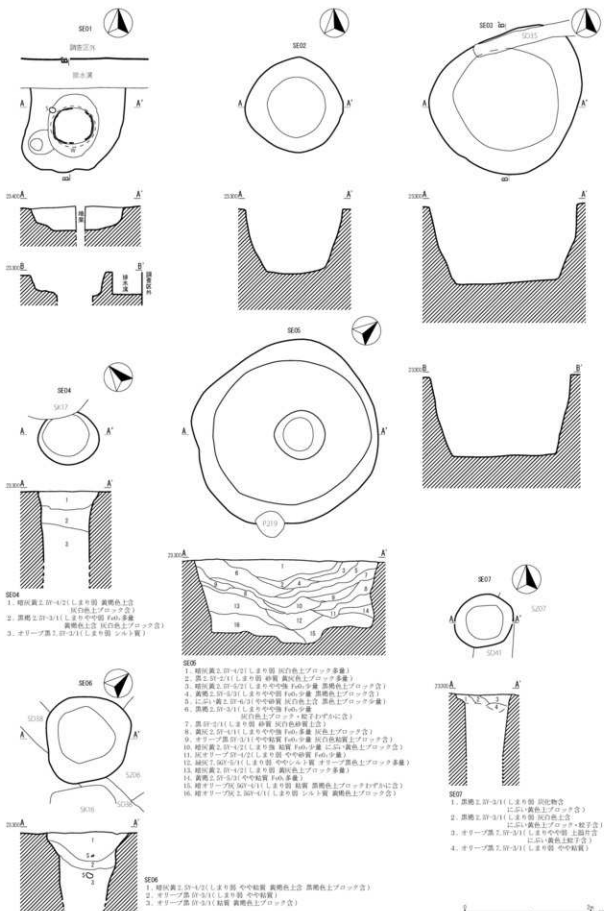
出土遺物は、弥生土器壺、瀬戸美濃花瓶が検出された。

時期は出土遺物から 15 世紀前半と考えられる。

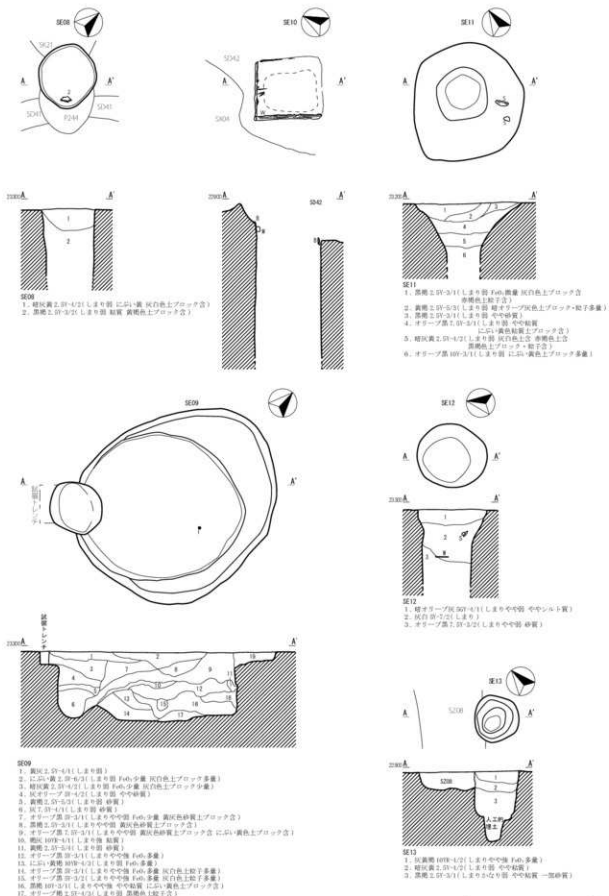
第3号井戸跡 (第138、140図)

S-15 グリッドから検出した。第35号溝跡と重複関係にあり、第35号溝跡に切られる。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 2.50 m、短軸 2.17 m、深さは 1.23 m である。底面は径 1.66 m で



第 138 図 第 1～7号井戸跡



第 139 図 第 8 ~ 13 号井戸跡

平坦である。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察は、崩落の危険があるため、測量できなかった。

出土遺物は、瓦質土器片口鉢、常滑陶器壺、砥石が検出された。

時期は出土遺物から15世紀前半と考えられる。

第4号井戸跡（第138、140図）

S-15グリッドから検出した。第17号土坑と重複関係にあり、第17号土坑に切られていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸0.97 m、短軸0.75 m、深さは1.12 m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察から覆土は水平堆積であることから、自然堆積によるものと推定される。

出土遺物は、硯1点のみで、第2層付近での検出であった。

時期は不明である。

第5号井戸跡（第138、140図）

S-15・16グリッドから検出した。第219号ビットと重複関係にあり、第219号ビットに切られていた。

平面形は円形で、規模は、長軸1.34 m、短軸1.30 m、深さは1.08 m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直であった。

断面観察から覆土は水平堆積であることから、自然堆積によるものと推定される。

遺物は、土師質土器や青磁碗、石製品が検出された。

時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

第6号井戸跡（第138図）

S-16グリッドから検出した。第6号方形周溝墓と第38号溝跡と重複関係にあり、重複するすべての遺構を切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸1.34 m、短1.30 m、深さは1.08 m以上である。底部は平坦で、中央部に落ち込みをもつ。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直である。

断面観察から覆土は一部にレンズ状の堆積が認められるが、中層付近から人工的に埋められたものであることが推定できる。

出土遺物は検出されなかった。

第7号井戸跡（第138図）

T-16グリッドから検出した。第7号方形周溝墓、第41号溝跡と重複関係にあり、重複するいずれの遺構も切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸0.96 m、短軸0.81 m、深さは1.42 m以上である。底部は平坦で、中央部に落ち込みをもつ。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直である。

断面観察から覆土は一部にレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は検出されなかった。

第8号井戸跡（第139、140図）

S・T-16グリッドから検出した。第21号土坑、第244号ピットと重複関係にあり、いずれの遺構も切っていた。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸3.38m、短軸2.85m、深さは1.00m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりはやや鋭角な傾斜をもつ。

断面観察から覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は、土師質土器、瓦が検出された。

時期は、出土遺物から16世紀前半と推定される。

第9号井戸跡（第139、140図）

T-16・17グリッドから検出した。重複関係にある遺構はない。

平面形は楕円形で、規模は、長軸3.38m、短軸2.85m、深さは1.00mである。

壁面の立ち上がりは垂直である。

断面観察から覆土はレンズ状の堆積が認められる。

本遺構南端部には再度掘りなおした規模の小さい井戸跡（直径0.89m）が確認できる。

遺物は須恵器甕、人歯が1点のみ検出された。

出土遺物が少量であることから、時期不明である。

第10号井戸跡（第139図）

T-15グリッドから検出した。第42号溝跡と重複関係にあり、第42号溝跡の底部に検出された。

平面形は方形の井戸枠で、規模は、長軸1.07m、短軸0.97m、深さは0.73m以上である。第42号溝跡内に位置することから、掘り下げは危険であるため底部の確認はしていない。

壁面の立ち上がりは垂直である。上部は四面に木枠を設け、内部壁面を竹で囲っている。

出土遺物は検出されなかった。

時期は、井戸枠形状から中世に帰属するものと推定される。

第11号井戸跡（第139、140図）

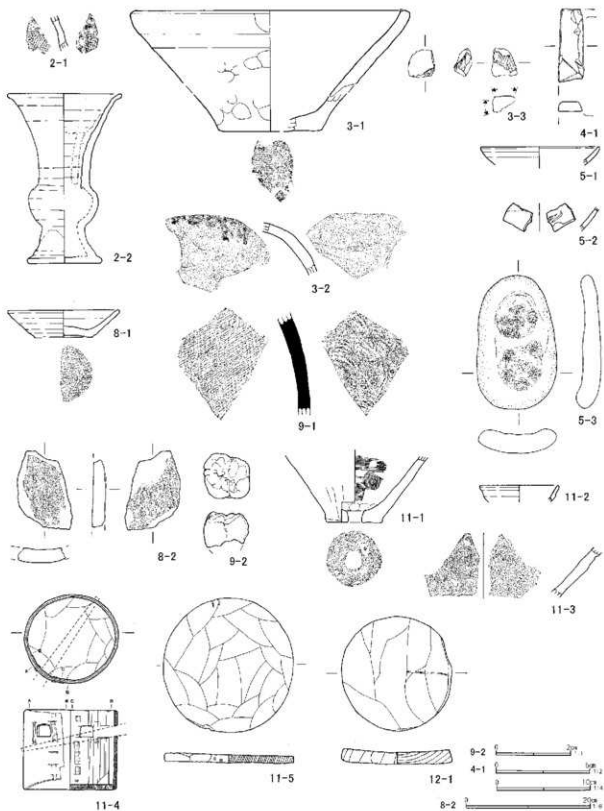
T-16グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸1.85m、短軸1.75m、深さは0.91m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

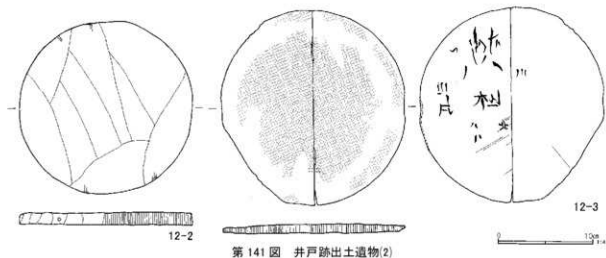
断面観察から漏斗状の掘り方であり、底部に向かって壁面は窄まっていく。覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は弥生土器甕、陶器片口鉢、かわらけ、木製品曲物・柄杓が検出された。

時期は、中世と推定される。



第 140 図 井戸跡出土遺物(1)



第 12 号井戸跡 (第 139 ~ 141 図)

T-17 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸 1.12 m、短軸 1.0 m、深さは 1.45 m 以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

断面観察から漏斗状の掘り方であり、底部に向かって壁面は窄まっていく。覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は木製品曲物の底板が検出された。

時期は、中世と推定される。

第 13 号井戸跡 (第 139 図)

V-19 グリッドから検出した。第 8 号方形周溝墓と重複関係にあり、第 8 号方形周溝墓を切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 0.74 m、短軸 0.74 m、深さは 1.11 m である。

断面観察から壁面は垂直であり、上層の 3 層は自然堆積によるもので、それ以下は人工的な埋土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 25 表 井戸跡出土遺物観察表 (第 140、141 図)

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
2-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABQM	外面：黄灰 10YR5/1 内面：白～黄橙 10YR7/3	B	胴部片	地文は LR 斜線織文 轆轤による平行沈線・斜格子文	
2-2	弥生 尊式区皿	12.3	18.1	8.0	ABQM	外面：黄灰 10YR5/1 内面：白 7.5Y 7/2 底面：2.5Y 6/3	A	98%	口縁に刻付たものを手磨き 内面：胴部から口縁取残	横穴式土器系 古瀬田式期
3-1	瓦葺土器 片工器	Ø10.0	(13.0)	(11.0)	ABQM	外面：黄灰期 10YR6/2 内面：灰白 10YR7/1	B	口縁～底面 5%	外面：1線部に強いヨコナギ、断面方形に近い	在処
3-2	高麗 壺	-	-	-	ABM	灰赤 2.5YR 4/2	B	胴部片		常滑系 上方自然焼
3-3	石製 硯台	最大径 2.8	最大幅 2.3	最大厚 1.5		重さ 17.3 g		破片	遺存する 2面に砥痕	硯削岩
4-1	硯	最大径 3.8	最大幅 1.25	最大厚 0.55		重さ 5.4 g		破片のみで大部分 分が欠損 9%	外面：縦線丁字な磨痕	白土石 (船板石)
5-1	土師瓦土器 かわらけ	(12.8)	(2.0)	-	B	白～黄・橙 5YR7/4	B	10%	粉～灰イ	在処
5-2	磁器 片工器類	-	-	-	B	外面：黄灰 2.5Y 6/1 内外面：明オリ～灰 2.5GY 7/1	B	胴部片	内面：砥石工具で地文	樂楽窯系 1 2 類
5-3	石製 墨石	最大径 14.3	最大幅 8.4	最大厚 1.9		重さ 360 g		完形	表面粗状に粗み、中に多数の磨打痕	砂岩
8-1	土師瓦土器 かわらけ	(12.0)	2.0	(0.2)	ABDM	白～黄 5YR 6/4	B	45%	外面：縦線丁字磨痕 内面：みこみ指ナ字面 口口口口口	在処
8-2	瓦 平瓦	最大径 (11.1)	最大幅 (7.8)	最大厚 2.1	ABDM	外面：橙 7.5YR 6/6 内面：橙 7.5YR 7/6	B	破片	重量 260 g 外面：不明 内面：指ナ字	在処
9-1	須恵器 壺	-	-	-	AMN	灰 N-4/I	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：平行区のア字目	志野燗
9-2	人骨	最大径の9%	最大幅 1.18	最大厚 1.16		重さ 3.2 g		-	1骨の第 2 大臼歯 臼歯にエナメル質の痕跡が残り、歯根は欠損	
11-1	弥生土器 甕	-	(7.2)	5.9	AM	外面：黄灰 10YR6/1 内面：灰白 10YR8/2	A	胴下部～底部片	横穴前穿孔の径 10mm の穿孔 外面：ハツクズリ 内面：ハツクズリヘナナク。孔口付近磨面圧痕	
11-2	土師瓦土器 かわらけ	(8.4)	(1.8)	-	ABDM	白～黄・橙 7.5YR7/4	B	10%	粉～灰イ	在処
11-3	陶器 片工器	-	-	-	AJM	外面：灰 N-3/ 内面：灰白 N-8/	B	体部片		常滑系 白口鉢土類
11-4	木製品 山物 納付	器高 8.5	最大径 10.0	胴板厚 0.3	底板厚 0.6			納欠額	底板は板目 胴板を竹筒形に 2 重に巻き、両端の重ね部分を除く縁で縁合せで側板とし、これに底板が付く 胴板の継ぎ合せは 2ヶ所、1 列外 5 段継ぎと 1 列内 2 段継ぎ、内面の 重ね合せ部分に、胴板の木目と直交する縦方向に 7 本のクズリ 両板重ね部分の土着りに方孔を明け納付とし、柄の先端を挿入する 孔も貫通している	
11-5	木製品 山物 底板	最大径 13.8～14.4	最大厚 1.0					底板のみ	本取は板目、木釘 2ヶ所、表面面と断面に丁字なクズリ	
12-1	木製品 山物 底板	最大径 11.8～12.2	最大厚 1.3					底板のみ	本取は板目、表面面と断面に丁字なクズリ	
12-2	木製品 山物 底板	最大径 18.1～18.4	最大厚 1.2					底板のみ	本取は板目、木釘 1ヶ所、表面面と断面に丁字なクズリ	
12-3	木製品 山物 底板	最大径 19.4～20.5	最大厚 0.9					底板のみ	本取は板目、平行の板を 2ヶ所木目打ちの本取で接合、底板内面に漆痕、 外面に山物板と同証不明な墨痕	

8 ビット

ビットは、各調査区を通じて総数 428 基検出した。多くのビットはその性格が判断可能なものはなかったが、一部には柱穴痕の可能性のあるものが確認できた。

規模は大きささまざまなものが多く、平面プランについても円形、楕円形、方形など多様なプランを呈するものがあつた。

出土遺物は一部のみであり、およそ 21 基のビットから弥生土器蓋、土師器環・甕、須恵器瓶・甕などが検出した。弥生土器の検出は A 区内のビットに集中しており、南東に進み、E 区からも弥生土器が数基から検出される。それ以外のビットからの遺物の出土はなく、重複関係にある遺構からの大まかな時期判断のみで、特定は困難である。

主なビットを挙げると、第 266 号ビットは D 区から検出し、楕円形の平面プランを部分。南端から土師器瓶が出土し、底部のみであったが、底部穿孔をもつものであつた。

柱穴の可能性のあるものは 24 基あり、第 3、114、115、118、132、145、146、148、159、190、196、202、203、205、206、209、222、231、260、261、263、288、308、326 号ビットである。第 3 号ビットは A 区から検出し、西から東に傾斜を有する深さ 0.4 m の斜め柱穴である。長方形の平面プランの中心

から掘り込まれており、意図して造ったことが窺える。

第118号ピットはC区から検出し、円形の平面プランをもつ。先頂部は崩落により欠損しているが、1.5mの深さで垂直の掘り方であり、断面観察から直径30cmの柱痕が確認できる。また、覆土の堆積状況はしまりが弱く、木片や異なる粒子、ブロックが多く含まれることから、人工的に埋められたことが推定される。上層付近からは瓦質土器片口鉢、礫（径10～25cm）数点検出した。

第145号ピット以降は大部分が、E区からの検出である。他の遺構からも判断できるが、C区からE区にかけては中世以降の遺構、遺物が顕著であることから、これらピットについても中世以降の柱穴の可能性が疑われる。

しかし、これらピットは柱穴として判断はできるが、その柱の並びが不明なためそのまま掲載している。以下、紙面の都合上から、ピットの特徴等について一覧表で掲載をする。（第142～151図・第26、27表）

第26表 ピット一覧表(1) (第142～151図)

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	遺取階層(新旧)	備考
1	B-2	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.17			
2	B-2	楕円形	0.24 × 0.21 × 0.09			
3	B-2	正方形	0.30 × 0.21 × 0.43			柱穴か
4	B-2	楕円形	0.27 × 0.18 × 0.12			
5	B-2	楕円形	0.94 × 0.56 × 0.08			
6	B-2・3	木柵円形	1.06 × 1.05 × 0.09			
7	B-3	楕円形	0.39 × 0.35 × 0.09			
8	C-2	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.05			
9	C-2	円形	0.44 × 0.41 × 0.07	香土器赤銅片		
10	C-2	楕円形	0.67 × 0.52 × 0.10			
11	C-3	楕円形	0.52 × 0.37 × 0.10			
12	C-3	楕円形	0.36 × 0.35 × 0.10		SK02	
13	C-3	円形	0.23 × 0.22 × 0.21		SK02	
14	C-3	楕円形	0.40 × 0.31 × 0.12			
15	C-3	楕円形	0.40 × 0.30 × 0.11			
16	C-3	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.09			
17	C-3	楕円形	0.27 × 0.22 × 0.15			
18	C-3	円形	0.31 × 0.29 × 0.11			
19	C-3	楕円形	0.31 × 0.27 × 0.04			
20	D-3	楕円形	0.62 × 0.48 × 0.05			
21	C-3	円形	0.35 × 0.32 × 0.09			
22	C・D-3	円形	0.37 × 0.36 × 0.06			
23	D-3	楕円形	0.30 × 0.22 × 0.08			
24	D-3	楕円形	0.43 × 0.27 × 0.07			
25	D-3	楕円形	0.36 × 0.28 × 0.05			
26	D-3	楕円形	0.22 × 0.18 × 0.10			
27	C-4	楕円形	0.39 × 0.24 × 0.11			
28	C-3	円形	(0.27) × 0.35 × 0.18		SK02	
29	C-3	不整楕円形	0.61 × 0.48 × 0.19		SK02	
30	D-4	円形	0.34 × (0.25) × 0.14		SZ02、P031	
31	D-4	楕円形	0.71 × 0.56 × 0.12		SZ02、P030	
32	D-4	不整楕円形	0.56 × 0.39 × 0.36		SK06	
33	D-4	楕円形	0.27 × 0.22 × 0.15			
34	C・D-4	円形	0.29 × 0.28 × 0.10			
35	D-4	楕円形	0.37 × 0.35 × 0.33			
36	D-4	楕円形	0.32 × 0.28 × 0.09			
37	D-4	楕円形	0.36 × 0.31 × 0.12			
38	D-4	楕円形	0.36 × 0.41 × 0.09			
39	D-4	円形	0.16 × 0.16 × 0.09			
40	D-4	円形	(0.15) × 0.21 × 0.07			
41	D-4	円形	0.29 × 0.27 × 0.16			
42	D-4	円形	0.31 × 0.29 × 0.29	香土器赤銅片		
43	D-4	円形	0.33 × 0.33 × 0.11			
44	D-4	楕円形	0.36 × 0.34 × 0.28	香土器赤銅片		
45	D-4	円形	0.34 × 0.33 × 0.26			
46	D-4	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.14	香土器赤銅片		
47	D-5	楕円形	0.43 × 0.35 × 0.20			
48	E-3	楕円形	0.57 × 0.37 × 0.07			
49	E-3・4	楕円形	0.33 × 0.18 × 0.12			
50	E-4	円形	0.25 × 0.25 × 0.17			
51	E-3	楕円形	0.51 × 0.30 × 0.12			
52	E-4	円形	0.30 × 0.28 × 0.12		SK06	
53	E-4	楕円形	0.26 × 0.22 × 0.12			
54	E-4	楕円形	0.32 × 0.28 × 0.05			

第26表 ビッター一覧表(2) (第142～151号)

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (mm)	出土遺物	垂直関係 (新旧)	備考
55	E-4	円形	0.25 × 0.22 × 0.18			
56	E-4	楕円形	(0.47) × 0.63 × 0.04		SD11	
57	E-5	楕円形	0.36 × 0.30 × 0.21	赤土器赤銅片	P058	
58	E-5	楕円形	0.22 × 0.16 × 0.12	赤土器赤銅片	P057	
59	E-4	楕円形	0.21 × 0.18 × 0.08			
60	F-4	楕円形	0.39 × 0.32 × 0.17		SR05	
61	F-5	楕円形	0.05 × 0.06 × 0.16		SD14, P062	
62	F-5	楕円形	0.09 × 0.49 × 0.11	赤土器赤銅片	SD14, P061	
63	F-5	楕円形	0.46 × 0.43 × 0.16			
64	F-5	楕円形	0.31 × 0.27 × 0.09			
65	F-5	楕円形	(0.30) × 0.34 × 0.06			
66	F-5	円形	0.38 × 0.37 × 0.10	赤土器赤銅片		
67	E-5	楕円形	0.49 × 0.32 × 0.06			
68	D-3	楕円形	0.56 × 0.47 × 0.08			
69	D-3	円形	0.41 × 0.40 × 0.16			
70	E-4	楕円形	0.56 × 0.24 × 0.16		SR03	
71	F-5	楕円形	0.55 × 0.35 × 0.13			
72	F-5	楕円形	0.43 × 0.39 × 0.28			
73	F+G-5	円形	0.35 × 0.34 × 0.14			
74	M-10	円形	0.82 × 0.78 × 0.39			
75	M-10	不整形円形	0.87 × 0.61 × 0.15			
76	N-11	円形	0.33 × 0.29 × 0.11			
77	N-11	楕円形	0.16 × 0.14 × 0.10			
78	N-11	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.10			
79	N-11	楕円形	0.51 × 0.49 × 0.34			
80	N-11	楕円形	0.68 × 0.51 × 0.03			
81	N-12	楕円形	0.38 × 0.34 × 0.28			
82	N-12	円形	0.37 × 0.36 × 0.19			
83	O-11	楕円形	0.91 × 0.72 × 0.14			
84	O-11	楕円形	0.40 × 0.36 × 0.19		P085	
85	O-11	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.08		P084	
86	O-11	楕円形	0.65 × 0.61 × 0.15		NR02	
87	O-11	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.03			
88	O-11	円形	0.49 × 0.46 × 0.35			
89	O-11	楕円形	0.37 × 0.32 × 0.16			
90	O-11	楕円形	0.35 × 0.27 × 0.08			
91	O-11	楕円形	0.72 × 0.66 × 0.14		P092	
92	O-11	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.08		P091	
93	O-12	楕円形	0.79 × 0.64 × 0.10		P094	
94	O-12	円形	0.71 × 0.67 × 0.28		P093	
95	O-11	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.15			
96	O-11 × 12	楕円形	0.91 × 0.73 × 0.12			
97	O-12	楕円形	0.59 × 0.52 × 0.20			
98	O-12	楕円形	0.54 × 0.43 × 0.11			
99	O-11	楕円形	0.47 × 0.42 × 0.12			
100	P-11	円形	0.43 × 0.42 × 0.11			
101	P-11	円形	0.24 × 0.21 × 0.11			
102	O-11	楕円形	0.35 × 0.30 × 0.09			
103	O-12	円形	0.51 × 0.49 × 0.10			
104	O+P-12	楕円形	0.70 × 0.58 × 0.06			
105	O-12	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.14			
106	O-12	楕円形	0.72 × 0.54 × 0.12			
107	O-12	円形	0.33 × 0.29 × 0.14			
108	P-12	円形	(0.28) × 0.38 × 0.18		SD26, P109	
109	P-12	楕円形	0.43 × 0.40 × 0.14		SD26, P108	
110	P-11	長方形	0.87 × 0.31 × 0.04			
111	P-12	円形	0.35 × 0.32 × 0.13			
112	P-12	楕円形	(0.67) × 0.65 × 0.14			
113	P-13	円形	(0.27) × 0.30 × 0.15			
114	P-13	楕円形	0.61 × 0.47 × 0.37		SR09	柱穴か
115	P-13	楕円形	0.63 × 0.52 × 0.44			柱穴か
116	Q-13	楕円形	0.25 × 0.22 × 0.27			
117	Q-13	円形	(0.19) × 0.43 × 0.28			
118	Q-13	円形	0.92 × 0.88 × 1.45	瓦葺土器片口鉢		柱穴か
119	R-14	楕円形	(0.33) × 0.25 × 0.21			
120	R-14	円形	0.26 × 0.25 × 0.20			
121	R-14	楕円形	0.36 × 0.33 × 0.27			
122	R-14	円形	0.27 × 0.25 × 0.20			
123	R-14	円形	0.38 × 0.36 × 0.30			
124	R-14	楕円形	0.39 × 0.35 × 0.19			
125	R-14	楕円形	0.46 × 0.43 × 0.30	赤土器壺		
126	R-14	不整形円形	0.46 × 0.45 × 0.33			
127	R-14	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.21			
128	R-14	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.24			

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×高さ (m)	出土遺物	遺物関係(新旧)	備考
129	R+S-14	長方形	0.28 × 0.24 × 0.13			
130	R+S-14	楕円形	0.47 × 0.30 × 0.26			
131	S-14	楕円形	0.73 × 0.25 × 0.18			
132	S-14	楕円形	0.23 × 0.22 × 0.31			柱穴か
133	S-14	楕円形	0.56 × 0.37 × 0.36			
134	S-14	円形	0.28 × 0.28 × 0.20			
135	S-14	円形	0.32 × 0.31 × 0.36	銅製器類		
136	S-14	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.21			
137	S-14	楕円形	0.29 × 0.21 × 0.23			
138	S-14	円形	0.18 × 0.17 × 0.11			
139	S-14	正方形	0.29 × 0.28 × 0.22			
140	S-14	楕円形	0.42 × 0.34 × 0.15			
141	S-14	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.24			
142	S-15	楕円形	0.43 × 0.41 × 0.21			
143	S-14	楕円形	0.36 × 0.27 × 0.26			
144	S-14	円形	0.22 × 0.22 × 0.13	土師器高台坪		
145	S-14	楕円形	0.43 × 0.30 × 0.30			柱穴か
146	S-14	円形	0.34 × 0.32 × 0.29			柱穴か
147	S-14	楕円形	0.24 × 0.21 × 0.10			
148	S-14	円形	0.22 × 0.21 × 0.34			柱穴か
149	S-15	楕円形	0.29 × 0.23 × 0.20			
150	S-15	楕円形	0.24 × 0.18 × 0.15			
151	S-15	楕円形	0.33 × 0.29 × 0.21			
152	S-15	楕円形	0.27 × 0.21 × 0.14			
153	S-15	楕円形	0.38 × 0.29 × 0.25			
154	S-15	楕円形	0.44 × 0.38 × 0.21			
155	S-15	円形	0.31 × 0.29 × 0.22			
156	S-15	楕円形	0.37 × 0.33 × 0.28			
157	S-15	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.27			
158	S-15	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.08			
159	S-15	楕円形	0.33 × 0.30 × 0.34			柱穴か
160	S-15	楕円形	0.36 × 0.31 × 0.14			
161	S-15	楕円形	0.39 × 0.31 × 0.09			
162	S-15	円形	0.28 × 0.26 × 0.13			
163	S-15	楕円形	0.39 × 0.25 × 0.14		P164	
164	S-15	楕円形	0.37 × 0.31 × 0.24		P163	
165	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.14			
166	S-15	楕円形	0.28 × 0.21 × 0.21			
167	S-15	不整形円形	0.31 × 0.31 × 0.14			
168	S-15	楕円形	(0.35) × 0.26 × 0.11		SD35	
169	R+S-15	円形	0.38 × 0.36 × 0.23			
170	R-15	楕円形	0.25 × 0.21 × 0.14			
171	R-15	円形	0.51 × 0.50 × 0.28			
172	R-15	不整形円形	0.19 × 0.18 × 0.21			
173	R-15	楕円形	0.19 × 0.15 × 0.21			
174	R-15	楕円形	0.41 × 0.36 × 0.19			
175	R-15	円形	0.28 × 0.26 × 0.09			
176	R-15	楕円形	(0.26) × 0.41 × 0.28			
177	R-15	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.28			
178	R-15	円形	0.23 × 0.22 × 0.25			
179	R-15	楕円形	0.35 × 0.31 × 0.23		SD34	
180	R-15	楕円形	(0.42) × 0.41 × 0.08		SK12	
181	R-15	楕円形	0.87 × 0.60 × 0.43		SD34	
182	R-16	不整形楕円形	0.46 × 0.22 × 0.16			
183	R-16	楕円形	0.63 × 0.57 × 0.47	土師器甕	SD34	
184	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.16			
185	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.14			
186	S-15	円形	0.36 × 0.36 × 0.18			
187	S-16	楕円形	0.55 × 0.49 × 0.27			
188	S-15	正方形	0.36 × 0.35 × 0.24			
189	S-15	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.20			
190	S-15	楕円形	0.31 × 0.25 × 0.37			柱穴か
191	S-15	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.17			
192	S-15	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.11			
193	S-15	円形	0.36 × 0.33 × 0.27			
194	S-15	楕円形	0.35 × 0.32 × 0.33		SK18	
195	S-15	円形	0.32 × 0.29 × 0.19			
196	S-15	円形	0.46 × 0.44 × 0.53		P197	柱穴か
197	S-15	楕円形	0.45 × 0.40 × 0.33		P196	
198	S-15	円形	0.25 × 0.23 × 0.14			
199	S-15	楕円形	(0.44) × 0.47 × 0.18		SK15	
200	S-15	円形	0.21 × 0.19 × 0.11			
201	S-15	円形	0.19 × 0.18 × 0.07			
202	S-15	楕円形	0.23 × 0.20 × 0.19			柱穴か
203	S-15+16	楕円形	0.24 × 0.22 × 0.22			柱穴か
204	S-16	楕円形	0.87 × 0.62 × 0.34	赤土器甕		

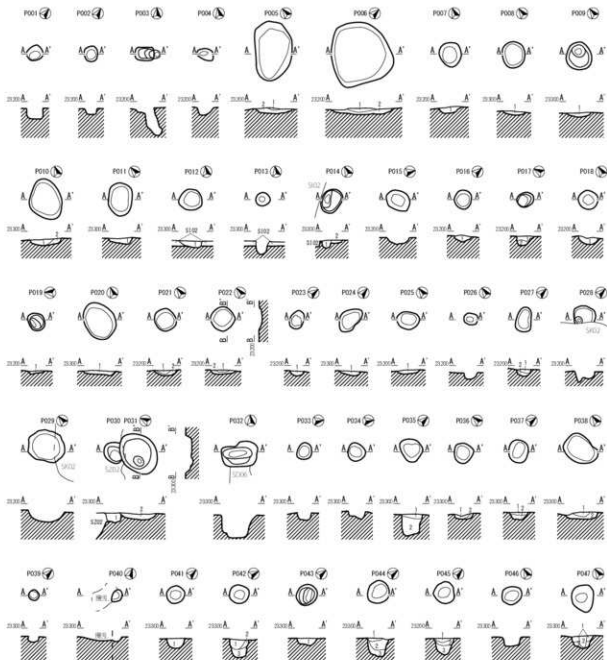
第26表 ビッター一覧表(3) (第142～151号)

No.	位置	平面形状	径幅×径幅×深さ (mm)	出土遺物	番付関係(新旧)	備考
205	S-15	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.36			柱穴か
206	S-15	円形	0.33 × 0.31 × 0.45			柱穴か
207	S-15	円形	(0.34) × 0.67 × 0.06		S037	
208	S-15	楕円形	0.49 × 0.37 × 0.30			
209	S-15	楕円形	0.19 × 0.18 × 0.26			柱穴か
210	S-15	楕円形	0.32 × 0.21 × 0.05			
211	S-16	円形	0.18 × 0.18 × 0.09			
212	S-16	楕円形	0.26 × 0.16 × 0.12			
213	S-16	円形	0.27 × 0.25 × 0.19			
214	S・T-16	楕円形	0.37 × 0.26 × 0.16	陶器片録深田	SD39, S206	
215	S-16	楕円形	0.39 × 0.22 × 0.26			
216	S-16	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.14			
217	S-16	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.15			
218	S-16	楕円形	0.29 × 0.27 × 0.14			
219	S-16	楕円形	0.42 × 0.40 × 0.33		S05	
220	S-16	楕円形	0.29 × 0.26 × 0.27			
221	S-16	円形	0.17 × 0.16 × 0.06			
222	S-16	楕円形	0.22 × 0.22 × 0.44			柱穴か
223	S-16	円形	0.30 × 0.23 × 0.14			
224	S-16	円形	0.29 × 0.26 × 0.20			
225	S-16	円形	0.21 × 0.20 × 0.29		P226	
226	S-16	楕円形	(0.27) × 0.22 × 0.26		P225	
227	S-16	楕円形	0.36 × 0.33 × 0.25			
228	S-16	円形	0.16 × 0.15 × 0.14			
229	S-16	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.24			
230	S-16	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.17			
231	S-16	楕円形	0.35 × 0.31 × 0.32			柱穴か
232	S-16	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.31			
233	S-16	円形	0.25 × 0.24 × 0.15		SD38	
234	S-16	楕円形	0.36 × 0.18 × 0.15			
235	S-16	楕円形	0.63 × 0.25 × 0.10			
236	S-16	楕円形	0.50 × 0.39 × 0.23			
237	S-16	楕円形	0.41 × 0.36 × 0.19		SD39	
238	S-16	円形	0.27 × 0.25 × 0.18			
239	S-16	円形	0.26 × 0.25 × 0.12			
240	S-16	楕円形	0.48 × 0.77 × 0.41			
241	S-16	×形円形	0.45 × 0.48 × 0.16			
242	S-16	楕円形	0.63 × 0.69 × 0.21			
243	S-16	楕円形	0.44 × 0.34 × 0.12			
244	T-16	楕円形	(0.40) × 0.87 × (0.36)		S08	
245	T-16	楕円形	(0.98) × 0.76 × 0.35		SK20	
246	T-16	円形	0.21 × 0.19 × 0.21			
247	T-16	円形	0.31 × 0.31 × 0.04			
248	T-15	楕円形	0.39 × (0.27) × 0.11		SK19	
249	T-15	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.33	赤土器片		
250	T-15	楕円形	0.72 × 0.56 × 0.15		SK19	
251	T-15	楕円形	0.83 × 0.64 × 0.23			
252	T-15	円形	0.27 × 0.26 × 0.15			
253	T-15	楕円形	0.39 × 0.32 × 0.17			
254	T-15	楕円形	0.44 × 0.42 × 0.36			
255	T-15	楕円形	0.40 × 0.32 × 0.20			
256	T-16	円形	0.50 × 0.49 × 0.14			
257	T-16	円形	0.30 × 0.29 × 0.30		SD42, SK24	
258	U-16	楕円形	0.36 × 0.28 × 0.07			
259	U-16	楕円形	0.52 × 0.42 × 0.04		S207	
260	U-16	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.40			柱穴か
261	U-16	楕円形	0.86 × 0.71 × 0.41			柱穴か
262	U-16	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.07			
263	U-16	円形	0.40 × 0.38 × 0.60			柱穴か
264	U-16	楕円形	0.32 × 0.28 × 0.22			
265	U-17	楕円形	0.94 × 0.47 × 0.28			
266	U-16・17	楕円形	1.00 × 0.61 × 0.08	土師器		
267	U-16・17	楕円形	0.73 × 0.61 × 0.07			
268	T・U-16	楕円形	0.88 × 0.41 × 0.26		S207	
269	T-16・17	楕円形	0.49 × 0.49 × 0.06			
270	T-17	楕円形	0.66 × 0.56 × 0.06			
271	U-17	楕円形	0.52 × 0.34 × 0.67			
272	U-17	楕円形	0.91 × 0.51 × 0.11			
273	U-17	円形	0.38 × 0.37 × 0.29		SD48	
274	U-18	楕円形	0.40 × 0.29 × 0.34		SK31	
275	U-18	楕円形	0.80 × 0.66 × 0.36		SD49	
276	U-18	楕円形	0.88 × 0.74 × 0.39			
277	V-17	楕円形	0.40 × 0.33 × 0.40			
278	V-17	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.30		SD47, SK32	

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×高さ (m)	出土遺物	遺物関係(新旧)	備考
279	V-17	楕円形	0.35 × 0.32 × 0.34			
280	V-17	円形	0.48 × 0.44 × 0.35			
281	U・V-17	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.14			
282	V-17	楕円形	0.22 × 0.21 × 0.07			
283	V-17	円形	0.31 × 0.29 × 0.16			
284	V-17	円形	0.22 × 0.22 × 0.09			
285	V-17	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.07			
286	V-17	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.34			
287	V-17	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.23			
288	V-17	楕円形	0.34 × 0.30 × 0.42		SK34	柱穴か
289	V-17	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.22			
290	V-17	楕円形	1.61 × 0.75 × 0.36		SD49	
291	V-18	楕円形	0.28 × 0.23 × 0.07			
292	V-18	楕円形	0.36 × 0.30 × 0.08			
293	V-18	円形	0.24 × 0.21 × 0.06			
294	V-18	円形	0.27 × 0.25 × 0.36		SK36	
295	V-18	楕円形	0.66 × 0.48 × 0.18		P296, SK36	
296	V-18	楕円形	1.31 × 0.651 × 0.06		P295, P297, SK36	
297	V-18	楕円形	0.30 × 0.24 × 0.32		P296	
298	V-18	楕円形	0.841 × 0.56 × 0.22	須弥座礎	SD49	
299	V-18	楕円形	0.99 × 0.77 × 0.29			
300	V-18	楕円形	0.59 × 0.52 × 0.06		SD50	
301	V-18	楕円形	0.23 × 0.20 × 0.08		SD50	
302	V-18	不整形円形	1.23 × 0.77 × 0.13	土製器坪・礎	P303	
303	V-18	楕円形	0.47 × 0.38 × 0.26		P302	
304	V-18	楕円形	0.91 × 0.461 × 0.04		SD50, P305	
305	V-18	楕円形	0.61 × 0.54 × 0.34		P304, SD50	
306	V-18	円形	0.26 × 0.25 × 0.24			
307	V-18	楕円形	0.49 × 0.46 × 0.18		SD53	
308	V-19	楕円形	0.38 × 0.34 × 0.35			柱穴か
309	V-18	楕円形	0.50 × 0.40 × 0.24			
310	V-19	楕円形	0.38 × 0.24 × 0.14			
311	W-18	楕円形	0.47 × 0.41 × 0.46			
312	W-18	楕円形	0.30 × 0.21 × 0.18			
313	W-18	正方形	0.39 × 0.38 × 0.07			
314	W-18	正方形	0.58 × 0.44 × 0.07			
315	V-18	楕円形	0.29 × 0.24 × 0.04			
316	V-19	楕円形	0.79 × 0.61 × 0.03		SD28	
317	W-19	楕円形	0.58 × 0.46 × 0.17			
318	W-19	円形	0.38 × 0.36 × 0.16			
319	S-16	楕円形	0.39 × 0.24 × 0.12	土製瓦土器 (かわらけ)		
320	V-19	円形	0.22 × 0.21 × 0.10		P321	
321	V-19	楕円形	0.46 × 0.26 × 0.32		P320	
322	V-20	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.04			
323	V-20	楕円形	0.52 × 0.45 × 0.09			
324	V-20	楕円形	0.33 × 0.24 × 0.13			
325	V-20	楕円形	1.38 × 0.51 × 0.14			
326	V-20	楕円形	0.40 × 0.82 × 0.83	土製瓦土器 (かわらけ)		柱穴か
327	V-20	楕円形	0.75 × 0.75 × 0.14			
328	V-20	楕円形	0.88 × 0.58 × 0.07		SK39	
329	V-20	楕円形	0.48 × 0.44 × 0.21			
330	V-20	楕円形	0.51 × 0.51 × 0.19			
331	AD-26	楕円形	0.46 × 0.33 × 0.07			
332	AD-26	円形	0.43 × 0.43 × 0.07			
333	AE-26	楕円形	0.29 × 0.24 × 0.09			
334	AD-27	円形	0.31 × 0.31 × 0.10			
335	AD・AE-27	円形	0.60 × 0.58 × 0.09			
336	AD-27	楕円形	0.51 × 0.44 × 0.11			
337	AD-27	楕円形	0.46 × 0.34 × 0.09			
338	AD-27	円形	0.25 × 0.24 × 0.09			
339	AD-27	楕円形	0.26 × 0.22 × 0.10			
340	AD-27	楕円形	0.32 × 0.29 × 0.10			
341	AE-28	楕円形	0.73 × 0.52 × 0.07		SD64	
342	AE-27	楕円形	0.40 × 0.34 × 0.05			
343	AE-27	楕円形	0.48 × 0.42 × 0.09			
344	AE-27	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.11			
345	AE-27	楕円形	0.68 × 0.62 × 0.12			
346	AE-27	円形	0.36 × 0.35 × 0.05			
347	AE-27	楕円形	0.32 × 0.22 × 0.06			
348	AE-27	楕円形	0.35 × 0.30 × 0.09			
349	AE-27	楕円形	0.64 × 0.24 × 0.05			
350	AE-27・28	円形	0.29 × 0.27 × 0.10			
351	AE-28	不整形円形	0.39 × 0.33 × 0.15			
352	AE-28	楕円形	0.31 × 0.27 × 0.13			
353	AE-28	不整形円形	0.32 × 0.31 × 0.16		P354	
354	AE-28	楕円形	0.38 × 0.30 × 0.14		P353	

第26表 ビッター一覧表(4) (第142～151号)

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (mm)	出土遺物	番付関係(新旧)	備考
355	AE-28	楕円形	(0.23) × 0.39 × 0.07		P356	
356	AE-28	楕円形	0.55 × 0.35 × 0.07		P355	
357	AE-28	楕円形	0.48 × 0.30 × 0.08			
358	AF-28	楕円形	0.77 × 0.53 × 0.08			
359	AF-28	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.10			
360	AE-28	楕円形	0.59 × 0.41 × 0.13			
361	AE-28	楕円形	0.76 × 0.58 × 0.14			
362	AE-28	楕円形	0.39 × 0.35 × 0.11			
363	AE-28	楕円形	0.25 × 0.21 × 0.10			
364	AE-28	楕円形	1.24 × 0.56 × 0.17			
365	AE-28	楕円形	0.72 × 0.51 × 0.16			
366	AE-28	楕円形	0.59 × 0.33 × 0.12			
367	AE-28	楕円形	0.35 × 0.29 × 0.13			
368	AE-28	楕円形	0.56 × 0.48 × 0.10			
369	AE-28	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.13			
370	AE-28	楕円形	0.64 × 0.52 × 0.13		SK40	
371	AE-28	楕円形	0.59 × 0.43 × 0.13		SK40	
372	AE-28	楕円形	0.55 × 0.45 × 0.11		SK40	
373	AE-28	楕円形	0.44 × 0.36 × 0.16			
374	AE-28	円形	0.50 × 0.48 × 0.09			
375	AE-28	円形	0.30 × 0.30 × 0.08			
376	AE-28	楕円形	0.33 × 0.20 × 0.08			
377	AF-27	楕円形	0.41 × 0.28 × 0.13			
378	AF-27	楕円形	0.40 × 0.37 × 0.07			
379	AF-28	円形	0.29 × 0.29 × 0.06		P380	
380	AF-27・28	楕円形	0.90 × 0.31 × 0.08		P379	
381	AF-28	楕円形	0.48 × 0.35 × 0.08			
382	AG-28	楕円形	0.30 × 0.15 × 0.14			
383	AG-28	楕円形	0.14 × 0.11 × 0.06			
384	AF-28	楕円形	0.42 × 0.31 × 0.10			
385	AF-28	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.12			
386	AG-28	楕円形	0.47 × 0.28 × 0.10			
387	AG-28	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.09			
388	AG-28	楕円形	0.31 × 0.28 × 0.09			
389	AF-28	円形	0.29 × 0.27 × 0.15			
390	AG-28	円形	0.43 × 0.31 × 0.14			
391	AG-28	楕円形	0.30 × 0.28 × 0.05			
392	AG-28	楕円形	0.21 × 0.17 × 0.09			
393	AG-28	楕円形	0.32 × 0.22 × 0.12			
394	AG-28	楕円形	0.37 × 0.25 × 0.05			
395	AG-28	楕円形	(0.70) × 0.32 × 0.05			
396	AF-29	楕円形	0.53 × 0.39 × 0.09			
397	AF-29	楕円形	0.69 × 0.69 × 0.10			
398	AG-29	不整形円形	0.34 × 0.34 × 0.25			
399	AF・AG-29	楕円形	0.74 × 0.42 × 0.13			
400	AF-29	楕円形	0.20 × 0.15 × 0.23			
401	AF-29	楕円形	0.34 × 0.22 × 0.27			
402	AF-29	楕円形	0.38 × 0.30 × 0.06			
403	AF-29	円形	0.28 × 0.25 × 0.09			
404	AF-29	楕円形	0.26 × 0.20 × 0.13			
405	AF-29	円形	0.29 × 0.28 × 0.15			
406	AF-29	楕円形	0.31 × 0.24 × 0.21			
407	AF-29	円形	0.42 × 0.39 × 0.06			
408	AG-29	不整形円形	0.69 × 0.65 × 0.09			
409	AG-29	楕円形	0.46 × 0.33 × 0.11			
410	AG-29	楕円形	0.58 × 0.31 × 0.08			
411	AG-30	楕円形	0.45 × 0.30 × 0.05			
412	AF・AG-30	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.04			
413	AG-30	円形	0.40 × 0.39 × 0.06			
414	AG-30	楕円形	0.50 × 0.44 × 0.06			
415	AG-30	楕円形	0.52 × 0.47 × 0.12			
416	AG-30	楕円形	0.47 × 0.25 × 0.04			
417	AG-30	不整形円形	0.34 × 0.31 × 0.08			
418	AG-30	楕円形	0.46 × 0.37 × 0.10			
419	AG-30	楕円形	0.44 × 0.44 × 0.05			
420	AG-30	楕円形	(0.16) × 0.18 × 0.13		P421	
421	AG-30	楕円形	0.34 × 0.23 × 0.08		P420	
422	AG-30	楕円形	0.22 × 0.16 × 0.03			
423	AG-30	円形	0.16 × 0.14 × 0.05			
424	AG-30	円形	(0.48) × 0.65 × 0.05		P425	
425	AG-30	楕円形	0.67 × 0.49 × 0.11		P424	
426	AH-30	楕円形	0.57 × 0.48 × 0.08			
427	AH-30	楕円形	0.54 × 0.47 × 0.12			
428	AH-30	楕円形	0.45 × 0.38 × 0.23			

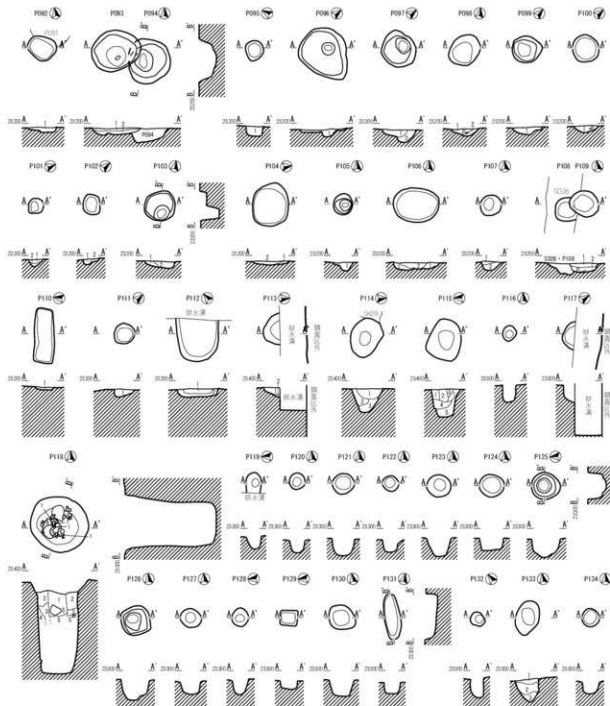


- PO05**
 1. オープン型7, 凹-2/1(しまり物 F6h少量)
 2. 底オリーブ型, 凹-2/2(中枠)
- PO06**
 1. 底7凹-2/1(しまり物や中枠 反白色ブロック・軟子合)
 2. 底7凹-2/1(しまり物や中枠 凹枠 F6h少量)
- PO07**
 1. オープン型凹-2/3(しまり物 軟質)
- PO08**
 1. 底オリーブ型凹-2(しまり物 F6h少量)
- PO09**
 1. オープン型7, 凹-2/1(しまり物 反オリーブ色上ブロック・軟子合)
- PO10**
 1. 底凹-4/1(しまり物 F6h合)
 2. 底オリーブ型凹-2(しまり物 F6h合)
- PO11**
 1. 底オリーブ型凹-2
- PO12**
 1. 底オリーブ型凹-2
- PO14**
 1. オープン型凹-2/1(やや軟質)
 2. 底オリーブ型凹-2(しまり物 やや中枠)
- PO16**
 1. オープン型凹-2/1(しまり物 反白色上ブロック合)
- PO17**
 1. 底凹-2/2(しまり物 やや中枠)
 2. 底凹-2/2(しまり物 やや中枠)

- PO18**
 1. 底凹-2/2(しまり物)
- PO19**
 1. 底凹-2/2(しまり物 F6h少量)
- PO20**
 1. 底凹-2/2(しまり物 黒褐色上合)
- PO21**
 1. 底凹-4/1(しまり物 F6h少量)
- PO22**
 1. 底オリーブ型凹-5/1(しまり物 やや軟質 F6h合)
 2. 底オリーブ型凹-5/1(しまり物 やや軟質)
- PO23**
 1. 底凹-2/2(1) (やや軟質)
- PO24**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 反白色上合)
- PO25**
 1. 底凹-4/1(しまり物 F6h少量)
- PO27**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO29**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO30**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO31**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO32**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO33**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO34**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO35**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO36**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO37**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO38**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO39**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO40**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO41**
 1. オープン型凹-2/3(しまり物 反白色上ブロック部合)
- PO42**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物)
- PO43**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物)
- PO44**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物)
- PO45**
 1. オープン型凹-2/2(しまり物)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 F6h少量)
 3. 底凹-2/2(1) (しまり物 やや軟質)
- PO46**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物)
- PO47**
 1. 底凹-2/2(1) (しまり物 F6h合)
 2. 底凹-2/2(1) (しまり物 F6h合)
 3. 底凹-2/2(1) (しまり物)

第 142 図 第 1 ~ 47 号ピット





P002

1. オープン底 0.2(1) (しまり強)

P003

1. 底戻し 0.4(1) (しまり弱 Fe₆少量)

2. 底戻し 0.4(2) (しまり弱 今や中硬)

P005

1. オープン底 0.2(1) (しまり強 今や中硬 Fe₆少量)

P006

1. オープン底 0.2(1) (しまり弱 粘質)

P007

1. 底戻し 0.2(1) (しまり中や強 反白色土ブロック含)

P008

1. オープン底 0.2(1) (しまり強 粘質 反白色土ブロック含)

P101

1. 底戻し 0.4(1) (粘質 反白色土ブロック含)

P102

1. オープン底 0.3(1) (粘質)

P103

1. オープン底 0.3(1) (しまり強)

2. オープン底 0.3(2) (反白色土ブロック・粘子含)

P104

1. 底戻し 0.2(1) (今や中硬 Fe₆少量)

2. 底戻し 0.2(2) (今や中硬 Fe₆含)

P105

1. 底戻し 0.2(1) (今や粘質 Fe₆含)

2. 底戻し 0.2(2) (今や粘質)

P106

1. 底戻し 0.2(1) (しまり弱 反白色土ブロック含)

P107

1. オープン底 0.2(1) (しまり弱 反白色土ブロック含)

2. オープン底 0.2(2) (しまり弱 反白色土ブロック含 土層付含)

P108

1. 底戻し 0.3(1) (しまり中や強 反白色土ブロック含)

P109

1. オープン底 0.3(1) (しまり弱 反白色土ブロック含)

2. オープン底 0.3(2) (しまり弱 土層付 反白色土ブロック含)

P110

1. 底戻し 0.3(1) (しまり中や強 Fe₆少量)

2. 底戻し 0.3(2) (しまり強 一部シルト質 Fe₆少量)

P113

1. 底戻し 0.3(1) (Fe₆少量)

2. 底戻し 0.3(2) (しまり弱 にがれ黄色土含)

P114

1. 底戻し 0.3(1) (しまり中や強 黒褐色土ブロック含)

2. 底戻し 0.3(2) (しまり強 粘質土粒子含)

3. オープン底 0.3(1) (しまり強 Fe₆少量)

P115

1. 底戻し 0.3(1) (しまり弱 にがれ黄色土含)

2. 底戻し 0.3(2) (しまり弱 土層付)

3. 底戻し 0.3(3) (しまり弱 にがれ黄色土粒子含)

4. 底戻し 0.3(4) (しまり強 Fe₆含)

5. 底戻し 0.3(5) (しまり強 今や中硬)

P116

1. 底戻し 0.3(1) (しまり強 反白色土 黄色土ブロック・粘子含)

2. 底戻し 0.3(2) (しまり強 Fe₆少量 黒褐色土ブロック・粘子少量)

3. 底戻し 0.3(3) (しまり強 粘質)

4. 底戻し 0.3(4) (しまり強 反白色土ブロック含)

P117

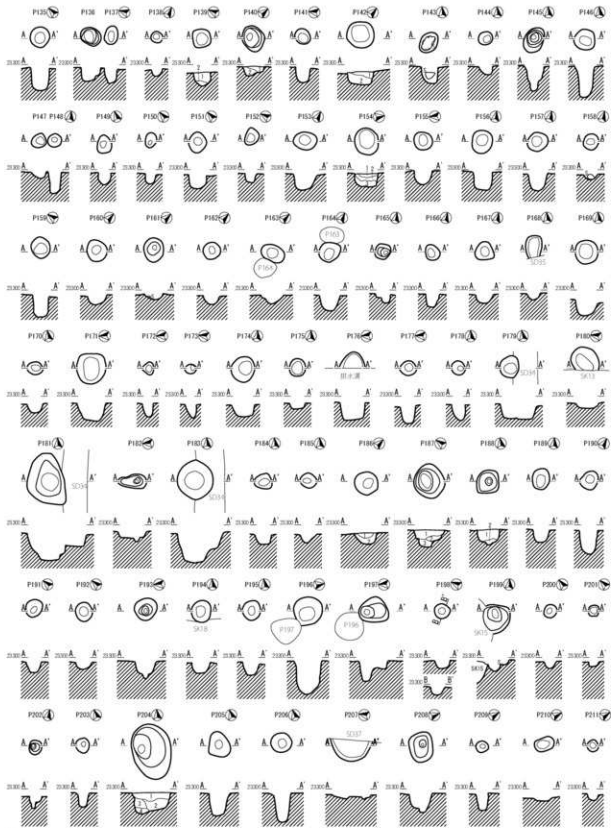
1. 底戻し 0.3(1) (しまり弱 黒褐色土ブロック・粘子含)

2. オープン底 0.3(1) (しまり中や強 黒褐色土ブロック・粘子含)

3. 底戻し 0.3(2) (しまり弱 粘質)

第 144 図 第 92 ~ 134 号ビット





P130

1. 溝幅 2.07-3/11 (しまり目) 両白色上プロック状
2. 溝底 2.07-3/11 (しまり目) 黄褐色上プロック状

P140

1. 短辺溝 2.07-3/11 (しまり目) 中中粒 黄褐色上プロック状
2. 溝底 2.07-3/11 (しまり目) 黄褐色上プロック状

P142

1. オネーブ溝 7.07-3/11 (しまり目)
2. 両オネーブ溝 2.07-3/11 (しまり目) F46.5

P154

1. オネーブ溝 7.07-3/11 (しまり目) 両白色上プロック状
2. 短辺溝 2.07-3/11 (しまり目) 中中粒 黄褐色上プロック状
3. オネーブ溝 10.07-3/11 (しまり目) 中中粒

P166

1. 短辺溝 2.07-4/21 (しまり目) F46.6 状
2. 溝底 2.07-3/11 (しまり目) 中中粒

P167

1. 溝幅 2.07-3/11 (しまり目) 黄褐色上プロック状
2. オネーブ溝 7.07-3/11 (しまり目) 黄褐色上プロック状
3. オネーブ溝 10.07-3/11 (しまり目) 中中粒

P168

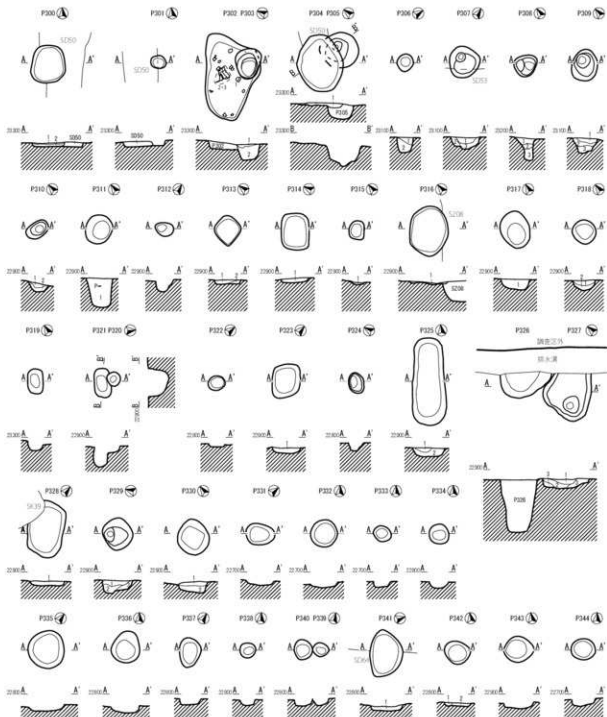
1. 溝 2.07-2/11 (しまり目) F46.5

P204

1. 溝幅 2.07-3/11 (しまり目) F46.6 状
2. オネーブ溝 10.07-3/11 (しまり目) 両白色上プロック状
3. 溝底 2.07-3/11 (しまり目) 短粒 黄褐色上プロック・短子含
4. 溝 2.07-2/11 (短粒)

第 145 図 第 135 ~ 211 号ビット



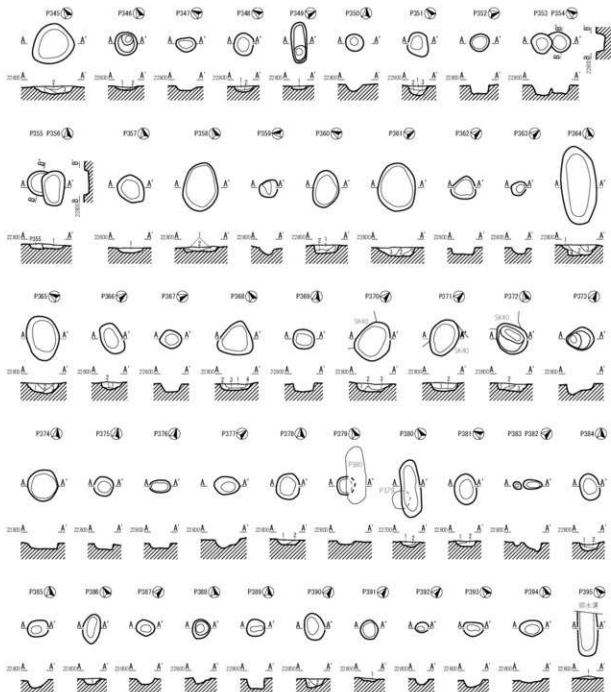


- P200**
1. 溝上縁2/3(1)しまり部 中々陥着
2. 溝幅2/3(1/2)しまり部 溝縁上凸
- P201**
1. 溝7/8(2/3)しまり部 赤褐色上ブロック多量
2. 溝ネーブ7/8(2/3)しまり部 陥着
- P204**
1. 溝幅10/8(1/2)しまり部 凹凸白土ブロック・粉子含
2. オープン溝7/8(2/3)しまり部 陥着
3. 溝幅2/3(1/2)しまり部 中々陥着
- P207**
1. オープン溝2/3(2/3)しまり部 陥着
2. オープン溝10/8(1/2)しまり部 凹凸白土ブロック多量
3. 溝上縁2/3(1)しまり部 中々陥着
- P208**
1. 陥着溝上縁2/2(1)しまり部 中々陥着
2. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部 陥着
3. 溝幅2/3(1/2)しまり部 陥着

- P209**
1. 溝幅2/3(1/2)しまり部 F6b.陥着
2. オープン溝10/8(1/2)しまり部 中々陥着 F6b.陥着
3. オープン溝上縁2/3(1)しまり部 中々陥着 F6b.陥着
- P210**
1. 溝幅2/3(1/2)中々陥着
2. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部 中々陥着
- P211**
1. 溝上縁2/3(1)しまり部 人工歯肉線土 上縁片含
凹凸白土ブロック含
- P212**
1. 溝幅2/3(1/2)しまり部 中々陥着 凹凸白土上ブロック含
2. 陥着溝上縁4/2(1)中々陥着
- P214**
1. 陥着溝上縁4/2(1)中々陥着 F6b.陥着
- P215**
1. 穴ネーブ溝2/3(2/3)しまり部
2. 陥着溝上縁2/3(1/2)中々陥着
- P217**
1. ネーブ溝上縁2/3(1/2)しまり部 F6b.含
- P218**
1. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部
2. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部 溝縁上ブロック一箇含

- P222**
1. 溝幅2/3(2/3)
2. 溝幅2/3(1/2)
3. オープン溝2/3(2/3)しまり部 陥着 F6b.含
4. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部 陥着 凹凸白土上凸含
- P223**
1. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部 中々陥着
- P225**
1. オープン溝上縁2/3(1)しまり部 中々陥着 F6b.含
2. オープン溝上縁2/3(1)しまり部 陥着 F6b.陥着
3. 陥着溝上縁2/3(1/2)しまり部 中々陥着 F6b.陥着
- P230**
1. 溝幅2/3(1/2)しまり部 中々陥着 F6b.含
2. オープン溝10/8(1/2)しまり部 陥着
- P241**
1. 溝幅上縁2/3(1/2)しまり部
2. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部
- P242**
1. 溝幅上縁2/3(1/2)しまり部
2. 陥着溝上縁4/2(1)しまり部

第148図 第300～344号ビット



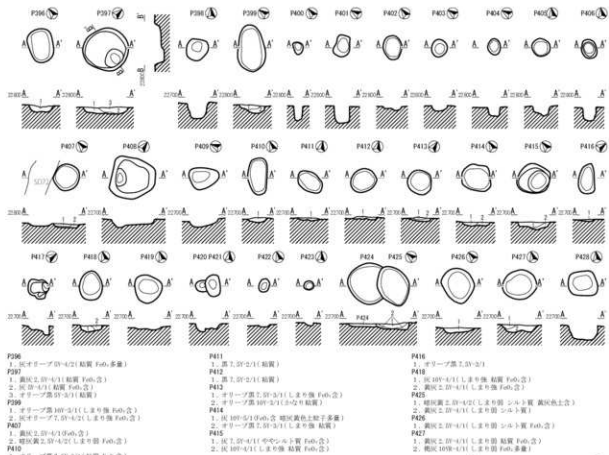
- P345**
 1. 裏面 L 2.0-4/11 (しまり目) や中シルト質 F60(少量)
 2. 前面 L 2.0-5/11 (しまり目) の積層
 3. 刃 L 3/11 (しまり目) F60(少量) 裏面 L 土プロット・砂子(含)
- P346**
 1. 前面 L 2.0-5/2 (F60(少量))
 2. オアープ面 L 2.00-5/11 (シルト質 F60(少量))
- P348**
 1. 前面 L 2.0-4/12
 2. オアープ面 L 2.0-3/2 (粘質)
- P349**
 1. 裏面 L 2.0-4/11 (シルト質 F60(少量))
- P351**
 1. 前面 L 2.0-4/11
 2. オアープ面 L 2.0-2/21 (しまり目 F60(少量))
 3. オアープ面 L 2.0-3/21 (しまり目 F60(含))
- F356**
 1. 裏面 L 2.0-4/11 (F60(少量))
 2. 前面 L 2.0-4/11 (しまり目 F60(少量))
- P358**
 1. 前面 L 2.0-3/11 (F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-4/21 (粘質 F60(含))
 3. 裏面 L 2.0-4/21 (粘質 F60(含))
- P360**
 1. 前面 L 2.0-4/21 (しまり目) や中シルト質 F60(含)
 2. 刃 L 2.0-4/11 (一部粘質 シルト質 F60(含))
 3. 後面 L 1007-4/11 (しまり目) や中シルト質 F60(含)

- P361**
 1. 裏面 L 2.0-5/11 (や中シルト質)
 2. 前面 L 2.0-5/11 (しまり目 F60(少量))
 3. 後面 L 2.0-4/21 (しまり目 F60(少量))
- P364**
 1. 前面 L 2.0-5/2 (F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-4/2 (F60(少量))
 3. 後面 L 2.0-4/11 (粘質 F60(少量))
- P365**
 1. 前面 L 2.0-5/2 (F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-5/11 (しまり目)
 3. オアープ面 L 2.0-3/11 (や中シルト質 F60(少量))
- F366**
 1. 前面 L 2.0-5/11 (F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-4/2 (しまり目)
- F369**
 1. 前面 L 2.0-3/11 (F60(少量))
 2. オアープ面 L 2.0-1/11 (粘質)
 3. 後面 L 2.0-3/2 (F60(少量))
 4. オアープ面 L 1019-3/11 (や中シルト質)
- P370**
 1. オアープ面 L 2.0-4/21 (しまり目 F60(少量))
 2. オアープ面 L 2.0-2/21 (しまり目)
 3. 後面 L 2.0-5/11 (しまり目 F60(少量))
- P371**
 1. 裏 L 2.0-2/21 (しまり目 F60(少量))
 2. 前面 L 2.0-4/21 (しまり目) や中シルト質

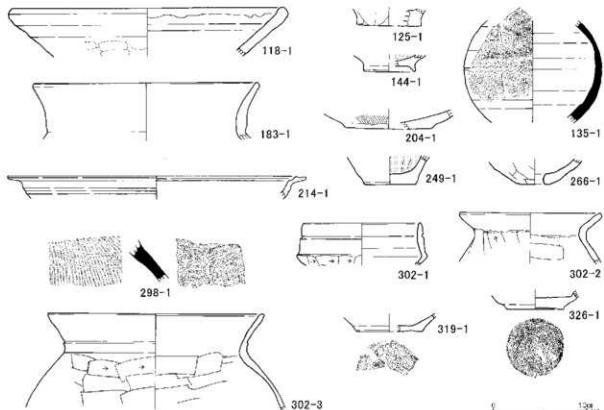
- P372**
 1. 前面 L 2.0-4/2 (F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-5/21 (シルト質 F60(少量))
 3. オアープ面 L 2.0-3/2 (粘質 F60(少量))
- P378**
 1. 前面 L 2.0-4/11 (や中シルト質 F60(含))
 2. 後面 L 2.0-5/11 (しまり目) や中粘質
- P380**
 1. 前面 L 2.0-4/11 (シルト質 F60(少量))
 2. 後面 L 2.0-5/2 (しまり目 シルト質)
- P381**
 1. 前面 L 2.0-5/2 (しまり目)
 2. 後面 L 2.0-5/11 (しまり目)
- P384**
 1. 前面 L 2.0-4/2 (や中シルト質)
 2. 後面 L 2.0-5/11 (F60(少量))
- P386**
 1. 後面 L 2.0-3/2 (しまり目) や中粘 F60(少量)
 2. 後面 L 2.0-5/11 (粘質 F60(含))
 3. 後面 L 1019-5/11 (粘質 F60(含))
- P395**
 1. 後面 L 2.0-5/21 (しまり目)

第 149 図 第 345 ~ 395 号ビット





第150図 第396～428号ピット



第151図 ピット出土遺物

第27表 ビット出土遺物観察表 (第151図)

図版No	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
118-1	瓦葺土器 片土鉢	(30.0)	(5.2)	-	ABMN	灰白 10YR 7/1	B	口縁~体部 20%	外面：口縁部強いココナデ彫形 内面：口縁部強いココナデ彫形	白地
125-1	弥生土器 壺	-	11.8	(7.0)	AEJM	外面：黄褐色 10YR 5/6 底 10YR 2/1 内面：橙 5YR 6/6	B	底部 20%	外面：下縁ヘラケズリ、摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラケズリ	
135-1	須恵器 フタコ型壺	-	(10.9)	-	AB	灰白 2.5Y 7/1 オリーブ灰 2.5GY 5/1	A	調整 40%	外面：調整痕、調整中に1本の横位沈線と 巻なるように1本半調整文も出る	外面白然焼
144-1	土師器 高台坪	-	11.8	(5.4)	ABM	外面：橙 7.5YR 6/6 内面：黒 10YR 2/1	B	底部片	内面：ヘラミガキ	内面黒色処理
183-1	土師器 壺	(24.0)	(6.1)	-	AM	外面：黄褐色 10YR 5/6 内面：明褐 7.5YR 5/6	B	口縁部片	内外面：ココナデ	
204-1	弥生土器 壺	-	(2.1)	(9.4)	ABDM	外面：明褐 10YR 4/1 内面：にぶい橙 7.5YR 7/4	B	底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
214-1	陶器 削履深皿	(32.0)	(2.4)	-	AB	にぶい黄 2.5Y 6/4	B	口縁部 2%	内外面：灰釉	瀬戸式遺系 古瀬後遺物
249-1	弥生土器 鉢	-	(2.9)	5.7	ABDM	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	底部 100%	外面：調整面著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	内面赤彩
266-1	土師器 壺	-	(2.7)	(3.0)	ABDMN	外面：灰白 10YR 8/2 内面：黒黒 10YR 3/1	B	底部片	外面：調整前に塗られた卑乳 内面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
298-1	須恵器 壺	-	-	-	AM	灰 5Y 6/1	B	口縁部片	外面：平行タテ巻 2 本のカタメ 内面：調整ココナデ 少見	
302-1	土師器 坪	(12.4)	(4.5)	-	ABDM	橙 5YR 6/6	B	口縁部片	外面：口縁部ココナデ、底部ヘラケズリ 内面：ココナデ	有段口縁
302-2	土師器 壺	(15.0)	(3.4)	-	ABEM	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	口縁~胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
302-3	土師器 壺	(23.0)	(10.2)	-	ABDMN	黄褐色 10YR 8/3	B	口縁~胴部上半片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
319-1	土師質土器 かわらけ	-	(2.0)	(7.0)	BE	外面：にぶい橙 7.5YR 5/3 内面：橙 5YR 6/6 底灰 5YR 4/1	B	10%		白地
326-1	土師質土器 かわらけ	-	(2.0)	6.0	BM	にぶい橙 7.5YR 7/3	B	底部 100%	底部厚い、ロケ口回転方向不明	白地

9 性格不明遺構

今回の調査において性格不明遺構は全部で5基出土し、大部分が形状の不明なものや、全容が判断できないことから、性格不明遺構としたものが多い。しかし、中には、土器（かわらけ）廃棄遺構や溝跡からの転化ではないかと推測できるものもあった。

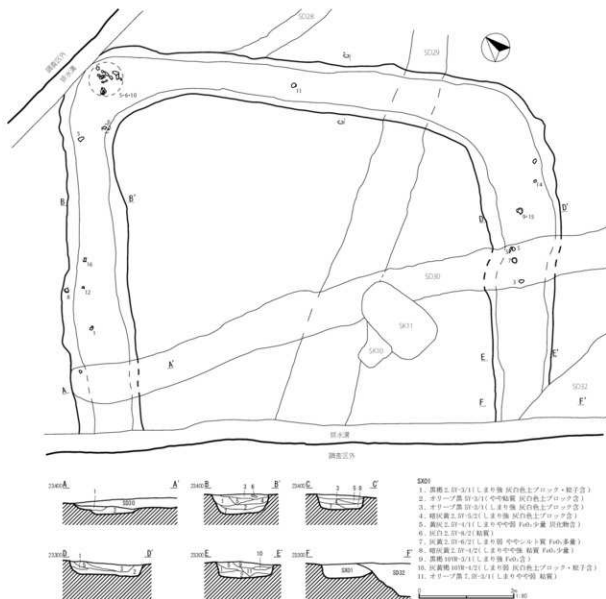
第1号性格不明遺構は、複数の溝跡と重複しており、一部が調査区域外であるが、検出状況から方形に全周するものと考えられる。掘り方は、底部が平坦で、壁はやや角度をもつが垂直に近い。深さは確認面から0.24～0.30mと浅い。複数の弥生土器壺・甕・鉢やミニチュア壺が検出しており、うち一部は北西角の底部に集中していた。全周する方形周溝墓とも推定可能であるが、周辺の掘り方と異なっていることから、性格不明遺構としている。時期は遺物から弥生時代後期前半と考えられる。

第4号性格不明遺構は、第7号方形周溝墓、第42号溝跡、第10号井戸跡と重複しており、第42号溝跡のかわらけ集中区に接する。覆土はしまりの弱い人工的な埋土であることから、用途は不明ながら、重複関係から、中世以前の掘り込みであることが推測される。

以下、紙面の都合上から、性格不明遺構の特徴等について一覧表で掲載をする。(第152～154図・第28、29表)

第28表 性格不明遺構一覧表 (第152～154図)

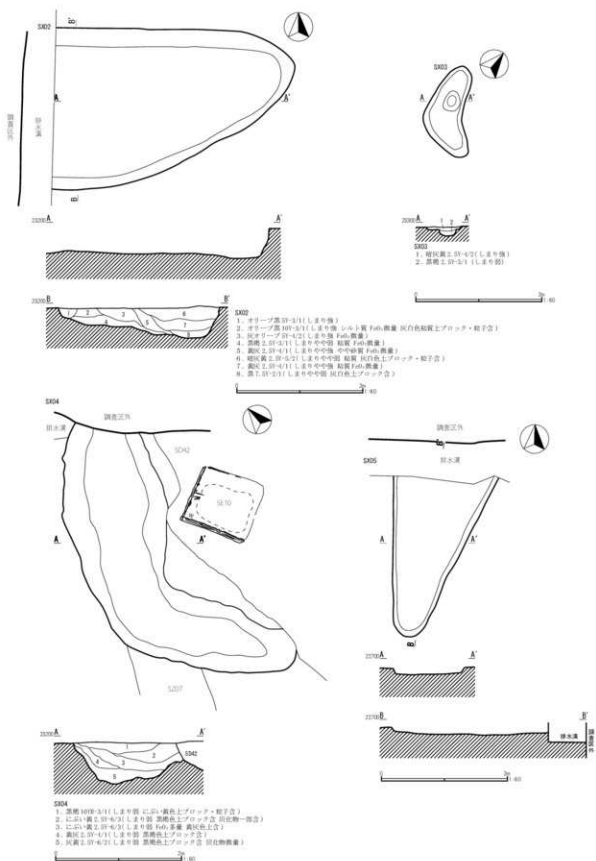
No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
1	O・P13、P14	楕円形	(7.64) × 0.87 ~ 1.79 × 0.24 ~ 0.40	弥生土器壺・小型鉢・ミニチュア壺 弥生土器壺 (地文条痕に縦波状文)	SD28・SD29・SD30・SD32	
2	R・S14・15	楕円形	(3.86) × 2.53 × 0.51	土師器坪		
3	T15	長方形	1.62 × 0.61 × 0.06			
4	T15・16	楕円形	(5.48) × 1.60 × 0.66			SD42 SZ07
5	AE26	楕円形	2.54 × 1.57 × 0.13			



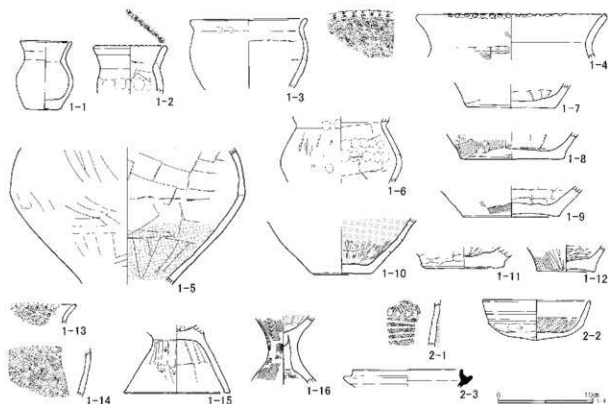
第152図 第1号性格不明遺構

第29表 性格不明遺構出土遺物観察表(1) (第154図)

No.	図種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形装の特徴等	備考
1-1	弥生土器 ミニチュア壺	(5.2)	7.2	3.7	ABDRLN	外面：橙 5YR 7/6 内面：灰白 10YR 7/1	B	ほぼ完形 90%	内外面：摩耗面著で調整面不明	
1-2	弥生土器 小型壺	(7.4)	(5.1)	-	ABRM	外面：明褐色 7.5YR 7/2 内面：にぶい黄橙 10YR 7/2	B	口縁～胴部 上半円	外面：口縁部薄いヘラツの跡み、口縁部1 裏の沈凹。胴部ヘラナデ 内面：ヘラツ後部面粗製	
1-3	弥生土器 壺	(12.2)	(7.4)	-	ABQJM	外面：灰白 2.5Y 8/2 内面：灰白 10YR 8/2	B	口縁～胴部 20%	外面：口縁左面 内面：輪削痕	
1-4	弥生土器 壺	(19.6)	(4.7)	-	ABDQJM	外面：にぶい橙 7.5YR 7/3 内面：粗灰 7.5YR 6/1	B	口縁部片	外面：口縁部部折損部。胴部磨面部状文	
1-5	弥生土器 壺	(13.7)	-	-	DFJMN	灰黄焼 10YR 4/2 粗製 10YR 3/4	B	胴中部～胴下部 30%	内外面：ヘラナデ	内面胴部下半久 欠付着
1-6	弥生土器 壺	(7.0)	-	-	AJMN	外面：にぶい黄橙 10YR 7/3 内面：粗灰 10YR 5/1 浅黄橙 10YR 8/3	B	胴部～胴部 20%	外面：ハケツ後ヘラナデ・微凹凹面 内面：ヘラケナデ折損部圧痕	
1-7	弥生土器 壺	(2.6)	9.0	-	ABDCJLN	浅黄橙 7.5YR 8/3	B	底部 100%	外面：摩耗面著で調整面不明 内面：ヘラナデ	
1-8	弥生土器 壺	(2.9)	(11.0)	-	ABEJM	外面：にぶい橙 7.5YR 7/4 内面：明褐色 7.5YR 7/2	B	底部 70%	外面：ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	
1-9	弥生土器 壺	(3.1)	10.2	-	ABEJM	外面：にぶい橙 5YR 7/4 内面：灰黄 5YR 5/2	B	底部 80%	外面：ヘラケツリ 内面：ヘラナデ	
1-10	弥生土器 鉢	(5.8)	(6.0)	-	ABDGL	外面：橙 5YR 6/6 内面：赤 10R 4/6	B	体部～底部 40%	外面：摩耗面著で調整面不明 内面：ヘラミナデ、輪削痕	内面赤彩



第 153 図 第 2～5号性格不明遺構



第154図 性格不明遺構出土遺物

第29表 性格不明遺構出土遺物観察表(2) (第154図)

No.	品種	口径	器高	底径	軸土	色調	破滅	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1-11	赤生土器 壺	-	(2.2)	8.7	AREJM	外面：橙 2.5YR 6/8 内面：黄褐 7.5YR 5/1	B	底部 100%	外面：下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
1-12	赤生土器 壺	-	(2.8)	(6.2)	ADMN	橙 5YR 6/6	B	底部 50%	内外面：ヘラミガキ	
1-13	赤生土器 壺	-	-	-	AREJM	外面：にぶい赤褐 5YR 5/4 内面：黄褐 7.5YR 3/1	B	口縁部片	外面：口縁部端ヘラ状工具による削み	
1-14	赤生土器 壺	-	-	-	AREJM	外面：灰黄褐 10YR 6/2 内面：にぶい黄橙 10YR 7/2	B	胴部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
1-15	赤生土器 付冪	-	(7.2)	11.2	AREDM	橙 5YR 6/6	B	胴部 80%	外面：ハケ目 内面：黄部・胴部ヘラナデ	
1-16	赤生土器 高坪	-	(7.2)	-	ADM	胴部にふい壺 7.5YR 7/3 内面：灰部黄褐 7.5YR 7/1	A	胴部 30%	外面：ハケ目 内面：環部ヘラナデ、胴部ヘラナデ、環部裏が突出	環部内面赤彩
2-1	赤生土器 壺	-	-	-	AREJM	外面：黄褐 10YR 6/1 内面：にぶい黄橙 10YR 7/3	B	胴部片	外面：肌、甲部織文・平行波線を孔形状の連続刺突文で区切る	外面赤彩
2-2	土器器 坪	(11.4)	(4.2)	-	ARM	灰黄褐 10YR 5/2	B	口縁～底部 45%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ミガキ	环帯模底坪
2-3	須恵器 器坪	(11.5)	(1.9)	-	AM	灰白 10YR 7/1	A	口縁～底部片	坪身の口縁立ち上がりは短く内傾	胴内面カ

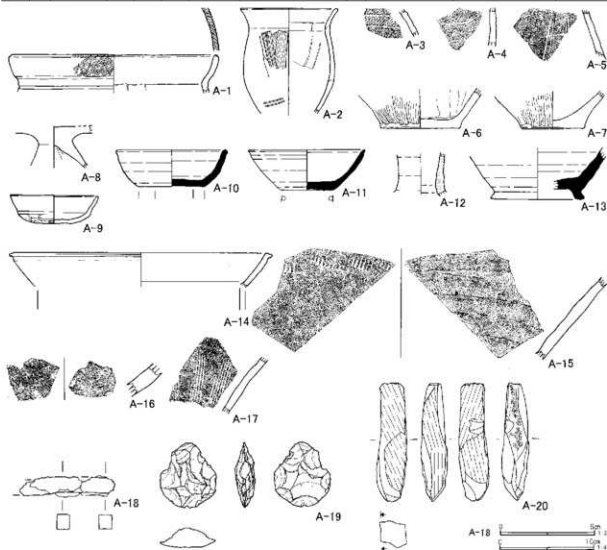
10 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物については、主に事前調査による試掘調査や、表土剥ぎの遺物である。多くは包含層や試掘調査時のものが大半である。出土位置から大まかにA～F区を個々に分類し、掲載している。

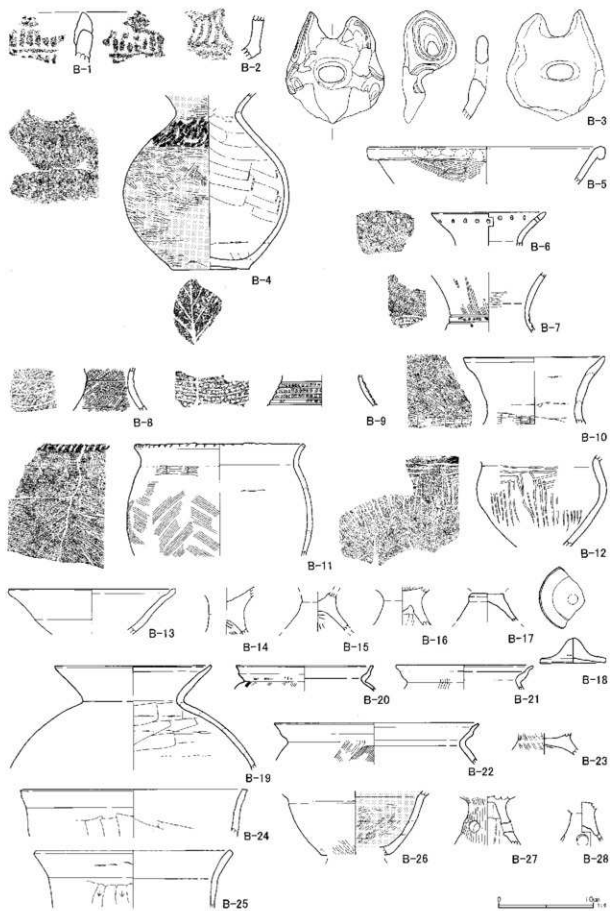
以下、遺構外出土遺物として掲載する。(第155～160図・第30～34表)

第 30 表 A 区遺構外出土土物観察表(1) (第 155 図)

遺構名	No	名称	口径	高さ	底径	粘土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
A区	A-1	赤生土器 甕	(21.4)	(4.0)	-	ABHKM	灰黄褐色 10YR 5/2	B	口縁部片	外面：口縁から底部 L.R. 半部 縄文地にへら指状彫の副文	
A区	A-2	赤生土器 小壺	(10.2)	(11.1)	-	ABH	外面：比色-黄 7.5YR 6/3 内面：灰黄褐色 10YR 5/2	B	口縁～胴部 40%	外面：へら目 内面：へらナデ	
A区	A-3	赤生土器 皿	-	-	-	ABKM	外面：比色-黄褐色 10YR 7/4 内面：灰黄褐色 10YR 5/2	B	胴部片	外面：厚唇平行状彫刻に L.R. 半部縄文を充填	
A区	A-4	赤生土器 皿	-	-	-	ABKM	黒灰 10YR 4/1	B	胴部片	外面：L.R. 半部縄文、沈線	
A区	A-5	赤生土器 壺	-	-	-	ABKM	外面：灰黄褐色 10YR 5/2 内面：黒灰 10YR 3/1	B	胴部上半片	外面：磨蝕彫刻状副文	
A区	A-6	赤生土器 壺	-	(4.1)	8.5	ABHK	外面：浅黄褐色 7.5YR 8/3 内面：灰白 10YR 8/2	B	底部 100%	外面：へらナデ 内面：へらナデ	
A区	A-7	赤生土器 壺	-	(3.9)	6.6	ADGHJLM	比色-黄 7.5YR 7/3	B	底部 100%	外面：下縁へらケズリ後へら 目 内面：へらナデ	
A区	A-8	赤生土器 右半球	-	(4.4)	-	ABJ	外面：黄 2.5YR 6/8 内面：比色-黄 7.5YR 7/4	B	接合部～底部 70%	外面：厚唇面等で磨蝕彫不明 内面：底部へらナデ	
A区	A-9	土器部 坪	9.2	3.0	-	ABDK	外面：比色-黄 7.5YR 7/3 内面：黄 7.5YR 7/6	B	口縁～底部 25%	外面：口縁部口コナデ、底部 へらケズリ 内面：底部へらミガキ	
A区	A-10	銅器部 坪	(11.8)	3.9	7.0	ABFM	灰 N 6/	B	40%	外面：底部に軸系切り難し後、 周縁部へらケズリ	南北企業
A区	A-11	銅器部 坪	12.2	4.2	5.4	ABF	灰白 10YR 7/1	B	口縁～底部 60%	外面：底部に軸系切り難し後、 周縁部へらケズリ	南北企業
A区	A-12	灰物陶器 辻皿	-	(4.6)	-	AB	灰白 5Y 7/1 外面無釉：灰オリーブ 5Y 5/3	A	胴部 70%	コケ口残さ	外面無釉
A区	A-13	銅器部 皿	-	(5.5)	(10.0)	AB	灰白 2.5Y 7/1	B	底部 40%	高台彫付け	北野産
A区	A-14	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(3.6)	-	ABM	灰 N 4/	B	口縁部 5%	口縁部が外側へ突出	和徳 15c 北～16c 中



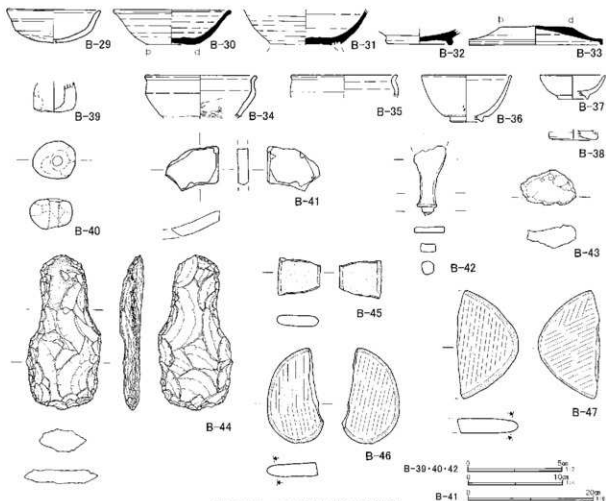
第 155 図 A 区遺構外出土土物



第156图 B区遺構外出土遺物(1)

第30表 A区遺構外出土遺物観察表(2) (第155図)

遺構名 No	名称	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
A区	A-13 陶器 器	-	-	-	ABHM	外面：灰黄緑 10YR 5/2 内面：赭灰 7.5YR 6/1	B	陶器片	外面：夕夕目 内面：赤十字	常滑系
A区	A-16 陶器 器	-	-	-	BMN	外面：にじみ-黄粉 5YR 4/4 内面：灰白 5Y 8/1	B	陶器片		常滑系
A区	A-17 土器 深鉢	-	-	-	ABKMN	外面：橙 5YR 6/6 内面：にじみ-黄粉 10YR 6/3	B	体部片	内面：6本の線目が放射状に施される	在池
A区	A-18 鉄製品 角棒状品	最大長 5.1	最大幅 0.7	最大厚 0.7		重さ 7.3 g		両端欠削	角棒の形状	
A区	A-19 石器 打製石片	最大長 7.0	最大幅 6.0	最大厚 2.1		重さ 77 g		完形	小形で寸詰りな器形。両面から鋭い刃縁で仕上げ	百石
A区	A-20 石器 破片	最大長 12.5	最大幅 3.0	最大厚 2.8		重さ 136 g		完形	3面が砥面	流石打 中砥として使用か

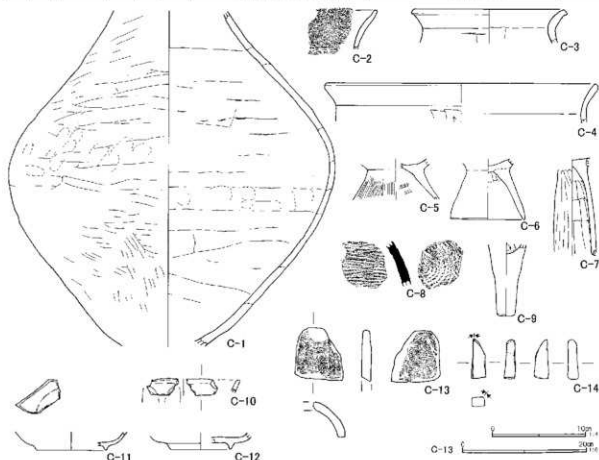


第157図 B区遺構外出土遺物(2)

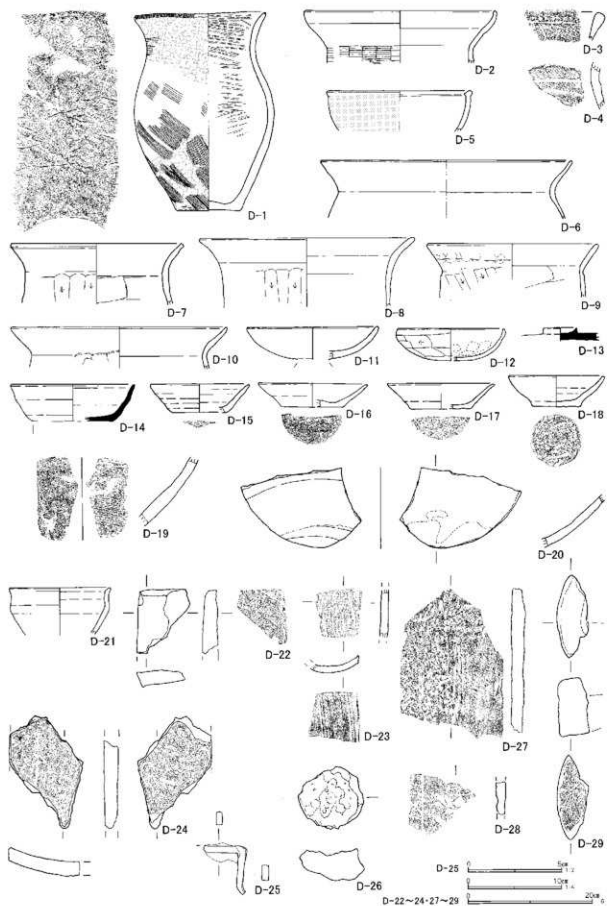
第31表 B区遺構外出土遺物観察表(1) (第156、157図)

遺構名 No	名称	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
B区	B-1 縄文土器 深鉢把手	-	-	-	ABM	浅黄緑 7.5YR 8/3	A	口縁部把手片	山形板状把手	中瀬川土器式
B区	B-2 縄文土器 深鉢把手	-	-	-	AGM	にじみ-橙 7.5YR 7/4	A	把手片	太い流線が垂下	中瀬川版式
B区	B-3 縄文土器 深鉢大形把手	-	-	-	AGM	にじみ-橙 5YR 7/4	A	口縁部把手片	正面と耳状の内面に楕円形の3孔。立体的空間をもちつ 把手	中瀬川版式
B区	B-4 弥生土器 器	-	(18.5)	(8.0)	ABDM	外面：赤 10R 4/8 橙 5YR 6/6 内面：にじみ-橙 7.5YR 7/4	B	70%	外面：口縁受帯上に筋状直線。 以下に斜白帯面	外面赤帯
B区	B-5 弥生土器 器	(24.7)	(3.9)	-	AJM	外面：橙 7.5YR 6/6 内面：にじみ-黄粉 10YR 6/4	B	口縁部 10%		折返し口縁
B区	B-6 弥生土器 器	(12.0)	(3.6)	-	ADMN	橙 7.5YR 7/6	B	口縁部 15%	外面：口縁上部に径4mmの厚 孔が8mm間隔で並ぶ	
B区	B-7 弥生土器 器	-	(5.9)	-	ADM	外面：にじみ-橙 7.5YR 7/4 内面：灰白 10YR 8/2	A	断面片	外面：ハケ目焼へろ部平洗 刷部を楕圓な竹管で刺突 内面：へろナデ	

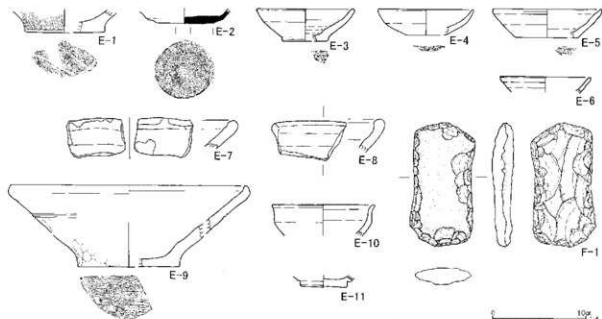
遺構名	No	部種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	残存率	手法・形態の特徴等	備考
B区	B-8	赤生土器 器	-	(4.5)	-	BM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	底部 70%	外面：LR 中部縄文地に 3 条の平行浅彫。1 条の縦状文	
B区	B-9	赤生土器 瓶	-	(3.3)	-	ABIM	外面：にぶい・橙 7.5YR 7/4 内面：にぶい・橙 7.5YR 7/3	A	胴部片	外面：へら部平行浅彫、円形刺突 内面：ナナ	
B区	B-10	赤生土器 点	(4.6)	(7.0)	-	ADGHM	灰黄褐色 10YR 6/2	B	口縁部片	外面：口縁部ハケ目、胴部縞縞状文 内面：へらナナ	
B区	B-11	赤生土器 器	17.7	(11.9)	-	AIM	にぶい・橙 7.5YR 7/4 底径 5YR 5/1	A	口縁～胴上部 25%	外面：口縁部部へらによる粗み目、胴部縞縞状文(5本一単位)、胴部縞縞位別状文(5本一単位) 内面：へらナナ	
B区	B-12	赤生土器 器	-	(9.5)	-	AJM	外面：橙 10YR 4/3 内面：にぶい・黄褐色 10YR 6/3	B	口縁～胴部片	内面：この字状重ね文 内面：へらナナ	
B区	B-13	赤生土器 高杯	(17.2)	(4.8)	-	ABIM	浅黄褐色 7.5YR 8/4	B	杯部 10%	中位僅かな縦走もつ	
B区	B-14	赤生土器 高杯	-	(5.0)	-	ABIMN	灰白 10YR 8/2	B	接合部 40%	外面：厚針跡で調整痕不明 内面：杯部へらミガキ、杯部へらナナ	
B区	B-15	赤生土器 高杯	-	(4.1)	-	DM	外面：灰褐色 5YR 8/4 内面：底径 10YR 5/1	B	接合部～胴部 70%	外面：厚針跡で調整痕不明 内面：胴部へらナナ	
B区	B-16	赤生土器 高杯	-	(4.0)	-	ABEHJMN	明赤褐色 2.5YR 5/6	B	接合部 30%	外面：厚針跡で調整痕不明 内面：杯部ミガキ、胴部へらナナ	杯部の柄を胴部に施し込んで接合
B区	B-17	赤生土器 高杯	-	(3.0)	-	ABIMN	外面：灰黄褐色 10YR 6/2 内面：浅黄褐色 10YR 8/4	B	胴部 30%	内外面：厚針跡で調整痕不明	
B区	B-18	赤生土器 器	(7.0)	2.6	-	AGJN	橙 2.5YR 6/6	B	50%	つまみは円筒状 内外面：厚針跡で調整痕不明	
B区	B-19	土器器 器	(16.6)	(11.1)	-	ABIMN	外面：明赤褐色 5YR 5/6 内面：橙 5YR 6/6	A	10%	外面：厚針跡で調整痕不明 内面：へらナナ	
B区	B-20	土器器 台付盤	(14.4)	(2.7)	-	AEJMN	にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	20%	外面：ハケ目	S字状口縁
B区	B-21	土器器 台付盤	(14.6)	(2.5)	-	AEM	にぶい・黄褐色 10YR 7/2	B	口縁部 15%	外面：ハケ目	S字状口縁
B区	B-22	土器器 台付盤	(21.3)	(4.3)	-	DJIM	外面：浅黄褐色 7.5YR 8/4 内面：浅黄褐色 10YR 8/3	B	口縁部 10%	外面：ハケ目 内面：へらナナ	S字状口縁
B区	B-23	土器器 台付盤	-	(2.2)	-	EKM	橙 2.5YR 6/6	A	接合部 20%	外面：へらナナ 内面：へらナナ	
B区	B-24	土器器 器	(23.4)	(5.1)	-	ABKDM	外面：にぶい・黄褐色 10YR 7/2 内面：にぶい・黄褐色 10YR 6/4	B	口縁部片	外面：へらナナ 内面：へらナナ	



第 158 図 C区遺構外出土遺物



第 159 图 D 区遺構外出土遺物



第160図 E・F区遺構外出土遺物

第31表 B区遺構外出土遺物観察表(2) (第156, 157図)

遺構名	No	品種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	残存率	手法・形装の特徴等	備考
B区	B-23	土師器 皿	(20.4)	(6.1)	-	ABDM	外面：浅黄粉 7.5YR 8/4 内面：にじみ-橙 7.5YR 7/3	Ⅱ	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナジ	
B区	B-26	土師器 盆状	-	(6.7)	-	ABDMN	外面：橙 7.5YR 7/6 内面：赤 10R 5/6	B	40%	内外面：毛手キ	内面赤粉
B区	B-27	土師器 盆状	-	(5.0)	-	ADDMN	にじみ-橙 7.5YR 7/4	B	脚部 15%	外面：ヘラミギキ 内面：ヘラナジ	底部3個の口 部透し
B区	B-28	土師器 盆状	-	(4.1)	-	AGHMN	橙 5YR 6/6	B	器部 30%	内外面：厚粘面著で調整毎不明	脚部1形透し
B区	B-29	土師器 鉢	(9.8)	(3.5)	-	AJK	黄緑 7.5YR 3/2	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナジ、底部 ヘラケズリ 内面：ヨコナジ	
B区	B-30	筑紫器 鉢	(12.2)	(3.6)	5.7	ABFM	灰 N 6/ にじみ-橙 7.5YR 5/4	B	30%	外面：底部部糸切り難し無調整	未野産
B区	B-31	筑紫器 皿	-	(3.8)	-	ADEGLN	外面：黄緑 10YR 6/1 内面：にじみ-橙 7.5YR 6/3	B	底部～底部 80%	外面：回転糸切り難し無調整	未野産 高台部欠損
B区	B-32	筑紫器 盆状	-	(1.7)	(6.8)	ABMN	灰白 10YR 7/1	B	底部 50%	外面：環部を回転糸切り難し 後台部付け	未野産
B区	B-33	筑紫器 器	(14.2)	(1.9)	-	ABGM	黄緑 10YR 6/1	B	天井部～口縁部 40%	外面：天井部を回転糸切り難し 無調整、底部叩く痕跡	未野産
B区	B-34	陶器 大付茶碗	(11.8)	(4.5)	-	ADM	黄緑 10YR 2/1 灰白 2.5Y 8/1	B	口縁～体部 30%	外面：鉄輪、高台周縁無輪 内面：鉄輪、茶台による鏡方 向の磨痕	瀬戸美濃系
B区	B-35	陶器 大付茶碗	(11.2)	(2.4)	-	ABI	黄緑 10YR 2/2 明黄緑 2.5Y 7/6	B	口縁部 10%	内外面：鉄輪	瀬戸美濃系
B区	B-36	陶器 小付茶碗	(9.6)	4.9	(3.4)	AB	灰白 5Y 8/2	B	10%	外面：白土化粧掛けのめり青 松文を強く	京都御系系
B区	B-37	磁器 小鉢	(7.0)	2.5	(3.2)	AB	灰白 10Y 8/	B	20%	黄緑小付と思われる	肥前系
B区	B-38	陶器 大付茶碗	-	(1.1)	高台径 (5.2)	AB	にじみ-黄橙 5YR 7/3	B	底部 10%	外面：鉄輪	瀬戸美濃系 大須陶
B区	B-39	外生土器 手捏ね土器	-	(1.6)	(2.1)	ABDGM	外面：にじみ-黄橙 10YR 7/3 内面：黄黄緑 10YR 6/2	B	60%	内外面：手捏ね、磨面加工	
B区	B-40	土器 土玉	-	1.6	-	ABI	黄緑 7.5YR 4/1	B	100%	棒に巻き付けて手捏ね成形、 ヘラケズリ、磨面加工	
B区	B-41	瓦 椀瓦	最大長 (7.0)	最大幅 (6.1)	最大厚 (1.7)	ABDM	凸面：灰白 2.5Y 7/1 凹面：灰 N 6/	B	破片	重量 107.4 g 椀瓦の角切り付近	江戸期
B区	B-42	鉄製品 鉄鏝	最大長 (5.7)	最大幅 (0.8)	最大厚 (0.3) ~ 0.4	表面径 0.6	重量 23.1 g	鉄部と鎌身部先端を欠損	鉄部は丸みをもち		
B区	B-43	柳形片	最大長 3.7	最大幅 5.9	最大厚 2.5	重さ 78.7 g		完整	伊豆産で発出著しい		
B区	B-44	石器 打製石片	最大長 16.4	最大幅 7.7	最大厚 2.3	重さ 153 g		完整	内側縁からの痕跡で成形、つ まは少ない	磨面 江戸期	
B区	B-45	石器 磨石	最大長 (4.0)	最大幅 (4.4)	最大厚 (1.1)	重さ 34.7 g		破片	扁平で両側が欠損、全面に丁 字状磨痕	磨石 石磨の可能性	
B区	B-46	石器 磨石	最大長 (10.0)	最大幅 (5.7)	最大厚 (1.4)	重さ 114.9 g		半分欠損	扁平な面を素材とし、表面2 面が磨面	磨石	
B区	B-47	石器 磨石	最大長 11.5	最大幅 (6.5)	最大厚 1.6	重さ 161.6 g		半分欠損	扁平な面を素材とし、表面2 面が磨面	磨石	

第32表 C区遺構外出土土物観察表(第158図)

遺構名 No	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
C区 C-1	赤生土器 甕	-	(36.0)	-	ABDM	外面: 橙 2.5YR 6/8 内面: にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	70%		外面: 胴部上半へラナデ、中位へラナデ、胸部直縁。下半へラミガキ。全体に器底の厚瓦 内面: へラナデ
C区 C-2	赤生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面: 橙 5YR 6/6 内面: 明赤橙 5YR 5/6	B	断面片	外面: ハケ目。胴部縁部直文 内面: ハケ目	
C区 C-3	土器器 甕	(16.0)	(3.6)	-	ABJDM	外面: 橙 5YR 6/6 内面: 明赤橙 5YR 5/8 灰黄緑 10YR 5/2	B	口縁部片	外面: へラケズリ 内面: へラナデ	
C区 C-4	土器器 甕	(29.0)	(4.2)	-	ABEGL	外面: 浅黄緑 7.5YR 8/3 内面: にぶい・黄橙 10YR 6/4	B	口縁部片	外面: へラケズリ 内面: へラナデ	
C区 C-5	土器器 付付甕	-	(4.3)	-	ABDMN	灰緑 7.5YR 6/2	B	器部 10%	外面: ハケ目 内面: 黄部・器部へラナデ	
C区 C-6	土器器 高坪	-	(6.5)	(8.0)	ABDMN	橙 5YR 7/6	B	器部 25%	外面: 厚瓦削削で調整痕不明 内面: へラナデ	
C区 C-7	土器器 高坪	-	(10.2)	-	ABJDM	外面: 浅黄緑 7.5YR 8/4 内面: 橙 5YR 7/6	B	器部 90%	外面: へラミガキ 内面: 灰部ミガキ。器部へラナデ	器部エンタシス状
C区 C-8	新石器 器	-	-	-	AB	外面: 灰 N 6/ 内面: 灰 N 5/	B	断面片	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状のアテ具痕	未野産 外面自然蝕
C区 C-9	土製品 雲土器カ	-	(7.5)	1.8	AHM	灰白 10YR 8/2		丸 二次 天底 100% 構成 粗著しい	外面: 厚瓦削削で調整痕不明 内面: へラナデ	雲土器で尖底型の深鉢とみられる
C区 C-10	磁器 青磁碗	-	-	-	AB	オリーブ灰 2.5GY 6/1	B	口縁部 5%	外面: 塗丹文	龍泉窯系
C区 C-11	磁器 染付皿	-	(1.9)	(7.4)	BM	灰白・藍色	B	底部 10%	外面: 高台箱二重器 内面: みこみ二重器	屋敷武家系 B 器
C区 C-12	陶器 土野丸皿	-	(1.8)	(6.4)	DM	外面: 灰白 5Y 8/1 内面: 灰黄 2.5Y 7/2	B	底部 40%	高台器部を除き長石蝕	瀬戸美濃系
C区 C-13	瓦 瓦瓦	最大長 (8.0)	最大幅 (7.0)	最大厚 1.5	AM	灰 5Y 6/1	B	断片	重量 121.6 g 断面: 布目	平安朝
C区 C-14	石器 小笠石	最大長 4.2	最大幅 1.6	最大厚 1.0	重さ 9.8 g				先端が鋭角な鑿片。全面が砥	龍泉窯

第33表 D区遺構外出土土物観察表(第159図)

遺構名 No	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	残存率	手法、形態の特徴等	備考	
D区 D-1	赤生土器 甕	14.0	21.0	6.7	ABJDM	外面: 赤褐 2.5YR 4/6 内面: 暗赤褐 2.5YR 3/1	B	ほぼ完形 90%		外面: 口縁部1R 草部直文。全体はハケ目 内面: 横位へラミガキ	外面胴部上半から口縁部大文字
D区 D-2	赤生土器 甕	(20.3)	(5.6)	-	ABDM	外面: 黒褐色 7.5YR 3/1 内面: にぶい・橙 5YR 6/4	B	口縁部	外面: 磨擦痕直文(7本一単位)。磨擦直文		
D区 D-3	縄文土器 深鉢	-	-	-	ABDM	にぶい・橙 5YR 7/3	B	口縁部片	外面: 口縁部直文・直文の連続 刺突と鋭角状の沈凹	口内面磨滅し、胎土に植物繊維多量含む	
D区 D-4	赤生土器 甕	-	-	-	ABEJDM	外面: にぶい・橙 7.5YR 7/4 内面: 灰白 10YR 7/1	B	断面片	外面: 2条の平行浅線と直草部直文		
D区 D-5	赤生土器 鉢	(15.2)	(4.3)	-	ABDM	にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	口縁部 10%	内外面: ミガキとみられるが、厚材のため調整痕不明	外面赤彩	
D区 D-6	土器器 甕	(27.0)	(6.1)	-	ABEJDM	外面: 橙 5YR 6/6 内面: 橙 7.5YR 7/6	B	口縁部	内外面: 厚材のため調整痕不明		
D区 D-7	土器器 甕	(18.2)	(6.5)	-	ADMN	にぶい・橙 5YR 7/4	B	口縁部	内外面: 磨擦上半 10%	外面: へラケズリ 内面: へラナデ	
D区 D-8	土器器 甕	(22.8)	(7.4)	-	ABDHBM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	口縁部	外面: へラケズリ 内面: へラナデ		
D区 D-9	土器器 甕	(18.0)	(5.7)	-	ABDM	灰黄緑 10YR 6/2 浅黄緑 10YR 8/3	B	口縁部	外面: 口縁部直縁直文。胴部へラケズリ 内面: へラナデ		
D区 D-10	土器器 甕	(23.2)	(4.5)	-	ABDMN	橙 5YR 7/8	B	口縁部片	外面: へラケズリ 内面: へラナデ		
D区 D-11	土器器 高坪	(14.0)	(3.4)	-	ABEGHJLDM	橙 7.5YR 7/6	B	器部のみ、器部は欠損	内外面: 厚材のため調整痕不明		
D区 D-12	土器器 坪	11.3	3.4	-	ADDM	外面: 橙 5YR 7/6 内面: 橙 5YR 7/8	B	80%	外面: 体部から底部へラケズリ 内面: 曲すず。断面直		
D区 D-13	新石器 器	-	(1.4)	-	AFDM	灰白 10YR 6/1	B	天井部 20%	外面: 天井部直文へラケズリ 後縁のみ付け	龍崎崎み 南北産	
D区 D-14	新石器 坪	(13.2)	(3.9)	(8.6)	ABFM	灰白 7.5YR 6/1	B	口縁部	口縁部直文直文後縁へラケズリ	南北産	

遺構名 No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
D区 D-13	土師瓦土器 かわらけ	(10.6)	3.0	(6.0)	BDM	橙 5YR 6/6	B	20%	内外面：体部にクワ痕顯著。 口々に右回転	在池
D区 D-16	土師瓦土器 かわらけ	(11.8)	2.5	(6.6)	ABJM	外面：橙 5YR 7/6 内面：浅黄橙 7.5YR 8/4	B	40%	底部中央が厚い。口々に右回転	在池
D区 D-17	土師瓦土器 かわらけ	(11.6)	2.7	(6.6)	ABDEM	外面：橙 5YR 7/6 内面：橙 2.5YR 6/6	B	30%	器内厚い	在池
D区 D-18	土師瓦土器 かわらけ	(10.2)	3.3	5.2	BDEM	浅黄橙 7.5YR 8/4	B	50%	外面：敷目瓦正縁 内面：みこみ筋ナ字直 口々に右回転	在池 古河公方系
D区 D-19	陶器 甕	-	-	-	AEM	黒灰 7.5YR 5/1	B	割部片	器内に転用しているため内面 磨れている	常置系
D区 D-20	陶器 甕類	-	-	-	ABD	灰白 5Y 7/2 にぶい・橙 7.5YR 7/3	B	体部片	内外面：土方瓦輪 外面：ヘラケズリ	瀬戸瓦遺系 古瀬戸後期
D区 D-21	陶器 天目茶碗	(10.8)	(5.0)	-	ABEM	外面：灰白 10YR 8/2 内面：浅黄橙 10YR 8/3	B	口縁～体部 10%	内外面：長石輪	白土目 瀬戸瓦遺系
D区 D-22	瓦 平瓦	最大長 (10.4)	最大幅 (8.4)	最大厚 2.5	ABEM	凸面：浅黄橙 7.5YR 8/3 灰白 灰 凹面：灰白 2.5YR 8/2	B	破片	重量 1900.9 g 凸面：木口拭き用具で具め方向 に整形後傾。噴鳴き 凹面：敷ナ字	
D区 D-23	瓦 平瓦	最大長 (7.7)	最大幅 (7.9)	最大厚 1.2	AIM	凸面：灰赤 7.5R 6/2 凹面 5YR 6/1 凹面：黒灰 7.5YR 6/1	B	破片	重量 138 g 凸面：黒甲きを走り通している 凹面：敷ナ字	平安期
D区 D-24	瓦 平瓦	最大長 (18.0)	最大幅 (11.8)	最大厚 2.3	ABDEM	凸面：橙 7.5YR 7/6 凹面：にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	破片	重量 420 g 凸面：灰目瓦正縁（斜位）、 噴鳴き 凹面：敷ナ字	在池
D区 D-25	鉄製品 かすがい	最大長 6.6	最大幅 0.8	最大厚 0.4	重さ 5.4 g			半分欠損	断面長方形	
D区 D-26	権印押	最大長 6.6	最大幅 6.9	最大厚 3.4	重さ 155.2 g			完形	発出顯著	
D区 D-27	石製品 板石磨盤	最大長(23.2)	最大幅 17.0	最大厚 2.3	重さ 1630 g			破片	碑文：阿含陀一尊様 子。蓮台。無銘	
D区 D-28	石製品 板石磨盤	最大長(10.1)	最大幅(13.0)	最大厚 1.7	重さ 320 g			破片	碑文：三尊板石磨盤の左脇内の 蓮台。無銘	
D区 D-29	掃帚	最大長 (13.1)	最大幅(5.0)	最大厚 0.2	重さ 810 g				土目、片減りしている	花園町 外面ヌス付箱

第 34 表 E・F区遺構外出土遺物観察表 (第 160 図)

遺構名 No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
E区 E-1	赤土土器 甕	-	(2.5)	(8.6)	AJM	外面：明赤焼 2.5YR 5/6 内面：橙 7.5YR 6/6	B	底部片	外面：ハケ目後ミガキ 内面：底部正縁	
E区 E-2	須恵器 埴	-	(1.6)	6.0	AFU	灰 7.5Y 6/1	B	底部 100%	底部赤切離し後周縁に転へラ ケズリ。底部十字の縁刻	南比企産
E区 E-3	土師瓦土器 かわらけ	10.5	3.4	(5.0)	EDM	浅黄橙 7.5YR 8/4	A	40%	外面：敷目瓦正縁 内面：みこみ筋ナ字直 口々に右回転	古河公方系
E区 E-4	土師瓦土器 かわらけ	(10.2)	2.7	(4.4)	ABDEM	外面：灰白 10YR 7/1 内面：灰白 7.5YR 8/1	B	10%		古河公方系
E区 E-5	土師瓦土器 かわらけ	(11.8)	3.1	(6.8)	ABJM	にぶい・橙 7.5YR 7/4	B	10%	口々に右回転	在池
E区 E-6	陶器 丸蓋	(9.8)	(1.7)	-	AB	浅黄 5Y 7/3	A	口縁部 5%	内外面：瓦輪	瀬戸瓦遺系 大塚3期
E区 E-7	瓦質土器 片口鉢	-	-	-	ABDMN	灰白 10YR 7/1	B	口縁部片	外面：口縁部強い敷ナ字	在池
E区 E-8	瓦質土器 土鍋	-	-	-	ABG3	外面：灰黄焼 10YR 6/2 内面：灰白 10YR 7/1	B	口縁部片	口縁部内側に突出	在池
E区 E-9	瓦質土器 片口鉢	(20.0)	(8.8)	(11.0)	ADGMN	黒灰 7.5YR 5/1 黒焼 7.5YR 3/1	A	口縁～底部 10%	口縁部上方にのびる 外面：口縁部に 2 本の沈線	在池
E区 E-10	陶器 天目茶碗	(11.0)	(3.2)	-	AB	にぶい・赤黒 5YR 4/4	B	口縁～体部 10%	内外面：瓦輪	志戸呂系 大塚3後半～ 4前半相当
E区 E-11	陶器 平碗	-	(1.3)	4.8	BDM	外面：灰白 2.5Y 8/2 内面：オリーブ黄 5Y 6/3	A	底部 100%	内面：瓦輪	瀬戸瓦遺系 古瀬戸後中期
F区 F-1	石製 打割石押	最大長 13.2	最大幅 6.0	最大厚 1.7	重さ 295 g			完形	磨面皮を多く残し、両側から の磨打によるつぶれがある	短形板 片岩

V 調査のまとめ

1 方形周溝墓の展開について

(1) 弥生時代中期後半から古墳時代前期における住居跡、方形周溝墓の立地について

本調査に伴い、弥生時代後期前半の方形周溝墓が6基（SZ1～SZ3、SZ5～8）、古墳時代前期初頭が1基（SZ4）の合計8基検出された。

弥生時代後期の周溝墓は、いずれも後世の掘り込みや河川流路の変更によって削られていたが、四隅切れタイプの各溝の両端に弥生土器壺（一部は底部穿孔を備える）を供えたものであった。また、SZ4は唯一、古墳時代前期初頭周溝墓で、調査区の両端を超え、調査区域外まで全長を有する（検出長19.23m）ため、隅を判断することはできないが、周囲が全周するタイプと考えられる。主軸はSZ1、5～8が北東を、SZ2～4はほぼ北を主にしている。外縁部の規模は、SZ1～3、7、8は12m前後、SZ4は19m以上、SZ6は9.36m以上と推定される。SZ5は溝の一部のみであるが、10m以上の規模と推定される。

一方、本調査では、周溝墓周辺に住居跡も点在しており、弥生時代中期後半～末が6軒（SI1、SI3～7）、弥生時代後期前半が2軒（SI8、9）である。時期は中期後半から後期前半に集中している。

第161図で示した現況地形から、調査区（A区）をつまむように微高地が、南に大きく張り出している。このような形に微高地が形成されたのは、隣接する荒川の支流である衣川が大きく影響している。図の北西に延びるU字状地形は旧河道を示す。これが示すとおり以前はかなり蛇行した形で河川流路が存在



第161図 調査地周辺の住居跡及び方形周溝墓の分布例（国土地理院より一部抜粋）

していたことを表し、現在までに残るつまみ状の微高地はこの蛇行した流路によって形成されたことが分かる。住居跡、周溝墓が形成された頃には微高地の外縁も広がっており、つまみ状ではなく、ひとつなぎに形成されていた微高地であったと推定される。よって住居跡、周溝墓ともにその微高地の南端上に位置していたと考えられる。

これまでに本遺跡、隣接する前中西遺跡と共に、発掘成果から、弥生時代中期後半～後期前半の住居跡、周溝墓が検出しており、そのことから、2遺跡にまたがっての集落が展開していたことを示している。

前中西遺跡内の集落・墓域はこれまでに検出した土器の様相から弥生時代中期後半に最盛期を迎えたようで、集落は遺跡の北部に分布し、墓域は、南部に分布していたのが次第に縮小し、中期末から後期前半には墓域は遺跡範囲の北東へと移る。

諏訪木遺跡内の集落・墓域は今回の調査範囲を含めた範囲及び諏訪木Ⅲ（事業団）の発掘成果から弥生時代中期後半から古墳時代前期まで集落が展開していたようで、集落の分布は弥生時代中期～後期までが微高地の外縁部付近に集中する。その後、古墳時代前期へ移ると微高地の内へと集落を移しており、河川流路の変更、もしくは河川氾濫により、微高地縁辺部が削られたことが推定される。

方形周溝墓の墓域はその集落の移動の間に造られており、弥生時代後期前半から古墳時代前期初頭である。墓を低地の川の影響を受けやすい位置に築造するとは考えにくいことから、この時点までは、微高地として存在していたことが推定される。

(2) 第4号方形周溝墓について

個々に周溝墓を見ると、特に注目すべきはS Z 4である。検出は一辺のみであったが、規模は検出長19.23 m、幅2.25～3.38 mで、方台部を含めた全体は370 m²の規模になる。

出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢・高坏、土師器杯・高坏・甕・壺など多量の土器が検出されている。総計すると300点以上（未実測分含）の遺物検出量があり、比率では弥生土器が35%、それ以外の土師器が65%であり、土師器が多い。弥生土器は重複関係にあるS 1 8、9からの流れ込みとみられ、いずれも弥生時代中期後半～末のものが大半である。

よって、このS Z 4の主体時期はこれら土師器から古墳時代前期初頭と判断できる。

検出している器種の割合は、甕16%、壺14%、台付甕31%、高坏・器台20%、甌8%、その他20%である。比較すると最も検出されているのは、台付甕であるが、次に多いのが高坏・器台であり、およそ40点の検出がある。埋葬者に対し、祭祀儀礼をおこなった際の用途が推定されるが、一度でこの量を用いたとは考えにくいことから、幾度かに渡って、儀礼をおこなったことが窺える。

検出している土師器8割以上が外来土器であり、一番多いのは東海系のS字口縁甕、高坏、壺、次に単口縁壺が特徴の南関東系の甕である。そして胴部の連続螺旋叩きが特徴の庄内式の畿内系がある。

東海系の外来土器のうち、S Z 4の136～145はS字口縁甕であり、いずれもS字口縁の古様相といえる。188～208は高坏であり、いずれも欠山式の古様相の特徴をもつ。

南関東系の外来土器については、103～111が単口縁壺、114～134が台付甕で、ハケ目調整は粗く、頸部、肩部、胴部がそれぞれ、縦位、横位、縦位もしくは斜位の構成をとり、いずれも布留式古様相の特徴を表す。

そして畿内系は、135は外面に刻み目の付いたタタキ痕が残る連続螺旋叩きの庄内式末期の甕である。

この胎土を観察すると緻密で焼成も良好であることから、在地産の模倣土器が多いなかで、唯一の搬入品と考えられる。

このように複数地域の土器形式が一括で検出されていることから、古墳時代前期における西からの文化の伝播を表す顕著な事例であるといえる。

2 第42号溝跡出土の土師質土器（かわらけ）と成田氏について

(1) 15世紀後半から16世紀における成田氏について

本遺跡に北接して、平安時代末に成田助高が築いたとされる成田氏館跡が所在する。成田系図によると、助高は「住幡羅郡」と記されており、助高は幡羅郡から成田の地がある埼玉郡の開発を行った人物と考えられている。のちに、成田氏庶流がこの成田の地に住し、家名を保ったと言われている。

時代は下って、文明11年(1479)には成田下総守(実名不明)が、成田の地から忍城(行田市)に移り、ここを本拠として古河公方方となっている。このことから、成田氏の忍城入城はこれ以前と考えられている。下総守を継いだのが成田(自耕齋)正等であり、近年の研究によると、正等は岩付城(さいたま市)を築城した人物であることがわかってきた。

正等は、山内上杉氏の家宰、総社長尾忠景の三男頼泰を養子として迎えている。この頼泰の実名に関東管領山内上杉房頼(または頼定)から「頼」の一字を与えられていることから、この頃には山内上杉氏・長尾氏と密接な関係にあったと考えられる。頼泰を継いだのが親泰で、長泰一氏長へと受け継がれていく。

また、成田館については、永享12年(1440)に勃発した結城合戦の翌年、結城方の一色伊予守がここに立て籠もり、幕府軍である上杉方の疋鼻和上杉憲信・長尾景伸と合戦に及んでいる。これが成田館に関する史料上の初見である。

次に、成田陣について述べる。結城合戦ののち一命を助けられた万寿王(或いは永寿王)丸は、宝徳元年(1449)、鎌倉公方に就任し足利成氏と名乗る。しかし、関東管領上杉憲忠と不仲になり、享徳3年(1454)に憲忠を謀殺する(享徳の乱)。この後、関東を舞台に成氏と山内・扇谷両上杉氏は抗争を繰り返した。

長禄3年(1459)、山内上杉氏は成氏に対峙するため、五十子(本庄市)に陣を設けたが、文明9年(1477)、成氏の支援を受けた長尾景春に攻略され、陣が崩壊する(長尾景春の乱)。そのため、時の関東管領山内上杉頼定は成氏に和睦を申し入れ、翌年1月、成氏は軍勢を引き払って成田陣に入り、半年に亘って在陣し、同年7月になって古河に帰陣している。

成氏が陣の最中、景春は陣中の成氏に対し、しきりに頼定と戦うよう要請した。しかし、和睦が成立済であるため成氏は、受け入れなかった。そこで、景春の急襲を恐れた成氏は、無事に古河に帰陣するため、金山城(群馬県太田市)城主岩松家純に助勢を求めた。岩松氏に仕えた陣僧、松蔭が著わした『松陰私語』の文明10年(1478)の項には「岩松方は300余騎を引き連れて成田御陣に駆けつけ、夜半になって岩松勢が大手を固め、築田・印東氏以下、成氏の近習の面々が搦手を固めた」と記されている。陣に大手や搦手があったということは、成田陣は城や館の形態を呈していたものと考えられる。

また、成氏の軍勢は100騎や200騎ではなかったと思われ、そこへ、岩松方の軍勢300余騎をも入れ

のような城・館であったことから、成田陣は相当な広さであったことが窺える。

② 第42号溝跡出土のかわらけの分類

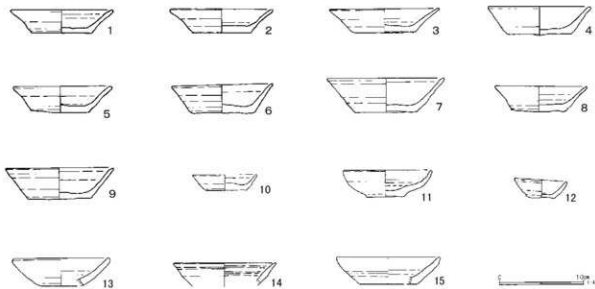
本調査区の第42号溝跡(以下、SD 42)からは、大量のかわらけが一箇所に集中して出土している(かわらけ集中地点)(口絵図版2下)。このうち、図化できたものは第127～129図1～86であり、以降これらを類型別に分類する。(第162図)

まず、1～84の形態は逆台形で、口縁部が緩やかに外反し、見込みには弱い指頭の横ナデが施される。これをA群とする。次に、85のように色調が白色系で体部内面のロクロ目が顕著であり、見込みに指頭による強い横ナデが施される、いわゆる古河公方系のかわらけをB群とする。このほか、体部の器肉が厚く内湾気味に立ち上がり、多量の砂粒を含む86をC群とする。

A群は、さらに分類すると、口径10.8cm前後、器高2.5cm前後で扁平なⅠ類(1～7、39～41、51～61)と、口径10.6cm前後、器高が2.8cm前後のⅡ類(8～20、42～50、62～73)、口径が11.4cm前後、器高が3cm以上のⅢ類(21～38、74～82)、器高が2cm以下で口径が小さいⅣ類(83・84)に分けられる。

A群のⅠ類は、さらに細分類すると、底部と体部の器肉がほぼ同じ厚さの1類(1～7)と、底部の器肉が体部より厚い2類(39～41)、底部の器肉が厚く見込み中央に凸部を持つ3類(51～61)に分けることができる。同様にⅡ類も、1類(8～20)、2類(42～50)、3類(62～73)に細分類でき、Ⅲ類は、1類(21～38)、3類(74～82)、Ⅳ類はすべて3類になる。

なお、かわらけ集中地点から出土した、かわらけの総重量32.8kgが全て中型のかわらけ(口径11.0



第162図 第42号溝跡出土土師質土器(かわらけ)分類図

第35表 第42号溝跡出土土師質土器(かわらけ)分類表

番号	検出番号	分類	番号	検出番号	分類
1	第127図3	A群Ⅰ-1類	9	第128図28	A群Ⅲ-3類
2	第127図40	A群Ⅰ-2類	10	第129図83	A群Ⅳ-3類
3	第128図51	A群Ⅰ-3類	11	第129図85	B群中型
4	第127図16	A群Ⅱ-1類	12	第122図64	B群小型
5	第128図44	A群Ⅱ-2類	13	第129図86	C群
6	第128図67	A群Ⅱ-3類	14	第122図67	D群
7	第127図21	A群Ⅲ-1類	15	第122図68	D群
8	第121図32	A群Ⅲ-2類			

cm前後)と想定すると、中型1点が約100gであることから、328点のかわらけが、まとめて投棄されたことになる。

さらに、かわらけ集中地点以外の、SD 42 出土のかわらけ(第121・122 図1～68)も同様に分類すると、1～59のA群のうちI-1類(1～6)、II-1類(7～16)、III-1類(17～26)、II-2類(27～30)、III-2類(31～33)、I-3類(34～41)、II-3類(42～50)、III-3類(51～57)、IV類(58・59)に分類できる。そして、60～64がB群、65・66はC群となる。67・68はいずれにも属さないため、ここではD群とする。

なお、かわらけ集中地点とそれ以外のSD 42 出土かわらけを比較すると、かわらけ集中地点出土のものは、SD 42 出土かわらけの1.76倍に相当する。このことから、かわらけ集中地点のものは、SD 42 で囲まれた館、または寺院内で催された宴の残滓を、本溝に一括廃棄したものと推定される。

なお、SD 42 全体のかわらけの総重量は51.4 kgとなり、前述の重量計算によると総数は514点になる。また、図化できたSD 42 全体のA群とB群のかわらけは、A群が143点、B群が6点のため、その比率は96:4となった。

③ かわらけ共伴遺物からの検証

SD 42 かわらけ集中地点(第129・130 図87～108)、それ以外のSD 42 の共伴遺物(第122～125 図69～121)には、瓦質土器のほうろく・土鍋・片口鉢、古瀬戸後期の節目付大皿・盤類・播鉢・茶壺、備前系播鉢、常滑系甕や瓦、中国産青磁碗・青磁皿・白磁皿、染付皿などがある。

ここで注目したいのは、ほうろくである。前述した、享徳の乱の際、長祿3年から文明9年(1459～1477)まで存続した五十子陣跡は、東五十子遺跡調査会が調査し、各遺構からは、山内上杉系かわらけが大量に出土しているが、ほうろくは確認されていない。

また、明応6年(1497)に山内上杉顕定が、抗争していた扇谷上杉定正の居城である河越城(川越市)に対峙するため、城の眼前に上戸の陣(同市)を築いた。永正2年(1505)までこの陣は存続したが、同市教育委員会の調査でも、山内上杉系かわらけが出土しているが、ほうろくは確認されていない。

このことから、ほうろくは16世紀前半に出現するものと考えられ、SD 42 の埋没の最終段階は16世紀前半と推定される。

このほか、本調査区のかわらけA群とB群の出土例は、SE 8からA群II-3類(第140 図8-1)、SD 14から中型(第113 図14-3～7)・小型のB群(同図14-8)と、15世紀中頃から後半の土鍋(同図14-9)が共伴しているが、ほうろくは出土していない。これらのことから、かわらけA群は、成田系かわらけの可能性が高いと考えられるのである。

以上のことを踏まえ、本諏訪木遺跡、及び周囲の成田氏の関連遺跡の発掘調査により検出された、遺構と遺物のうち、かわらけA群とB群を伴うものを中心に概観する。

平成14・15年に本調査地点の北約250mの市立成田小学校の南側で、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団)が実施した諏訪木遺跡Ⅲの調査では、D区SD 10からA群(IV-1類)1点と、大型・中型・小型のB群が計11点確認され、それと共に15世紀中頃から後半の瓦質土器の土鍋・土釜などが出土している。また、D区SE 1からは、A群III-1類と、中型のB群が共伴している。

平成23年、本調査地点の北西約400mの上之東光寺の南側で、本市教育委員会が実施した諏訪木遺

跡の調査（未報告）では、井戸跡から大型・中型のB群と、15世紀末から16世紀初頭とされる山内上杉系のかかわりが出土し、15世紀後半の瓦質土器の土鍋・火鉢が共伴している。

平成25年に本調査区の北西約350mの東光寺東側で、本市教育委員会が実施した諏訪木遺跡の調査（未報告）では、溝跡から、多量の大型・中型・小型のB群が確認され、それらと共に古瀬戸後Ⅳ期（1440～80年代）の縁軸小皿、常滑第10型式（1450～1500年代）の甕が出土している。また、井戸跡からは山内上杉系のかかわりが出土している。

古河公方足利氏と山内上杉氏は、当時、闘争を繰り返す中でも何度も和睦をしており、こうした両軍和睦の間に催された宴の残滓を、井戸に廃棄したと推定できる。

なお、この3箇所調査地点で、かわらけA群やB群が出土した各遺構からは、ほうろくは確認されていない。このことから、これらの遺構は15世紀後半に属するものと考えられ、古河公方足利成氏が、成田陣に在陣していた時期に相当する。

平成13年に本調査区の北東約300mで、事業団が実施した諏訪木遺跡の調査では、C区SD20から小型・中型のB群が出土し、SD21からは瓦質土器のほうろく・片口鉢と共にA群Ⅱ-1類と小型のB群が共伴している。また、C区SE2からは、中型のB群が確認されている。

平成27年に本調査区の北接する一乗院の境内地内で、本市諏訪木遺跡調査会・同教育委員会が実施した諏訪木遺跡Ⅲの調査では、SD10から少量のA群、中型・小型のB群が確認され、それに伴って瓦質土器のほうろく・15世紀後半の土鍋、中国産の染付皿B1群が出土している。

以上のことから、これまでの調査により諏訪木遺跡からは、B群が多量に出土し、次にA群、そして少量の山内上杉系かわらけの3種類が確認でき、古河公方に関連する遺構・遺物が確認されたことから、遺跡の一部が成田陣であることが推定される。

一方、昭和60～62年に、行田市郷土博物館準備室が実施した忍城跡（行田市）の調査では、堀跡や橋・杭列・竹組などが確認されている。遺物は15世紀後半から19世紀前半の土器・陶磁器類が中心で、18世紀以降が多く、17世紀以前の遺物は少ない。しかし、少量であるが16世紀前半とされる第2次調査の堀跡の第14層からは、破片のA群、中型のB群が出土し、底部破片であるが山内上杉系と思われるかわらけが出土している。この時期の遺物が少ないのは、築城以来、頻繁に堀渡いが行われたことが原因と考えられる。

また、騎西城主小田氏が忍城主成田親泰の子、助三郎を養子に迎えた騎西城跡・騎西城武家屋敷跡（現加須市、旧騎西町）でも昭和56年から調査が行われている。このうち、昭和61年から平成元年に町教育委員会が実施した同武家屋敷跡（KB10区調査）では、「コ」の字状の溝跡（第1・4号溝跡）や、土坑・井戸跡・障子堀跡などが確認されている。「コ」の字状の溝跡から出土したかわらけは、少量のA群とともに多量の中型のB群や、小型のB群が確認され、共伴した遺物には、常滑11型式（1500～50年代）の片口鉢や古瀬戸平碗・縁軸小皿、瀬戸美濃大窯第1段階（1480～1530年代）の播鉢、瓦質土器のほうろく・土鍋・播鉢・土釜などがある。これらの遺物から溝跡の年代は、15世紀後半から16世紀前半と考えられている。調査報告のかわらけは、A群が7点（Ⅱ類が1点、Ⅱ-1類が5点、Ⅲ-1類が1点）、B群は51点であることから、その比率は12:88となり、本調査区のSD42出土かわらけとの比率が逆転している。

なお、平成8・9年に事業団が実施した同武家屋敷跡の調査では、堀跡からA群が4点(Ⅱ-1類が3点、Ⅲ-3類が1点)、中型のB群が1点出土している。共存した遺物には、瀬戸美濃大塚第2段階(1530～60年代)の播鉢、瓦質土器のほうろく・播鉢・火鉢などがある。また、SE8からは、A群が3点(Ⅲ類が1点、Ⅲ-1類1点、Ⅲ-2類1点)と共に中型のB群が出土している。そして、15世紀中から後半の瓦質土器の土鍋が共存している。

15世紀末頃、騎西城には成氏の奉行衆である小田頼家が入城し、16世紀前半に親泰の子、助三郎を養子に迎え、騎西城をこれに譲り自分は種垂村(種垂城)に隠居した。この頃、助三郎は古河公方であったが、しだいに公方から離れていく。

弘治4年(1558)、古河公方足利義氏が重臣の築田晴助に宛てた書状には「義氏は助三郎に対し、何度も晴助の麾下に属するよう命じてきたが、異議申し立てをして命令に応じない」と記されている。この頃から助三郎は、親泰の子である実兄の忍城主成田長泰に従い、永禄3年(1560)、上杉景虎(謙信)の第2次関東出陣に際しては、兄の長泰と共に景虎に従属した。

以上のように、小田氏は15世紀後半には古河公方であったが、養子の助三郎に代替わりすると16世紀前半には成田市に従っていることがわかる。騎西城武家屋敷跡で確認された「コ」の事情の溝跡から出土した遺物は、まさにこの時代を反映しているものであり、この代替わり時点では公方であったため、古河公方系のかかわりB群が多く、成田系と考えられるA群が少なかったのである。

(4) 連歌から成田氏をたどる

成田氏は文明11年には忍城主となるが、成田の地における全ての成田氏一族が忍城に移ったとは考えにくい。そこで、成田氏は連歌を好み何度も連歌会を催していたことから、その事跡をたどってみたい。

まず、文明18年(1486)に京都聖護院門跡の道興准后が、聖護院末寺の掌握を目的として、東国を廻国した際に著わした『廻国雜記』には「なり田といへる所にて歌を詠む」と記されており、また、明応8年(1499)の夏に連歌師の猪苗代兼載が、成田左衛門大夫の家で連歌会を興行し、同じ頃、やはり兼載が左衛門大夫の家にて、夏と秋に歌を詠んでいる。

続いて、永正6年(1509)冬には、連歌師柴屋軒宗長が成田下総守頼泰亭を訪れ、千句興行を催している。天文末年頃(1550～54)には、成田長泰が連歌会を興行しており、永禄9年(1566)8月にも長泰が、忍城外皿尾の別荘で中秋の月見の宴を開き、連歌会を催したという。そして、長泰の子、氏長は天正8年(1580)、連歌師里村紹巴に依頼して、源氏物語二十巻抄を送ってもらっている。室町時代、連歌は源氏物語に由来する詞が多く使われるようになったため、氏長も基本的な教養として源氏物語を受容したのである。

さらに、天正13年(1585)、連歌師猪苗代兼如が氏長のもとに夏から冬にかけて逗留し、兼如の発句でたびたび歌会を催している。

道興准后や猪苗代兼載を招いて催された連歌会は、成田の地で興行されたものと思われ、文明11年に成田下総守が忍城に入城した後も、忍城主成田氏、或いはその一族が成田の地で連歌会を催していたことが窺える。

成田氏はこのような記録に残る連歌会以外にも、歌会を多く催したものと思われ、連歌に精通していたのである。なお、天正18年(1590)の忍城開城後、氏長は京都に多く滞り、都の一流の風流人と

頻りに連歌会を催しており、歌壇上での活躍が顕著であった。

また、連歌会には宗匠（師匠）として連歌師が招かれ、酒食を共にしながら行われることも多く、一定の約束事に従って、参加者は創造の世界を共有しながら、親密な人間関係を深めていったのである。

こうした、宴の席や儀式・儀礼の場で使われるかわらけは、一度しか使わない清浄な器であった。かわらけは、主にその土地周辺で生産されたと考えられており、大人数の宴などでは大量に使用され、ゴミと共に使い捨てられたのである。その一例として、一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）がある。この遺跡は、永禄10年（1567）、室町幕府將軍足利義秋を迎えた朝倉義景の館跡で、館の堀跡からは数トンに及ぶかわらけが出土したことから、將軍を迎えた際に盛大な饗宴が行われ、その残滓を捨てたものと考えられている。

以上のことから、本調査区のS D 42で出土した多量のかわらけにおいても、溝で囲まれた館または寺内で、宴が催されたことを物語るものであるが、想像を逞しくすると、成田氏が16世紀前半にこの地で連歌会を興行し、多量のかわらけを用い、贅を尽くした酒食を伴う盛大な歌会が催されたものとも考えられる。

なお、末筆ではありますが本報告書作成にあたり、多忙にもかかわらず、忍城跡出土かわらけを実見させていただいた、行田市郷土博物館館長鈴木紀三雄氏、並びに学芸員浅見貴子氏に感謝の意を表します。

引用・参考文献（弥生時代～古代）

熊谷市 1963 『熊谷市史』前編

2015 『熊谷市史』資料編1 考古

2018 『熊谷市史』通史編上巻 原始・古代・中世

熊谷市教育委員会 2000 『西別府祭祀遺跡』

2003 『三ヶ尻遺跡Ⅲ』

2003 『一本前遺跡Ⅳ』

2006 『拾六間後遺跡』-熊谷都市計画事業龍原第二土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書-

2010 『前中西遺跡Ⅴ』-熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅵ-

2012 『前中西遺跡Ⅶ』-熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅶ-

2013 『前中西遺跡Ⅷ』-熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅷ-

2014 『萩山遺跡』

2016 『池ノ上遺跡』熊谷市教育委員会

2016 『樋の上遺跡Ⅱ』-幹線3号線道路改良事業地内遺跡発掘調査報告書

熊谷市遺跡調査会 2001 『諏訪木遺跡』

2009 『合羽山遺跡』熊谷市合羽山遺跡調査会

2012 『樋の上遺跡』

2013 『上之古墳群・諏訪木遺跡』

熊谷市石原古墳群調査会 2008 『石原古墳群第2号墳』

熊谷市前中西遺跡調査会 2014 『前中西遺跡Ⅷ』

- ①埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2011『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告書 第380集
 2011『川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告 第375集
 2013『川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告 第400集
 2002『池上／諏訪木』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第283集
 2008『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告 第351集
- 田口一郎 1984「烏川・井野川流域における古墳出現期の様相」『古墳出現期の地域性』
 若狭 徹 1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳』1 群馬土器研究会
 柿沼幹夫 2006「岩鼻土器について」『土曜考古』第30号 埼玉考古学会
 吉田 稔 2007「2土器研究 中期土器編年」『埼玉の弥生時代』六一書房
 川西直樹 2007『市谷仲之町遺跡Ⅷ』三井不動産株式会社 加藤建設株式会社
 鈴木康好 2009『山吹町遺跡』- (仮称) 神楽坂山吹町計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 野村不動産株式会社 加藤建設株式会社

(中世・近世)

- 埼玉県 1986『新編 埼玉県史』資料編8 中世4 記録2
- ①埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989『金井遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第86集
 1989『金井遺跡B区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第146集
 1992『稲荷前遺跡(A区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第120集
 1994『稲荷前遺跡(B・C区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第145集
 1999『私市城武家屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第222集
 2002『池上／諏訪木』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第283集
 2008『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第351集
- 愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史』別編 窯業3 中世・近世 常滑系
 愛知県瀬戸市 1998『瀬戸市史』陶磁史編 六
 熊谷市 2013『熊谷市史』資料編2 古代・中世 本編
 2015『熊谷市史』資料編1 考古
 2018『熊谷市史』通史編上巻 原始・古代・中世
 熊谷市教育委員会 2017『諏訪木遺跡Ⅲ』埋蔵文化財調査報告書 第25集
 安芸穂子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹 1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)」『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 別冊
 秋本太郎 2005「上野と周辺地域との関係—在り地土器の分布論から探る—」第1回内陸遺跡研究会シンポジウム資料集『海なき国々のモノとヒトの動き—16～17世紀における内陸部の流通—』内陸遺跡研究会
 2008「戦国期北関東のかわらけ—戦国大名支配との関係—」『戦国大名北条氏』中世東国の世界3
 鷺宮町役場 1986『鷺宮町史』通史編上巻
 寄居町教育委員会 2006『史跡鉢形城跡』第1期保存整備事業発掘調査報告 史跡鉢形城跡調査報告 第3集
 市村高男 1994『戦国期東国の都市と権力』思文閣出版
 岩槻市教育委員会 2005『岩槻城と城下町』いわつき郷土文庫 第三集
 江戸遺跡研究会 2001『図説 江戸考古学研究辞典』
 東五十子遺跡調査会 2002『東五十子・川原町』児玉郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告
 大成可乃 2011「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(2)」『東京大学構内遺跡調査研究年報』7

- 大橋康二 1984 『肥前陶磁の変遷と出土遺物』『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 菊川町教育委員会 2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』
- 騎西町教育委員会 2001 『騎西町史』考古資料編1
2005 『騎西町史』通史編
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念
2001 『国内出土の肥前陶磁』東日本の流通をさぐる
- 黒田基樹 2012 「総論 戦国期成田氏の系譜と動向」『武蔵成田氏』論集戦国大名と国衆7 岩田書院
- 篠崎潔・平田重之 1989 『臼樹原・楡木下』I (阿保境の館跡) 中世編 臼樹原・楡木下遺跡調査会報告書第1集
- 島村範久 2005 「騎西(私市)城跡」『シンポジウム埼玉の戦国時代検証比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2009 「騎西(私市)城跡」『戦国の城』高志書院
- 嶋村英之・嶋村馨 2017 『騎西城武家屋敷跡』KB10区調査 一「中近世編」遺物1 加須市埋蔵文化財調査報告書 第10集
- 霜川遠志 訳 1981 『関八州古戦録』(上) 教育社
- 高橋良雄 訳 2004 「廻国雜記」『中世日記紀行文学全評釈修正』第七巻 勉誠出版
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器について—特に河越館跡および周辺出土を中心に—」『川越市埋蔵文化財調査報告書(X1)』川越市教育委員会
2005 「山内上杉氏の土器(かわらけ)とは」『戦国の城』
2010 「葛西城と扇谷上杉のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol.1 行田市郷土博物館
- 富田勝治 2012 「忍城退出後の成田氏の動向」『武蔵成田氏』論集戦国大名と国衆7 岩田書院
- 中野晴久 2013 『中世常滑窯の研究』博士(文学)論文 愛知学院大学大学院
- 藤澤良祐 1987 「本業焼の研究(1)」『研究紀要』VI 瀬戸市歴史民俗資料館
1987 「本業焼の研究(2)」『研究紀要』VII 瀬戸市歴史民俗資料館
1987 「本業焼の研究(3)」『研究紀要』VIII 瀬戸市歴史民俗資料館
2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『研究紀要』第10輯(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 二木謙一 2013 『図解』戦国合戦がよくわかる本 武器・組織・戦術から論功行賞まで PHP研究所
- 峰岸純夫 校訂 2003 『長楽寺永禄日記』『史料纂集』135(株)統群書類完成会
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

写 真 图 版



A区 全景 (左が北西)



B区 全景 (左が北西)



F区 全景 (上为北西)



D区 全景 (上为北西)



第1号住居跡 (南から)



第2号住居跡 (南から)



第3号住居跡 (上が北)



左: 第4号住居跡 右: 第5号住居跡 (上が北)



第6号住居跡 (上が北西)



第4号住居跡 遺物検出状況



第6号住居跡 遺物検出状況



第7号住居跡 (南から)

図版 4



第8号住居跡(北から)



第9号住居跡(北から)



第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡



第2号方形周溝墓(上が北東)



第1号方形周溝墓 南周溝東端 出土遺物(北西から)



第4号方形周溝墓(上が東)



第4号方形周溝墓（西から）



第4号方形周溝墓 遺物検出状況(1)



第4号方形周溝墓 遺物検出状況(2)



第4号方形周溝墓 遺物検出状況(3)



第4号方形周溝墓 遺物検出状況(4)

図版 6



第5号方形周溝墓 (左が北)



第5号方形周溝墓 北西周溝北端 出土遺物 (北から)



第6号方形周溝墓 (南から)



第7号方形周溝墓 南周溝西端 出土遺物 (西から)



第8号方形周溝墓 (上が北)



第8号方形周溝墓 西周溝南端 出土遺物 (東から)



第2号河川跡 土層断面



第2号河川跡 土層断面



第2号河川跡 木杭・矢板検出状況



第2号河川跡 木杭・矢板検出状況



第3号河川跡 (東から)



第6号溝跡 (南から)



第9号溝跡 (南から)



第11・12号溝跡 (南から)



第13号溝跡 (北から)



第14号溝跡 (南から)



第15号溝跡 (南から)



第16号溝跡 (南から)



第18・19号溝跡(北から)



第21、22号溝跡(東から)



第24号溝跡(南から)



第29号溝跡(東から)



第29号溝跡 遺物検出状況



第29号溝跡 遺物検出状況



第30号溝跡(東から)



第32号溝跡(北から)



第40・41号溝跡（南から）



第42号溝跡 遺物検出状況



第42号溝跡 遺物検出状況



第42号溝跡（南から）



第42号溝跡（西から）

図版 10



第 49 号溝跡 (南から)



第 51 号溝跡 (東から)



第 58 号溝跡 (西から)



第 59 号溝跡 (南から)



第 60 号溝跡 (東から)



第 61 号溝跡 (東から)



第 62 号溝跡 (東から)



第 64 号溝跡 (南から)



第 67 号溝跡 (南から)



第 68 号溝跡 (西から)



第 64、67 号溝跡 (南から)



第 1 号井戸跡 (南から)



第 3 号井戸跡 (南から)



第 4 号井戸跡 (南東から)



第 5 号井戸跡 (南から)



第 6 号井戸跡 (南から)



第 10 号井戸跡 (南東から)



第 8 号井戸跡 (南から)



第 9 号井戸跡 (西から)



第 11 号井戸跡 (南から)

図版 12



第 5 号土坑 (西から)



第 12 号土坑 (南から)



第 23 号土坑 (南から)



第 22 号土坑 (南西から)



第 35 号土坑 (上が北)



第 1 号性格不明遺構 (北から)



第 18 図 1・2



第 22 図 1



第 22 図 3



第 22 図 4



第 22 图 5



第 22 图 14



第 22 图 28

第 22 图 29



第 26 图 1



第 27 图 6



第 22 图 上: 6·8~10, 中: 11~13·15·16, 下: 17~20



第 22 图 22~25·27



第 23 图 30·31



第 26 图 2



第 27 图 1~5·7



第 29 图 1



第 29 图 3

第 29 图 8



第 31 图 2



第 33 图 1



第 33 图 2



第 29 图 2



第 29 图 6



第 29 图 7



第 31 图 1 · 3



第 33 图 上: 3~7, 中: 8~11, 下: 12·14~16



第 33 图 13



第 33 图 17 ~ 30



第 33 图 31 ~ 44



第 33 图 50

第 33 图 52



第 33 图 56 · 57

第 33 图 58



第 35 图 1



第 35 图 2

第 35 图 4



第 35 图 3



第 38 图 1 - 1 · 2 - 1 ~ 2 - 3



第 40 图 1



第 40 图 2



第 42 图 1 ~ 4



第 42 图 8

第 42 图 9



第 44 图 1 ~ 3



第 46 图 2



第 46 图 4



第 46 图 8



第 46 图 10



第 46 图 13



第 46 图 15



第 46 · 47 图 17 · 27 · 28 · 43



第 47 图 97



第 47 图 106



第 47 图 105



第 48 图 112



第 48 图 109



第 48 图 114



第 48 图 115

图版 18



第 48 图 123



第 48 图 124



第 49 图 126



第 49 图 127



第 49 图 128



第 49 图 129



第 49 图 130



第 49 图 131



第 50 图 133



第 50 图 134



第 50 图 135



第 51 图 158



第 51 图 193



第 52 图 197



第 52 图 206



第 52 图 211 · 213



第 52 图 212



第 52 图 214

第 52 图 215



第 54 图 1



第 54 图 2



第 54 图 3



第 55 图 4 ~ 8



第 55 图 9



第 55 图 11



第 55 图 10



第 55 图 13



第 55 图 14



第 57 图 1



第 59 图 1



第 59 图 2



第 61 图 1



第 61 图 2 下：底部穿孔



第 61 图 3



第 61 图 4



第 61 图 6



第 64 图 1



第 64 图 7



第 65 图 58



第 65 图 80



第 65 图 60



第 65 图 63



第 65 图 84



第 65 图 86



第 66 图 92



第 65 图 62



第 65 图 64



第 65 图 85



第 66 图 91



第 66 图 93



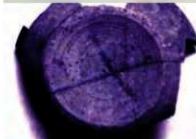
第 66 图 99



第 66 图 100 (赤外線加工)



第 66 图 101



第 65 图 87 (赤外線加工)



第 65 图 88 (赤外線加工)



第 66 图 102 (赤外線加工)



第 65 图 89 (赤外線加工)



第 65 图 90 (赤外線加工)



第 66 图 103 (赤外線加工)



第 66 图 104 (赤外線加工)



第 66 图 105



第 66 图 108



第 66 图 110



第 66 图 111



第 66 图 112

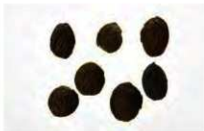
图版 24



第 66 图 113 · 114



第 67 图 115



第 2 号河川跡 種子 (桃)



第 68 图 125



第 68 图 126



第 68 图 127



第 68 图 128



第 69 图 1



第 69 图 3



第 69 图 4



第 69 图 5



第 113 图 14-3



第 113 图 14-4



第 113 图 14-5



第 113 图 14-6



第 113 图 14-7



第 113 图 14-8



第 113 图 14-9



第 113 图 14-12



第 113 图 15-1



第 113 图 15-3



第 113 图 17-7



第 113 图 17-8



第 113 图 17-4



第 113 图 17-9



第 113 图 17-12



第 113 图 17-14



第 114 图 17-15

图版 26



第 114 图 18-16



第 114 图 21-6



第 115 图 24-22 第 115 图 24-23



第 116 图 29-1 上部：籽痕



第 116 图 29-4



第 116 图 29-8



第 114 图 19-1



第 115 图 24-20



第 115 图 24-24·25



第 116 图 29-2



第 114 图 19-14



第 115 图 24-14



第 115 图 24-26 凸脐部分



第 116 图 29-3



第 116 图 29-5



第 116 图 29-6



第 116 图 29-7



第 116 图 29-9



第 116 图 29-10



第 117 图 29-11



第 117 图 29-13



第 117 图 29-16



第 117 图 29-23



第 117 图 29-24



第 117 图 32-5



第 117 图 32-7



第 117 图 32-8



第 118 图 32-9

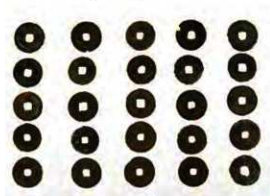


第 118 图 上: 32-10 · 12, 下: 13 · 14 · 15



第 118 图 32-16

第 118 图 32-17



第 118 图 32-22 ~ 46



第 118 图 32-48



第 118 图 32-47



第 32 号沟迹 种子



第 33 号沟迹 种子



第 118 图 37-1



第 118 图 37-2



第 118 图 37-3

图版 28



第 119 图 上: 43-1·2·44-2、下: 43-3



第 119 图 44-3



第 119 图 49-8



第 119 图 49-3



第 119 图 49-7



第 119 图 60-1



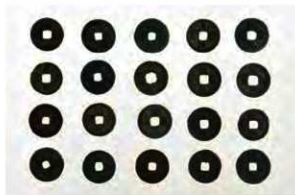
第 119 图 60-3·4 左: 外面 右: 内面



第 60 号沟跡 種子 01



第 60 号沟跡 種子 02



第 120 图 1 段目: 60-8·12~15、2 段目: 19·22·23·
25·26、3 段目: 27·28·33·37·41、4 段目: 42·45~48



第 119 图 60-5



第 119 图 60-6·7



第 120 图 61-5



第 120 图 62-1



第 120 图 68-1



第 120 图 68-2



第 120 图 68-3



第 68 号沟跡 種子



第 121 图 1



第 121 图 4



第 121 图 9



第 121 图 11



第 121 图 17



第 121 图 22



第 121 图 28



第 121 图 30



第 121 图 31



第 121 图 33



第 121 图 36



第 121 图 37



第 122 图 45



第 122 图 49



第 122 图 51



第 122 图 57



第 122 图 58



第 122 图 59



第 122 图 63



第 122 图 64



第 122 图 65 · 68



第 122 图 69



第 122 图 70

图版 30



第 122 图 71



第 122 图 72



第 122 图 73



第 123 图 74



第 123 图 77



第 123 图 78



第 123 图 81



第 123 图 82



第 123 图 83



第 123 图 84



第 123 图 85



第 123 图 86



第 123 图 87



第 123 图 88



第 124 图 89 · 90



第 124 图 92 · 94

图版 32



第 124 图 95



第 124 图 96 左：外面、右：内面



第 124 图 97·99



第 124 图 98



第 124 图 100



第 124 图 101 左：外面、右：内面



第 124 图 102



第 124 图 105



第 124 图 108



第 124 图 103



第 125 图 110



第 125 图 112



第 125 图 115



第 125 图 118



第 125 图 121



第 126 图 123



第 125 图 119



第 126 图 122



第 127 图 6



第 127 图 7



第 127 图 8



第 127 图 9



第 127 图 21



第 127 图 30

图版 34



第 127 图 39



第 128 图 41



第 128 图 44



第 128 图 47



第 128 图 53



第 128 图 59



第 128 图 64



第 128 图 67



第 128 图 78



第 129 图 81



第 129 图 83



第 129 图 84



第 129 图 85



第 129 图 87



第 129 图 88



第 129 图 89



第 129 图 91 · 92



第 129 图 96



第 130 图 102 · 105



第 130 图 103



第 130 图 108



第 136 图 5-1



第 136 图 12-1



第 136 图 12-2



第 136 图 12-3



第 136 图 12-6



第 136 图 12-4



第 136 图 16-2



第 136 图 16-3



第 137 图 16-4



第 137 图 16-5



第 137 图 16-6



第 137 图 20-1



第 137 图 20-3



第 137 图 24-1



第 137 图 24-2



第 137 图 22-1



第 137 图 28-1



第 137 图 35-3



第 137 图 35-4



第 137 图 35-5



第 140 图 2-2



第 140 图 3-1



第 140 图 3-3



第 140 图 4-1



第 140 图 5-1 · 2



第 140 图 5-3



第 140 图 8-1



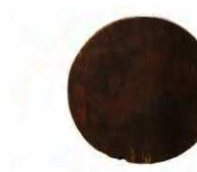
第 140 图 9-2



第 140 图 11-1



第 140 图 11-4



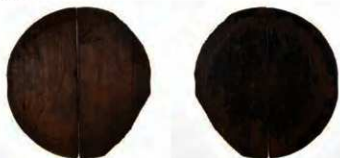
第 140 图 11-5



第 140 图 12-1



第 141 图 12-2



第 141 图 12-3 左：外面、右：内面



第 151 图 118-1



第 151 图 135-1



第 151 图 214-1



第 151 图 302-3



第 154 图 1-1



第 154 图 1-3



第 154 图 1-5



第 154 图 1-6



第 154 图 2-2



第 155 图 10



第 155 图 11



第 155 图 2



第 155 图 15



第 155 图 19



第 155 图 18



第 155 图 20



第 156 图 4



第 156 图 18



第 157 图 30



第 157 图 31



第 157 图 33



第 157 图 34 右：茶笕痕



第 157 图 36



第 157 图 39



第 157 图 40



第 157 图 42



第 157 图 43



第 157 图 44



第 157 图 46



第 157 图 47



第 158 图 1



第 158 图 9



第 158 图 14



第 158 图 10 ~ 12



第 159 图 1



第 159 图 12



第 159 图 13



第 159 图 14



第 159 图 18



第 159 图 20



第 159 图 21



第 159 图 26



第 159 图 27



第 159 图 28



第 160 图 F-1



第 160 图 E-3

報 告 書 抄 録

ふりがな	すわのきいせき							
書名	諏訪木遺跡IV							
副書名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	第35集							
編集者名	腰塚 博隆							
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会							
所在地	〒360-0107 熊谷市千代329番地 熊谷市立江南文化財センター TEL048-536-5062							
発行年月日	西暦2020(令和2)年3月27日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(°′″)	(°′″)		(㎡)	
すわのきいせき 諏訪木遺跡	くまがやしかみの 熊谷市上之2954 番4 ほか	11202	59-016	36° 8′ 55.3″	139° 24′ 29.8″	20160411 ～ 20180316	5527.42 ㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
諏訪木遺跡	集落跡 墓域 寺院	弥生時代 中期、後期 古墳時代 前期、後期 平安時代 中近世	住居跡9軒 掘立柱建物跡2軒 方形周溝墓8基 河川跡3条 溝跡75条 土坑46基 井戸跡13基 ピット428基	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器(かわらけ)・瓦質土器・陶磁器・瓦・銭貨・板石塔婆・石器		微高地と低地の境を意識し、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての計画的な墓域が展開されたことが推定できる。隣接寺院に南接する調査区からは寺院区画溝とともに土師質土器(かわらけ)が多量に廃棄されていた。		

埼玉県熊谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集

諏訪木遺跡Ⅳ

令和2年3月27日発行
発行／埼玉県熊谷市教育委員会
印刷／株式会社ビーアイビー